

平成 28 事業年度 業務実績報告書

第 14 期（平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで）

平成 29 年 6 月

独立行政法人日本芸術文化振興会

平成 28 事業年度業務実績報告書

目 次

I	国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
1	文化芸術活動に対する援助	1
2	伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演	
	伝統芸能の公開	13
	現代舞台芸術の公演	65
	青少年等を対象とした公演	82
	快適な観劇環境の形成	92
	広報・営業活動の充実	106
	劇場施設の使用効率の向上等	120
3	伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	
	伝統芸能の伝承者の養成	124
	現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	137
4	伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	
	伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	145
	現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	163
II	業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	173
III	財務内容の改善に関する事項	187
IV	その他主務省令で定める業務運営に関する事項	191

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため
とるべき措置

文化芸術活動に対する援助

文化芸術活動に対する援助 p.1

- 助成金の交付 p.3
- 助成に関する情報等の収集・提供 p.9
- 基金の管理運用 p.11

1 文化芸術活動に対する援助

《中期計画の概要》

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 助成金の交付

ア 芸術家及び芸術団体等が実施する活動に対する助成金の交付

イ 助成金交付事務の効率化等

- ①審査方法等選考に関する基準の策定及び事前公表
- ②助成の成果等に対する評価等を踏まえた客観性・透明性の高い審査
- ③助成対象活動の実施状況の調査
- ④助成対象分野の現状等の調査
- ⑤地方公共団体との連携協力の推進
- ⑥情報通信技術等を活用した申請手続き等の合理化

ウ 芸術文化振興基金の安全かつ安定した管理運用

エ 多様な資金の確保

オ プログラムディレクター及びプログラムオフィサー等を活用した新たな審査・評価の仕組みについて随時検証

文化庁と連携して国際芸術交流支援事業の一元化を含む芸術文化振興のための助成事業の在り方を検討

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

文化芸術活動に関する情報収集

データベース化やホームページを通じた提供等の推進、内容の充実化

ホームページのアクセス件数について前中期目標期間実績以上

《年度計画の概要》

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 助成金の交付

ア 基金の運用収入等を財源とし、次に掲げる活動に対して助成金を交付

①芸術家及び芸術団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動

(a)現代舞台芸術の公演、伝統芸能の公開その他の活動

(b)美術の展示、映像芸術の普及その他の活動

(c)異なる芸術分野の芸術家又は芸術団体が共同して行う活動、特定の芸術分野に分類困難な活動等

②地域の文化の振興を目的として行う活動

(a)文化会館、美術館その他の地域の文化施設において行う公演、展示その他の活動

(b)伝統的建造物群、遺跡、民俗芸能その他の文化財を保存し、又は活用する活動

③文化に関する団体が行う文化の振興又は普及を図るための活動

(a)アマチュア、青少年等の文化団体が行う公演、展示その他の活動

(b)文化財である工芸技術又は文化財の保存技術の復元、伝承その他文化財を保存する活動

イ 文化芸術振興費補助金を財源とし、次に掲げる活動に対して助成金を交付

①我が国の芸術団体の水準向上及び鑑賞機会の提供拡大を図る優れた舞台芸術の創造活動

②優れた日本映画の製作活動

ウ 助成金交付事務の効率化等

①前年度に引き続き、基金による助成と補助金による助成の全分野に係る審査基準を策定し、ホームページ等で事前公表

②専門委員及び専門調査員並びにPD・PO等による公演等調査を実施

補助金による助成対象活動のうち音楽、舞踊、演劇及び伝統芸能・大衆芸能の4分野について調査結果を踏まえて事後評価を実施、結果を次年度の助成対象活動採択のための審査等に活用

・公演等調査：400件以上(助成対象活動数)

③職員による会計調査を実施

PD・PO が中心となって助成対象団体との意見交換を実施

・会計調査：90 件以上(団体数)

④助成対象分野の現状等の調査分析

⑤助成対象活動の収支の状況、団体の意識・取組等に係る情報を収集・整理、経年の変化や分野別の
特徴・傾向などを調査分析

随時ホームページ等を通じて成果を発信

⑥地方公共団体と連携・協力し、地域文化振興活動等の応募書類受付業務等を効率化

⑦応募書類の電子データによる受付等の実施について検討

・助成事業の交付申請書受理から交付決定までの期間：35 日以下

エ 基金の管理運用について、安全性に留意するとともに、資金内容及び経済情勢の把握に努め、資金
管理委員会において運用方針、金融商品等の検討を行い、効率的な方法により実施

オ 芸術文化振興基金賛助会制度及び社会貢献信託制度の周知、基金の受入拡充

カ 芸術文化復興支援基金による助成について、対象となる地方公共団体の意向を十分に踏まえ、被災
地の状況にあわせた効果的な支援を実施

キ PD・PO 等を活用した審査・評価等の仕組みについて、文化庁と連携し、試行的取組の成果を踏まえ
助成に係る業務の精度を向上

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

ア 官民の文化芸術活動への支援に関する情報を収集、ホームページ等を通じて提供

・芸術文化振興基金ホームページ目標アクセス件数：130,000 件

イ 振興会が実施する助成事業について、ホームページでの情報提供を充実、助成対象活動の事例集を
作成・配布するとともにホームページに掲載

ウ 助成対象活動の募集に当たり、ホームページへの情報掲載を行うとともに、地方公共団体及び全国
の公立文化施設等にポスター等を配布

エ 応募相談会を、東京及び大阪に加え、各道府県及び政令指定都市の希望を考慮して開催

1-(1) 助成金の交付

《主要な業務実績》

1. 助成金の交付

- 基金による助成金：交付件数 718 件、助成金交付額 1,043,899 千円
補助金による助成金：交付件数 320 件、助成金交付額 3,657,106 千円

2. 助成金交付事務の効率化等

- 基金及び補助金による助成の全分野についての審査基準を事前公表
- 年度により審査基準の解釈に大きなずれを生じないようにするため、審査基準ごとの審査の際の留意点等について分野別に整理した「審査基準申し合わせ」を策定
- 「舞台芸術創造活動活性化事業(27年度まで「トップレベルの舞台芸術創造事業」)」のうち音楽分野(オーケストラ及びオペラ)・年間活動支援の助成対象団体に適用される「入場料収入連動型」助成について、助成金算定の際に入場料収入に乗じる「係数」の具体的数値及び考え方について検討・策定
- 助成対象活動の採択に際し専門委員が行う書面審査について、審査基準に基づくより客観的な審査を行うため、従来の活動単位で評価する方式から審査基準ごとに評価する方式へ転換
- 公演等調査 534 件(助成対象活動数。延べ調査回数は 1,289 回。不採択その他の活動の調査を含めると 569 件、延べ 1,325 回)、会計調査 95 件(団体数)を実施
- 「舞台芸術創造活動活性化事業」については、全ての助成対象活動について公演調査を実施
- 「トップレベルの舞台芸術創造事業」の 27 年度の全ての助成対象活動について事後評価を実施し、助成対象団体に対する評価結果の伝達及び団体の運営に関する助言等を行うとともに、専門委員会に対して事後評価結果に関する情報提供を行い、29 年度の助成対象活動の採択に係る審査に活用
- PD・PO が助成対象団体との間で助成対象活動や団体の運営に対する助言や意見交換を行うとともに、助成対象分野の状況を把握
- 芸術文化活動に対する助成に必要な調査研究を実施

《業務実績詳細》

<1> 助成金の交付

1. 28年度助成金の交付実績

(1) 基金による助成金

助 成 対 象 分 野		交付件数(件)	助成金交付額(千円)
芸術創造普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	292	547,556
	音楽	(65)	(161,987)
	舞踊	(46)	(63,575)
	演劇	(181)	(321,994)
	伝統芸能の公開活動	28	49,725
	美術の創造普及活動	12	15,853
多分野共同等芸術創造活動	23	18,266	
	小 計	355	631,400
映像芸術創造活動	国内映画祭等の活動	46	85,074
	国内映画祭	(32)	(75,665)
	日本映画上映活動	(14)	(9,409)
	小 計	46	85,074
地域文化振興活動	地域文化施設公演・展示活動	164	212,235
	文化会館公演	(88)	(93,714)
	美術館等展示	(76)	(118,521)
	歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動	8	6,251
	民俗文化財の保存活用活動	21	15,224

	小 計	193	233,710
文化振興普及団体活動	アマチュア等の文化団体活動	115	81,750
	伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動	9	11,965
	小 計	124	93,715
合 計		718	1,043,899

(2) 補助金による助成金

助 成 対 象 分 野		交付件数(件)	助成金交付額(千円)
舞台芸術創造活動 活性化事業	音 楽	113	1,756,619
	舞 踊	32	547,917
	演 劇	102	708,923
	伝統芸能	22	60,177
	大衆芸能	11	160,910
	小 計	280	3,234,546
映画製作への支援	劇映画	21	315,450
	記録映画	10	54,930
	アニメーション映画	9	52,180
	小 計	40	422,560
合 計		320	3,657,106

2. 29年度助成対象活動の採択に係る審査の状況

芸術文化振興基金運営委員会(以下「運営委員会」という。)、4部会及び13専門委員会において、以下のとおり審査を行った。

① 運営委員会

第42回：9月9日、第43回：1月25日、第44回：3月13日

② 舞台芸術等部会(2回開催・8月、3月)

- ・音楽専門委員会(3回開催・8月、12月、2月)
- ・舞踊専門委員会(3回開催・8月、12月、1月)
- ・演劇専門委員会(4回開催・8月(合同)、12月(合同)、2月(第1分科会1回、第2分科会1回))
- ・伝統芸能・大衆芸能専門委員会(3回開催・8月、12月、2月)
- ・美術専門委員会(3回開催・8月、12月、2月)
- ・多分野共同等専門委員会(2回開催・12月、2月)

③ 映像芸術部会(2回開催・8月、3月)

- ・劇映画専門委員会(3回開催・8月、12月、2月)
- ・記録映画専門委員会(3回開催・8月、12月、2月)
- ・アニメーション映画専門委員会(3回開催・8月、12月、2月)
- ・映画祭等専門委員会(3回開催・8月、12月、2月)

④ 地域文化・文化団体活動部会(1回開催・3月)

- ・地域文化活動専門委員会(2回開催・12月、2月)
- ・文化団体活動専門委員会(2回開催・12月、2月)

⑤ 文化財部会(1回開催・2月)

- ・文化財保存活用専門委員会(2回開催・12月、2月)

○審査経過概要

9月9日	第42回運営委員会において、29年度の助成対象活動募集案内の内容等を了承。
12月上旬～12月中旬	各専門委員会において、書面審査及び合議審査に先立ち、専門委員会における審査の方法等について、審議・決定。

12月下旬～2月上旬	各専門委員による応募活動1件ごとの書面審査。
1月25日	第43回運営委員会において、応募状況についての報告を行うとともに、助成金の分野別配分予算案について決定。
1月下旬～2月下旬	各専門委員会において、書面審査の結果を踏まえた合議審査を行い、助成対象活動を選定。
2月下旬～3月上旬	各部会において助成対象活動及び助成金交付予定額を審議。
3月13日	第44回運営委員会において、助成対象活動及び助成金交付予定額を決定し、理事長に答申。

3. 29年度助成対象活動及び助成金交付予定額等の公表

- 29年度の基金及び補助金による助成対象活動及び助成金交付予定額等について、審査に当たった委員の氏名及び審査の方法等と併せ、ホームページ等において29年3月29日付けで公表した。助成対象分野別の応募件数、採択件数及び助成金交付予定額については以下のとおり。

(1) 基金による助成金

助成対象分野		応募件数(件)	採択件数(件)	助成金交付 予定額(千円)
芸術創造普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	580	306	539,976
	音楽	(129)	(65)	(161,216)
	舞踊	(84)	(45)	(61,909)
	演劇	(367)	(196)	(316,851)
	伝統芸能の公開活動	74	31	51,290
	美術の創造普及活動	19	9	15,283
	多分野共同等芸術創造活動	51	24	20,185
	国内映画祭等の活動(※)	37	26	60,211
小計		761	396	686,945
地域文化振興活動	地域文化施設公演・展示活動	319	181	239,612
	文化会館公演	(183)	(106)	(114,846)
	美術館等展示	(136)	(75)	(124,766)
	歴史的集落・町並み、文化的 景観保存活用活動	11	7	6,276
	民俗文化財の保存活用活動	30	18	15,598
小計		360	206	261,486
文化振興普及団体 活動	アマチュア等の文化団体活動	165	104	80,720
	伝統工芸技術・文化財保存技 術の保存伝承等活動	11	10	19,004
	小計	176	114	99,724
合計		1,297	716	1,048,155

※国内映画祭等の活動には、第2回募集分は含まれていない。

(2) 補助金による助成金

助成対象分野		応募件数(件)	採択件数(件)	助成金交付 予定額(千円)
舞台芸術創造活動 活性化事業	音楽	133	110	1,759,692
	舞踊	44	37	577,529
	演劇	171	98	717,133
	伝統芸能	30	25	77,850

	大衆芸能	13	8	131, 613
	小 計	391	278	3, 263, 817
映画製作への支援 (※)	劇映画	23	8	118, 540
	記録映画	13	6	20, 500
	アニメーション映画	4	3	24, 000
	小 計	40	17	163, 040
合 計		431	295	3, 426, 857

※映画製作への支援には、第2回募集分は含まれていない。

<2> 助成金交付事務の効率化等

1. 審査に関する基準の策定と公表

- 29年度助成対象活動の募集に先立ち、基金及び補助金による助成の全分野についての審査基準をホームページ等で事前公表した。

2. 助成対象活動の調査

(1) 助成対象活動に対する調査

区 分	実 績
公演等調査 (助成対象活動数)	534 件 (延べ調査回数 1, 289 回) (目標：400 件以上) ※不採択その他の活動の調査を含めると 569 件、延べ 1, 325 回
会計調査 (団体数)	95 件 (助成対象活動数 237 活動) (目標：90 件以上)

- 助成対象活動について、専門委員、専門調査員、PD・PO 及び文化芸術活動調査員による公演等調査を実施した。特に「舞台芸術創造活動活性化事業」においては、28 年度の全ての助成対象活動について調査を実施した。
- 助成金に係る会計処理が適切であったかどうかを確認するため、職員による会計調査を実施した。
- PD・PO が助成対象団体との間で助成対象活動や団体の運営に対する助言や意見交換を行うとともに、助成対象分野の状況の把握を行った。

(2) 専門委員会に対する情報提供

- PD・PO から専門委員会に対し、助成対象活動に対する調査を踏まえた情報提供を行った。

(3) 助成対象活動に対する評価

- 「トップレベルの舞台芸術創造事業」の27年度の全ての助成対象活動について、芸術文化振興基金運営委員会による事後評価を実施し、助成対象団体に対して評価結果を伝達するとともに、団体の活動や運営に関する助言や意見交換を行った。また、専門委員会に対して事後評価結果に関する情報提供を行い、29年度の助成対象活動の採択に係る審査に活用した。

3. 芸術文化活動に対する助成に関する調査分析

(1) 助成事業全般に共通する調査

- 電子申請システム導入による助成金交付事務の効率化を検討するため、公的・民間機関において導入されている電子申請システムについて実態調査を行い、報告書を取りまとめた。
- 効果的な助成事業の在り方について検討するため、国内の文化芸術活動に対する助成により生じた定性的・定量的な波及効果を検証する「文化芸術活動への助成による波及効果に関する調査研究」を開始した。
- 国による舞台芸術に係る主な公的助成の普及状況を把握し、鑑賞機会の充実に有効な助成の在り方

を検討するため、助成を受けた活動の件数・実施場所・分野等のデータベース化を進め、26年度データについては中間報告を取りまとめた。

- ・ 鑑賞者の動向と公的助成金の相関関係を把握するため、公的助成事業の鑑賞者の動向に関する調査を行い、鑑賞者の伸長度を分析し、演劇分野については中間報告を取りまとめた。
- ・ 専門委員会による審査や助成事業による効果の検証等に活用するため、その基礎資料として、助成対象団体の助成金交付要望書・実績報告書に記載の公演内容、収入・支出その他関連データのデータベース化を進めた。
- ・ 29年度の助成対象活動の応募団体に対し、文化芸術活動に対する助成事業に関するアンケート調査を実施した。

(2) 特定の分野に関する調査

- ・ 「美術の創造普及活動」における効果的な支援方法を検討するため、国内の美術分野における助成実績等の調査を開始し、調査対象のリストアップ及び調査票の作成を行った。
- ・ 「国内映画祭等の活動」に対する助成事業の改善や広報に活用するため、全国で実施されている映画祭の実態調査を実施し、報告書を取りまとめた。

4. 地方公共団体との協力

- ・ 地域の文化振興等の活動に対する助成について、都道府県・指定都市担当者向けの説明会を7月に東京で2回実施した。

5. 事務手続きの簡素化・合理化

(1) 助成金の電子申請に関する実態調査の実施

- ・ 公的・民間機関において導入されている助成金の電子申請システムの実態等に関する調査(助成金の電子申請に関する実態調査)を実施し、電子申請システム導入による助成金交付事務の効率化を検討した。

(2) 助成金の交付申請書受理から交付決定までの期間の短縮

区 分	実 績	目 標
基金による助成金	26.6日	35日
補助金による助成金	18.6日	35日
全 体	24.2日	35日

6. PD・PO等を活用した新たな審査・評価の仕組みの構築

PD・POの意見を踏まえ、以下の取組を行った。

- ・ 募集案内について、応募する芸術団体が読みやすく、かつ理解しやすいように全体の構成を変更するなどの改善を図った。
- ・ 年度により審査基準の解釈に大きなずれを生じないようにするため、審査基準ごとの審査の際の留意点等について分野別に整理した「審査基準申し合わせ」を策定した。
- ・ 「舞台芸術創造活動活性化事業」のうち音楽分野(オーケストラ及びオペラ)・年間活動支援の助成対象団体に適用される「入場料収入連動型」助成について、助成金算定の際に入場料収入に乗じる「係数」の具体的数値及び考え方について検討・策定した。
- ・ 助成対象活動の採択に際し専門委員が行う書面審査について、審査基準に基づくより客観的な審査を行うため、従来の活動単位で評価する方式から審査基準ごとに評価する方式へ転換した。
- ・ 助成対象活動に対する事後評価を行うに当たり、27年度に引き続き、PD・POが評価コメントの素案を作成し、当該素案を基に専門委員会においてコメント案を審議した。

7. 芸術文化振興のための助成事業の在り方に関する検討

- ・ 芸術文化振興のための助成事業の在り方に関し、文化庁と連携して検討を図った結果、文化庁で実施している助成事業のうち「劇場・音楽堂等活性化事業」について、平成30年度募集分から振興会で実施することを決定し、文化庁からの移管に向け、事業実施に必要な予算及び実施体制等の整備を進めた。

《数値目標の達成状況》

【公演等調査及び会計調査の実施状況】

公演等調査：実績534件／目標400件以上(達成度133.5%)

会計調査：実績95件／目標90件以上(達成度105.6%)

【交付決定に係る期間の効率化の達成状況】 実績24.2日／目標35日以下(達成度144.6%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

A

(根拠)

- ・ 公演等調査の件数、会計調査の件数及び交付決定に係る期間については計画を上回り、数値目標を達成できた。
 - ・ 基金及び補助金による助成の全分野についての審査基準の事前公表、「トップレベルの舞台芸術創造事業」の27年度の全助成対象活動に対する公演調査及び事後評価の実施、新たなテーマの調査研究の実施等、積極的な取組を行った。
 - ・ 芸術文化振興のための助成事業の在り方については、文化庁と協議を行い、振興会で実施している助成事業との一体的な運用の観点から「劇場・音楽堂等活性化事業」の移管準備を円滑に進めた。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 基金及び補助金による助成の全分野について審査基準を事前公表し、助成対象活動の採択に係る審査の透明性を向上させることができた。
 - ・ 年度により審査基準の解釈に大きなずれを生じないようにするため、審査基準ごとの審査の際の留意点等について分野別に整理した「審査基準申し合わせ」を策定した。
 - ・ 「舞台芸術創造活動活性化事業」のうち音楽分野(オーケストラ及びオペラ)・年間活動支援の助成対象団体に適用される「入場料収入連動型」助成について、助成金算定の際に入場料収入に乗じる「係数」の具体的な数値及び考え方について検討・策定した。
 - ・ 助成対象活動の採択に際し専門委員が行う書面審査について、従来の活動単位で評価する方式から審査基準ごとに評価する方式へ転換したことにより、審査基準に基づくより客観的な審査が可能となった。
 - ・ 文化芸術活動に対する助成に関する調査研究を継続することにより、適切で効果的な助成事業を検討する基礎資料とすることができた。
 - ・ 芸術文化振興のための助成事業の在り方については、文化庁と連携・協力して迅速に移管事業を決定できたことにより、移管事業の実施に必要な予算や体制整備等の具体的な準備を進めることができた。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 引き続き、透明性の高い審査や公正な事後評価等の在り方について検討を行い、より有効かつ適切な助成制度の構築に努める。特に、事後評価については、助成対象団体に評価結果を正確かつ確実に伝達し、団体における評価結果を踏まえた活動の企画立案や運営の改善等を促進するため、評価結果を書面で通知する。また、助成金の効果について国民全体に対し説明責任を果たすため、評価結果の公表について必要な検討を行う。
 - ・ 「審査基準申し合わせ」については、分野ごとの実態を踏まえ、必要に応じて内容の見直しを行う。
 - ・ 調査分析については、助成事業に有効に活用できるよう、適宜内容を見直すとともに、必要なものは継続的に実施する。また、現在継続している調査研究との連携や相乗効果についても十分配慮しつつ、助成事業の充実に必要となる新たな調査テーマにも取り組む必要がある。
 - ・ 「助成金の電子申請に関する実態調査」の結果を受け、導入の費用対効果を十分に検討し、平成31年度の助成システム更新に合わせて助成金交付事務の改善を図っていく必要がある。

1-(2) 助成に関する情報等の収集・提供

《主要な業務実績》

1. ホームページの利便性の向上
 - ・ 28年度アクセス件数：188,253件(目標130,000件)
2. 助成事業の周知
 - ・ 文化芸術活動に対する助成システムの機能(専門的な助言、審査、事後評価及び調査研究等)強化についてホームページで紹介するとともに、広報用のリーフレットを配布
 - ・ パンフレット、ポスター、チラシ等により事業を周知
 - ・ 助成対象活動の事例集を作成
3. 助成対象活動の募集
 - ・ 助成事業の内容や応募手続について説明する動画をホームページ上で公開
 - ・ 舞台公演情報サイトやチケット販売サイト、検索エンジン等のホームページにおいて、助成対象活動募集のバナー広告を掲載(9月上旬～10月下旬)
 - ・ 関係団体の会報やメールマガジンにおいて募集に関する広報を実施
4. 助成事業に関する応募相談会等の開催
 - ・ 団体の個別の関心事項にきめ細かく対応するための「応募相談会」を全国5会場で実施
 - ・ 採択団体の事務手続を円滑に進めるための「事務手続個別相談会」を全国4会場で実施

《業務実績詳細》

1. ホームページの利便性の向上
 - ・ 28年度アクセス件数：188,253件(目標130,000件)
 - ・ 助成事業の内容等が分かりやすく伝わるよう、記述内容について見直しを行った。
2. 助成事業の周知
 - ・ 基金の概要を紹介したパンフレットを配布した。
 - ・ 助成事業に関する次のポスター・チラシを作成・配布した。
 - ・ 助成団体に活動時に配布・掲示してもらおう広報用ポスター、チラシ(基金による全ての助成対象団体に配布依頼を行い、ポスター1,367枚、チラシ263,365枚を配布)
 - ・ 芸術文化復興支援基金のリーフレット、ポスター、チラシ
 - ・ 芸術文化振興基金賛助会員制度に関するリーフレット
 - ・ 地域の文化振興等の活動の助成事業を紹介するリーフレット
 - ・ 文化芸術活動に対する助成システムの機能強化に関するリーフレットを作成、配布した。
 - ・ 助成対象活動の事例集を作成し、ホームページ上でも公開した。
 - ・ 「日本芸術文化振興会ニュース」に基金の概要、助成対象活動の募集の案内及び助成対象活動の事例等、広く助成事業に関する情報を掲載した(毎月)。
3. 助成対象活動の募集
 - ・ 29年度助成対象活動の募集に関する特設ページを開設するとともに、募集案内や助成金交付要望書の書式等をダウンロードできるように、常設のホームページ上に掲載した。
 - ・ 助成対象活動の募集に当たり、場所や時間を問わず芸術団体等が基本的な情報を得られるよう、助成事業や応募手続について説明した動画を作成し、ホームページ上で公開した。
 - ・ 舞台公演情報サイトやチケット販売サイト等において、29年度助成対象活動募集のバナー広告を掲載した(9月上旬～10月下旬)。
 - ・ 29年度助成対象活動の募集に関するチラシ及びポスターを都道府県、政令指定都市、地域文化施設(文化会館、美術館、博物館等)等3,286か所に送付し、広報協力を依頼した。
 - ・ 地域の文化振興等の活動に対する助成について、関係団体の会報やメールマガジンにおいて募集に関する広報を行うとともに、都道府県、政令指定都市及びその他の市町村にも募集案内を送付した。
4. 助成事業に関する応募相談会等の開催

- ・ 助成事業の基本的な事項はホームページ上の動画により解説することとし、具体的な要望書の作成方法や提出資料の内容等、団体の個別の関心事項にきめ細かく対応するための「応募相談会」を9～10月にかけて全国5会場(東京、大阪、福岡、愛知、宮城)で開催した(参加団体246団体)。
- ・ 具体的な申請書の作成方法や活動の実施に向けた留意点等に関し、採択後の手続を円滑に進めるための「事務手続個別相談会」を4～5月にかけて全国4会場(東京、京都、福岡、福島)で開催した(参加団体36団体)。

《数値目標の達成状況》

【芸術文化振興基金ホームページへのアクセス件数】実績188,253件／目標130,000件(達成度144.8%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 事業の周知に広く取り組んだほか、ホームページのアクセス件数については数値目標を大きく上回る実績を達成できた。
 - ・ 文化芸術活動に対する助成システムの機能強化に関し、ホームページ及びびリーフレットにより、積極的に周知を図った。
 - ・ 助成事業や応募手続について説明する動画を公開し、基本的な情報を容易に得られる環境を提供した。さらに、応募相談会等を実施することにより、団体の個別の関心事項にきめ細かく対応することができた。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 文化芸術活動に対する助成システムの機能強化について周知を図ることにより、文化芸術への公的支援に関する考え方の変化を文化芸術団体に理解してもらい、意識改革を促すことができた。
 - ・ 助成事業や応募手続について説明する動画を公開することにより、場所や時間を問わず文化芸術団体に基本的な情報を提供することができた。
 - ・ 応募相談会を多くの会場で実施することにより、団体の個別の関心事項にきめ細かく対応することができた。また、具体的な申請書の作成方法や活動の実施に向けた留意点等に関し、採択後の手続を円滑に進めるための事務手続個別相談会を新たに実施した。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 29年度には「劇場・音楽堂等活性化事業」が文化庁から移管され、当振興会がその募集・審査を実施することとなるため、文化庁とも連携の上、劇場、音楽堂等その他関係者に混乱を来すことがないように、当該事業に関し適切な情報発信を行うほか、既存の助成事業その他関連の情報についてもさらに情報提供の充実に努める必要がある。

1-(3) 基金の管理運用

《主要な業務実績》

1. 基金の管理運用

- ・ 基金運用益：1,128,731千円、利回り1.66%
- ・ 再運用等については地方債により運用を行った。

2. 資金の受入拡充

- ・ 基金への寄附：28年度実績11件600,438,000円
(27年度実績600,440,000円、2,000円の減)
- ・ 芸術文化復興支援基金への寄附：28年度実績918,366円
(27年度実績1,834,061円、915,695円の減)

《業務実績詳細》

<1> 基金の管理運用

- (1) 運用益 1,128,731千円
- (2) 利回り 1.66%

- ・ 基金の管理運用については、安全性を重視するとともに安定した収益の確保によって継続的な助成が可能となるよう、資金の状況及び経済情勢の正確な把握に努めた。
- ・ 20年4月に設置した資金管理委員会において、運用の基本的考え方を定めるとともに金融商品・運用先等の検討を行うことにより、低金利下においても必要とする運用益が得られるよう、リスクとリターンを考慮しながら引き続き効率的な管理運用に努めた。

<2> 資金の受入拡充

1. 資金の受入拡充

(1) 寄附先への感謝状の贈呈並びにホームページ等での広報

- ・ 原則10万円を超える寄附者(団体)については、通常の礼状に加え感謝状を贈呈したほか、承諾を得た寄附者(団体)については、寄附者(団体)名をホームページで広報するなどの顕彰により、寄附金の増額に向けて取り組んだ。
 - ・ 基金への寄附：11件600,438,000円
(社会貢献寄付信託1件100,000円・賛助会員5件210,000円含む)
(27年度実績600,440,000円、2,000円の減)

(2) 「芸術文化復興基金賛助会制度」「社会貢献信託制度」による寄附受入

- ・ 「芸術文化復興基金賛助会員制度」の周知を図るとともに、寄附受入に向け広報活動を行った。
- ・ 三井住友信託銀行の「社会貢献寄付信託」の文化芸術分野の寄附先として、寄附受入に向け関係金融機関と連携し広報活動を行った。

2. 芸術文化復興支援基金による助成

- ・ 東日本大震災における被災地の復興支援を目的とする芸術文化活動の支援に必要な資金確保のため、募金箱及び本館大劇場ロビーに設置した寄附金付き飲料自動販売機による募金活動を引き続き実施したほか、ホームページやチラシ等により広報活動を行い、承諾を得た寄附者(団体)については、その名称をホームページで公表した。なお、当該基金の寄附受入については、28年度末をもって終了した。
 - ・ 芸術文化復興支援基金への寄附：28年度実績918,366円
(27年度実績1,834,061円、915,695円の減)(23年度以降の累計14,702,260円)
- ・ 「公益財団法人岩手県文化復興事業団」、「公益財団法人宮城県文化復興財団」及び「特定非営利活動法人民俗芸能を継承するふくしまの会」の3団体から提出された助成金交付申請に対し、28～30年度に行われる事業について一括して交付決定を行うとともに、助成金を交付した。なお、28年度末の当該基金の残額については、29年度に3団体へ均等に追加配分する予定である。
 - ・ 3団体への助成金交付額
公益財団法人岩手県文化復興事業団 5,613千円
公益財団法人宮城県文化復興財団 3,943千円

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 基金及び芸術文化復興支援基金において、寄附の受入拡充及び広報等の取組を実施した。
 - ・ 芸術文化復興支援基金については、これを原資として、岩手県、宮城県及び福島県の3団体に対し助成金を交付し、文化芸術による復興支援に寄与した。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 基金の原資が増えたことにより、今後の助成の充実に繋げることができた。
 - ・ 芸術文化復興支援基金については、「公益財団法人岩手県文化振興事業団」、「公益財団法人宮城県文化振興財団」及び「特定非営利活動法人民俗芸能を継承するふくしまの会」の3団体に対し3年分の助成金を一括して交付したことにより、助成対象活動を通じて被災地の復興に向けた気運の醸成に寄与することができた。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 基金の管理運用については、安定性・安全性を重視しつつ有利な運用に努めているところであるが、近年金利が低い局面が常態化していることから、引き続き、資金の受入拡充等に努力しつつ、基金運用収入の長期的な見込みに基づいた最適な助成事業の在り方について検討を進める必要がある。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため
とるべき措置

伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

伝統芸能の公開

伝統芸能の公開 p.13

- 歌舞伎 p.15
- 文楽 p.19
- 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能ほか p.24
 - 舞踊 p.27
 - 邦楽 p.28
 - 雅楽 p.29
 - 声明 p.30
 - 民俗芸能 p.31
 - 琉球芸能 p.32
 - 特別企画 p.32
- 大衆芸能 p.35
 - 定席公演（上席・中席） p.38
 - 若手新人公演（花形演芸会） p.39
 - 新春国立名人会／国立名人会 p.40
 - 特別企画公演 p.41
 - 浪曲名人会／浪曲錬声会／上方演芸特選会 p.42
- 能楽 p.44
 - 定例公演 p.47
 - 普及公演 p.48
 - 企画公演 p.49
- 組踊等沖縄伝統芸能 p.51
- 演目の拡充 p.56

伝統芸能の公開に際しての留意事項等 p.60

2-(1) 伝統芸能の公開

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

つとめて古典伝承のままの姿で公開

ア 歌舞伎公演 筋の展開が理解しやすい「通し狂言」での上演、上演の途絶えた優れた演目・場面の復活、新作の上演、解説を付した公演等の実施、年間7公演程度

イ 文楽公演 「通し狂言」や見せ場を中心に複数演目を並べる「見取り狂言」等の様々な形態で上演、上演の途絶えた優れた演目・場面の復活、新作の上演、解説を付した公演等の実施、年間10公演程度

ウ 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等公演 質の高い技芸の公開、芸能の特性を踏まえた企画性が高い公演等の実施、年間21公演程度

エ 大衆芸能公演 寄席を中心に受け継がれてきた伝統的な大衆芸能の公演、多彩な出演者による企画性の高い公演等の実施、年間64公演程度

オ 能楽公演 伝統的な能狂言の演目と各流の演者を、能楽全体を見渡す視点に立って組み合わせた公演、上演の途絶えた優れた演目の復曲、新作の上演、解説を付した公演、企画性の高い公演等の実施、年間51公演程度

カ 組踊等沖縄伝統芸能公演 上演の途絶えた優れた演目の復曲、新作の上演、解説を付した公演、本土の芸能やアジア・太平洋地域の芸能も取り上げる企画性の高い公演等の実施、年間30公演程度

(4) 伝統芸能の公開の実施に際しての留意事項等

ア 適切な鑑賞者数の目標設定

イ 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施

ウ 伝統芸能の保存振興の中核的拠点としての公演等の実施

①国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力公演等

②全国各地の文化施設等における公演等

③国際文化交流の進展に寄与するための国等との連携協力公演等

エ 国立劇場開場50周年記念公演等の各種記念事業の実施

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

ア 伝統芸能の保存と振興を図るため、中期計画の方針に従い、別表1のとおり主催公演を実施

イ 演目の拡充

①(歌舞伎)「復活上演候補演目一覧」の見直し

「国立劇場文芸研究会」における上演候補台本準備稿の作成作業

歌舞伎の新作脚本募集の選考及び表彰

②(文楽)新作の上演

廃絶演目の復曲作業及び上演に向けた準備作業

③(大衆芸能)「漫才・コント」の新作脚本募集、選考及び表彰

④(能楽)国立能楽堂及び他の能楽堂等で上演された新作・復曲作品の再演

⑤(組踊等沖縄伝統芸能)上演機会が少ない優れた演目の上演

古典の様式を踏まえた新作組踊の上演

(4) 伝統芸能の公開の実施に際しての留意事項

ア 外部専門家等の意見の聴取、観客へのアンケート調査の適宜実施

イ 我が国における伝統芸能の保存振興の中核的拠点として、次のとおり公演等を実施

①共催、受託などによる公演等を別表5のとおり実施

②全国各地の文化施設等における公演等を別表6のとおり実施

③国際文化交流の進展に寄与する公演等を別表7のとおり実施

2-(1)-① 伝統芸能の公開

《業務実績詳細》

1. 公演実績

分野名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
歌舞伎	7 公演 本館大劇場	実績	211 回	166 日	256,531 人	(80.5%)	318,545 人
		計画	213 回	168 日	248,500 人	(76.8%)	323,760 人
文楽	10 公演 本館小劇場、文楽劇場	実績	372 回	176 日	187,167 人	(77.7%)	240,820 人
		計画	372 回	176 日	177,600 人	(72.7%)	244,164 人
舞踊・邦楽・雅楽・ 声明・民俗芸能等	22 公演 本館大小劇場、文楽劇場	実績	42 回	30 日	27,796 人	(80.5%)	34,528 人
		計画	42 回	30 日	26,590 人	(76.9%)	34,565 人
舞踊	4 公演 本館大小劇場、文楽劇場	実績	10 回	6 日	5,858 人	(75.8%)	7,730 人
		計画	10 回	6 日	6,120 人	(79.2%)	7,730 人
邦楽	4 公演 本館小劇場、文楽劇場	実績	8 回	7 日	3,995 人	(81.8%)	4,883 人
		計画	8 回	7 日	3,440 人	(70.4%)	4,883 人
雅楽	3 公演 本館大小劇場	実績	3 回	3 日	2,620 人	(93.9%)	2,790 人
		計画	3 回	3 日	2,370 人	(84.9%)	2,790 人
声明	2 公演 本館大劇場、文楽劇場	実績	3 回	2 日	3,752 人	(94.4%)	3,973 人
		計画	3 回	2 日	3,240 人	(81.6%)	3,973 人
民俗芸能	2 公演 本館小劇場、文楽劇場	実績	5 回	3 日	2,277 人	(70.3%)	3,239 人
		計画	5 回	3 日	2,600 人	(79.4%)	3,276 人
琉球芸能	1 公演 本館小劇場	実績	2 回	2 日	1,103 人	(93.5%)	1,180 人
		計画	2 回	2 日	960 人	(81.4%)	1,180 人
特別企画	6 公演 本館大小劇場、文楽劇場	実績	11 回	7 日	8,191 人	(76.3%)	10,733 人
		計画	11 回	7 日	7,860 人	(73.2%)	10,733 人
大衆芸能	64 公演 演芸場、文楽劇場、文楽劇場 小ホール	実績	313 回	288 日	57,306 人	(63.2%)	90,687 人
		計画	313 回	288 日	51,460 人	(56.7%)	90,687 人
能楽	51 公演 能楽堂	実績	61 回	55 日	38,014 人	(99.4%)	38,247 人
		計画	61 回	55 日	35,895 人	(93.9%)	38,247 人
小計	154 公演	実績	999 回	715 日	566,814 人	(78.4%)	722,827 人
		計画	1,001 回	717 日	540,045 人	(73.8%)	731,423 人
組踊等沖縄伝統芸能	30 公演 国立劇場おきなわ大劇場	実績	41 回	39 日	15,573 人	(64.1%)	24,277 人
		計画	41 回	39 日	16,683 人	(69.3%)	24,060 人
総合計	184 公演	実績	1,040 回	754 日	582,387 人	(78.0%)	747,104 人
		計画	1,042 回	756 日	556,728 人	(73.7%)	755,483 人

※3月歌舞伎公演「伊賀越道中双六」は、政府主催「東日本大震災六周年追悼式」開催のため、3/10・11を休演とした。

<1> 歌舞伎

《制作方針》

10月から3月の公演については、国立劇場開場50周年記念公演として、これまでの上演方針に則した「通し狂言」の上演を基本とし、上演の稀な場面や作品の復活を企図する。また、過去に復活した演目を見直して再演することにより演目の定着を目指す。

6、7月には解説を付した公演を行う。

6月に、伝統芸能の海外発信と位置付ける、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に伴う文化プログラムの実施に向け、27年度に引き続き外国人向け公演を実施する。

配役の工夫により、歌舞伎俳優にとっての芸の継承にも配慮する。

以上により、歌舞伎の保存と振興を図る。

○

10月から12月の公演にかけては、義太夫狂言の大作「仮名手本忠臣蔵」を、現在上演できるすべての場면을網羅した完全通し狂言として3か月連続で上演する。初春公演は、最長編の合巻「白縫譚」の原作から新たに台本を作成し、国立劇場の舞台機構を駆使した華やかで面白い作品として「しらぬい譚」を上演する。3月公演は、26年度に第22回読売演劇大賞の大賞・最優秀作品賞を歌舞伎で初めて受賞した「伊賀越道中双六」を、台本・演出を見直して再演する。

青少年等を対象とした公演として歌舞伎鑑賞教室を実施し、6月は20年ぶりに「新皿屋舗月雨量一魚屋宗五郎」を、7月は13年ぶりに「卅三間堂棟由来」を取り上げ、解説を付して上演することにより歌舞伎の普及振興、技芸の継承を図る。6月には「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」を28年度は2回公演に拡大して実施する。

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・ 歌舞伎5公演、歌舞伎鑑賞教室2公演を計画どおり実施
- ・ 国立劇場開場50周年記念公演を実施(10月以降の全公演)
- ・ 上演機会の少ない場면을網羅した「仮名手本忠臣蔵」の3か月連続完全通し狂言の上演
- ・ 原作の面白い趣向や設定を活かした新たな脚本による「しらぬい譚」の上演
- ・ 44年ぶりに復活した「岡崎」を含む通し上演「伊賀越道中双六」を台本・演出を見直して再演
- ・ 27年度に初めて実施した外国人向けの公演「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」を、公演回数を2回に拡大して開催

2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への記者会見や取材依頼のほか、各種媒体により公演情報を周知
- ・ 国立劇場開場50周年記念公演や公演演目に因んだイベントの実施のほか、幅広いニーズに応える観劇プランの提供やDMの定期的な送付等、多様な取組による誘客
- ・ 6月歌舞伎鑑賞教室内の企画「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」の広報・営業活動を通して、外国人に対するアピールを強化

3. 外部専門家等の意見

- ・ 外部専門家等の意見を聴取するため、公演専門委員会を2回開催

4. アンケート調査

- ・ 全7公演で実施(9回)、満足回答率85.1%
- ・ 「Discover KABUKI」で上記のうち2回を実施、満足回答率82.9%(外国人の満足度は84.3%)

《業務実績詳細》

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
10月歌舞伎公演 通し狂言「仮名手本忠臣蔵」 第一部	本館 大劇場	10/3(月) ~27(木)	実績	25回	25日	24,220人	(63.7%)	38,000人
			計画	25回	25日	26,400人	(69.5%)	38,000人

11月歌舞伎公演 通し狂言「仮名手本忠臣蔵」 第二部	本館 大劇場	11/2(水) ～26(土)	実績	24回	24日	30,235人	(82.9%)	36,480人	
			計画	24回	24日	25,400人	(69.6%)	36,480人	
12月歌舞伎公演 通し狂言「仮名手本忠臣蔵」 第三部		12/2(金) ～26(月)	実績	25回	25日	30,013人	(79.0%)	38,000人	
			計画	25回	25日	26,400人	(69.5%)	38,000人	
初春歌舞伎公演 通し狂言「しらぬい譚」		1/3(火) ～27(金)	実績	25回	25日	27,791人	(77.6%)	35,825人	
			計画	25回	25日	28,000人	(73.7%)	38,000人	
3月歌舞伎公演 通し狂言「伊賀越道中双六」		3/4(土) ～27(月)	実績	22回	22日	26,758人	(80.0%)	33,440人	
			計画	24回	24日	26,400人	(72.4%)	36,480人	
【歌舞伎公演 小計】 5公演 (計画:5公演)			実績	121回	121日	139,017人	(76.5%)	181,745人	
			計画	123回	123日	132,600人	(70.9%)	186,960人	
6月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」「新 皿屋舗月雨暈-魚屋宗五郎-」	本館 大劇場	6/2(木) ～24(金)	実績	46回	23日	57,879人	(82.8%)	69,920人	
			計画	46回	23日	55,000人	(78.7%)	69,920人	
7月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」「卍 三間堂棟由来」		7/3(日) ～24(日)	実績	44回	22日	59,635人	(89.2%)	66,880人	
			計画	44回	22日	60,900人	(91.1%)	66,880人	
【歌舞伎鑑賞教室 小計】 2公演 (計画:2公演)			実績	90回	45日	117,514人	(85.9%)	136,800人	
			計画	90回	45日	115,900人	(84.7%)	136,800人	
【歌舞伎合計】 7公演 (計画:7公演)			実績	211回	166日	256,531人	(80.5%)	318,545人	
			計画	213回	168日	248,500人	(76.8%)	323,760人	

※3月歌舞伎公演「伊賀越道中双六」は、政府主催「東日本大震災六周年追悼式」開催のため、3/10・11を休演とした。

2. 営業・広報

- ・ポスター、チラシ、ホームページ、あぜくら会会報、振興会ニュース等での広報、公演情報の周知拡大を図り、一般の集客に努めた。
- ・テレビ放送局、新聞社、雑誌社等に積極的に広報の働きかけを行い、多くの取材を受け入れ公演のPRを行った。
- ・出演者による記者会見を実施し(歌舞伎3公演、歌舞伎鑑賞教室2公演)、公演の趣旨や出演者の意気込み等について取材する機会を設けた。また、舞台稽古の取材、出演者による稽古後の囲み取材を実施し(歌舞伎1公演)、公演直前の様子取材する機会を設け、報道各社を通じて公演PRを行った。
- ・国立劇場開場50周年記念公演に当たり、各演目の特設サイトを作成した(歌舞伎5公演)。見所や記者会見の様子等を掲載し、インターネットを積極的に利用して公演のPRを行った。
- ・演目ゆかりの地において、出演者による成功祈願及び記者会見を行った(10月歌舞伎公演では、赤穂大石神社において松本幸四郎、中村梅玉、12月歌舞伎公演では、泉岳寺において中村梅玉、文楽の吉田玉男)。
- ・12月歌舞伎公演では、NHKドラマ「忠臣蔵の恋」出演の女優武井咲と歌舞伎公演出演の中村隼人による囲み取材を実施した。
- ・初春歌舞伎公演では、世界的に流行したピコ太郎の「PPAP」を長唄囃子でアレンジした国立劇場版の動画を作成し、動画投稿サイトYouTubeに投稿した。歌舞伎公演の劇中で「PPAP」が取り入れられたため、宣伝素材として作成したもので、約260万回再生され、テレビニュースや新聞でも数多く取り上げられた。また、ピコ太郎本人も公演にゲスト出演し、その後、片岡亀蔵とともに囲み取材を行った。
- ・3月歌舞伎公演では、読売演劇大賞を受賞した作品の再演であることから、読売新聞社と協力関係を結び、取材の展開、公演案内の掲載、新聞広告・動画広告の無料出稿等において便宜協力を受けた。
- ・6月歌舞伎鑑賞教室の企画「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」では、広告を英字新聞、英文雑誌、英文Webサイト等に出稿し、外国人に対するアピールを強化した。
- ・団体の営業活動として、国立劇場開場50周年記念公演や公演演目に因んだイベントを実施したほか、

観劇団体の幅広いニーズに応える特別価格の「公演プログラム付きプラン」「イヤホンガイド付きプラン」や付加価値のある「舞台見学付きプラン」「レクチャー付きプラン」「国立劇場開場 50 周年記念グッズ付きプラン」等の観劇プランを各種提供して、団体客の増加に努めた。

- ・ 歌舞伎公演の公演内容の周知と団体客の集客のため、過去 10 年間に観劇履歴のある団体及び新規見込み団体に向けて、定期的に最新の公演情報や団体観劇プランのご案内等の内容の DM を送付した(年 12 回、のべ 15,816 通)。
- ・ 歌舞伎公演「仮名手本忠臣蔵」の 3 か月連続通し上演に当たって、3 か月通しての団体利用を提案し、受注した(14 団体、のべ 9,820 枚販売)。
- ・ 歌舞伎公演「仮名手本忠臣蔵」3 か月通しセット券の販売を、あぜくら会会員に対し 8/20 から、一般の観客に対し 8/21 から開始し、2,645 セット(7,935 枚)の購入があった。
- ・ 国立劇場開場 50 周年記念公演上演に当たり、3 月歌舞伎公演において、特別席又は 1 等 A 席購入者で「特別な日」の記念に公演を鑑賞する方及びグループに対し、記念写真と粗品を贈呈するキャンペーンを実施し、50 組の申込があった。
- ・ 鑑賞教室公演の企画内容の周知と学校団体客の集客のため、関東甲信越地方中学・高等学校、首都圏専門学校を中心に DM を送付した(年 2 回、のべ 13,376 通)。
- ・ 29 年度の鑑賞教室利用促進のため、過去 3 年間観劇履歴のない首都圏の高等学校・専門学校等の担当者及び教育委員会担当者を対象に鑑賞教室の企画説明及び鑑賞教室公演の観劇による「劇場見学会」を実施した(6 月・7 月歌舞伎鑑賞教室期間中に 7 回、参加者数 63 校 99 名)。
- ・ 6 月歌舞伎鑑賞教室内の企画「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」の集客のため、大学留学生センター・留学生支援団体・日本語学校等の外国人関係団体・ホテル・観光案内所を個別訪問した。
- ・ 「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」の上演を 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の文化プログラム参画に向けた取組と位置付け、3 か国語(英語・中国語・韓国語)による特別チラシを海外からの旅行者の目に留まりやすい空港・観光案内所・主要ホテル等に配布したほか、公演当日に旅行社の訪日外国人観光客部門及びホテルの担当者の特別招待を実施した。
- ・ 職員のコミュニティー等を活用した「ご観劇おすすめキャンペーン」を引き続き実施した。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 外部専門家等の意見を聴取するため、公演専門委員会を6月と3月の2回開催した。

4. アンケート調査

全 7 公演で実施(9 回)した。

回答数 6,024 人(配布数 8,913 人、回収率 67.6%)。回答者の 85.1%が概ね満足と答えた(5,127 人)。

うち 2 回を「Discover KABUKI」で実施した。

回答数 1,506 人(配布数 2,228 人、回収率 67.6%)。回答者(国籍問わず)の 82.9%(1,248 人)が満足と答え、外国人は 84.3%(727 人)が満足と答えた。

【特記事項】

- ・ 国立劇場開場50周年記念公演(10月以降の全公演)
- ・ 平成 28 年度(第 71 回)文化庁芸術祭主催公演(10 月、11 月)
- ・ 字幕表示装置により、演奏に合わせて詞章を表示し、鑑賞の助けとした(7 月鑑賞教室)。
- ・ 27 年度に引き続き、外国人向けの公演「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」を実施した(6/17)。
- ・ 市川左團次が、平成 28 年度(第 73 回)日本芸術院賞を受賞した(10 月、12 月「仮名手本忠臣蔵」の高師直と桃井若狭之助ほかの演技に対して)。
- ・ 政府主催「東日本大震災六周年追悼式」開催のため、3/10・11 を休演とした。
- ・ 3 月公演千鶴楽終演後に、理事長が舞台上で国立劇場開場 50 周年記念公演終了の挨拶をした。出演者の中村吉右衛門丈から花束が贈呈され、同丈の音頭により手締めを行った。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 256,531 人／目標 248,500 人(達成度 103.2%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

A

(根拠)

- ・ “通し狂言” “上演が途絶えていた場面の復活” “復活狂言の再演” という制作方針に従い、義太夫狂言の大作「仮名手本忠臣蔵」を現在上演できるすべての場面を網羅して完全通し上演したほか、復活狂言「伊賀越道中双六」の再演等、各公演とも充実した内容の舞台を制作し、外部専門家等から企画内容を高く評価された。
- ・ 江戸時代後期から明治にかけて刊行された合巻(長編小説)を原作として、原作の面白い趣向や設定を活かしながら、新たな脚本を作成し、国立劇場の舞台機構を最大限に活用して上演した(「しらぬい譚」)。
- ・ 歌舞伎公演全体で目標入場者数を大きく上回り、独法化以降最高の入場者数を記録した。
- ・ 文化プログラムへの参画を見据えた「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」を27年度に引き続き企画上演し、英語字幕表示、3か国語(英語・中国語・韓国語)によるオーディオガイド並びにパンフレット配布を行った。観客や外部専門家等から企画及び取組状況について高く評価された。
- ・ 27年度に試行した「Discover KABUKI」の成果や課題を踏まえ、28年度は歌舞伎及び他ジャンルの外国人向け伝統芸能公演を行った。
- ・ 営業・広報に関し、国立劇場開場50周年の広報とともに公演を周知する各種の取組を実施した。また、学校団体や外国人向けの営業活動を展開した。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 「仮名手本忠臣蔵」の完全通し上演では、二段目「桃井館」、三段目の“おかる文使い”の件や「裏門」、四段目「花献上」、七段目の“九太夫と伴内の入り込み”の件、九段目の“雪転し”の件、十段目「天川屋」、十一段目の“財布の焼香”の件等、通常は省略される場面をすべて網羅し、丁寧に上演した。物語の流れを分かりやすくすると同時に、「仮名手本忠臣蔵」が群像劇の要素を備えていることを浮き彫りにして、名作の新たな魅力を引き出した。12月には文楽でも同演目の全段を一举に上演し、比較鑑賞できる国立劇場ならではの企画として評価された。尾上菊五郎、松本幸四郎、中村吉右衛門、中村梅玉が当り役を勤めて今日の規範となる演技を見せ、ベテランから花形まで水準の高い演技を残し、優れた公演を作り上げた。市川左團次は、高師直(10月)と桃井若狭之助(12月)の演技が評価され、日本芸術院賞を受賞した。
- ・ 「しらぬい譚」は、原作の面白い趣向を換骨奪胎しながら、通し狂言としての起承転結を明確にして、物語の展開を分かりやすく構成した。また、筋交いの宙乗り、怪猫退治の大立廻りや屋体崩し等、国立劇場の舞台機構を最大限に活用した演出で娯楽性豊かな舞台を創り、初春公演に相応しい華やかで楽しい舞台であるとの評価を得た。
- ・ 「伊賀越道中双六」は、「円覚寺」を86年ぶりに復活し、また「岡崎」を中心に全体の台本、演出を見直すことで、序幕から大詰までの各場がより洗練された。前回の上演に勝る舞台となり、再演の意義は大きなものとなった。
- ・ 各公演とも、適材適所の配役を実現させると同時に、中堅・若手を大役に抜擢することで芸の伝承を着実に行うことができた。
- ・ 「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」を、28年度は回数を増やし、1日2回公演として実施するとともに、27年度はなかった英語字幕表示を行い、鑑賞の一助とした。
- ・ 「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」の広報・営業活動を通して、外国人に対するアピールを強化した。
- ・ 国立劇場開場50周年記念公演や公演演目に因んだイベントの実施のほか、幅広いニーズに応える観劇プランの提供やDMの定期的な送付等、多様な取組による誘客を行った。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 10月公演で、入場者数が目標を下回った。公演の魅力を広く伝えることができるよう、今後も、企画内容、広報宣伝等の効果的な施策を十分検討していきたい。

<2>文 楽

《制作方針》

文楽の保存と振興のため、「通し狂言」「見取り狂言」等の様々な形態により上演する。

また、それらの公演の中で、上演頻度が少ない演目や場면을積極的に取り上げ、文楽技芸員にとり、次世代への技芸の継承やレパートリー拡充に繋がるように努める。

上演に当たっては、古典的演出とともに、迫り、廻り舞台や宙乗り等、劇場の舞台機構を活かした演出も試み、観客層の拡大を図る。

また、解説を付した公演を継続して実施する。初心者や低年齢層にも鑑賞しやすく、文楽の魅力に触れることができるような新作の上演にも取り組む。併せて、文化プログラムの一環として、外国人向け文楽公演を行い、外国人旅行者等に訴求力のある公演を制作する。



本館では国立劇場開場 50 周年記念公演として、通し狂言を中心に古典作品の筋を分かりやすく紹介する形式での上演を行う。鑑賞教室を 12 月から 5 月に移し、12 月公演を本公演に変更して記念公演の充実を図る。

9 月公演は、東京では昭和 50 年 2 月公演以来 41 年ぶりの通し上演となる時代物の名作「一谷嫩軍記」、そして開場 50 周年を祝う「寿式三番叟」を取り上げる。続いての 12 月公演は、12 月歌舞伎公演と連携する本公演として「仮名手本忠臣蔵」の通し上演を行う。国立劇場開場後としては初めて、十段目「天川屋の段」を含めた全段一挙上演に取り組む。2 月公演では、昭和 56 年から平成 11 年まで 2 月公演で実施されてきた企画「近松名作集」を復活させ、人気ある近松門左衛門の作品を特集する。5 月鑑賞教室では、「曽根崎心中」を取り上げ、社会人の観客層を取り込むことも企図する。

文楽劇場では、4 月公演において観客からの要望が高い「妹背山婦女庭訓」を通し上演する。文楽技芸員が急激な世代交代の時期を迎えていることを踏まえ、積極的に中堅、若手を抜擢し、作品及び技芸の継承を目指す。夏休み文楽特別公演では、新たな挑戦として新作 2 作品を上演する。第一部「親子劇場」では、台本、作曲、美術すべてを一新した「新編西遊記 GO WEST! 玉うさぎの涙」を、第三部では、井上ひさし原作「金壺親父恋達引」を舞台初上演する。錦秋文楽公演は、第一部で「花上野誉碑」を大阪では 19 年ぶりに取り上げ、第二部では「勸進帳」を平成 13 年以来となる花道を使用する演出で上演する。初春文楽公演では、「染模様妹背門松」を「油店の段」から「蔵前の段」までの全段通しで上演する。「生玉の段」、「質店の段」は平成 16 年以来であり、この形での上演は昭和 59 年以来 32 年ぶりである。それぞれ、話題性を高めることに加え、技芸の継承にも資することを狙う。6 月鑑賞教室では、仕事帰りにも観劇しやすい「社会人のための文楽入門」を開催し、ナビゲーターによる芝居の進行と並行しつつ疑問点を解決させるという演出により、解説コーナーを一新して実施する。

初めての試みとして、本館 5 月鑑賞教室、文楽劇場 6 月鑑賞教室で外国人向けの公演「Discover BUNRAKU」を実施し、文楽の一層の普及振興に努める。

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・ 本館文楽4公演・文楽鑑賞教室1公演、文楽劇場文楽4公演・文楽鑑賞教室1公演を計画どおり実施
- ・ 国立劇場開場50周年記念公演を実施(本館及び文楽劇場で実施した9月以降の全公演)
- ・ 通し狂言での上演(本館9月「一谷嫩軍記」、本館12月「仮名手本忠臣蔵」、文楽劇場4月「妹背山婦女庭訓」)
- ・ 上演機会の少ない場面の復活等(本館9月「一谷嫩軍記」(初段・二段目)、本館12月「仮名手本忠臣蔵」(十段目)、文楽劇場錦秋「花上野誉碑」、同「勸進帳」花道使用)
- ・ 全体で目標を上回る入場者数を達成
- ・ 新作の上演(文楽劇場夏休み文楽特別公演「新編西遊記 GO WEST! 玉うさぎの涙」「金壺親父恋達引」)
- ・ 外国人のための文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU」を本館及び文楽劇場にて実施【新規】

2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への記者会見及び取材依頼の積極的な働きかけ、動画を用いたホームページの有効活用、地元の関係団体との協力、祭礼行事やイベントへの参加や協力により、効果的に公演を広報
- ・ 国立劇場開場 50 周年記念公演や公演演目に因んだイベントの実施や演劇フリーペーパーへの記事広告掲出、DM の定期的な送付等、多様なアプローチによる誘客

- ・ 本館5月「Discover BUNRAKU—外国人のための文楽鑑賞教室—」及び文楽劇場6月「Discover BUNRAKU—BUNRAKU for Beginners—」の広報・営業活動を通して、外国人に対するアピールを強化
 - ・ 文楽劇場では、公演ごとに2か国語(日本語・英語)パンフレットを作成し、ホテル、ターミナル駅等へ配布
3. 外部専門家等の意見
- ・ 外部専門家等の意見を聴取するため、公演専門委員会を本館・文楽劇場で各2回開催
4. アンケート調査
- ・ (本館)5月、9月公演及び5月鑑賞教室で実施(3回)、満足回答率85.6%
 - ・ (文楽劇場)全5公演で実施(6回)、満足回答率93.3%
 - ・ 「Discover BUNRAKU」で上記のうち2回実施、満足回答率87.0%(外国人の満足度は88.9%)

《業務実績詳細》

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	
5月文楽公演 「絵本太功記」	本館 小劇場	5/11(水) ～23(月)	実績	13回	13日	7,052人	(96.9%)	7,280人	
			計画	13回	13日	6,700人	(92.0%)	7,280人	
9月文楽公演 通し狂言「一谷嫩軍記」「寿式三番叟」		9/3(土) ～19(月・祝)	実績	34回	17日	17,806人	(93.5%)	19,040人	
			計画	34回	17日	17,300人	(90.9%)	19,040人	
12月文楽公演 通し狂言「仮名手本忠臣蔵」		12/3(土) ～19(月)	実績	34回	17日	18,667人	(98.0%)	19,040人	
			計画	34回	17日	17,500人	(91.9%)	19,040人	
2月文楽公演 近松名作集 「平家女護島」／「曾根崎心中」／ 「冥途の飛脚」		2/4(土) ～20(月)	実績	51回	17日	25,795人	(90.3%)	28,560人	
			計画	51回	17日	22,900人	(80.2%)	28,560人	
【文楽(本館)小計】 4公演 (計画:4公演)			実績	132回	64日	69,320人	(93.8%)	73,920人	
			計画	132回	64日	64,400人	(87.1%)	73,920人	
5月文楽鑑賞教室 解説「文楽の魅力」「曾根崎心中」	本館 小劇場	5/11(水) ～23(月)	実績	24回	13日	13,125人	(98.9%)	13,272人	
			計画	24回	13日	13,000人	(98.0%)	13,272人	
【文楽鑑賞教室(本館)小計】 1公演 (計画:1公演)			実績	24回	13日	13,125人	(98.9%)	13,272人	
			計画	24回	13日	13,000人	(98.0%)	13,272人	
【文楽(本館)合計】 5公演 (計画:5公演)			実績	156回	77日	82,445人	(94.6%)	87,192人	
			計画	156回	77日	77,400人	(88.8%)	87,192人	
4月文楽公演 通し狂言「妹背山婦女庭訓」	文楽 劇場	4/2(土) ～24(日)	実績	44回	22日	20,602人	(65.9%)	31,240人	
			計画	44回	22日	19,100人	(61.1%)	31,240人	
夏休み文楽特別公演 「五条橋」解説「ぶんらくってなあに」 「新編西遊記 GO WEST! 玉うさぎの 涙」／「薫樹累物語」／「伊勢音頭恋寝 刃」／「金壺親父恋達引」		7/23(土) ～8/9(火)	実績	54回	18日	23,345人	(59.1%)	39,474人	
			計画	54回	18日	21,500人	(54.5%)	39,474人	
錦秋文楽公演 「花上野誉碑」／「恋娘昔八丈」／日高 川入相花王」／「増補忠臣蔵」／「艷容 女舞衣」／「勸進帳」		10/29(土) ～11/20(日)	実績	44回	22日	19,968人	(69.3%)	28,820人	
			計画	44回	22日	19,300人	(60.0%)	32,164人	
初春文楽公演 「寿式三番叟」／「奥州安達原」／「本朝 廿四孝」／「染模様妹背門松」		1/3(火) ～26(木)	実績	46回	23日	21,088人	(62.7%)	33,626人	
			計画	46回	23日	21,800人	(64.8%)	33,626人	
【文楽(文楽劇場)小計】 4公演 (計画:4公演)			実績	188回	85日	85,003人	(63.8%)	133,160人	
			計画	188回	85日	81,700人	(59.9%)	136,504人	

6 月文楽鑑賞教室 「二人三番叟」解説「文楽へようこそ」 「夏祭浪花鑑」	文楽 劇場	6/3(金) ～16(木)	実績	28 回	14 日	19,719 人	(96.3%)	20,468 人
			計画	28 回	14 日	18,500 人	(90.4%)	20,468 人
【文楽鑑賞教室(文楽劇場)小計】 1 公演 (計画:1 公演)			実績	28 回	14 日	19,719 人	(96.3%)	20,468 人
			計画	28 回	14 日	18,500 人	(90.4%)	20,468 人
【文楽(文楽劇場)合計】 5 公演 (計画:5 公演)			実績	216 回	99 日	104,722 人	(68.2%)	153,628 人
			計画	216 回	99 日	100,200 人	(63.8%)	156,972 人
【文楽 総合計】 10 公演 (計画:10 公演)			実績	372 回	176 日	187,167 人	(77.7%)	240,820 人
			計画	372 回	176 日	177,600 人	(72.7%)	244,164 人

2. 営業・広報

(本館)

- ・ ポスター、チラシ、ホームページ、あぜくら会報、振興会ニュース等、公演情報の周知拡大を図り、一般の集客に努めた。
- ・ テレビ放送局、新聞社、雑誌社等に積極的に広報の働きかけを行い、多くの取材を受け入れ公演の PR を行った。
- ・ 国立劇場開場 50 周年記念公演に当たり、各演目の特設サイトを作成した(文楽 3 公演)。見所やインタビュー動画等を掲載し、インターネットを積極的に利用して公演の PR を行った。
- ・ 演目ゆかりの地において、出演者による成功祈願及び記者会見を行った(9 月文楽公演では、須磨寺において吉田和生、桐竹勘十郎、12 月文楽公演では、泉岳寺において吉田玉男と歌舞伎の中村梅玉)。
- ・ 団体の営業活動として、国立劇場開場 50 周年記念公演や公演演目に因んだイベントを実施して、団体客の増加に努めた。
- ・ 文楽公演の公演内容の周知と団体客の集客のため、過去 10 年間に観劇履歴のある団体及び新規見込み団体に向けて、定期的に最新の公演情報や団体観劇プランのご案内等の内容の DM を送付した(年 12 回、のべ 15,816 通)。
- ・ 5 月文楽鑑賞教室内の企画「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」の集客のため、大学留学生センター・留学生支援団体・日本語学校等の外国人関係団体・ホテル・観光案内所を個別訪問した。
- ・ 「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」の上演を 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の文化プログラム参画に向けた取組と位置付け、3 か国語(英語・中国語・韓国語)による特別チラシを海外からの旅行者の目に留まりやすい空港・観光案内所・主要ホテル等に配布した。
- ・ 職員のコミュニティー等を活用した「ご観劇おすすめキャンペーン」を引き続き実施した。

(文楽劇場)

- ・ 技芸員のインタビュー動画や三味線音楽を紹介する動画と、公演記録映像を活用した筋立てを説明するダイジェスト動画を作成し、ともにホームページで公開した。
- ・ 観劇の雰囲気盛り上げるために、正面玄関の柱に写真ポスターを装飾し、ロビー大階段周辺に大型懸垂幕ポスターを飾り付けた。
- ・ 初めての外国人向けの公演として開催した 6 月文楽鑑賞教室内の企画「Discover BUNRAKUーBUNRAKU for Beginnersー」の集客のため、大学留学生センター・留学生支援団体・日本語学校等の外国人関係団体・ホテル・観光案内所を個別訪問した。
- ・ 「Discover BUNRAKUーBUNRAKU for Beginnersー」の上演を 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の文化プログラム参画に向けた取組と位置付け、海外からの旅行者の目に留まりやすい空港・観光案内所・主要ホテル等に、英語版リーフレットを配布した。
- ・ 地下鉄・JR 他の交通機関の駅構内や車内吊りのポスターを掲示したほか、巨大壁面広告やデジタルサイネージ(電子ポスター)による公演宣伝を行った。
- ・ 新作文楽の公開舞台稽古等、在阪テレビ及びラジオ放送局に積極的に広報の働きかけを行い、多くの取材を受け入れることにより、ニュース番組、情報番組を通じて公演 PR を行った。
- ・ 地元で行われる祭礼行事等で出演者と一般のお客様との交流の機会を設け、広く一般への普及活動を行った。
- ・ 文楽に関する展示を関西国際空港 KIX ギャラリーや市立図書館で開催し、訪日外国人も対象に文楽と

錦秋文楽公演のPRを行った。

- ・ 夏休み文楽特別公演において、大阪近隣の各市に依頼し、第一部「親子劇場」子供向けチラシの配布を拡充した。
- ・ 錦秋文楽公演に向けて、若者で賑わう繁華街(アメリカ村)にて企業の協力を得てギャラリースペースでの展示を実施した。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 外部専門家等の意見を聴取するため、公演専門委員会を本館・文楽劇場で各2回開催した。

4. アンケート調査

(本館)

5月公演、9月公演及び5月鑑賞教室で実施(3回)した。

回答数 926人(配布数 1,495人、回収率 61.9%)。回答者の 85.6%が概ね満足と答えた(793人)。

うち1回を「Discover BUNRAKU」で実施した。

回答数 246人(配布数 590人、回収率 41.7%)。回答者(国籍問わず)の 81.3%(200人)が満足と答え、外国人は 84.1%(90人)が満足と答えた。

(文楽劇場)

4月公演、夏休み文楽特別公演、錦秋公演、初春公演及び6月鑑賞教室で実施(6回)した。

回答数 1,453人(配布数 2,380人、回収率 61.1%)。回答者の 93.3%が概ね満足と答えた(1,356人)。

うち1回を「Discover BUNRAKU」で実施した。

回答数 271人(配布数 571人、回収率 47.5%)。回答者(国籍問わず)の 92.3%(250人)が満足と答え、外国人は 92.7%(127人)が満足と答えた。

【特記事項】

- ・ 国立劇場開場 50周年記念公演(本館及び文楽劇場で実施した9月以降の全公演)
- ・ 平成 28年度(第 71回)文化庁芸術祭主催公演(文楽劇場錦秋公演)
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場の全公演)
- ・ 各公演とも字幕表示装置により、演奏に合わせて義太夫の詞章を表示し鑑賞の助けとした。
- ・ 文楽劇場 4月公演「妹背山婦女庭訓」の舞台成果により、出演者一同が平成 28年度大阪文化祭賞優秀賞を受賞した。
- ・ 国立劇場開場 50周年記念公演一連の幕開けとなるため、9月公演初日の第二部開演前に舞台上で理事長が挨拶し、吉田襄助師から理事長へ花束が贈呈された。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 187,167人 / 目標 177,600人(達成度 105.4%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

A

(根拠)

- ・ 制作方針に従い、通し上演、上演機会の少ない優れた場面の復活、新作の上演等を含め、各公演とも充実した内容の舞台を制作し、外部専門家等から企画内容を高く評価された。
- ・ 本館では、三部制公演(2月)を含めた5公演すべてで90%を超える入場率を記録した。【国立劇場開場以来初】
- ・ 本館 12月「仮名手本忠臣蔵」は、上演機会の少ない十段目「天河屋の段」を含めた全段を一挙通し上演とした。ほとんどの太夫が複数の段を語り、制作・舞台スタッフも長時間にわたる上演を支えるなど、一丸となって取り組んだ。ほぼ全ステージが完売し、有料入場率 98.0%という大変な好成績であった。
- ・ 「仮名手本忠臣蔵」は、同月に歌舞伎でも同演目を上演し、比較鑑賞できる国立劇場ならではの企画とした。
- ・ 文楽劇場 4月公演で「妹背山婦女庭訓」を通し上演した。技芸員は特に太夫陣の世代交代が顕著な状況下であり、技芸継承のためあえて中堅、若手を抜擢して、この大曲を上演した経験は今後の文楽にとつ

て貴重な財産となった。その成果が認められ、出演者一同が平成 28 年度大阪文化祭賞優秀賞を受賞することができた。

- ・ 本館 5 月鑑賞教室では、外国人のための文楽鑑賞教室として「Discover BUNRAKU」を行い、日本文化に造詣の深いダニエル・カールを起用し、英語を中心にした解説、「曾根崎心中」本編では英語字幕表示、3 か国語(英語・中国語・韓国語)によるオーディオガイド並びにパンフレットの配布により、公演内容の理解が進むよう配慮した。
- ・ 文楽劇場 6 月鑑賞教室では、外国人のための文楽鑑賞教室として「Discover BUNRAKU」を行い、構成を落語作家のくまざわあかねに、ナビゲーターを浪曲の春野恵子に依頼し、芝居を上演していく中にナビゲーターが入って演者に質問を加える形での進行等、従来実施していた解説部分の形式を一新したことが評価され、テレビ局をはじめとするマスコミにも大きく取り上げられた。また、本編では、英語字幕表示と 3 か国語(英語・中国語・韓国語)によるオーディオガイドを実施するとともに、7 言語(日本語・英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語・フランス語・スペイン語)による解説書、英語版文楽入門パンフレットを来場記念特製トートバッグに入れて配布し、好評を得た。
- ・ 文楽劇場夏休み文楽特別公演では、台本、作曲、美術すべてを一新した「新編西遊記 GO WEST! 玉うさぎの涙」と井上ひさし原作「金壺親父恋達引」の舞台初上演という新作 2 本を一つの公演において制作上演するという果敢な挑戦が結実し、各部の入場料金を均一ではなくした料金設定の工夫も相まって、好成績に繋がった。
- ・ 営業・広報に関し、国立劇場開場 50 周年の広報とともに公演を周知する各種の取組により順調に事業を実施した。また、学校団体や外国人向けの営業活動を展開した。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 制作方針に従い、通しでの上演、上演機会の少ない優れた場面の復活、新作の上演等を実施した。
- ・ 本館では、開場 50 周年記念公演として実施した 9 月公演・12 月公演・2 月公演、さらに例年と異なり 5 月に開催した文楽鑑賞教室及び中堅若手を中心にした文楽公演と、いずれも 90%を越す入場率を達成し、すべての公演で目標入場者数を上回った。国立劇場の文楽公演に期待する観客層へ十分応えることのできた公演であった。
- ・ 通し狂言による演目立てを積極的に行った結果として、出演者にとっては技芸継承、観客にとっては演目理解を助ける成果を挙げることができた。
- ・ 本館 5 月文楽公演では「絵本太功記」を上演し、見取りでの上演ではなかなか取り上げられない「本能寺の段」「妙心寺の段」を上演して、作品理解の一助となる演目立てを行った。
- ・ 本館 9 月文楽公演「一谷嫩軍記」の通し上演は、各専門委員からも作品理解や技芸継承の好機として高く評価された。
- ・ 本館 2 月公演「近松名作集」の上演は、近松門左衛門作品を取り上げた企画により、有料入場率が 90%を越え、通常の 2 月公演を上回る好成績となった。
- ・ 外国人向けの公演として「Discover BUNRAKU」を新たに行い、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた新しい公演スタイルを作ることができた。また、同企画の広報・営業活動を通して、外国人に対するアピールを強化した。
- ・ 国立劇場開場 50 周年記念公演や公演演目に因んだイベントの実施や DM の定期的な送付等、多様な取組による誘客を行った。

<3> 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能ほか

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・ 舞踊公演4公演、邦楽公演4公演、雅楽公演3公演、声明公演2公演、民俗芸能公演2公演、琉球芸能公演1公演、特別企画公演6公演を計画どおり実施
- ・ 国立劇場開場50周年記念公演を実施(本館及び文楽劇場で実施した9月以降の全公演)
- ・ 国立劇場開場50周年記念公演として実施した舞踊・邦楽・民俗芸能・琉球芸能公演について、様々な芸能で取り上げられる「道成寺」をキーワードに演目を構成
- ・ 日本舞踊の一大モチーフである「道成寺」をテーマにした舞踊公演、様々な歌物、語り物の分野ごとの第一人者による邦楽公演、天台宗・真言宗の二大流派を取り上げた声明公演、最高峰の演者による琉球舞踊と組踊を上演した琉球芸能公演等、各ジャンルの特性を活かした企画性の高い公演を実施
- ・ 東日本大震災5周年を迎え、復興支援として文楽劇場にて民俗芸能公演「東北の神楽」を上演

2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への記者会見や取材依頼のほか、各種媒体により公演情報を周知

3. 外部専門家等の意見

- ・ 外部専門家等の意見を聴取するため、公演専門委員会を本館各ジャンル及び文楽劇場で各2回開催

4. アンケート調査

- ・ 舞踊公演1回、邦楽公演1回、雅楽公演1回、声明公演2回、民俗芸能公演1回、琉球芸能公演1回、特別企画公演5回(計12回)実施、満足回答率88.2%

《実績》

1. 公演実績

公演名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
【舞踊】	4 公演 本館大小劇場、文楽劇場	実績	10 回	6 日	5,858 人	(75.8%)	7,730 人
		計画	10 回	6 日	6,120 人	(79.2%)	7,730 人
【邦楽】	4 公演 本館小劇場、文楽劇場	実績	8 回	7 日	3,995 人	(81.8%)	4,883 人
		計画	8 回	7 日	3,440 人	(70.4%)	4,883 人
【雅楽】	3 公演 本館大小劇場	実績	3 回	3 日	2,620 人	(93.9%)	2,790 人
		計画	3 回	3 日	2,370 人	(84.9%)	2,790 人
【声明】	2 公演 本館大劇場、文楽劇場	実績	3 回	2 日	3,752 人	(94.4%)	3,973 人
		計画	3 回	2 日	3,240 人	(81.6%)	3,973 人
【民俗芸能】	2 公演 本館小劇場、文楽劇場	実績	5 回	3 日	2,277 人	(70.3%)	3,239 人
		計画	5 回	3 日	2,600 人	(79.4%)	3,276 人
【琉球芸能】	1 公演 本館小劇場	実績	2 回	2 日	1,103 人	(93.5%)	1,180 人
		計画	2 回	2 日	960 人	(81.4%)	1,180 人
【特別企画】	6 公演 本館大小劇場、文楽劇場	実績	11 回	7 日	8,191 人	(76.3%)	10,733 人
		計画	11 回	7 日	7,860 人	(73.2%)	10,733 人
【合計】	22 公演	実績	42 回	30 日	27,796 人	(80.5%)	34,528 人
		計画	42 回	30 日	26,590 人	(76.9%)	34,565 人

2. 営業・広報

- ・ 国立劇場開場50周年記念事業の記者発表をはじめマスコミ各社への記者会見及び取材依頼、テレビ出演、ポスター、チラシ、ホームページ、あぜくら会会報、国立文楽劇場友の会会報、振興会ニュース等により、公演情報の周知拡大を図り、一般の集客に努めた。
- ・ 国立劇場開場50周年記念特設サイトにおいて、各公演のラインアップやトピックスを掲載し、公演情

報の一層の周知拡大を図った。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 外部専門家等の意見を聴取するため、公演専門委員会を本館各ジャンル及び文楽劇場で各2回開催した。

4. アンケート調査

舞踊公演1回、邦楽公演1回、雅楽公演1回、声明公演2回、民俗芸能公演1回、琉球芸能公演1回、特別企画公演5回(計12回)実施した。

回答者数5,023人(配布数7,357人、回収率68.3%)、回答者の88.2%が概ね満足と答えた(4,432人)。

【特記事項】

- ・ 国立劇場開場50周年記念公演(本館及び文楽劇場で実施した9月以降の全公演)
- ・ 平成28年度(第71回)文化庁芸術祭主催公演(本館10月邦楽・10月声明・11月雅楽・11月舞踊、文楽劇場10月舞踊)
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場の全公演)
- ・ 上演内容に応じて、字幕表示装置により、演奏にあわせて詞章等を表示し鑑賞の助けとした。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績27,796人／目標26,590人(達成度104.5%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

A

(根拠)

- ・ 本館では、日本舞踊の一大モチーフである「道成寺」をテーマにした舞踊公演、様々な歌物、語り物の分野ごとの第一人者による邦楽公演、開場50周年を寿ぐ新作委嘱作品や「太平楽」右舞大曲等を上演した雅楽公演、天台宗・真言宗の二大流派を取り上げた声明公演、我が国の神楽・狂言・人形芝居の代表的団体が出演した民俗芸能公演、最高峰の演者による琉球舞踊と組踊を上演した琉球芸能公演等、各ジャンルの特性を活かした、国立劇場開場50周年を飾るに相応しい企画性の高い公演を実施した。
 - ・ 文楽劇場では、10月「東西名流舞踊鑑賞会」や、8月「文楽素浄瑠璃の会」での質の高い技芸の公開、5月「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」での若い実演家の育成を行った。また、5月民俗芸能公演「東北の神楽」では、東日本大震災の記憶が風化しつつある関西において、東北の芸能の上演を、震災後早くから災害と芸能について調査を行ってきた国立民族学博物館との共催で実施した。いずれも企画性の高い公演を制作方針通り実施した。
 - ・ 27年度計画の1.5倍という高い目標入場者数を設定したが、これを達成した(実績の27年度比155.8%)。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 本館の9月から3月までの公演では国立劇場開場50周年記念を掲げ、各公演で企画性に富み、また名曲大曲を上演するなど記念公演として相応しい内容の公演を行った。全17公演中14公演で目標入場者数を達成することができ、特に6公演で90%を超える高い入場率を達成した。また、4月から8月までの公演でも、「春日若宮おん祭」では、式年造替60回を迎える春日大社の協力により、門外不出の「社伝神楽」も特別に上演したほか、広く一般に邦楽・舞踊・雅楽・声明を普及するための「伝統芸能の魅力」等、国立劇場ならではの公演を行い、それぞれ目標入場者数を上回った。
 - ・ 文楽劇場の「東西名流舞踊鑑賞会」では、上方四流に伝承される舞や踊りの幅広い魅力を発信するとともに、歌舞伎舞踊の名曲、東京の舞踊家による江戸前の素踊りといったバラエティーに富んだ番組で目標入場者数を上回った。「文楽素浄瑠璃の会」の字幕表示については、詞章をより見やすく表示して分かりやすくするため、27年度に引き続き可動式の字幕表示装置を舞台上の上手・下手に配置した。「東北の神楽」では、東日本大震災復興支援として関西では馴染みの薄い東北の芸能を紹介する稀有な機会を提供できた。また、「声明公演」では滋賀県の三井寺と大阪府の大念佛寺の声明を上演した。どちらも天台声明の流れであるが、時代や土地風土による変化が比較できる貴重な機会であった。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 目標入場者数に達しなかった公演については、企画立案時より内容や時期等の計画・検討を綿密に行うとともに、動画を利用するなど効果的な広報宣伝ができるよう、担当部署で連携し、一層工夫を図りたい。

舞 踊

【制作方針】

本館では、現在鑑賞することのできる最高水準の舞台を紹介することを根幹とし、日本舞踊界の第一線で活躍する東西の舞踊家により、流派にとらわれず国立劇場独自の企画を盛り込みながら、広範な観客層への普及を図る。東京を中心に発展・継承されてきた歌舞伎舞踊と、京阪を中心に発展・継承されてきた上方舞を両輪とし、公演ごとにテーマを設けて企画する。また、9月・11月・3月は国立劇場開場50周年記念公演と冠して開催する。

文楽劇場では、京阪四流(井上、榎茂都、山村、吉村)の代表者及び東西の第一線で活躍する舞踊家による競演を柱に、演奏においては各ジャンルの一流の演奏家を迎え、極めて高質で格調の高い舞台を提供し、広範な観客層への普及を図り、芸能の特性を踏まえた企画性のある番組構成とする。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
9月舞踊公演 「道成寺の舞踊」	本館 大劇場	9/10(土)	実績	2回	1日	2,346人	(77.2%)	3,040人
			計画	2回	1日	2,500人	(82.2%)	3,040人
11月舞踊公演 「舞の会－京阪の座敷舞－」	本館 小劇場	11/26(土) ～27(日)	実績	3回	2日	1,591人	(89.9%)	1,770人
			計画	3回	2日	1,520人	(85.9%)	1,770人
3月舞踊公演 「舞踊名作鑑賞会」	本館 小劇場	3/25(土) ～26(日)	実績	3回	2日	1,027人	(65.6%)	1,566人
			計画	3回	2日	1,250人	(79.8%)	1,566人
【舞踊(本館)小計】 3公演 (計画:3公演)			実績	8回	5日	4,964人	(77.9%)	6,376人
			計画	8回	5日	5,270人	(82.7%)	6,376人
10月舞踊公演 「東西名流舞踊鑑賞会」	文楽 劇場	10/15(土)	実績	2回	1日	894人	(66.0%)	1,354人
			計画	2回	1日	850人	(62.8%)	1,354人
【舞踊(文楽劇場)小計】 1公演 (計画:1公演)			実績	2回	1日	894人	(66.0%)	1,354人
			計画	2回	1日	850人	(62.8%)	1,354人
【舞踊合計】 4公演 (計画:4公演)			実績	10回	6日	5,858人	(75.8%)	7,730人
			計画	10回	6日	6,120人	(79.2%)	7,730人

【特記事項】

- ・ 国立劇場開場50周年記念公演(全公演)
- ・ 平成28年度(第71回)文化庁芸術祭主催公演(本館11月、文楽劇場10月)
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場10月)
- ・ 字幕表示装置により、演奏に合わせて歌詞を表示して鑑賞の助けとした(本館3公演)。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 華やかでスケールの大きな企画として成果を収めた本館9月「道成寺の舞踊」、目標入場者数も高い水準で達成した本館11月「舞の会－京阪の座敷舞－」、斯界の第一線で活躍する日本舞踊家、各流の家元・重鎮らの出演により名作を上演した本館3月「舞踊名作鑑賞会」は、いずれも国立劇場開場50周年記念の舞踊公演に相応しく、また企画性の高い公演として広く観客にアピールできた。
- ・ 文楽劇場10月「東西名流舞踊鑑賞会」は、上方四流に伝承される舞や踊りの幅広い魅力を発信し、歌舞伎舞踊の名曲、東京の舞踊家による江戸前の素踊りと、バラエティーに富んだ番組構成とした。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 目標入場者数に及ばなかった公演については、今後とも広報の工夫をはじめ、企画内容等を一層考慮し企画を練り上げていきたい。

邦 楽

【制作方針】

邦楽の各ジャンルの特徴やレパートリーの多彩さを踏まえ、その豊かな音楽性を示す。出演者には各界の第一人者や実力者をはじめ、公演の趣意や曲の性格に応じた演奏家を適宜起用する。

本館 7 月公演は、現代邦楽の作品群に焦点を当て多彩な曲目を上演する。今回は各部を 60～70 年代と 80～90 年代の時代で区分し、作品が誕生した時代背景とともに各曲の魅力を理解できるよう図る。

本館 10 月公演は、国立劇場開場 50 周年記念として、邦楽の幅広い分野を網羅した公演を上演する。人間国宝を中心とした各界の第一人者による共演で、現在望みうる最高峰の舞台を目指す。

本館 1 月公演は、開場以来実施している長唄と三曲に特集した邦楽鑑賞会を上演する。各界の第一線で活躍する演奏家が集い、名作の数々を上演する。また邦楽の将来性も見据え、中堅若手を抜擢した流派合同による演目も加える。

文楽劇場 8 月「文楽素浄瑠璃の会」は、国宝クラスの技芸員の相次ぐ引退等を受け、公演形態の再構築を試みている。素浄瑠璃を堪能できる稀有な公演であることから、復曲作業の成果や稀曲を披露する場としての性格も付与し、初心者へのアピールも視野に入れた制作を行う。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
7 月邦楽公演 「日本音楽の光彩Ⅱ－時代を映す作品選－」	本館 小劇場	7/9(土)	実績	2 回	1 日	1,026 人	(86.9%)	1,180 人
			計画	2 回	1 日	770 人	(65.3%)	1,180 人
10 月邦楽公演 「邦楽鑑賞会」		10/8(土) ～10(月・祝)	実績	3 回	3 日	1,500 人	(84.7%)	1,770 人
			計画	3 回	3 日	1,220 人	(68.9%)	1,770 人
1 月邦楽公演 「邦楽鑑賞会－長唄の会・三曲の会－」		1/14(土) ～15(日)	実績	2 回	2 日	1,133 人	(96.0%)	1,180 人
			計画	2 回	2 日	1,000 人	(84.7%)	1,180 人
【邦楽(本館) 小 計】 3 公演 (計画:3 公演)			実績	7 回	6 日	3,659 人	(88.6%)	4,130 人
			計画	7 回	6 日	2,990 人	(72.4%)	4,130 人
8 月邦楽公演 「文楽素浄瑠璃の会」	文楽 劇場	8/20(土)	実績	1 回	1 日	336 人	(44.6%)	753 人
			計画	1 回	1 日	450 人	(59.8%)	753 人
【邦楽(文楽劇場) 小 計】 1 公演 (計画:1 公演)			実績	1 回	1 日	336 人	(44.6%)	753 人
			計画	1 回	1 日	450 人	(59.8%)	753 人
【邦楽 合 計】 4 公演 (計画:4 公演)			実績	8 回	7 日	3,995 人	(81.8%)	4,883 人
			計画	8 回	7 日	3,440 人	(70.4%)	4,883 人

【特記事項】

- ・ 国立劇場開場50周年記念公演(本館10月・1月)
- ・ 平成 28 年度(第 71 回)文化庁芸術祭主催公演(本館 10 月)
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場 8 月)
- ・ 邦楽公演の 50 年間を振り返る特別座談会(出演:常磐津英寿・山勢松韻・東音宮田哲男)を、9/20 に伝統芸能情報館レクチャー室で実施した(本館 10 月)。
- ・ 邦楽演奏家の協力を得て、初春歌舞伎公演に合わせて作成した動画「PNSP(国立劇場版 PPAP)」を小劇場ロビーにて放映した(本館 1 月)。

- ・ 字幕表示装置により、演奏に合わせて歌詞を表示して鑑賞の助けとした(本館 10 月・1 月、文楽劇場 8 月)。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 本館 7 月「日本音楽の光彩」は、26 年度に引き続き現代邦楽の価値と可能性を再評価する好機となった。今回は各部で時代を区分したことで、作曲の背景が明確になり一層深い作品理解に繋がった。また現代邦楽に馴染みの薄い観客にとっても、その年代への親近感から関心を惹く企画となった。
- ・ 本館 10 月公演は、各界の第一人者による競演で名演の数々をお送りした。幅広い分野を取り上げることで邦楽の多彩さ、奥深さを示すこともできた。
- ・ 本館 1 月公演は、質の高い演奏を提供することができた。各演目とも作品の趣意を的確に捉えた好演であったが、中でも長唄「勸進帳」と三曲「松竹梅」は次代を担う中堅実力者が流派を越えて結集した特別な番組となった。
- ・ いずれの公演も、企画内容、第一線で活躍する出演者の配役において、記念公演に相応しい内容として上演することができた。
- ・ 文楽劇場 8 月「文楽素浄瑠璃の会」では、かねてより行ってきた復曲事業の成果を披露することができた。また、復曲を手掛けた出演者による座談会もあり、文楽劇場の復曲に対する取組の周知にも繋がった。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 今後も企画性を重視し、目標入場者数が達成できなかった「文楽素浄瑠璃の会」については、企画立案時において構成等の検討を綿密に行い、内容、時期、効果的な広報宣伝媒体等について担当部署が連携の上、工夫を図る。

雅 楽

【制作方針】

千年以上の長い歴史をもつ雅楽の古典・創作作品を、宮内庁式部職楽部ほかにより上演する。11 月公演は国立劇場開場 50 周年を記念した芝祐靖氏による新作委嘱作品「雉門松濤楽」等を、5 月公演では 25 年度から継続してきた六調子をテーマに取り上げたシリーズの最終となる「管絃」、2 月公演では省略なしの形式で「太平楽一具」、右舞大曲「古鳥蘇」を上演する。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
5 月雅楽公演 「管絃―盤渉調と太食調―」	本館 小劇場	5/28(土)	実績	1 回	1 日	555 人	(94.1%)	590 人
			計画	1 回	1 日	550 人	(93.2%)	590 人
11 月雅楽公演 「創造する雅楽―これからの千年に捧ぐ―」		11/12(土)	実績	1 回	1 日	499 人	(84.6%)	590 人
			計画	1 回	1 日	380 人	(64.4%)	590 人
2 月雅楽公演 「舞楽」	本館 大劇場	2/25(土)	実績	1 回	1 日	1,566 人	(97.3%)	1,610 人
			計画	1 回	1 日	1,440 人	(89.4%)	1,610 人
【雅楽(本館) 合計】 3 公演 (計画:3 公演)			実績	3 回	3 日	2,620 人	(93.9%)	2,790 人
			計画	3 回	3 日	2,370 人	(84.9%)	2,790 人

【特記事項】

- ・ 国立劇場開場50周年記念公演(11月・2月)
- ・ 平成 28 年度(第 71 回)文化庁芸術祭主催公演(11 月)

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 11月公演では通常の雅楽公演とは異なる立体的な舞台設定にしたことにより、新作舞楽の斬新さが際立った。また2月公演は宮内庁式部職楽部の出演により、国立劇場では初となる省略なしの形式で「太平楽一具」を上演し、曲の全貌を紹介する貴重な機会とすることができた。

声 明

【制作方針】

日本音楽の源流と言われ、仏教儀式音楽として各宗派で受け継がれる声明を取り上げる。

本館10月公演は、国立劇場開場50周年を記念する声明公演として、声明の二大流派といわれる天台宗・真言宗の声明を取り上げる。それぞれ天台声明を比叡山延暦寺法儀音律研究部、真言声明を高野山金剛峯寺により公開する。

文楽劇場では、26年度開催の「真言宗智山派総本山智積院の声明」以来、2年ぶりとなる声明公演として、大津市・三井寺(天台寺門宗総本山)の「曼荼羅供」と、大阪市平野区・大念佛寺(融通念佛宗総本山)の「夕時勤行」において唱えられる声明曲を取り上げて各流派の特徴を探りつつ、日本の声明の音楽的多様性に触れる機会とする。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
10月声明公演 「声明」	本館 大劇場	10/29(土)	実績	2回	1日	3,022人	(93.9%)	3,220人
			計画	2回	1日	2,590人	(80.4%)	3,220人
【声明(本館)小計】 1公演 (計画:1公演)			実績	2回	1日	3,022人	(93.9%)	3,220人
			計画	2回	1日	2,590人	(80.4%)	3,220人
9月声明公演 「聲明 三井寺/大念佛寺」	文楽 劇場	9/10(土)	実績	1回	1日	730人	(96.9%)	753人
			計画	1回	1日	650人	(86.3%)	753人
【声明(文楽劇場)小計】 1公演 (計画:1公演)			実績	1回	1日	730人	(96.9%)	753人
			計画	1回	1日	650人	(86.3%)	753人
【声明合計】 2公演 (計画:2公演)			実績	3回	2日	3,752人	(94.4%)	3,973人
			計画	3回	2日	3,240人	(81.6%)	3,973人

【特記事項】

- ・ 国立劇場開場50周年記念公演(全公演)
- ・ 平成28年度(第71回)文化庁芸術祭主催公演(本館10月)
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場9月)
- ・ 字幕表示装置により、舞台の進行に合わせて式次第と経文を表示して鑑賞の助けとした(全公演)。
- ・ 文楽劇場9月公演関連プレ講座として「日本音楽における声明とその魅力」を開催した(9/3、文楽劇場小ホール、参加人数128名)。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 本館10月公演では、「四箇法要」をテーマにしたことで、金剛峯寺・延暦寺ともに普段は省略することの多い「梵音」「錫杖」を聴く貴重な機会となった。真言宗では「猿引問答」、天台宗では門外不出の「都錫杖」を紹介するなど、通常は目に触れることが稀な曲目を取り上げることができた。天台声明・真言声明それぞれの本山で行われる法会の形式で両者を一日のうちに聴くことができる贅沢な企画として高い評価を得た。

- ・ 文楽劇場 9 月公演では、滋賀・大阪と一見関係性が薄いように思われる三井寺・大念佛寺の声明について、両寺とも天台声明の流れを汲むものであることから、双方を比較してその変遷を楽しむという企画が、多くの観客に受け入れられた。入場者数は目標を大きく上回ることができた。

民俗芸能

【制作方針】

全国各地で行われている民俗芸能の中から、伝承が確かで、しかも舞台上での上演が可能な芸能を広く一般に紹介し、その理解を深める。

本館 1 月公演では、国立劇場第 1 回民俗芸能公演で上演した壬生狂言、数ある神楽の中でも最初に国の重要無形民俗文化財に指定された早池峰神楽、民俗芸能における人形芝居の最高峰である淡路人形芝居という選りすぐりの芸能を上演する。

文楽劇場 5 月公演では、東日本大震災から 5 年を迎えたことを機に、関西地域で被災地の芸能を取り上げることにより、民俗芸能が震災復興に果たした役割について理解を深めるとともに、東日本大震災が関西で風化することなく、復興支援の一助となることを期する。また、いち早く被災地に入り、災害と芸能について調査を行ってきた国立民族学博物館との共催公演とし、民俗芸能を舞台上で取り上げるだけでなく、民俗芸能が被災者の心の拠り所となり、復興の心の支えとなった事例等に関西で広く紹介する。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
1 月民俗芸能公演 「民俗芸能」	本館 小劇場	1/21(土) ～22(日)	実績	3 回	2 日	1,629 人	(94.0%)	1,733 人
			計画	3 回	2 日	1,600 人	(90.4%)	1,770 人
【民俗芸能(本館) 小 計】 1 公演 (計画:1 公演)			実績	3 回	2 日	1,629 人	(94.0%)	1,733 人
			計画	3 回	2 日	1,600 人	(90.4%)	1,770 人
5 月民俗芸能公演 「東日本大震災復興支援 東北の神楽」	文楽 劇場	5/28(土)	実績	2 回	1 日	648 人	(43.0%)	1,506 人
			計画	2 回	1 日	1,000 人	(66.4%)	1,506 人
【民俗芸能(文楽劇場) 小 計】 1 公演 (計画:1 公演)			実績	2 回	1 日	648 人	(43.0%)	1,506 人
			計画	2 回	1 日	1,000 人	(66.4%)	1,506 人
【民俗芸能 合 計】 2 公演 (計画:2 公演)			実績	5 回	3 日	2,277 人	(70.3%)	3,239 人
			計画	5 回	3 日	2,600 人	(79.4%)	3,276 人

【特記事項】

- ・ 国立劇場開場50周年記念公演(本館1月)
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場 5 月)
- ・ 字幕表示装置により解説等を表示し、鑑賞の助けとした(全公演)。
- ・ 文楽劇場 5 月公演関連プレ講座「雄勝法印神楽・黒森神楽－震災からこれまでの歩み－」(5/7、文楽劇場小ホール、参加人数 75 名)。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 本館 1 月公演は、それぞれが単独で取り上げることでできる実力と人気を兼ね備えた出演団体が構成したことにより、贅沢で充実した公演内容となり、国立劇場開場 50 周年の節目に相応しい公演となった。3 ステージとも満席となった。
- ・ 文楽劇場 5 月公演は、関西では鑑賞する機会が少ない東北の芸能を上演することにより、風化しつつある被災地への想いを新たに提供できた。さらに、国立民族学博物館と共催することにより、文楽劇場は「芸能」、国立民族学博物館は「研究」というそれぞれの立場から「民俗芸能と震災復興」

というテーマを掘り下げ、復興の過程で民俗芸能が果たした役割等、東北の芸能の背景も広く紹介し、観客の理解を一層深めることができた。

また、4月に発生した熊本地震の義援金を募るに当たり、両団体の出演者が交互に率先してロビーで呼びかけを行うなど、心温まる光景が見られた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 文楽劇場 5月「東日本大震災復興支援 東北の神楽」では、活発な広報活動を展開しようとする矢先に熊本地震が発生し、震災復興という意味合いで公演情報をアピールすることが難しくなり、入場者数が伸びなかったのは残念であった。ただし、民俗芸能公演の広報や営業活動については、今後、より効果的な方法等を一層検討しなければならない。

琉球芸能

【制作方針】

国立劇場開場 50 周年記念公演として、国立劇場おきなわとの共同制作で、琉球王朝の宮廷芸能に由来する組踊と琉球舞踊を中心に上演する。第一部「琉球舞踊」では、琉球王朝時代から伝わる古典舞踊、明治時代以降に市井から生まれた雑踊、戦後の創作舞踊を網羅し、中幕に琉球古典音楽独唱を配する。第二部「組踊」は、最も有名な演目である「執心鐘入」を本館では 18 年ぶりに上演する。出演には重要無形文化財保持者をはじめとした重鎮から中堅・若手まで第一線で活躍する舞踊家・演奏家を揃え、琉球芸能の豊潤な世界を堪能できる公演とする。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
3月琉球芸能公演 「組踊『執心鐘入』と琉球舞踊」	本館 小劇場	3/4(土) ～5(日)	実績	2回	2日	1,103人	(93.5%)	1,180人
			計画	2回	2日	960人	(81.4%)	1,180人
【琉球芸能(本館)合計】 1公演 (計画:1公演)			実績	2回	2日	1,103人	(93.5%)	1,180人
			計画	2回	2日	960人	(81.4%)	1,180人

【特記事項】

- ・ 国立劇場開場50周年記念公演
- ・ 字幕表示装置により、舞台の進行に合わせて詞章を表示して鑑賞の助けとした。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 国立劇場開場 50 周年記念に相応しく、戦後の琉球芸能復興の成果を示す公演となった。演目立てのバランスもよく、琉球舞踊のジャンルを網羅する内容で、琉球芸能の魅力を余すところなく提示でき、目標入場者数も大きく超えて達成した。

特別企画

【制作方針】

本館 4 月「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」は、将来の日本舞踊界・邦楽界を担う新進気鋭の演者が主役や大曲に挑む舞踊と邦楽の合同公演とする。また、これまでの「新進の会」に出演し、いまや斯界を牽引している舞踊家、演奏家による「特別公演」を実施する。6 月公演は、伝統芸能に親しみを感じてもらえるよう企画した〈伝統芸能の魅力〉シリーズの 3 回目として、雅楽・日本舞踊、声明・邦楽の組合せによる公演を上演する。7 月公演「春日若宮おん祭」は、式年造替 60 回の節目を迎える春日大社の協力のもと、毎年 12 月に奉納される神事と芸能を上演し、9 月公演「日本の太鼓」は、新作曲や 6 団体による民俗芸能の太鼓、そして林英哲の独奏を上演する。

文楽劇場 5 月「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」は、躍進めざましい舞踊家、演奏家に脚光をあてて舞踊・邦楽界を展望する公演とする。国内外を問わず積極的な舞台・演奏活動を展開する主に関西在住の新進・花形実演家を厳選し、長唄舞踊、地歌舞二番及び邦楽三番(長唄、尺八、現代箏曲)と、様々なジャンルにわたる幅広い番組構成とする。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
4 月舞踊・邦楽公演 「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」	本館 小劇場	4/16(土)	実績	2 回	1 日	893 人	(75.7%)	1,180 人
			計画	2 回	1 日	750 人	(63.6%)	1,180 人
6 月 第 5 回伝統芸能の魅力 「雅楽を楽しむ」/「日本舞踊を楽しむ」		6/4(土)	実績	2 回	1 日	936 人	(79.3%)	1,180 人
			計画	2 回	1 日	840 人	(71.2%)	1,180 人
6 月 第 6 回伝統芸能の魅力 「声明を楽しむ」/「邦楽を楽しむ」		6/11(土)	実績	2 回	1 日	933 人	(79.1%)	1,180 人
			計画	2 回	1 日	900 人	(76.3%)	1,180 人
7 月特別企画公演 「春日若宮おん祭 おん祭の神事と芸能」	本館 大劇場	7/30(土)	実績	2 回	1 日	2,814 人	(87.4%)	3,220 人
			計画	2 回	1 日	2,580 人	(80.1%)	3,220 人
9 月特別企画公演 「日本の太鼓」		9/24(土) ～25(日)	実績	2 回	2 日	2,128 人	(66.1%)	3,220 人
			計画	2 回	2 日	2,390 人	(74.2%)	3,220 人
【特別企画(本館) 合計】 5 公演 (計画:5 公演)			実績	10 回	6 日	7,704 人	(77.2%)	9,980 人
			計画	10 回	6 日	7,460 人	(74.7%)	9,980 人
5 月舞踊・邦楽公演 「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」	文楽 劇場	5/14(土)	実績	1 回	1 日	487 人	(64.7%)	753 人
			計画	1 回	1 日	400 人	(53.1%)	753 人
【特別企画(文楽劇場) 小 計】 1 公演 (計画:1 公演)			実績	1 回	1 日	487 人	(64.7%)	753 人
			計画	1 回	1 日	400 人	(53.1%)	753 人
【特別企画 合計】 6 公演 (計画:6 公演)			実績	11 回	7 日	8,191 人	(76.3%)	10,733 人
			計画	11 回	7 日	7,860 人	(73.2%)	10,733 人

【特記事項】

- ・ 国立劇場開場50周年記念公演(本館9月)
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場 5 月)
- ・ 字幕表示装置により、詞章等を表示し鑑賞の助けとした(本館 4 月舞踊・邦楽、6 月〈伝統芸能の魅力〉「雅楽を楽しむ」 「日本舞踊を楽しむ」 「声明を楽しむ」 「邦楽を楽しむ」、7 月特別企画)。
- ・ 本館 6 月〈伝統芸能の魅力〉では、開演前の劇場ロビーに体験コーナーを設置した。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 本館 4 月「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」では、端唄・女流清元等、これまであまり取り上げなかった分野にも光を当て、入場者数においては目標を大きく上回る成果を挙げる事ができた。「特別公演」は「春の舞踊邦楽鑑賞会」と題し、“春”をテーマに設け、企画性を明確にしたことで効果的な広報宣伝に取り組むことができ、集客増に繋がった。27 年度同様、演者の自己紹介や意気込み等のコメントを、各演目の上演前に客席へアナウンスし、実演家と客席との距離感を近づけ好評を得た。
- ・ 本館 6 月公演で、「雅楽を楽しむ」は〈舞楽〉、「日本舞踊を楽しむ」は〈座敷舞〉、「声明を楽しむ」は〈真言宗の声明〉、「邦楽を楽しむ」は〈江戸浄瑠璃(河東節・清元節)〉とテーマを絞ることで、公演の特色を分かりやすく示した。ロビーでの体験コーナーは、開演前に設けたことでより充実した機会を提供することができた。

- 本館 7 月「春日若宮おん祭」では、神事を含めた構成で多彩な芸能を上演したことで、おん祭が若宮をお迎えし、芸能を奉納する祭りであることを表現できた。また東日本大震災の早期復興を祈念する特別な機会として門外不出の「社伝神楽」を上演できたことは意義深い。
- 本館 9 月「日本の太鼓」では、国立劇場開場 50 周年を寿ぐための新作委嘱作品をはじめ、2 日間で民俗芸能 6 団体、そしてプロ奏者として太鼓界を牽引し続ける林英哲による独奏・大太鼓アンサンブル等、賑やかで華やかに記念公演を飾ることができた。40 年近くの長きにわたり「日本の太鼓」公演を続けてきた国立劇場ならではの公演となった。
- 文楽劇場 5 月「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」は、チラシ等印刷物も 27 年度同様に新鮮さをアピールしたデザインとし、若い世代にも抵抗なく手に取ってもらえるように努めた。邦楽では、長唄による古典の大曲と中堅実力派による現代曲(尺八、箏)を取り上げ、邦楽の豊穡な世界を認識できる構成とした。また舞踊は、若手が地歌舞二番と長唄舞踊を披露し、ベテランが地歌舞で締めくくった。全体として、バランスのとれた内容で初心者にも楽しめる清新な舞台が展開され、舞踊邦楽界の将来を展望する内容とすることができた。27 年度同様、演者の自己紹介や意気込み等のコメントを、各演目の上演前に客席へアナウンスし、実演家と客席との距離感を近づけ好評を得た。

<4> 大衆芸能

《制作方針》

寄席で演じられる大衆芸能には、落語・浪曲・講談のほか、太神楽曲芸・漫才・漫談・コント・奇術・ものまね・俗曲といった多種多様な分野の芸能が含まれている。また、落語に代表されるように、江戸と上方といった地域ごとに独自の発展を遂げてきた分野の芸能もある。国立演芸場及び国立文楽劇場では、大衆芸能の多様な内容を幅広く取り入れ、地域性を加味した公演を企画・立案し、その普及・振興を図るとともに、演芸家の技芸の伝承にも配慮した公演の制作を行うこととする。

国立演芸場では、「定席公演」を中心に大衆芸能公演を実施する。寄席の根幹ともいえるべき「定席公演」では、落語協会及び落語芸術協会と協力して、様々な分野の大衆芸能を幅広く取り入れた公演を企画・立案し、その多彩な魅力を伝えながら、普及・振興を図る。また、「若手新人公演」では、若手演芸家の育成を目的に、年間で花形演芸大賞を競うことで技芸向上を目指す。出演する若手演芸家は、落語に限らず、多種多様な大衆芸能の分野から選定する。「新春国立名人会」では、落語をはじめ、各演芸の重鎮や人気者が日替りで出演するなど、初春に相応しく豪華で華やかな公演を実施する。「国立名人会」は、落語を中心に選りすぐりの出演者の十八番や普段の寄席ではなかなか演じられない珍しい演目を選定するとともに、高座時間を長めに設定するなど、大衆芸能の醍醐味をじっくりと味わえる公演を実施する。「特別企画公演」では、現代の噺家が各自の切り口で圓朝作品に挑む会や上方落語会等、公演ごとに独自のテーマや分野を設定するなど、他の寄席では見られない企画性の高い公演を実施する。

文楽劇場では、大阪における伝統的な演芸場のかつての賑わいを取り戻すべく、上方の大衆芸能の普及・振興を目指す。浪曲公演においては、斯界を代表する実力者を揃えた「浪曲名人会」、若手中心で技芸の向上も狙いとする「浪曲錬声会」と定期的に公演を実施し、関西浪曲界の発展に尽力していく。また、「上方演芸特選会」においては、浪曲も含めた多彩な演芸種目を上演する昔ながらの寄席として、上方演芸 4 団体(上方落語協会・浪曲親友協会・関西演芸協会・関西芸能親和会)と協力して大衆芸能各分野の技芸の継承保存に努め、関西演芸界の振興に寄与していく。

なお、28 年度が国立劇場開場 50 周年に当たることから、9 月から翌年 3 月までの公演を「国立劇場開場 50 周年記念公演」として実施する。

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・ (演芸場)定席公演 22 公演、若手新人公演 12 公演、新春国立名人会 1 公演、国立名人会 11 公演、特別企画公演 10 公演を実施
- ・ (文楽劇場)浪曲 2 公演、上方演芸特選会 6 公演を実施
- ・ 全公演の合計で目標入場者数を達成
- ・ 若手新人公演の出演者を対象に、平成 28 年度花形演芸大賞の審査を実施、受賞者を公表

2. 営業・広報

- ・ チラシ、ポスター、ホームページ等による広報、新聞や「東京かわら版」等への広告掲載により公演情報を周知
- ・ 出演者の出身地の都道府県事務所、出身学校や演目ゆかりの地域と連携した情報発信
- ・ 報道各社へ定期的に公演情報を配信
- ・ 地元ラジオ局に働きかけ、番組内で公演を紹介

3. 外部専門家等の意見

- ・ 外部専門家等の意見を聴取するため、公演専門委員会を演芸場及び文楽劇場で各 2 回開催

4. アンケート調査

- ・ (演芸場)12 公演で実施(12 回)、満足回答率 89.6%

《業務実績詳細》

1. 公演実績

公演名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
【定席】	22 公演 演芸場	実績	241 回	219 日	39,783 人	(55.0%)	72,300 人
		計画	241 回	219 日	34,900 人	(48.3%)	72,300 人

【花形演芸会】	12 公演 演芸場	実績	12 回	12 日	3,441 人	(95.6%)	3,600 人
		計画	12 回	12 日	3,240 人	(90.0%)	3,600 人
【新春国立名人会】	1 公演 演芸場	実績	8 回	6 日	2,371 人	(98.8%)	2,400 人
		計画	8 回	6 日	2,300 人	(95.8%)	2,400 人
【国立名人会】	11 公演 演芸場	実績	11 回	11 日	3,143 人	(95.2%)	3,300 人
		計画	11 回	11 日	2,970 人	(90.0%)	3,300 人
【特別企画】	10 公演 演芸場	実績	14 回	14 日	3,882 人	(92.4%)	4,200 人
		計画	14 回	14 日	3,790 人	(90.2%)	4,200 人
【大衆芸能(演芸場)合計】	56 公演	実績	286 回	262 日	52,620 人	(61.3%)	85,800 人
		計画	286 回	262 日	47,200 人	(55.0%)	85,800 人
【浪曲名人会】	1 公演 文楽劇場	実績	1 回	1 日	742 人	(98.5%)	753 人
		計画	1 回	1 日	670 人	(89.0%)	753 人
【浪曲錬声会】	1 公演 文楽劇場小ホール	実績	2 回	1 日	290 人	(91.2%)	318 人
		計画	2 回	1 日	290 人	(91.2%)	318 人
【上方演芸特選会】	6 公演 文楽劇場小ホール	実績	24 回	24 日	3,654 人	(95.8%)	3,816 人
		計画	24 回	24 日	3,300 人	(86.5%)	3,816 人
【大衆芸能(文楽劇場)合計】	8 公演	実績	27 回	26 日	4,686 人	(95.9%)	4,887 人
		計画	27 回	26 日	4,260 人	(87.2%)	4,887 人
【大衆芸能公演 総合計】	64 公演	実績	313 回	288 日	57,306 人	(63.2%)	90,687 人
		計画	313 回	288 日	51,460 人	(56.7%)	90,687 人

2. 営業・広報

- ・ 演芸場では、国立演芸場公演ガイド(月刊)・チラシ・ポスター・新聞等マスコミへの取材依頼・「東京かわら版」や新聞等への広告掲載・振興会ホームページ・NTJ メンバー等へのメール配信を通じて公演の周知に努めた。
- ・ 振興会ホームページに公演のトピックスを掲載した。
- ・ 6 月には前年に引き続き「寄席の日」(6 月の第 1 月曜日)に落語協会、落語芸術協会及び都内の 4 演芸場と提携し、当日券の割引を実施した。
- ・ スタンプラリーを引き続き実施し、粗品の種類を増やし、リピーターによる継続的な鑑賞が行われるよう努めた(1 回の鑑賞でスタンプを 1 回押し、スタンプ 5 回で粗品進呈)。また夜の公演の鑑賞者にはスタンプを 2 回押しして販売促進に努めた。
- ・ 2 月上席の節分の日には、舞台から出演者による豆撒きを行い大いに喜ばれた。また、3 月上席の雛祭には入場者全員に雛あられを配布し、サービスの向上に努めた。
- ・ 文楽劇場では、広報としてチラシ・ポスター・インターネット・国立文楽劇場友の会会報・振興会ニュースの配布等で公演の周知に努めた。また、地元ラジオ局に働きかけ、番組内で公演紹介を行った。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 演芸場及び文楽劇場において公演専門委員会を各 2 回開催し、外部専門家等の意見を聴取して、後の事業運営に役立てた。

4. アンケート調査

(演芸場)

12 公演で実施(12 回)した。

回答数 2,059 人(配布数 3,278 人、回収率 62.8%)。回答者の 89.6%が概ね満足と答えた(1,845 人)。

【特記事項】

- ・ 国立劇場開場50周年記念公演(9月以降の全公演)
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場全公演)
- ・ 平成 28 年度(第 71 回)文化庁芸術祭主催公演(演芸場 10 月特別企画「芸術祭寄席―忠臣蔵の世界―」)
- ・ 平成 28 年度(第 71 回)文化庁芸術祭協賛公演(演芸場 10 月・11 月実施の 8 公演、文楽劇場 11 月上方演芸特選会)

- ・ 演芸場 9 月上旬公演で、東日本大震災被災者特別招待を実施した(招待者数 195 名)。
- ・ 若手新人公演の出演者を対象に平成28年度花形演芸大賞の審査を実施し、受賞者を公表した。
大賞：該当者なし
金賞：笑福亭たま(上方落語)、三遊亭萬橘(落語)、蜷気楼龍玉(落語)、柳家小せん(落語)
銀賞：江戸家小猫(ものまね)、坂本頼光(活動写真弁士)、神田松之丞(講談)、
宮田陽・昇(漫才)、三笑亭夢丸(落語)

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 57,306 人／目標 51,460 人(達成度 111.4%)

《自己点検評価》

○ 自己評価

B

(根拠)

- ・ 目標入場者数を達成できた。伝統的な寄席の形式を踏襲して、様々な分野の演芸家が出演し、大衆芸能の多様な魅力を伝えるとともに、世代、性別を問わず幅広い観客層が楽しめる公演を制作するという方針を反映した効果が具体的に現れてきた。
- ・ 民間の寄席に比べて一人(組)当たりの高座時間を長く確保し、内容を割愛することなく落語を一席務めることができるようにするなど、技芸の保存・伝承にも配慮した公演制作を実施することができた。「若手新人公演」、「浪曲錬声会」を実施し、若手演芸家の技芸向上の方策を積極的に進めることができた。
- ・ 演芸場では、落語協会・落語芸術協会をはじめ、関係各団体と緊密な連携をとり、公演制作に多大なる協力を得ることができた。結果、それぞれの幹部の出演、圓朝作品に挑む会や上方落語会等国立演芸場ならではの企画性の高い公演を制作することができた。
- ・ 文楽劇場の「上方演芸特選会」では、上方演芸4団体と協力し、それぞれの団体から多彩なジャンルの若手・ベテラン出演者が競う、今や上方では貴重となった昔懐かしい本格的な寄席形式の定席公演としてバラエティーに富んだ番組構成を実現し、全6公演で目標入場者数を達成することができた。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 国立劇場開場 50 周年に因み、9 月から翌年 3 月までの公演を国立劇場開場 50 周年記念公演として実施した。

(演芸場)

- ・ 56 公演中 46 公演で入場者数が目標を上回った。ことに定席公演では、落語協会副会長林家正蔵が「中村仲蔵」と「藪入り」を日替りで務めた 4 月上旬、落語芸術協会会長桂歌丸がトリで『塩原多助』のうち「出世噺」を口演した 4 月中席等で目標を大きく上回る入場者数を得るなど、全 22 公演中 16 公演で目標を達成できた。
- ・ 国立劇場開場 50 周年記念公演開始の 9 月に、特別企画「桂歌丸噺家生活六十五周年を祝う会」及び「第 400 回記念国立名人会」を実施し、国立劇場開場 50 周年の幕開けを華やかに彩ることができた。

(文楽劇場)

- ・ 上方演芸特選会は落語、漫才、浪曲、諸芸と特色ある顔ぶれによる文楽劇場ならではの充実した番組を構成できた。特に団体・会員以外の一般個人に集客の伸びが見られるため、各公演の入場者数も安定しており、全 6 公演とも目標を上回る結果となった。

○ 見直し又は改善を要する点

(演芸場)

- ・ 入場者数が目標に達しなかった 10 公演のうち、定席の 6 月上旬、落語芸術協会真打昇進披露公演の 7 月上旬、及び 10 月中席について、あと一息で目標に達することができなかった。より魅力ある番組作りにも努めるとともに、近隣施設や地域との連携を図るなど、新たな観客を増やすための方策に積極的に取り組んでいきたい。

(文楽劇場)

- ・ 大衆芸能公演全体に観客の高齢化が目立ってきた。営業や宣伝活動にも工夫を凝らし、新しい観客層の開拓も進めていきたい。

定席公演(上席・中席)

【制作方針】

一般社団法人落語協会及び公益社団法人落語芸術協会所属の演芸家を中心に出演者を選定する。落語、講談、漫才、コント、奇術、太神楽曲芸、俗曲等、様々な分野の演芸家が出演することによって大衆芸能の多彩な魅力を伝えるとともに、世代、性別を問わず幅広い観客層が楽しめるような公演を企画する。また、民間の寄席に比べ、一人(組)当たりの高座時間を長く確保することによって、内容を割愛することなく落語を一席務めることができるようにするなど、技芸の伝承にも配慮した公演制作を目指す。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
4 月上席	演芸場	4/1(金) ~10(日)	実績	11 回	10 日	1,517 人	(46.0%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人
4 月中席		4/11(月) ~20(水)	実績	11 回	10 日	3,035 人	(92.0%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	2,200 人	(66.7%)	3,300 人
5 月中席		5/11(水) ~20(金)	実績	11 回	10 日	2,148 人	(65.1%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	2,000 人	(60.6%)	3,300 人
6 月上席		6/1(水) ~10(金)	実績	11 回	10 日	1,242 人	(37.6%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,300 人	(39.4%)	3,300 人
6 月中席		6/11(土) ~20(月)	実績	11 回	10 日	1,383 人	(41.9%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,300 人	(39.4%)	3,300 人
7 月上席		7/2(土) ~10(日)	実績	10 回	9 日	1,697 人	(56.6%)	3,000 人
			計画	10 回	9 日	1,700 人	(56.7%)	3,000 人
7 月中席		7/11(月) ~20(水)	実績	11 回	10 日	1,435 人	(43.5%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人
8 月上席		8/1(月) ~10(水)	実績	11 回	10 日	1,782 人	(54.0%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,500 人	(45.5%)	3,300 人
8 月中席		8/11(木・祝) ~20(土)	実績	11 回	10 日	3,178 人	(96.3%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	2,800 人	(84.8%)	3,300 人
9 月上席		9/1(木) ~10(土)	実績	11 回	10 日	1,021 人	(30.9%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人
9 月中席		9/11(日) ~20(火)	実績	11 回	10 日	1,076 人	(32.6%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人
10 月上席		10/1(土) ~10(月・祝)	実績	11 回	10 日	1,328 人	(40.2%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人
10 月中席	10/11(火) ~20(木)	実績	11 回	10 日	1,147 人	(34.8%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人	
11 月上席	11/1(火) ~10(木)	実績	11 回	10 日	2,005 人	(60.8%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,400 人	(42.4%)	3,300 人	
11 月中席	11/11(金) ~20(日)	実績	11 回	10 日	772 人	(23.4%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人	
12 月上席	12/1(木) ~10(土)	実績	11 回	10 日	1,269 人	(38.5%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人	
12 月中席	12/11(日) ~20(火)	実績	11 回	10 日	1,654 人	(50.1%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,500 人	(45.5%)	3,300 人	
1 月中席	1/11(水) ~20(金)	実績	11 回	10 日	2,595 人	(78.6%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	2,200 人	(66.7%)	3,300 人	

2 月上席	演芸場	2/1(水) ～10(金)	実績	11 回	10 日	2,884 人	(87.4%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	2,000 人	(60.6%)	3,300 人
2 月中席		2/11(土・祝) ～20(月)	実績	11 回	10 日	3,202 人	(97.0%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	3,000 人	(90.9%)	3,300 人
3 月上席		3/1(水) ～10(金)	実績	11 回	10 日	1,793 人	(54.3%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人
3 月中席		3/11(土) ～20(月・祝)	実績	11 回	10 日	1,620 人	(49.1%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人
【定席】		22 公演 (計画:22 公演)	実績	241 回	219 日	39,783 人	(55.0%)	72,300 人
			計画	241 回	219 日	34,900 人	(48.3%)	72,300 人

【特記事項】

- ・ 国立劇場開場50周年記念公演(9月以降の全公演)
- ・ 平成 28 年度(第 71 回)文化庁芸術祭協賛公演(10 月・11 月定席)
- ・ 9 月上席公演で、東日本大震災被災者特別招待を実施した(招待者数 195 名)。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 定席公演 22 公演中 16 公演で目標を上回る入場者数を達成できた。
その中でも、落語協会副会長林家正蔵が「中村仲蔵」と「藪入り」を日替りで務めた 4 月上席、落語芸術協会会長桂歌丸がトリで『塩原多助』のうち「出世噺」を口演した 4 月中席、同じく「桂歌丸噺家生活六十五周年記念公演」と銘打ち『鏡ヶ池操松影』より「江島屋怪談」を高座にかけた 8 月中席、大喜利「鹿芝居」の人气が定着した 2 月中席公演等、企画性を持った特色のある定席公演を実施できた。
真打昇進披露公演として 5 月中席では落語協会の新真打 5 人が交代でトリを務め、7 月上席では落語芸術協会の新真打 3 人がトリを務めた。
11 月上席では、橘家文左衛門改メ三代目橘家文蔵襲名披露公演を実施した。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 6 月上席、落語芸術協会真打昇進披露公演の 7 月上席、及び 10 月中席について、あと一息で目標に達することができなかった。入場者数が目標に達しなかった公演について、より魅力ある番組作り努めるとともに、近隣施設や地域との連携を図るなど、新たな観客を増やすための方策に積極的に取り組んでいきたい。

若手新人公演(花形演芸会)

【制作方針】

各分野の若手演芸家が、年間で花形演芸大賞を競う競争性の高い公演で、優秀者に賞を授与することで、その育成と技芸向上を目指す。落語に限らず、多種多様な大衆芸能の分野からの出演者を選定する。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
4 月花形演芸会(第 443 回)	演芸場	4/23(土)	実績	1 回	1 日	294 人	(98.0%)	300 人
			計画	1 回	1 日	270 人	(90.0%)	300 人
5 月花形演芸会(第 444 回)		5/21(土)	実績	1 回	1 日	294 人	(98.0%)	300 人
			計画	1 回	1 日	270 人	(90.0%)	300 人
6 月花形演芸会(第 445 回)		6/26(日)	実績	1 回	1 日	293 人	(97.7%)	300 人
			計画	1 回	1 日	270 人	(90.0%)	300 人
7 月花形演芸会(第 446 回)		7/24(日)	実績	1 回	1 日	293 人	(97.7%)	300 人
			計画	1 回	1 日	270 人	(90.0%)	300 人
8 月花形演芸会(第 447 回)		8/21(日)	実績	1 回	1 日	290 人	(96.7%)	300 人
			計画	1 回	1 日	270 人	(90.0%)	300 人

9月花形演芸会(第448回)	演芸場	9/22(木・祝)	実績	1回	1日	290人	(96.7%)	300人
			計画	1回	1日	270人	(90.0%)	300人
10月花形演芸会(第449回)		10/29(土)	実績	1回	1日	227人	(75.7%)	300人
			計画	1回	1日	270人	(90.0%)	300人
11月花形演芸会(第450回)		11/23(水・祝)	実績	1回	1日	293人	(97.7%)	300人
			計画	1回	1日	270人	(90.0%)	300人
12月花形演芸会(第451回)		12/24(土)	実績	1回	1日	289人	(96.3%)	300人
			計画	1回	1日	270人	(90.0%)	300人
1月花形演芸会(第452回)		1/21(土)	実績	1回	1日	295人	(98.3%)	300人
			計画	1回	1日	270人	(90.0%)	300人
2月花形演芸会(第453回)		2/25(土)	実績	1回	1日	293人	(97.7%)	300人
			計画	1回	1日	270人	(90.0%)	300人
3月花形演芸会(第454回)	3/4(土)	実績	1回	1日	290人	(96.7%)	300人	
		計画	1回	1日	270人	(90.0%)	300人	
【花形演芸会】 12公演 (計画:12公演)			実績	12回	12日	3,441人	(95.6%)	3,600人
			計画	12回	12日	3,240人	(90.0%)	3,600人

【特記事項】

- ・ 国立劇場開場50周年記念公演(9月以降の全公演)
- ・ 平成28年度レギュラー出演者
翁家和助(曲芸)、桂吉坊(上方落語)、桂宮治(落語)、カンカラ(時代劇コント)、
菊地まどか(浪曲)、古今亭志ん陽(落語)、古今亭文菊(落語)、三遊亭王楽(落語)、
三遊亭天どん(落語)、三遊亭萬橘(落語)、笑福亭たま(上方落語)、蜷気楼龍玉(落語)、
ストレート松浦(ジャグリング)、瀧川鯉橋(落語)、立川志ら乃(落語)、母心(漫才)、
ホンキートンク(漫才)、柳家小せん(落語) (50音順)
- ・ 平成28年度花形演芸大賞の審査を実施し、審査結果を公表した。
大賞：該当者なし
金賞：笑福亭たま(上方落語)、三遊亭萬橘(落語)、蜷気楼龍玉(落語)、柳家小せん(落語)
銀賞：江戸家小猫(ものまね)、坂本頼光(活動写真弁士)、神田松之丞(講談)、
宮田陽・昇(漫才)、三笑亭夢丸(落語)

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 若手新人公演では、花形演芸大賞及び金賞の受賞資格を有する18組のレギュラーを中心に公演を企画した。花形演芸大賞の受賞歴のあるOBらをゲストに招き、若手の熱演とともにベテランの至芸を堪能できる公演として大いに人気を博した。

新春国立名人会／国立名人会

【制作方針】

新春国立名人会では、落語をはじめ、各演芸の重鎮や人気者が日替りで出演するなど、初春に相応しく豪華で華やかな公演を実施する。

国立名人会は、落語を中心に選りすぐりの出演者の十八番や普段の寄席ではなかなか演じられない珍しい演目を選定するとともに、高座時間を長めに設定するなど、大衆芸能の醍醐味をじっくり味わえる公演を実施する。

【実績】

1. 公演実績

(新春国立名人会)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
新春国立名人会	演芸場	1/2(月・休) ～7(土)	実績	8回	6日	2,371人	(98.8%)	2,400人
			計画	8回	6日	2,300人	(95.8%)	2,400人

(国立名人会) ※目標入場者数：1公演当り 270人(90.0%)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
4月国立名人会(第395回)	演芸場	4/24(日)	実績	1回	1日	293人	(97.7%)	300人
5月国立名人会(第396回)		5/22(日)	実績	1回	1日	229人	(76.3%)	300人
6月国立名人会(第397回)		6/25(土)	実績	1回	1日	290人	(96.7%)	300人
7月国立名人会(第398回)		7/25(月)	実績	1回	1日	290人	(96.7%)	300人
8月国立名人会(第399回)		8/28(日)	実績	1回	1日	292人	(97.3%)	300人
9月国立名人会(第400回)		9/25(日)	実績	1回	1日	294人	(98.0%)	300人
10月国立名人会(第401回)		10/30(日)	実績	1回	1日	294人	(98.0%)	300人
11月国立名人会(第402回)		11/27(日)	実績	1回	1日	293人	(97.7%)	300人
12月国立名人会(第403回)		12/25(日)	実績	1回	1日	284人	(94.7%)	300人
2月国立名人会(第404回)		2/24(金)	実績	1回	1日	291人	(97.0%)	300人
3月国立名人会(第405回)		3/25(土)	実績	1回	1日	293人	(97.7%)	300人
【国立名人会】 11公演 (計画:11公演)			実績	11回	11日	3,143人	(95.2%)	3,300人
			計画	11回	11日	2,970人	(90.0%)	3,300人

【特記事項】

- ・ 国立劇場開場50周年記念公演(9月以降の全公演)
- ・ 平成28年度(第71回)文化庁芸術祭協賛公演(10月・11月)
- ・ 新春国立名人会の初日(1/2)には、吉例となった鏡開きを行い、観客に樽酒を振る舞った。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 新春国立名人会は、各分野の重鎮が一堂に会し、日替りで公演するという豪華な内容で、新年を寿ぐ寿獅子も含めて正月らしい華やかな公演を実施することができた。
- ・ 国立名人会は、落語を中心に、講談、浪曲、漫才等、各分野を代表する演芸家によって番組を構成した。また、一人(組)当たりの出演時間も定席より長めに設定し、得意のネタをたっぷり演じてもらうことによって、大いに客席を楽しませる公演が実施できた。

特別企画公演

【制作方針】

圓朝作品に挑む会や上方落語会等、公演ごとに独自のテーマや分野を設定し、他の寄席では見られない企画性の高い公演を実施する。夏休み期間中には、寄席及び寄席で上演される大衆芸能(落語、講談、紙切り、マジック、パントマイム等)を子供たちに知ってもらうため、解説付きの公演「親子で楽しむ演芸会」を実施する。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
5月特別企画 立川流落語会	演芸場	5/27(金) ~29(日)	実績	3回	3日	873人	(97.0%)	900人
			計画	3回	3日	820人	(91.1%)	900人
6月特別企画 花形演芸会スペシャル~受賞者の会~		6/19(日)	実績	1回	1日	289人	(96.3%)	300人
			計画	1回	1日	270人	(90.0%)	300人
7月特別企画 親子で楽しむ演芸会		7/23(土)	実績	1回	1日	294人	(98.0%)	300人
			計画	1回	1日	270人	(90.0%)	300人
8月特別企画 上方落語会		8/27(土)	実績	1回	1日	289人	(96.3%)	300人
			計画	1回	1日	270人	(90.0%)	300人

9月特別企画 桂歌丸 嘶家生活六十五周年を祝う会	演芸場	9/24(土)	実績	1回	1日	284人	(94.7%)	300人	
			計画	1回	1日	270人	(90.0%)	300人	
10月特別企画 五代目圓楽一門会		10/21(金) ～23日(日)	実績	3回	3日	738人	(82.0%)	900人	
			計画	3回	3日	820人	(91.1%)	900人	
10月特別企画 芸術祭寄席－忠臣蔵の世界－		10/28(金)	実績	1回	1日	276人	(92.0%)	300人	
			計画	1回	1日	260人	(86.7%)	300人	
11月特別企画 正蔵 正蔵を語る		11/26(土)	実績	1回	1日	284人	(94.7%)	300人	
			計画	1回	1日	270人	(90.0%)	300人	
12月特別企画 「円丈百席」を聴く会～円丈作品集～		12/23(金・祝)	実績	1回	1日	291人	(97.0%)	300人	
			計画	1回	1回	270人	(90.0%)	300人	
2月特別企画 圓朝に挑む！	2/4(土)	実績	1回	1日	264人	(88.0%)	300人		
		計画	1回	1日	270人	(90.0%)	300人		
【特別企画公演】		10公演 (計画:10公演)		実績	14回	14日	3,882人	(92.4%)	4,200人
				計画	14回	14日	3,790人	(90.2%)	4,200人

【特記事項】

- ・ 国立劇場開場50周年記念公演(9月以降の全公演)
- ・ 平成28年度(第71回)文化庁芸術祭主催公演(10月特別企画)
- ・ 平成28年度(第71回)文化庁芸術祭協賛公演(10月・11月特別企画)

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 国立劇場開場50周年記念公演の9月特別企画公演として、「桂歌丸嘶家生活六十五周年を祝う会」を実施した。また、かっぱれの総踊りや中喜利等、趣向を凝らした「五代目圓楽一門会」をはじめ、「立川流落語会」、「花形演芸会スペシャル～受賞者の会～」、「親子で楽しむ演芸会」、「上方落語会」、「正蔵、正蔵を語る」、「『円丈百席』を聴く会～円丈作品集～」及び「圓朝に挑む！」といった恒例の公演を実施した。いずれの公演も国立演芸場らしい企画性の高い公演として実施することができた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 2公演の入場者数が目標に達しなかった。より魅力ある番組作りに努めるとともに、近隣施設や地域との連携を図るなど、新たな観客を増やすための方策に積極的に取り組んでいきたい。

浪曲名人会／浪曲錬声会／上方演芸特選会

【制作方針】

浪曲名人会は、関西を代表する浪曲師全員が顔を揃える恒例の浪曲公演として、それぞれが得意とする演目を披露する番組構成で、浪曲の魅力を引き出す公演を目指す。

浪曲錬声会は、次代を担う若手浪曲師の「語りを向上させる」ことを目的に、若手を中心とした番組構成で今後の飛躍に繋がる公演とし、浪曲の魅力を若い世代にも普及・振興する。

上方演芸特選会は、上方演芸4団体の総力を結集し、落語・漫才・浪曲・太神楽・講談等、多彩で昔懐かしい寄席の雰囲気を実現した温かみのある寄席づくりを目指す。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
浪曲名人会	文楽劇場	2/25(土)	実績	1回	1日	742人	(98.5%)	753人
			計画	1回	1日	670人	(89.0%)	753人
【浪曲名人会 小計】		1公演 (計画:1公演)	実績	1回	1日	742人	(98.5%)	753人
			計画	1回	1日	670人	(89.0%)	753人
浪曲錬声会	文楽劇場 小ホール	5/21(土)	実績	2回	1日	290人	(91.2%)	318人
			計画	2回	1日	290人	(91.2%)	318人
【浪曲錬声会 小計】		1公演 (計画:1公演)	実績	2回	1日	290人	(91.2%)	318人
			計画	2回	1日	290人	(91.2%)	318人

5 月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	5/25(水) ～28(土)	実績	4 回	4 日	633 人	(99.5%)	636 人
			計画	4 回	4 日	550 人	(86.5%)	636 人
7 月上方演芸特選会		7/27(水) ～30(土)	実績	4 回	4 日	616 人	(96.9%)	636 人
			計画	4 回	4 日	550 人	(86.5%)	636 人
9 月上方演芸特選会		9/21(水) ～24(土)	実績	4 回	4 日	571 人	(89.8%)	636 人
			計画	4 回	4 日	550 人	(86.5%)	636 人
11 月上方演芸特選会		11/16(水) ～19(土)	実績	4 回	4 日	591 人	(92.9%)	636 人
			計画	4 回	4 日	550 人	(86.5%)	636 人
1 月上方演芸特選会		1/18(水) ～21(土)	実績	4 回	4 日	623 人	(98.0%)	636 人
			計画	4 回	4 日	550 人	(86.5%)	636 人
3 月上方演芸特選会	3/8(水) ～11(土)	実績	4 回	4 日	620 人	(97.5%)	636 人	
		計画	4 回	4 日	550 人	(86.5%)	636 人	
【上方演芸特選会 小 計】		6 公演 (計画:6 公演)	実績	24 回	24 日	3,654 人	(95.8%)	3,816 人
			計画	24 回	24 日	3,300 人	(86.5%)	3,816 人
【大衆芸能(文楽劇場) 合 計】		8 公演 (計画:8 公演)	実績	27 回	26 日	4,686 人	(95.9%)	4,887 人
			計画	27 回	26 日	4,260 人	(87.2%)	4,887 人

【特記事項】

- ・ 国立劇場開場50周年記念公演(9月以降の全公演)
- ・ 関西元気文化圏共催事業(全公演)
- ・ 平成 28 年度(第 71 回)文化庁芸術祭協賛公演(11 月上方演芸特選会)

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 「浪曲名人会」では、28 年 10 月に逝去した春野百合子師の追悼コーナーを設け、一門のトークと貴重な過去の公演記録映像を通して、浪曲ファンに在りし日の師を偲ぶ機会を提供した。
ご案内として若手浪曲師 2 名を起用したことは、浪曲の振興に寄与したいという劇場の姿勢として、観客や外部専門家に好意的に受け止められた。また、観客に次回の浪曲錬声会への期待を持たせることに繋がった。
- ・ 「浪曲錬声会」では、27 年度も出演した若手 3 人がそれぞれ新たな演目に取り組み、真山隼人はこれまでの演歌浪曲ではなく三味線伴奏を交えた浪曲を披露するなど、錬声会に相応しい鍛錬の場となった。また、若手だけでなくベテランの起用を試みるなどの工夫を行った。
- ・ 「上方演芸特選会」は全 6 回で目標を達成することができた。出演者の選定や企画等に工夫を重ね、この好調を引き続き維持したい。

<5> 能 楽

《制作方針》

定例公演は、能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ、能一番・狂言一番により番組を構成し、初心者にも鑑賞しやすい公演とする。月2回のペースで公演し、年間を通して能・狂言の持つ多様な魅力を余すところなく明らかにする。

普及公演は、能一番・狂言一番に事前の解説をつけ、より分かりやすく、深く鑑賞するための公演とする。能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ月1回のペースで公演する。

企画公演は、テーマ性を持たせて能・狂言の魅力を紹介する「企画公演」のほか、上演頻度の低い演目を含めて狂言のみを3演目上演する「狂言の会」、能・狂言をたっぷり楽しんでもらう「特別公演」等、企画性をより強調した公演とする。また8月には親子向けの公演「親子で楽しむ能の会」「親子で楽しむ狂言の会」と仕事帰りの社会人向けの公演「働く貴方に贈る」を実施し、新たな観客層を開拓する。また、国立能楽堂や他の能楽堂等で制作された復曲能、復曲狂言、新作狂言の再演や、能・狂言とそれに関連する異種芸能との比較上演等を行う。

鑑賞教室は、鑑賞者育成のために、中・高校生を中心とした初心者向けに名作を選んで分かりやすい形で能・狂言を上演する。28年度は、分かりやすい狂言「柿山伏」、動きが多く初心者向けの能「小鍛冶」を上演し、学生が親しみを持てるよう、能・狂言上演の前に体験参加する解説を付ける。また、国立能楽堂として初めて、「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を実施する。

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・ 能楽 51 公演(定例公演 22 公演、普及公演 11 公演、企画公演 17 公演、鑑賞教室 1 公演)を計画どおり実施し、全ての公演で目標入場者数を達成(達成度 105.9%)
- ・ 入場率は、独立行政法人化以降最も高い 99.4%を記録
- ・ 国立能楽堂や他の能楽堂が制作した復曲能、復曲狂言、新作狂言を再演し、演目の拡充に貢献
- ・ 「月間特集」や「演出の様々な形」等、企画性のある公演を実施
- ・ 4月狂言の会「家・世代を越えて」は、国立能楽堂ならではの企画として好評
- ・ 能楽鑑賞教室で全席を完売し、鑑賞者育成に大きく貢献
- ・ 「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を実施【新規】
- ・ 座席字幕表示装置を活用して、日本語・英語の2チャンネル方式で字幕を表示(50 公演)
- ・ 「Discover NOH & KYOGEN」では中国語・韓国語の字幕も加え、多言語化に対応

2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への取材依頼、ポスター、チラシ、ホームページ等による公演周知
- ・ 団体観劇の誘致へ向けての営業活動の活性化

3. 外部専門家等の意見

- ・ 公演専門委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取して、後の事業運営に活用
- ・ 高い入場率と公演内容の充実を評価

4. アンケート調査

- ・ 10 公演にて実施(10 回)、満足回答率 87.1%
- ・ 「Discover NOH & KYOGEN」で上記のうち1回を実施、満足回答率 88.9%(外国人の満足度は 92.2%)

《業務実績詳細》

1. 公演実績

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
【定例公演】	22 公演	実績	22 回	22 日	13,698 人	(99.3%)	13,794 人
		計画	22 回	22 日	12,760 人	(92.5%)	13,794 人
【普及公演】	11 公演	実績	11 回	11 日	6,862 人	(99.5%)	6,897 人
		計画	11 回	11 日	6,710 人	(97.3%)	6,897 人

【企画公演】	17 公演	実績	17 回	17 日	10,561 人	(99.1%)	10,659 人
		計画	17 回	17 日	10,030 人	(94.1%)	10,659 人
【鑑賞教室】	1 公演	実績	11 回	5 日	6,893 人	(99.9%)	6,897 人
		計画	11 回	5 日	6,395 人	(92.7%)	6,897 人
【能楽 合計】	51 公演	実績	61 回	55 日	38,014 人	(99.4%)	38,247 人
		計画	61 回	55 日	35,895 人	(93.9%)	38,247 人

2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への取材依頼、ポスター、チラシ、ホームページ、あぜくら会会報、振興会ニュース、雑誌広告等により、公演の周知を図り、一般の集客に努めた。
- ・ 月ごとのポスター、チラシのほか、公演内容等に応じて適宜特別ポスター、特別チラシを作成・配布し、ホームページにトピックスを掲載して広報・宣伝に努めた。
- ・ 「Discover NOH & KYOGEN」では、外国人向けに3か国語(英語・中国語・韓国語)によるチラシ及び解説書を作成した。また、東京都文化振興部、港区地域振興課、京王プラザホテル等の協力を得て、公式Twitter やメールマガジン等により内外の外国人への公演周知を図った。
- ・ 7月の〈月間特集・能のふるさと 近江〉に因み、ロビーにて演目にゆかりの地を示した地図を展示するとともに、滋賀県の観光案内と物産品の販売を行った。また、レストランで滋賀県の特産品を素材とした特別メニューを提供した。
- ・ 12月の〈月間特集・観世信光―没後500年―〉に因み、ロビーで信光に関連する資料・解説パネルの展示を行った。
- ・ 様々な機会を利用して団体観劇を誘致する活動を行い、また観劇当日のレクチャーやワークショップ等の実施により、入場者数の増加に貢献した。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 公演専門委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取して、後の事業運営に役立てた。
 - ・ 昨年度は入場率が70%台の公演もあったが、今年度は全公演が97%以上と高い水準にあり、素晴らしい。
 - ・ 公演内容も印象的な舞台が多く、全体的に充実していた。
 - ・ なかでも4月狂言の会「家・世代を越えて」は好企画であった。

4. アンケート調査

10公演にて実施(10回)した。

回答数 2,827 人(配布数 5,093 人、回収率 55.5%)。回答者の 87.1%が概ね満足と答えた(2,463 人)。

うち1回を「Discover NOH & KYOGEN」で実施した。

回答数 350 人(配布数 592 人、回収率 59.1%)。回答者(国籍問わず)の 88.9%(311 人)が満足と答え、外国人は 92.2%(178 人)が満足と答えた。

【特記事項】

- ・ 国立劇場開場50周年記念公演(9月以降の全公演)
- ・ 平成28年度(第71回)文化庁芸術祭主催公演(10月・11月企画)
- ・ 平成28年度(第71回)文化庁芸術祭協賛公演(10月・11月実施の6公演)
- ・ 座席字幕表示装置を活用して、2月企画公演(蠟燭能)を除く50公演で、日本語(詞章)・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。

《数値目標の達成状況》 _____

【目標入場者数の達成状況】

実績 38,014 人 / 目標 35,895 人(達成度 105.9%)

《自己点検評価》 _____

○ 自己評定

A

(根拠)

- ・ 国立能楽堂の果たすべき役割に基づいた上演方針に従い、伝統的な能狂言の形式による公演のほか、上演の途絶えた優れた演目の復曲等に着実に取り組み、外部専門家からもその企画内容が高く評価された。
- ・ 有料入場率が、27年度に記録した独立行政法人化以降最も高い97.9%をさらに1.5ポイント上回る99.4%を記録した。また、27年度は目標入場者数に届かなかった公演が4公演あったが、28年度は全ての公演で目標入場者数を達成した。
- ・ 4月狂言の会「家・世代を越えて」で狂言界の重鎮3氏と他家の中堅・若手が共演した企画は、芸の伝承という面も含め、国立能楽堂ならではの企画として極めて高い評価を受けた。
- ・ 伝統的な能・狂言の形式による公演のほか、国立能楽堂が制作した復曲能「阿古屋松」、他の能楽堂等が制作した復曲能「菅丞相」「綾鼓」、復曲狂言「連尺」、新作狂言「太郎くんの冒険」を取り上げて再演し、演目の拡充を図った。
- ・ 3月企画公演「復興と文化Ⅴ」では平成24年に国立能楽堂が制作初演した復曲能「阿古屋松」を5年ぶりに再演し、震災からの文化による復興をアピールするとともに、レパートリーの拡充を推進した。
- ・ 27年度に引き続き、能楽鑑賞教室で全席を完売し、次世代の鑑賞者育成に大きく貢献した。
- ・ 初めて「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を実施し、充実した番組によって外国人観客に能楽を強く印象付けた。字幕表示と当日無料配布したパンフレットも4か国語版(日本語・英語・中国語・韓国語)とし、理解促進に大いに役立った。【新規】
- ・ 「月間特集」や「演出の様々な形」によって公演に連続性や関連性を持たせるなど、国立能楽堂独自の切り口で特色ある公演を実施した。
- ・ 定例公演・普及公演・企画公演・狂言の会・特別公演等の各種公演で、名曲・人気曲を上演するのみならず、稀曲や大曲といった作品も含めて多様な能・狂言を企画性のある番組の中で紹介できた。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 充実した企画内容と効果的な観客勧誘によって、51公演全てで目標入場者数を達成し、独立行政法人化以降、最も高い入場率を達成した。
- ・ 国立能楽堂や他の能楽堂等が制作した復曲作品や新作を積極的に取り上げて再演し、レパートリーの拡充を推進した。
- ・ 初めて「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を実施して、文化発信に貢献した。
- ・ 能と箏曲、講談、組踊等の異種芸能を積極的に併演し、能楽鑑賞の新たな視点を提示した。
- ・ 定例公演内の企画「演出の様々な形」により、同一の曲を異流で2か月にわたって上演することで関心を高め、観客動員に苦勞していた夜公演の入場者数の底上げに繋げることができた。

定例公演

【制作方針】

定例公演は、能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスに配慮しつつ、能一番・狂言一番により番組を構成し、初心者にも鑑賞しやすい公演とする。原則として月2回のペースで上演し、年間を通して能・狂言のもつ多様な魅力を余すところなく明らかにする。

【実績】

1. 公演実績 ※目標入場者数：1回当たり 580 人(92.5%)、劇場：能楽堂

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
狂言「盆山」、能「鞍馬天狗 白頭」	4/5(火)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
狂言「悪坊」、能「朝長 三世十方之出」	4/15(金)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
狂言「塗師平六」、能「小袖曾我」	5/11(水)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
狂言「昆布売」、能「呉服」	5/20(金)	実績	1回	1日	622人	(99.2%)	627人
狂言「腰折」、能「羽衣 盤渉」	6/1(水)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
狂言「太刀奪」、能「景清」	6/17(金)	実績	1回	1日	619人	(98.7%)	627人
能「白鬚」、間狂言「道者」	7/6(水)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人
狂言「磁石」、能「自然居士」	7/22(金)	実績	1回	1日	610人	(97.3%)	627人
狂言「口真似髯」、能「敦盛」	9/7(水)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人
狂言「萩大名」、能「黒塚 雷鳴ノ出」	9/16(金)	実績	1回	1日	622人	(99.2%)	627人
狂言「合柿」、能「野宮」	10/5(水)	実績	1回	1日	620人	(98.9%)	627人
演出の様々な形 狂言「木六駄」、能「葛城 大和舞」	10/21(金)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人
演出の様々な形 狂言「木六駄」、能「葛城 神楽」	11/18(金)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
狂言「飛越」、能「蟬丸」	11/30(水)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
狂言「箕被」、能「遊行柳」	12/7(水)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
狂言「胸突」、能「船弁慶 後之出留之伝」	12/16(金)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
能「老松 紅梅天女イロエノ働キ」、狂言「大黒連歌」	1/4(水)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
狂言「鞍馬参」、能「国栖」	1/20(金)	実績	1回	1日	622人	(99.2%)	627人
狂言「鐘の音」、能「錦木」	2/15(水)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
狂言「酢薑」、能「三井寺」	2/24(金)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
狂言「八句連歌」、能「邯鄲 藁屋」	3/1(水)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
狂言「花盗人」、能「海人 懐中之舞」	3/17(金)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
【定例公演 小 計】 22 公演 (計画:22 公演)	実績	22回	22日	13,698人	(99.3%)	13,794人	
	計画	22回	22日	12,760人	(92.5%)	13,794人	

【特記事項】

- ・ 国立劇場開場50周年記念公演(9月以降の全公演)
- ・ 平成28年度(第71回)文化庁芸術祭協賛公演(10月2公演、11月2公演)
- ・ 座席字幕表示装置を活用して、全公演で日本語(詞章)・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 全ての公演で目標入場者数を達成、全体で 99%を越える高い入場率とすることができた。4月「朝長」、6月「景清」、12月「遊行柳」等、観客にとって魅力ある演目を上演できたことが成果に繋がった。
- ・ 10～11月「演出の様々な形」では、能・狂言の同一曲目を異なる流儀や家により上演し、多様な演出を比較して楽しむという国立能楽堂ならではの企画を実施し、観客数の落ち込みが危惧された秋期の夜公演の目標入場者数を達成した。
- ・ 7月の〈月間特集・能のふるさと 近江〉、12月の〈月間特集・観世信光―没後 500 年―〉、2月の〈近代絵画と能〉等、効果的に「月間特集」を組むことで公演の連続性や関連性を持たせて、観客の注目を集めた。
- ・ 「月間特集」に合わせて能「白鬚」、間狂言「道者」を上演するなど、積極的に稀曲の上演に取り組んだ。
- ・ 1月定例公演の狂言「鞍馬参」は、台本及び演出の見直しを行った上で上演した。

普及公演

【制作方針】

普及公演は、能一番・狂言一番に事前の解説をつけ、より分かりやすく、深く鑑賞するための公演とする。能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ月1回のペースで上演する。

【実績】

1. 公演実績 ※目標入場者数：1回当たり 610 人(97.3%)、劇場：能楽堂

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
解説、狂言「横座」、能「百万」	4/9(土)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
解説、狂言「樋の酒」、能「鉄輪」	5/14(土)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人
解説、狂言「水掛髻」、能「藤戸」	6/11(土)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人
解説、狂言「蚊相撲」、能「巴」	7/9(土)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
解説、狂言「伊文字」、能「玉鬘」	9/10(土)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
解説、狂言「菊の花」、能「熊坂」	10/8(土)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
解説、狂言「二人袴」、能「三笑」	11/12(土)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
解説、狂言「縄綱」、能「胡蝶」	12/10(土)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人
解説、狂言「寝音曲」、能「巻絹」	1/14(土)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
解説、狂言「呂蓮」、能「葵上 梓之出・無明之祈」	2/11(土・祝)	実績	1回	1日	620人	(98.9%)	627人
解説、狂言「濯ぎ川」、能「昭君」	3/11(土)	実績	1回	1日	622人	(99.2%)	627人
【普及公演 小 計】	11 公演 (計画:11 公演)	実績	11回	11日	6,862人	(99.5%)	6,897人
		計画	11回	11日	6,710人	(97.3%)	6,897人

【特記事項】

- ・ 国立劇場開場50周年記念公演(9月以降の全公演)
- ・ 平成 28 年度(第 71 回)文化庁芸術祭協賛公演(10月・11月公演)
- ・ 座席字幕表示装置を活用して、全公演で日本語(詞章)・英語の 2 チャンネル方式で字幕表示を実施した。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 全公演で目標入場者数を達成し、99.5%という高い入場率を記録した。解説では、鑑賞の際に必要な知

識を事前に伝えることだけでなく、馴染みのある演目でも従来とは異なる観点から解説し、初心者から常連まで満足できる内容の解説を提供することができた。

企画公演

【制作方針】

企画公演は、テーマ性を持たせて能・狂言の魅力を紹介する「企画公演」のほか、上演頻度の低い演目を含めて狂言のみを3演目上演する「狂言の会」、能・狂言をたっぷり楽しんでもらう「特別公演」等、企画性をより強調した公演とする。また8月には親子向けの公演「親子で楽しむ能の会」「親子で楽しむ狂言の会」と仕事帰りの社会人向けの公演「働く貴方に贈る」を実施し、新たな観客層を開拓する。また、国立能楽堂や他の能楽堂等で制作された復曲能、復曲狂言、新作狂言の再演や、能・狂言とそれに関連する異種芸能との比較上演等を行う。

【実績】

1. 公演実績 ※目標入場者数：1回当たり590人(94.1%)、劇場：能楽堂

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
狂言の会 家・世代を越えて 狂言「二人大名」、狂言「鱸包丁」、狂言「武悪」	4/22(金)	実績	1回	1日	622人	(99.2%)	627人
寺社と能 春日大社 「翁 十二月往来・父尉延命冠者」、狂言「末広がり」、 能「春日龍神 龍神揃」	4/29(金・祝)	実績	1回	1日	622人	(99.2%)	627人
復曲再演の会 復曲狂言「連尺」、復曲能「菅丞相」	5/26(木)	実績	1回	1日	612人	(97.6%)	627人
能と箏曲 箏曲「竹生島」、能「竹生島 女体・道者」	7/28(木)	実績	1回	1日	620人	(98.9%)	627人
能と箏曲 箏曲「石山源氏 上・下」、能「源氏供養 真之舞入」	7/30(土)	実績	1回	1日	620人	(98.9%)	627人
働く貴方に贈る 狂言「仏師」、装束付け実演解説、能「通小町」	8/4(木)	実績	1回	1日	617人	(98.4%)	627人
夏休み親子で楽しむ能の会 おはなし、能「殺生石」	8/6(土)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
素の魅力 仕舞「頼政」、狂言謡「御茶の水」、狂言語「文蔵」、 袴能「天鼓」	8/25(木)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
夏休み親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「雷」、新作狂言「太郎くんの冒険」	8/27(土)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
女性能楽師による 仕舞「笠之段」、仕舞「玉之段」、仕舞「歌占 クセ」、 能「草紙洗」	9/22(木・祝)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
古典の日記念 安宅関の山伏問答 講談「勧進帳」、能「安宅 延年滝流・問答之習・貝立貝付」	10/29(土)	実績	1回	1日	619人	(98.7%)	627人
古典の日記念 雪舞うりに 組踊「雪払い」、能「鉢木」	11/1(火)	実績	1回	1日	621人	(99.0%)	627人
舞囃子「紅葉狩」、狂言「業平餅」、能「張良」	12/23(金・祝)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
狂言の会 狂言「佐渡狐」、狂言「鶏猫」、素囃子、狂言「政頼」	1/27(金)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
能「錦戸」、狂言「餅」、復曲能「綾鼓」	1/29(日)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人

蠟燭の灯りによる おはなし、独吟「盛久」、独吟「五日謡」、 謡講形式の素謡「熊野」、能「八島 弓流・奈須与市語」	2/18(土)	実績	1回	1日	617人	(98.4%)	627人
復興と文化Ⅴ 講演、復曲能「阿古屋松」	3/23(木)	実績	1回	1日	622人	(99.2%)	627人
【企画公演 小 計】 17公演 (計画:17公演)		実績	17回	17日	10,561人	(99.1%)	10,659人
		計画	17回	17日	10,030人	(94.1%)	10,659人

(能楽鑑賞教室)

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
6月能楽鑑賞教室 解説、狂言「柿山伏」、能「小鍛冶」	6/20(月) ~24(金)	実績	11回	5日	6,893人	(99.9%)	6,897人
		計画	11回	5日	6,395人	(92.7%)	6,897人

【特記事項】

- ・ 国立劇場開場50周年記念公演(9月以降の全公演)
- ・ 平成28年度(第71回)文化庁芸術祭主催公演(10月・11月2公演)
- ・ 座席字幕表示装置を活用して、2月公演(蠟燭能)を除く19公演で、日本語・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。また、「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」では子ども向けチャンネルを追加して3チャンネル方式とした。
- ・ 6月能楽鑑賞教室の中で実施した「Discover NOH & KYOGEN」では、字幕表示を4チャンネル(日本語・英語・中国語・韓国語)により実施した。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 全ての公演で目標入場者数を達成した。
- ・ 4月狂言の会「家・世代を越えて」で狂言界の重鎮3氏と他家の中堅・若手が共演した企画は、芸の伝承という面も含め、国立能楽堂ならではの企画として極めて高い評価を受けた。
- ・ 4月企画公演「寺社と能 春日大社」では、20年に一度の式年造替を行っていた春日大社を取り上げ、春日大社ゆかりの大曲を含めた3演目を上演、国立能楽堂の存在を強くアピールした。
- ・ 9月企画公演「女性能楽師による」を3年ぶりに実施し、女性能楽師の現在を提示した。
- ・ 「能と箏曲」(7月企画公演)、「古典の日記念」(10・11月企画公演)において、箏曲、講談、組踊の異種芸能との比較上演により能楽鑑賞の新たな視点を提示した。
- ・ 3月企画公演「復興と文化」で、平成24年に国立能楽堂が制作初演した復曲能「阿古屋松」を5年ぶりに再演、震災からの文化による復興をアピールするとともに、レパートリーの拡充を推進した。
- ・ 他の能楽堂等で制作された復曲能「菅丞相」(5月企画公演)、復曲能「綾鼓」(1月特別公演)、復曲狂言「連尺」(5月企画2公演)、新作狂言「太郎くんの冒険」(8月企画公演)を積極的に取り上げて再演、演目の拡充を図った。
- ・ 能「張良」(12月特別公演)、狂言「鶏猫」「政頼」(1月狂言の会)、能「錦戸」狂言「拵」(1月特別公演)等の稀曲を積極的に取り上げて、レパートリーの拡充を推進した。
- ・ 「春日龍神 龍神揃」「竹生島 女体」「源氏供養 真之舞入」「安宅 問答之習」「船弁慶 後之出留之伝」等の流派独自の小書演出を取り上げて上演、能が多様な演出を保持していることを提示した。
- ・ 能楽鑑賞教室では全席を完売し、鑑賞者育成に大きく貢献した。

<6> 組踊等沖縄伝統芸能

《制作方針》

28年度は、定期公演、企画公演、研究公演及び普及公演を年間30公演公開する。

定期公演は、組踊、琉球舞踊、三線音楽、沖縄芝居及び民俗芸能の構成により上演する。伝承された古典の原点を尊重することを基本に、現代においても理解されやすい、観客のニーズに合った多様な演目の上演及び演出や、観客の満足度を高める公演内容の制作に努める。

組踊公演では、「銘苺子」、「執心鐘入」、「大城崩」、「姉妹敵討」、「仲村渠真嘉戸」、「父子忠臣の巻」等、朝薫五番をはじめ長年レパートリーとして親しまれてきた作品を中心に、上演機会の少ない作品や伝統組踊保存会にて復曲した作品を取り上げる。琉球舞踊公演では、定番となっている「男性舞踊家の会」「琉球舞踊特選会」や古典女踊に着目した「古典女七踊」、一般公募した入選作品を中心に上演する「創作舞踊の会」等幅広く琉球舞踊の魅力を発信する。三線音楽公演では、近年活躍著しい「女性音楽家の会」を、沖縄芝居公演では、史劇「大新城忠勇伝」、喜劇「米を作る家」「こわれた南蛮甕」を上演する。また民俗芸能公演では、「沖縄本島民俗芸能祭」を上演する。

企画公演では、第6回世界のウチナーンチュ大会に合わせ「我が住むは五大州Ⅱ」を、アジア・太平洋地域の芸能として沖縄、日本、中国、韓国の擦弦楽器に焦点を当て「胡弓」を上演する。そのほか新作組踊「玉露の妖精」、「さかさま『執心鐘入』」、琉球芸能の俳優祭「ゆらていく遊ば」や毎年秋に実施し定着している「国立劇場寄席」等を上演する。

研究公演では、「『執心鐘入』にまつわる芸能」と題し、類似点のある鹿児島県沖永良部島の芸能と沖縄芸能の比較上演を行う。

普及公演では、社会人のための組踊鑑賞教室「二童敵討」と、親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」を、それぞれ新作組踊「組踊版・シンデレラ」と共に上演する。また、主に小学生から高校生等を対象とした組踊鑑賞教室「執心鐘入」を開催し、解説を付して上演することで、組踊の理解を深める工夫を行う。あわせて、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムとして、国立劇場おきなわとしては初めての外国人向けの公演「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」を実施する。また、前年に続き、沖縄芝居、琉球舞踊の鑑賞教室も実施する。

なお、平成31(2019)年の「組踊300年」に向け、朝薫五番の中から「執心鐘入」を28年度のテーマ作品に選び、定期公演に留まらず、企画公演及び研究公演においても特集する。

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・ 組踊等沖縄伝統芸能30公演(定期公演17公演、企画公演7公演、研究公演1公演、普及公演5公演)を計画どおり実施
- ・ 新作組踊「玉露の妖精」の上演
- ・ 上演機会が少ない優れた演目の上演(7月「大城崩」、12月「仲村渠真嘉戸」、2月「父子忠臣の巻」、7月 史劇「大新城忠勇伝」、2月 喜劇「米を作る家」「こわれた南蛮甕」)
- ・ 解説付き公演の上演(4月琉球舞踊鑑賞教室、6月・8月・11月組踊鑑賞教室、9月沖縄芝居鑑賞教室)
- ・ アジア・太平洋地域の芸能「胡弓」を、解説を付して上演
- ・ 外国語オーディオガイドを導入した、外国人向け公演「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」を上演【新規】
- ・ テーマ作品として「執心鐘入」を特集(11月組踊鑑賞教室、1月定期公演、2月「『執心鐘入』にまつわる芸能」、3月「さかさま『執心鐘入』」)

2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への取材依頼、ポスター、チラシ、インターネット、国立劇場おきなわ友の会会報等により公演を周知
- ・ 県内約700か所の教育機関、主要企業等、県内約690か所の公民館、県内約230か所の老人会、県内8か所の観光施設に設置した当劇場専用ラック等にて公演情報等を周知
- ・ 公演演目にゆかりのある地域の公民館や関係団体等、各公演の特性にあわせた誘客活動を展開
- ・ 旅行者等と連携して、組踊ワークショップを含む組踊鑑賞ツアーを企画
- ・ 劇場共通ロビーに公演案内パネルを特設し、公演周知を強化
- ・ 県の補助事業を活用した貸切バス費用助成事業を実施し、団体客を誘致

- ・ 国立劇場おきなわ公式 Facebook やメールマガジンで公演情報を発信
3. 外部専門家等の意見
- ・ 公演事業委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取して、公演制作・公演計画に活用
4. アンケート調査
- ・ 全 30 公演にて実施(37 回)、満足回答率 91.6%
 - ・ 「Discover KUMIODORI」で上記のうち 1 回を実施、満足回答率 89.5%(外国人の満足度は 85.7%)

《業務実績詳細》

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
組踊「銘苺子」	国立劇場 おきなわ 大劇場	4/23(土)	実績	1 回	1 日	393 人	(69.3%)	567 人
			計画	1 回	1 日	339 人	(60.0%)	565 人
三線音楽「女性音楽家の会」		5/14(土)	実績	1 回	1 日	363 人	(58.5%)	621 人
			計画	1 回	1 日	402 人	(64.9%)	619 人
琉球舞踊「男性舞踊家の会」		5/28(土)	実績	1 回	1 日	555 人	(89.1%)	623 人
			計画	1 回	1 日	495 人	(80.0%)	619 人
琉球舞踊「古典女七踊」		6/18(土)	実績	1 回	1 日	309 人	(49.8%)	621 人
			計画	1 回	1 日	367 人	(65.0%)	565 人
沖縄芝居 史劇「大新城忠勇伝」		7/9(土) ～10(日)	実績	2 回	2 日	814 人	(71.0%)	1,147 人
			計画	2 回	2 日	744 人	(65.0%)	1,145 人
組踊「大城崩」		7/16(土)	実績	1 回	1 日	288 人	(51.2%)	563 人
			計画	1 回	1 日	339 人	(60.0%)	565 人
琉球舞踊「琉球舞踊特選会」		9/10(土)	実績	1 回	1 日	565 人	(90.7%)	623 人
			計画	1 回	1 日	464 人	(75.0%)	619 人
組踊「姉妹敵討」		9/24(土)	実績	1 回	1 日	218 人	(38.4%)	567 人
			計画	1 回	1 日	339 人	(60.0%)	565 人
組踊「雪払い」		10/22(土)	実績	1 回	1 日	237 人	(42.1%)	563 人
			計画	1 回	1 日	339 人	(60.0%)	565 人
琉球舞踊「創作舞踊の会」		12/10(土)	実績	1 回	1 日	417 人	(67.1%)	621 人
			計画	1 回	1 日	402 人	(64.9%)	619 人
組踊「仲村渠真嘉戸」	12/17(土)	実績	1 回	1 日	385 人	(67.8%)	568 人	
		計画	1 回	1 日	339 人	(60.0%)	565 人	
琉球舞踊「新春琉舞名人選」 ～嘉例吉の舞～/～初春を寿ぐ～	1/14(土) ～15(日)	実績	2 回	2 日	539 人	(43.4%)	1,242 人	
		計画	2 回	2 日	742 人	(59.9%)	1,238 人	
民俗芸能「沖縄本島民俗芸能祭」	1/22(日)	実績	1 回	1 日	320 人	(56.3%)	568 人	
		計画	1 回	1 日	425 人	(75.1%)	566 人	
組踊「執心鐘入」	1/28(土)	実績	1 回	1 日	456 人	(80.4%)	567 人	
		計画	1 回	1 日	339 人	(60.0%)	565 人	
沖縄芝居 喜劇「米を作る家」「こわれた南蛮甕」	2/4(土) ～5(日)	実績	2 回	2 日	466 人	(37.2%)	1,253 人	
		計画	2 回	2 日	744 人	(65.0%)	1,145 人	
組踊「父子忠臣の巻」	2/25(土)	実績	1 回	1 日	418 人	(73.7%)	567 人	
		計画	1 回	1 日	339 人	(60.0%)	565 人	
琉球舞踊「琉球舞踊鑑賞会」 早春の舞・群舞	3/11(土)	実績	1 回	1 日	418 人	(67.3%)	621 人	
		計画	1 回	1 日	433 人	(70.0%)	619 人	
【定期公演 小 計】	17 公演 (計画:17 公演)	実績	20 回	20 日	7,161 人	(60.2%)	11,902 人	
		計画	20 回	20 日	7,591 人	(64.8%)	11,709 人	
話芸	国立劇場 おきなわ 大劇場	6/25(土)	実績	1 回	1 日	268 人	(43.2%)	621 人
			計画	1 回	1 日	402 人	(64.9%)	619 人
新作組踊「玉露の妖精」	8/27(土)	実績	1 回	1 日	433 人	(76.8%)	564 人	
		計画	1 回	1 日	367 人	(65.0%)	565 人	

ゆらていく遊ば	国立劇場 おきなわ 大劇場	10/8(土)	実績	1回	1日	343人	(60.4%)	568人
			計画	1回	1日	453人	(80.0%)	566人
我が住むは五大州Ⅱ		10/29(土) ～30(日)	実績	2回	2日	867人	(70.0%)	1,238人
			計画	2回	2日	813人	(65.0%)	1,251人
国立劇場寄席		11/12(土)	実績	1回	1日	560人	(90.2%)	621人
			計画	1回	1日	433人	(70.0%)	619人
アジア・太平洋地域の芸能「胡弓」		11/26(土)	実績	1回	1日	263人	(42.4%)	621人
			計画	1回	1日	371人	(59.9%)	619人
新作組踊「さかさま『執心鐘入』」		3/25(土)	実績	1回	1日	522人	(84.1%)	621人
			計画	1回	1日	396人	(70.1%)	565人
【企画公演 小 計】		7公演 (計画:7公演)	実績	8回	8日	3,256人	(67.1%)	4,854人
			計画	8回	8日	3,235人	(67.3%)	4,804人
「執心鐘入」にまつわる芸能	国立劇場 おきなわ 大劇場	2/19(日)	実績	1回	1日	233人	(38.6%)	603人
			計画	1回	1日	402人	(64.9%)	619人
【研究公演 小 計】		1公演 (計画:1公演)	実績	1回	1日	233人	(38.6%)	603人
			計画	1回	1日	402人	(64.9%)	619人
琉球舞踊鑑賞教室 歌舞劇「はじめての琉球舞踊～やぎ・うし・とりと琉球舞踊～」	国立劇場 おきなわ 大劇場	4/16(土)	実績	1回	1日	338人	(59.5%)	568人
			計画	1回	1日	464人	(75.0%)	619人
社会人のための組踊鑑賞教室「二童敵討」		6/11(土)	実績	1回	1日	413人	(71.5%)	578人
			計画	1回	1日	424人	(75.0%)	565人
親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」		8/6(土)	実績	1回	1日	343人	(59.3%)	578人
			計画	1回	1日	424人	(75.0%)	565人
沖縄芝居鑑賞教室 喜劇「沖縄芝居入門～つる・かめ・とらと沖縄芝居～」、舞踊劇「棒しばり」		9/15(木) ～17(土)	実績	3回	3日	1,245人	(72.1%)	1,726人
			計画	3回	3日	1,379人	(80.0%)	1,724人
組踊鑑賞教室「執心鐘入」		11/16(水) ～19(土)	実績	6回	4日	2,584人	(74.5%)	3,468人
			計画	6回	4日	2,764人	(80.0%)	3,455人
【普及公演 小 計】		5公演 (計画:5公演)	実績	12回	10日	4,923人	(71.2%)	6,918人
			計画	12回	10日	5,455人	(78.7%)	6,928人
【組踊等沖縄伝統芸能 合計】		30公演 (計画:30公演)	実績	41回	39日	15,573人	(64.1%)	24,277人
			計画	41回	39日	16,683人	(69.3%)	24,060人

2. 営業・広報

- ・ 国立劇場おきなわ友の会会報誌やメールマガジン等により公演の周知を図った。
- ・ 県内約 690 か所の公民館に年間リーフレットを配布し、また、県内約 230 か所の老人会に公演情報や劇場取組を周知することで、団体客の誘致に努めた。
- ・ 各公演演目にゆかりのある地域の公民館や関係団体へ訪問や資料送付等を行い、勧誘に努めた。
- ・ 県内 8 か所の観光施設に当劇場の専用ラックを設置し、劇場及び公演の周知を図った。
- ・ 6月公演から、県の補助事業を活用して貸切バス費用助成事業を行い、団体客の誘致に努めた。
- ・ 国立劇場おきなわ公式 Facebook において、劇場、琉球芸能、公演等に関する情報を発信したほか、ファンとの交流を図った。
- ・ ホームページをリニューアルし、英語に加え、新たに 3 言語(中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語)表記のページを公開したほか、スマートフォンやタブレット等にも対応した。
- ・ 1月定期公演 琉球舞踊「新春琉舞名人選」では、公演 2 日間計約 200 名に呈茶を実施し、幕間に抽選による観客へのお年玉プレゼント(カレンダー、劇場グッズ等の詰め合わせ)を行い、初春公演の雰囲気盛り上げた。
- ・ 多言語表示(英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語)による自主公演の年間計画リーフレットを作成し、劇場内のほか空港及び観光案内所等に配布した。
- ・ 旅行業者等と連携して、組踊ワークショップを含む組踊鑑賞ツアーを企画し、集客を図った。

- ・ 劇場共通ロビーに公演案内パネルを特設し、公演周知に努めた。
- ・ 各公演の特性にあわせ、海外県人会、近隣ホテル、三線販売店、学童クラブ等に対し営業を行った。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 公演事業委員会を8月と3月に2回開催し、外部専門家等の意見を聴取して、公演制作及び公演計画に活用した。

4. アンケート調査

30公演にて実施(37回)した。

回答数5,143人(配布数7,913人、回収率65.0%)。回答者の91.6%が概ね満足と答えた(4,709人)。

うち1回を「Discover KUMIODORI」で実施した。

回答数219人(配布数301人、回収率72.8%)。回答者(国籍問わず)の89.5%(196人)が満足と答え、外国人は85.7%(30人)が満足と答えた。

【特記事項】

- ・ 平成28年度(第71回)文化庁芸術祭主催公演(11月企画「アジア・太平洋地域の芸能」)
- ・ 平成28年度(第71回)文化庁芸術祭協賛公演(10・11月実施の5公演)
- ・ 「国立劇場寄席」公演を除く全公演に字幕で歌詞等を表示し、鑑賞の助けとした。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績15,573人／目標16,683人(達成度93.3%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 計画どおり新作組踊「玉露の妖精」の上演や「さかさま『執心鐘入』」の再演、上演機会が少ない優れた組踊及び沖縄芝居の上演、「我らが住むは五大州Ⅱ」やアジア太平洋地域の芸能等海外交流を目的とした公演を継続的に実施した。
 - ・ 青少年を対象にした組踊、琉球舞踊、沖縄芝居等多種多様な鑑賞教室を実施、さらに親子・社会人・外国人向けの入門企画の実施により、沖縄伝統芸能の普及を図った。
 - ・ 「組踊300年」に向けて、28年度は朝薫五番から「執心鐘入」をテーマ作品に掲げ、一つの作品を通して沖縄伝統芸能を横断的に捉えて公演を実施し、好評を得た。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 27年度に初めて企画し好評を博した普及公演「琉球舞踊鑑賞教室」「沖縄芝居鑑賞教室」について、より充実した企画に練り直して上演し、親子・社会人・外国人向けの多種多彩な「組踊鑑賞教室」とともに、沖縄伝統芸能の普及を図った。
 - ・ 6月企画公演「話芸」では、上演機会の少ない琉球講談を、沖縄芝居界の重鎮・八木政男の指導のもと、若手実演家の宮城茂雄が挑戦し好評を得たほか、落語、漫談、浪曲も取り上げ、話芸の魅力を伝えることができた。
 - ・ 8月企画公演で西村綾乃作・演出の新作組踊「玉露の妖精」を上演した。女性の目線を通して描かれた幻想的な世界を、国立劇場おきなわならではの舞台装置を活用した新たな演出で上演し、好評を得た。
 - ・ 10月企画公演「ゆらていく遊ば」は、「琉球芸能の俳優祭」として引き続き実施し、幕間を含めて出演者と観客が身近に交流する活気あふれる公演となった。また、「我らが住むは五大州Ⅱ」は、5年に一度の「世界のウチナーンチュ大会」に合わせた企画で、世界各国で琉球芸能の研鑽に努めている沖縄移民の里帰り公演が実現した。
 - ・ 上演機会の少ない優れた演目についても、7月に「大城崩」を平成23年以来6年ぶりに上演し、12月には、平成18年に伝統組踊保存会が復活した「仲村渠真嘉戸」を国立劇場おきなわで初めて上演した。2月には平成22年に同保存会が復活した「父子忠臣の巻」を平成23年以来6年ぶりに上演した。沖縄芝居でも、7月に史劇「大新城忠勇伝」、2月に喜劇「米を作る家」「こわれた南蛮甕」を当劇場初上演

し、技芸の継承を図った。

- ・ 「アジア・太平洋地域の芸能」は、例年の公演と異なり、1つの楽器(胡弓)に焦点を当て沖縄・日本・中国・韓国の音楽を紹介することで、それぞれの楽器・音楽の独自性やアジア圏内における類似性を照らし出すことができ、好企画となった。
 - ・ 沖縄県の補助事業等を活用して貸切バス費用助成事業や組踊ワークショップを実施したことで、多くの団体客を勧誘することができた。
 - ・ 外国人や海外からの来沖者を誘客するに当たり、「我らが住むは五大州Ⅱ」では、「第6回世界のウチナーンチュ大会」の実行委員会と連携して公演周知及び誘客を図り、また、「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」では、沖縄県、沖縄県教育委員会、近隣ホテル等に公演周知及び誘客を図ることにより、計画的に営業活動に取り組むことができた。
 - ・ 公演案内パネルの特設や託児サービスの実施等の新しい取組を行った。
 - ・ 28年度のテーマ作品「執心鐘入」について、11月鑑賞教室では学校団体等を対象に解説を付して分かりやすく上演したほか、1月定期公演では重要無形文化財(各個認定)の立方・地方を配し、質の高い舞台が実現した。なお、その後本館大劇場における国立劇場開場50周年記念の3月琉球芸能公演でも、同じ配役で「執心鐘入」を上演した。さらに同じテーマで2月研究公演「『執心鐘入』にまつわる芸能」と3月企画公演「さかさま『執心鐘入』」に展開し、琉球芸能の奥深さと広がりを実感できる特集となった。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 目標入場者数が未達の公演が全30公演中18公演あり、全体として目標入場者数を達成することができなかった。上演機会が少ない演目や新作の上演・再演等、組踊や沖縄芝居をはじめ、沖縄伝統芸能全般の演目の拡充に努め、次世代への技芸の継承を図ったものの、特に知名度が低い民俗芸能公演や沖縄芝居公演等で、厳しい集客状況となった。企画立案時から内容や時期、広報宣伝、新たな観客層の掘り起こしや営業方法について、各課連携の上、工夫を行う必要がある。

<7> 演目の拡充

《主要な業務実績》

1. 復活上演候補演目の上演候補台本準備稿の作成作業
 - ・ 復活上演用準備台本「念力箭立相」の作成
2. 歌舞伎の新作脚本募集
 - ・ 優秀作1篇と清栄会奨励賞2篇の選出
3. 歌舞伎における復活等の上演
 - ・ 新たな脚本による「しらぬい譚」の上演(初春歌舞伎公演)
 - ・ 「伊賀越道中双六」の再演(3月歌舞伎公演 26年度44年ぶりに上演した場を含む)
4. 文楽における新作の上演及び復曲等の上演準備作業
 - ・ 新作「新編西遊記 GO WEST!」の上演(文楽劇場夏休み文楽特別公演)
 - ・ 新作「金壺親父恋達引」の文楽初上演(文楽劇場夏休み文楽特別公演)
 - ・ 新作文楽上演準備稿の作成
 - ・ 「蘭奢待新田系図」小山田幸内住家の段の上演(8月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」)
 - ・ 「花魁苔八総」 墓六住家の段・丸塚山の段(文楽劇場10月「復曲試演会」)、行女塚の段・伴作住家の段(本館2月あぜくらの集い「復曲素浄瑠璃試演会」)、芳流閣の段(文楽劇場3月伝統芸能講座)の上演
5. 大衆芸能の新作脚本募集
 - ・ 平成28年度(第18回)大衆芸能脚本募集漫才・コント部門の新作脚本を募集し、優秀作1篇、佳作2篇を決定
6. 能楽における新作及び復曲の上演
 - ・ 復曲及び新作の再演(4公演)
 - ・ 台本及び演出の見直しによる上演(1公演)
7. 組踊等沖縄伝統芸能における新作組踊等の上演と創作舞踊大賞の作品募集
 - ・ 上演機会が少ない優れた演目の上演(5公演)
 - ・ 新作の上演・再演(7公演)
 - ・ 第7回国立劇場おきなわ創作舞踊大賞を募集し、大賞1作品、奨励賞1作品、佳作1作品を決定
8. 創作委嘱作品の上演等
 - ・ 舞楽「雉門松壽楽」の新作委嘱初演(本館11月雅楽)
 - ・ 邦楽囃子「鶴の寿」の新作委嘱初演(本館9月特別企画)

《業務実績詳細》

1. 復活上演候補演目の上演候補台本準備稿の作成作業
 - ・ 17年度作成の「復活上演候補演目一覧」の見直しの一環として、未翻刻部分を含む四世鶴屋南北作品「念力箭立相」の補綴原稿の提出を受け、復活上演用準備台本を作成した。
 - ・ 舞踊の候補演目「月雪花鈍画掛額」「命懸色の二番目」については、補綴原稿の内容を再検討した。29年度中の作成を目指す。
 - ・ 国立劇場文芸研究会が作成する上演用準備台本「升鯉滝白旗」、「當糶八幡祭」については、提出された補綴案の内容を検討した。29年度以降の完成を目指す。
2. 歌舞伎の新作脚本募集
 - ・ 27年度に受け付けた応募作品143篇の中から、選考会で討議を重ね、優秀作1篇と公益財団法人清栄会奨励賞2篇を決定した。贈賞式を11/15に実施した。
優秀作「蝶の横笛」 森真実
公益財団法人清栄会奨励賞「乙女櫻小峰之礎」 本郷湖奈美、「百足姫」 青砥啓
3. 歌舞伎における復活等の上演
 - ・ 初春歌舞伎公演で取り上げた「しらぬい譚」は、昭和52年に国立劇場で同じ原作を基にした河竹黙阿弥の脚本を復活上演しているが、今回は原作から新たに脚本を作成して上演した。
 - ・ 3月歌舞伎公演「伊賀越道中双六」は、「円覚寺」を86年ぶりに復活するとともに、「岡崎」を中心に全体の台本、演出を見直してさらに洗練した舞台を2年3か月ぶりの早期に再演し、歌舞伎界におけ

るレパトリー化を図った。

4. 文楽における新作の上演及び復曲等の上演準備作業

- ・ 文楽劇場夏休み文楽公演では、台本、作曲、美術すべてを一新した「新編西遊記 GO WEST! 玉うさぎの涙」と井上ひさし原作「金壺親父恋達引」の舞台初上演という新作2本を一つの公演において制作上演するという果敢な挑戦が成果を挙げた。
- ・ 文楽演目復曲事業の一環として、8月邦楽公演において「蘭奢待新田系図」小山田幸内住家の段を上演し、座談会では復曲事業に対する文楽劇場の取組に重点を置いて演目と併せて解説した(8/20)。
- ・ 国立文楽劇場友の会会員向けイベントの「復曲試演会」として、「花魁蒼八総」墓六住家の段・丸塚山の段を上演した(10/17)。
- ・ あぜくら会会員向けイベントのあぜくらの集い「復曲素浄瑠璃試演会」として、「花魁蒼八総」行女塚の段・伴作住家の段を、解説や座談会とともに上演した(2/21)。
- ・ 文楽劇場の公開講座「伝統芸能講座」として、「花魁蒼八総」芳流閣の段を上演し、解説や鼎談により復曲作品の魅力を掘り下げた(3/22)。

5. 大衆芸能の新作脚本募集

- ・ 平成28年度(第18回)大衆芸能脚本募集「漫才・コント」部門を実施、新作脚本の応募を8/1から8/31まで募集(応募総数114篇)。1/20に選考会を開催し、優秀作1篇、佳作2篇を決定した。併せて公益財団法人清栄会奨励賞2篇を決定した。選考結果は2/23に公表し、3/15に贈賞式を実施した。
平成28年度(第18回)大衆芸能脚本募集「漫才・コント」部門
優秀作「俺とお前の忘れモノ」(漫才)藤村健一郎
佳作「振り込め詐欺」(コント)蓮見国彦、「その理由」(コント)阿部大樹
公益財団法人清栄会奨励賞「恋のレッスン」(漫才)山田浩二、「アンケート」(コント)吉村健二

6. 能楽における新作及び復曲の上演

- ・ 復曲の上演
3月企画公演 復曲能「阿古屋松」(平成24年国立能楽堂復曲)
- ・ 他の能楽堂等で上演された優れた新作及び復曲の再演
5月企画公演 復曲狂言「連尺」、復曲能「菅丞相」
8月企画公演 新作狂言「太郎くんの冒険」
1月特別公演 復曲能「綾鼓」
- ・ 台本及び演出の見直しによる上演
1月定例公演 狂言「鞍馬参」

7. 組踊等沖縄伝統芸能における新作組踊等の上演と創作舞踊大賞の作品募集

- ・ 上演機会が少ない優れた演目の上演
7月定期公演 史劇「大新城忠勇伝」
7月定期公演「大城崩」
12月定期公演「仲村渠真嘉戸」
2月定期公演 喜劇「米を作る家」「こわれた南蛮甕」
2月定期公演「父子忠臣の巻」
- ・ 新作の上演・再演
6月・8月普及公演 新作組踊「組踊版・シンデレラ」
8月企画公演 新作組踊「玉露の妖精」
9月普及公演 喜劇「沖縄芝居入門〜つる・かめ・とらと沖縄芝居〜」
10月企画公演 喜劇「羽衣天女其ノ後ノ嘶〜続・銘苺子〜」
12月定期公演「創作舞踊の会」創作舞踊大賞28年度大賞受賞作等を上演
3月企画公演 新作組踊「さかさま『執心鐘入』」
- ・ 創作舞踊大賞の作品募集
第7回国立劇場おきなわ創作舞踊大賞を実施、創作舞踊(琉球舞踊)を5/9から7/8まで募集(8件、うち課題作品部門2件、自由作品部門6件)。9/19に実演審査を実施し、大賞1作品、奨励賞1作品、佳作1作品を決定した。受賞作品は12/10に定期公演「創作舞踊の会」で上演した。
大賞「花心」平良恵子

奨励賞「世果報ちどり」前川美智子

佳作「桜梅桃季」上里初枝・島尻ひさみ・瑞慶山和子

・ 創作舞踊大賞入選作品の積極的な活用

これまでの国立劇場おきなわ創作舞踊大賞入選作について、組踊公演の第一部や普及公演において再演した。再演の機会を設けることは、「創作舞踊大賞」制度の周知になるほか、舞踊家にとっては作品を練り直すことで、新たな創作意欲の創出に繋がるものであることから、伝統芸能の継承発展の一助とすることができた。

4月普及公演 琉球舞踊鑑賞教室

(「遊行流れ」作舞・比嘉いずみ／第5回創作舞踊大賞・大賞受賞作品)

8月企画公演 新作組踊「玉露の妖精」

(「十五夜」作舞・真境名あき／第5回創作舞踊大賞・佳作受賞作品)

12月定期公演 組踊「仲村渠真嘉戸」

(「清ら思い」作舞・嶺井清美／第6回創作舞踊大賞・奨励賞受賞作品)

1月定期公演 組踊「執心鐘入」

(「若水」作舞・仲嶺麗子、仲嶺絵里奈／第6回創作舞踊大賞・佳作受賞作品)

8. 創作委嘱作品の上演等

- ・ 本館11月雅楽公演において、国立劇場開場50周年の節目に際して「五〇周年を寿ぎ、そして雅楽のこれからの千年に捧げる」をテーマに、雅楽の音楽的要素に特化した新作雅楽の作曲を、雅楽への多大な貢献が認められる芝祐靖に委嘱して、雅楽を旧来の形式に拠ることのない音楽として捉えた新作「雉門松濤楽」を上演した(新作委嘱初演)。
- ・ 本館9月特別企画公演において、国立劇場開場50周年を寿ぐ新作邦楽囃子を、邦楽囃子方の藤舎呂英に委嘱して、「鶴の寿」を上演した(新作委嘱初演)。

《自己点検評価》

○ 自己評定

A

(根拠)

- ・ 歌舞伎では、四世鶴屋南北作品「念力箭立相」の復活上演用準備台本を作成した。
- ・ 合巻(長編小説)を原作とした新たな脚本を作成し、初春歌舞伎公演「しらぬい譚」を上演した。また3月歌舞伎公演「伊賀越道中双六」は、26年度に44年ぶりの復活上演を行った「岡崎」を、2年3か月ぶりに取り上げることでレパトリー一定着を図り、さらに「円覚寺」を86年ぶりに復活した。これらは国立劇場ならではの取組、功績として高い評価を受けた。
- ・ 能楽堂では、1月定例公演の狂言「鞍馬参」で台本及び演出の見直しを試みたほか、過去に国立能楽堂で復曲した作品や他の能楽堂等で復曲・新作された優れた作品を取り上げて上演するなど、演目の拡充に積極的に取り組んだ。
- ・ 文楽劇場では、難易度の高い1公演での新作2作品の上演を実現した。
- ・ 文楽の復曲作業を順調に実施し、素浄瑠璃での公開を進展させ、レパトリーの拡充に繋がる取組を実施できた。
- ・ 国立劇場おきなわでは、組踊の様式を基に現代にも通じるテーマを扱った新作組踊、組踊のパロディーとして遊び心満載に制作した喜劇、沖縄芝居の普及を目的に解説等を織り交ぜながら構成した喜劇等、特色豊かな新作作品を制作した。どれも観客のニーズに応え、沖縄伝統芸能の発展に寄与する作品として発信することができた。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 能楽堂では、3月企画公演「復興と文化V」で平成24年に国立能楽堂が制作初演した復曲能「阿古屋松」を5年ぶりに再演し、震災からの文化による復興をアピールするとともに、レパトリーの拡充を推進した。
- ・ 文楽劇場では、夏休み文楽特別公演第一部「親子劇場」において、「新編西遊記 GO WEST! 玉うさぎの涙」を上演、台本、作曲、美術を一新した舞台は好評であった。また、第三部「サマーレイトショー」において、井上ひさし原作「金壺親父恋違引」を文楽初上演した。現代演劇ファンからも注目を浴び、新たな観客層にアピールすることができ、演目の拡充と観客層の拡大の相乗効果が確認できた。

- ・ 文楽演目復曲事業の一環として、8月邦楽公演における「蘭奢待新田系図」小山田幸内住家の段、10月「復曲試演会」での「花魁苔八総」墓六住家の段・丸塚山の段、3月「伝統芸能講座」での「花魁苔八総」芳流閣の段と3回にわたって復曲演目を上演し、演目拡充への準備を進めた。
- ・ 国立劇場おきなわでは、組踊の様式を基に伝統を踏まえつつ、女性の視線を通して描かれた新作組踊「玉露の妖精」を上演し、組踊の新たな魅力を発信することができた。
- ・ 10月企画公演「ゆらていく遊ば」で初演した喜劇「羽衣天女其ノ後ノ嘶～続・銘苺子～」は、27年度に同公演で上演した喜劇「無念大蛇其ノ後ノ嘶～続・孝行の巻～」に続く、様々な古典の舞台の名場面を連想されるパロディー作品で、初心者の観客はもとより、組踊の常連客をより多く楽しませた。
- ・ 初心者向けの沖縄芝居鑑賞教室では、舞台の鑑賞を通して沖縄芝居についての理解を深めてもらう工夫を凝らした新作喜劇「沖縄芝居入門～つる・かめ・とらと沖縄芝居～」を上演し、好評だった。
- ・ 琉球舞踊の入門公演「琉球舞踊鑑賞教室」では、27年度に引き続き、やぎ・うし・とりを登場させた脚本により、ストーリー仕立てで琉球舞踊の歴史や鑑賞のポイントを紹介して好評だった。
- ・ 上演機会の少ない組踊「大城崩」「仲村渠真嘉戸」「父子忠臣の巻」、史劇「大新城忠勇伝」、喜劇「米を作る家」「こわれた南蛮甕」を取り上げ、演目の拡充を図るとともに、ベテランの指導による次世代への技芸の伝承を促すことができた。

2-(1)-② 伝統芸能の公開に際しての留意事項等

《主要な業務実績》

1. 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
 - ・ 各分野において専門委員による公演ごとのレポート提出及び年2回の公演専門委員会等の開催
 - ・ アンケート調査の実施(77公演 89回、満足回答率 88.4%)
2. 共催、受託などによる公演
 - ・ 文化庁芸術祭主催公演 12公演、協賛公演 20公演を実施
 - ・ 諸団体と良好な協力関係を築き、共催、受託等による公演を積極的に実施
3. 全国各地の文化施設等における公演
 - ・ 歌舞伎鑑賞教室静岡公演、歌舞伎鑑賞教室神奈川公演を実施
 - ・ 歌舞伎鑑賞教室の地方公演に職員スタッフを派遣し、現地にて国立劇場の技術やノウハウを提供
 - ・ 国立劇場おきなわ県外公演を実施(2公演)
4. 国際文化交流公演等
 - ・ 27年度から大幅に拡大し、歌舞伎・文楽・能楽・組踊の各ジャンルにおいて、外国人向け公演を5公演6回実施【一部新規】
 - ・ 国立劇場おきなわにおいて、アジア・太平洋地域の芸能を紹介する企画を継続(「胡弓～弓が奏でるアジアの調べ～」)
 - ・ 本館「Discover KABUKI」において在日各国大使等の公演招待を実施

《業務実績詳細》

1. 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
 - (1) 外部専門家等の意見聴取

外部専門家等の意見聴取は、専門委員による公演ごとのレポート提出及び年2回の公演専門委員会等の開催により行った。
 - (2) アンケート調査の実施

分野	実施回数	回答数	回収率(配布数)	概ね満足との回答 (回答数)
歌舞伎	7公演 9回	6,024人	67.6%(8,913人)	85.1%(5,127人)
文楽(本館小劇場)	3公演 3回	926人	61.9%(1,495人)	85.6%(793人)
文楽(文楽劇場)	5公演 6回	1,453人	61.1%(2,380人)	93.3%(1,356人)
舞踊・邦楽等	10公演 12回	5,023人	68.3%(7,357人)	88.2%(4,432人)
大衆芸能(演芸場)	12公演 12回	2,059人	62.8%(3,278人)	89.6%(1,845人)
能楽	10公演 10回	2,827人	55.5%(5,093人)	87.1%(2,463人)
小計	47公演 52回	18,312人	64.2%(28,516人)	87.5%(16,016人)
組踊等沖縄伝統芸能	30公演 37回	5,143人	65.0%(7,913人)	91.6%(4,709人)
合計	77公演 89回	23,455人	64.4%(36,429人)	88.4%(20,725人)

2. 共催、受託などによる公演
 - (1) 平成28年度(第71回)文化庁芸術祭

区分	公演名
主催公演	本館大劇場：10月歌舞伎公演、11月歌舞伎公演、10月声明公演 本館小劇場：10月邦楽公演、11月雅楽公演、11月舞踊公演 演芸場：10月特別企画公演 能楽堂：10月企画公演、11月企画公演 文楽劇場：錦秋文楽公演、10月舞踊公演 国立劇場おきなわ：11月企画公演
協賛公演	演芸場：10月・11月定席公演(4公演)、10月・11月国立名人会(2公演)、 10月・11月特別企画公演(2公演)

	能楽堂：10月・11月定期公演(4公演)、10月・11月普及公演(2公演) 文楽劇場：11月上方演芸特選会 国立劇場おきなわ：10月定期公演、10月・11月企画公演(3公演)、11月普及公演
--	---

- ・ 平成28年度(第71回)文化庁芸術祭オープニング 国際音楽の日記念 国立劇場開場50周年記念「歌い踊り奏でる 日本の四季」(受託公演)
 10/1(土)、1回、本館大劇場
 主催：文化庁芸術祭執行委員会、制作：独立行政法人日本芸術文化振興会
 入場者数：571人(入場率63.2%) ※1階席のみ販売

(2) 国・地方公共団体等との後援・協力

- ア 鑑賞教室等における地方自治体、教育委員会、専修学校各種学校協会、旅行社等の後援・協力
- ・ 歌舞伎・能楽・文楽(本館)鑑賞教室における後援・協力等
 後援：文化庁、東京都、埼玉県、千葉県、埼玉県教育委員会、千葉県教育委員会、神奈川県教育委員会、全国都道府県教育委員会連合会、公益財団法人日本修学旅行協会
 協力：公益社団法人東京都専修学校各種学校協会、一般社団法人神奈川県専修学校各種学校協会、関東高等学校演劇協議会、東京都高等学校演劇研究会、株式会社ジェイティービー、株式会社日本旅行、近畿日本ツーリスト株式会社、公益財団法人文楽協会(文楽のみ)
 - ・ 7月歌舞伎鑑賞教室期間中に実施する「親子で楽しむ歌舞伎教室」における共催・後援等
 共催：東京都教育委員会
 後援：文化庁、埼玉県、千葉県、埼玉県教育委員会、千葉県教育委員会、神奈川県教育委員会、一般社団法人東京都小学校PTA協議会、東京都公立中学校PTA協議会、東京私立初等学校協会、一般財団法人東京私立中学高等学校協会
 - ・ 文楽劇場6月文楽鑑賞教室における後援・協力等
 後援：文化庁、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、京都府教育委員会、兵庫県教育委員会、奈良県教育委員会、滋賀県教育委員会、和歌山県教育委員会、NHK大阪放送局
 協力：公益財団法人文楽協会
 - ・ 組踊鑑賞教室における後援
 後援：沖縄県教育委員会
- イ 鑑賞教室地方公演における共催・後援等
- ・ 歌舞伎鑑賞教室静岡公演
 共催：公益財団法人静岡県文化財団、静岡県
 後援：静岡県教育委員会、静岡市教育委員会
 - ・ 歌舞伎鑑賞教室神奈川公演
 共催：かながわ伝統芸能祭実行委員会(神奈川県立青少年センター内)
 後援：文化庁、神奈川県教育委員会、神奈川県PTA協議会、神奈川県立高等学校PTA連合会
- ウ 社会人のための鑑賞教室公演における後援・協力等
 後援：一般社団法人日本経済団体連合会、公益社団法人経済同友会、東京商工会議所、公益社団法人東京青年会議所
- エ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場の全公演)
- オ その他の自主公演等における後援・協力等(本館)
- ・ 7月特別企画公演「春日若宮おん祭 おん祭の神事と芸能」における春日大社の協力
 - ・ 国立劇場開場50周年記念事業等における千代田区の後援
 - ・ 3月歌舞伎公演における読売新聞社の協力
- (能楽堂)
- ・ 10月企画公演、11月企画公演における「古典の日推進委員会」の後援
- カ 外部の公演等への後援・協力等(本館)
- ・ よこすか市民会議(YCC)主催の「2016 よこすか市民会議まちづくり文化フェア」のうち、「よこすか芸術文化フェア2016」の一環として開催された「伝統文化学習鑑賞会(歌舞伎学習鑑賞会)」(7/4、伝統芸能情報館レクチャー室)への協力
 - ・ 一般社団法人伝統歌舞伎保存会主催の「小学生のための歌舞伎体験教室」(7/3・9、8/3~9、本館

大劇場、本館小劇場、本館稽古場、伝統芸能情報館)への協賛

- ・ 文化庁、公益社団法人全国高等学校文化連盟、東京都教育委員会、東京都高等学校文化連盟主催の「第27回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演」(8/27・28、本館大劇場)への協賛
- ・ 株式会社小学館との国立劇場開場50周年記念事業に係る連携事業における協力
- ・ 吉徳資料室主催の「国立劇場開場50周年記念『立版古と芝居絵』」(9/20～11/27)への協力
- ・ 一般社団法人伝統歌舞伎保存会主催の「第18回伝統歌舞伎保存会研修発表会」(10/22、本館大劇場)への協賛
- ・ 公益財団法人日本財団主催の「にっぽん文楽 in 浅草観音」(10/15～18)への協力
- ・ 公益社団法人日本俳優協会、一般社団法人伝統歌舞伎保存会、松竹株式会社が刊行する「ポケット版『かぶき手帖』2017年版」への協賛(1/2刊行)
- ・ 一般社団法人伝統歌舞伎保存会主催の「第19回伝統歌舞伎保存会研修発表会」(1/22、本館大劇場)への協賛
- ・ 公益財団法人日本財団主催の「にっぽん文楽 in 伊勢神宮」(3/11～14)への協力
- ・ 公益社団法人日本俳優協会主催の「第38回俳優祭」(3/28)への協力
- ・ 東京都、アーツカウンシル東京、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会主催の「キッズ伝統芸能体験」への協賛(3/30)

(能楽堂)

- ・ 公益社団法人能楽協会主催の「さわってみよう能の世界」(8/3、国立能楽堂研修能舞台)への協力
- ・ 公益社団法人能楽協会主催の「能楽体験 教員セミナー」(8/29、国立能楽堂研修能舞台)への協力
- ・ 公益社団法人能楽協会主催の「第13回ユネスコ記念能」(9/30、国立能楽堂)への協力
- ・ 公益社団法人能楽協会主催の「能楽フェスティバル2017-2020 ～1964年「オリンピック能楽祭」を想う～」(1/25、国立能楽堂)への協力
- ・ 公益社団法人能楽協会主催の「第57回式能」(2/19、国立能楽堂)への協力

(文楽劇場)

- ・ 大阪市立中央図書館の「図書館で“観る”ぶんらく」展(7/8～20)への協力
- ・ 豊中市立伝統芸能館の展示(10/4～23)への協力
- ・ 文楽を中心とした古典芸能振興事業実行委員会主催(大阪市・公益財団法人文楽協会)「ムムム！文楽シリーズ『まちなか文楽展』」(10/21～23)への協力
- ・ 和歌山大学紀州経済史文化史研究所主催の特別展「道成寺の縁起・伝承と実像」(11/8～16)への協力
- ・ 独立行政法人国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センター、堺市、文化庁主催の無形文化遺産国際シンポジウム「技と心を受け継ぐ」(11/19)への協力
- ・ 関西国際空港旅客ターミナルKIXギャラリー「文楽展2017」(2/28～3/22)への協力
- ・ 毎日放送・朝日放送・関西テレビ放送・読売テレビ放送・テレビ大阪・ナレッジキャピタル主催の「うめだ文楽2017」(3/24～26)への協力

(国立劇場おきなわ)

- ・ 平成28年度沖縄県文化観光戦略推進事業助成事業
国立劇場おきなわ県外公演
 - ①「琉球舞踊と組踊」
6/5、1回、京都芸術劇場春秋座、共催：京都造形芸術大学舞台芸術研究センター
 - ②「琉球舞踊～男性舞踊家の会～」
2/12、2回、山本能楽堂、共催：公益財団法人山本能楽堂
- ・ 平成28年度国立劇場おきなわ普及促進事業
 - ①「組踊版・シンデレラ」
11/1、1回、金武町立中央公民館大ホール、共催：金武町教育委員会・沖縄県
 - ②「男性舞踊家の会と『組踊版・スイミー』」
11/23、1回、中野わいわいホール、共催：竹富町教育委員会・沖縄県

3. 全国各地の文化施設等における公演

- ・ 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を踏まえ、全国の文化施設等において公演を実施した。
 - ①6月歌舞伎鑑賞教室静岡公演(共催公演)
6/26、2回、静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ

- 共催：公益財団法人静岡県文化財団・静岡県、入場者数：1,406人(入場率88.9%)
- ②7月歌舞伎鑑賞教室神奈川公演(共催公演)
7/26～27、4回、神奈川県立青少年センター
共催：かながわ伝統芸能祭実行委員会、入場者数：1,388人(入場率48.9%)
- ③国立劇場おきなわ県外公演(沖縄県文化観光戦略推進事業)
- ・「琉球舞踊と組踊」
6/5、1回、京都芸術劇場春秋座、入場者数：435人(入場率73.6%)
 - ・「琉球舞踊～男性舞踊家の会～」
2/12、2回、山本能楽堂、入場者数：302人(入場率100.0%)
 - ・歌舞伎鑑賞教室の地方公演に職員スタッフを派遣し、現地の文化施設担当者との打合せから仕込み、舞台稽古、本番に至る流れの中で、国立劇場の技術やノウハウを提供した。上演に際しては、舞台機構上の制限を踏まえつつ、できる限り本館大劇場と同じ公演形態で実施した。他団体の文楽公演においても職員の派遣を行い、現地の技術者へ協力等を行った。
 - ・東京都公立文化施設協議会研修会に全面協力し、劇場施設及び国立劇場独自の研修プログラムを提供した。

4. 国際文化交流公演等

(1) 国際文化交流公演

(本館)

- ・5月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」
5/23、1回、本館小劇場
入場者数：538人(入場率97.3%)
アンケートの実施：満足回答率84.1%(外国籍の回答者数107名)
- ・6月歌舞伎鑑賞教室「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」
6/17、2回、本館大劇場
入場者数：2,246人(入場率73.9%)
アンケートの実施：【第1部】満足回答率84.8%(外国籍の回答者数323名)
【第2部】満足回答率84.0%(外国籍の回答者数539名)

(能楽堂)

- ・6月能楽鑑賞教室「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」
6/24、1回、能楽堂
入場者数：623人(入場率99.4%)
アンケートの実施：満足回答率92.2%(外国籍の回答者数193名)

(文楽劇場)

- ・6月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU－BUNRAKU for Beginners－」
6/12、1回、文楽劇場
入場者数：528人(入場率72.2%)
アンケートの実施：満足回答率92.7%(外国籍の回答者数137名)

(国立劇場おきなわ)

- ・組踊鑑賞教室「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」
11/19、1回、国立劇場おきなわ大劇場
入場者数：311名(入場率53.8%)
アンケートの実施：満足回答率85.7%(外国籍の回答者数35名)
- ・アジア・太平洋地域の芸能「胡弓」
11/26、1回、国立劇場おきなわ大劇場
入場者数：263名(入場率42.4%)
アンケートの実施：満足回答率93.8%

(2) 海外の芸能関係者等の来場、見学等

- ・本館 4件9人
主な来場者：シンガポール国家遺産局、韓国国楽院
- ・能楽堂 6件19人
主な来場者：台湾駐日経済文化代表処代表、国際交流基金招聘者、フランスメディア関係者
- ・文楽劇場 5件25人

主な来場者：中国文化部政策法規司 副司長、台湾文化部総合企画司 副司長、ベルギー駐日全権大使

(3) 在日各国大使等の公演招待

- ・ 本館「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」において各国駐日大使等大使館関係者を招待し、外国人来場者の誘致を図った(6/17、41 か国 69 名が参加)。

《自己点検評価》

○ 自己評定

A

(根拠)

- ・ 平成28年度(第71回)文化庁芸術祭オープニング公演を受託し、実施した。また、オープニング公演を除く主催公演11公演及び協賛公演20公演を実施した。
 - ・ 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施、国・地方公共団体等との後援・協力、外部の公演や展示への協力等において目標を達成できた。
 - ・ 27年度は「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」として歌舞伎の1回公演で試行的に実施した外国人向けの鑑賞教室を、28年度は歌舞伎で2回に拡大し、さらに文楽(本館及び文楽劇場)、能楽、組踊とジャンルも大幅に拡大して実施した。上演に際しては、前年度の試行における成果や課題を踏まえ、大使館等への働きかけや、字幕、オーディオガイド並びにパンフレットの多言語化、さらに当日の外国人来場者の受け入れ態勢等について拡充を図った。
 - ・ 国立劇場おきなわでは、沖縄県内外の自治体に働きかけ、県内では11月に金武町で「組踊版・シンデレラ」を、竹富町で「男性舞踊家の会と『組踊版・スイミー』」を、県外では6月に京都市で「琉球舞踊と組踊」(京都造形芸術大学と共催)と題して組踊「銘苺子」と琉球舞踊を、2月には大阪市で「琉球舞踊～男性舞踊家の会～」と題して琉球舞踊を上演し、組踊をはじめとした沖縄伝統芸能を県内外に広く紹介することができた。
 - ・ 「アジア・太平洋地域の芸能」は、胡弓という楽器に焦点を当て、日本・中国・韓国の各国の音楽を紹介することで、それぞれの楽器・音楽の独自性、またアジア圏内における類似性を照らし出した。擦弦楽器の演奏を中心とした公演は、県内ではほとんどない企画であり、多様な音楽を一度に鑑賞・比較できる貴重な機会となった。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 文楽劇場では、外部の公演や展示等の近年新規に催された文楽普及活動が毎年継続されて定着しつつあり、そうした催しへの各種協力が文楽公演の好成績に繋がっている。
 - ・ 国立劇場おきなわでは、県内2か所(金武町、竹富町)のほか、県外2か所(京都市、大阪市)で県外公演を実施し、沖縄の伝統芸能を県内外に広く紹介することができた。
 - ・ 「アジア・太平洋地域の芸能」では、例年の公演と異なり、アジア・太平洋地域に伝承される擦弦楽器に焦点を当て、沖縄の胡弓・日本の胡弓・中国の二胡・韓国の奚琴を中心に紹介した。各国の演奏家の出演で、それぞれの楽器・音楽の独自性やアジア圏内における類似性を比較することができた。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため
とるべき措置

伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

現代舞台芸術の公演

現代舞台芸術の公演 p.65

- オペラ p.67
- バレエ p.70
- 現代舞踊 p.73
- 演劇 p.75

現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等 p.78

2- (2) 現代舞台芸術の公演

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(2) 現代舞台芸術の公演

国際的に比肩し得る高い水準の現代舞台芸術を自主制作により公演

ア オペラ公演 名作と呼ばれる代表的な作品を上演するとともに、新たに制作する作品や上演機会の少ない優れた作品、日本の作曲家の作品の上演にも努め、それらをレパートリーとして蓄積し、繰り返し上演することにより、オペラの振興と普及を図る。年間 12 公演程度実施

イ バレエ公演 スタANDARDな演目を多彩なキャストで上演するとともに、国内外の振付家による質の高い新国立劇場のオリジナル作品の企画・上演にも努め、それらをレパートリーとして蓄積し、繰り返し上演することにより、バレエの振興と普及を図る。年間 6 公演程度実施

ウ 現代舞踊公演 特徴あるスタイルを持つ振付家による斬新な企画作品や、国内外で高い評価を得ている作品等を上演し、現代舞踊の振興と普及を図る。年間 4 公演程度実施

エ 演劇公演 新作上演を企画・発信するとともに、我が国で創作された作品の再評価や海外の優れた作品の紹介、芸術団体等との交流に努め、現代演劇の振興と普及を図る。年間 8 公演程度実施

(4) 現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

ア 適切な鑑賞者数の目標設定

イ 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施

ウ 現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点としての公演等の実施

①国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力公演等

②全国各地の文化施設等における公演等

③国際文化交流の進展に寄与するための国等との連携協力公演等

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(2) 現代舞台芸術の公演

現代舞台芸術の振興と普及を図るため、中期計画の方針に従い、別表 2 のとおり主催公演を実施

(4) 現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

ア 外部専門家等の意見の聴取、観客へのアンケート調査の適宜実施

イ 我が国における現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点として、次のとおり公演等を実施

①共催、受託などによる公演等を別表 5 のとおり実施

②各地の文化施設等における公演等を別表 6 のとおり実施

③国際文化交流の進展に寄与する公演等を別表 7 のとおり実施

2-(2)-① 現代舞台芸術の公演

《業務実績詳細》

1. 公演実績

分野名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
オペラ	11 公演 オペラ劇場	実績	53 回	53 日	79,321 人	(83.6%)	94,877 人
		計画	53 回	53 日	74,300 人	(78.3%)	94,844 人
バレエ	7 公演 オペラ劇場	実績	37 回	31 日	58,288 人	(91.2%)	63,904 人
		計画	37 回	31 日	48,500 人	(75.9%)	63,904 人
現代舞踊	4 公演 中劇場、小劇場	実績	9 回	9 日	4,957 人	(85.6%)	5,789 人
		計画	9 回	9 日	4,000 人	(74.7%)	5,354 人
演劇	8 公演 中劇場、小劇場	実績	146 回	121 日	61,005 人	(79.4%)	76,871 人
		計画	144 回	128 日	51,700 人	(72.1%)	71,724 人
総合計	30 公演	実績	245 回	214 日	203,571 人	(84.3%)	241,441 人
		計画	243 回	221 日	178,500 人	(75.7%)	235,826 人

<1> オペラ

《制作方針》

- ① 名作と呼ばれるような代表的な作品を上演するとともに、新たに制作する作品や上演機会の少ない優れた作品、日本の作曲家の作品の上演にも努める。
- ② 上演作品をレパートリーとして蓄積し、繰り返し上演していくことで、オペラの振興と普及を図る。

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・ 本公演 10 公演と鑑賞教室 1 公演を計画どおり実施
- ・ オペラ公演全体で目標入場者数を達成
- ・ 「ウェルテル」「ワルキューレ」「ルチア」を新制作で上演
- ・ 繰り返し再演可能なスタンダードなレパートリー作品として「ウェルテル」を新制作
- ・ 楽劇「ニーベルングの指環」4 部作の第 1 日「ワルキューレ」を高水準で上演し、残り 2 作品への期待を高める舞台成果
- ・ モンテカルロ歌劇場との共同制作でベルカント・オペラ最高傑作のひとつ「ルチア」を新制作
- ・ 「夕鶴」を全役日本人歌手で上演、「蝶々夫人」をオペラ研修所修了生が主演

2. 営業・広報

- ・ 画像・動画を多用したホームページ及び SNS (Facebook、Twitter) の活用により、興味を喚起
- ・ 若年層向け特別優待制度 U25 優待メンバーズ等の実施により、学生及び若年層を勧誘

3. 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し意見を聴取、後の事業運営に活用

4. アンケート調査

- ・ 全 11 公演で実施(16 回)、満足回答率 86.5%

《業務実績詳細》

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
「ウェルテル」(新制作)	オペラ 劇場	4/3(日) ～16(土)	実績	5 回	5 日	6,458 人	(72.1%)	8,960 人
			計画	5 回	5 日	6,100 人	(68.1%)	8,960 人
「アンドレア・シェニエ」		4/14(木) ～23(土)	実績	4 回	4 日	5,040 人	(70.3%)	7,168 人
			計画	4 回	4 日	5,000 人	(69.8%)	7,168 人
「ローエングリン」		5/23(月) ～6/4(土)	実績	5 回	5 日	8,242 人	(92.0%)	8,960 人
			計画	5 回	5 日	7,700 人	(85.9%)	8,960 人
「夕鶴」		7/1(金) ～3(日)	実績	3 回	3 日	3,954 人	(73.5%)	5,376 人
			計画	3 回	3 日	3,900 人	(72.5%)	5,376 人
楽劇「ニーベルングの指環」第 1 日 「ワルキューレ」(新制作)		10/2(日) ～18(火)	実績	6 回	6 日	9,396 人	(87.4%)	10,752 人
			計画	6 回	6 日	8,700 人	(80.9%)	10,752 人
「ラ・ボエーム」	11/17(木) ～30(水)	実績	5 回	5 日	7,486 人	(83.5%)	8,960 人	
		計画	5 回	5 日	6,900 人	(77.0%)	8,960 人	
「セビリアの理髪師」	11/27(日) ～12/10(土)	実績	5 回	5 日	7,350 人	(82.0%)	8,960 人	
		計画	5 回	5 日	6,400 人	(71.4%)	8,960 人	
「カルメン」	1/19(木) ～31(火)	実績	5 回	5 日	8,034 人	(89.7%)	8,960 人	
		計画	5 回	5 日	7,400 人	(82.6%)	8,960 人	

「蝶々夫人」	オペラ 劇場	2/2(火) ～11(土・祝)	実績	4回	4日	5,943人	(82.9%)	7,168人
			計画	4回	4日	5,500人	(76.7%)	7,168人
「ルチア」(新制作)		3/14(火) ～26(日)	実績	5回	5日	7,918人	(88.4%)	8,960人
			計画	5回	5日	7,300人	(81.5%)	8,960人
【オペラ公演 小 計】 10 公演 (計画:10 公演)			実績	47回	47日	69,821人	(82.9%)	84,224人
			計画	47回	47日	64,900人	(77.1%)	84,224人
高校生のためのオペラ鑑賞教室 「夕鶴」	オペラ 劇場	7/9(土) ～15(金)	実績	6回	6日	9,500人	(89.2%)	10,653人
			計画	6回	6日	9,400人	(88.5%)	10,620人
【オペラ鑑賞教室 小 計】 1 公演 (計画:1 公演)			実績	6回	6日	9,500人	(89.2%)	10,653人
			計画	6回	6日	9,400人	(88.5%)	10,620人
【オペラ 合 計】 11 公演 (計画:11 公演)			実績	53回	53日	79,321人	(83.6%)	94,877人
			計画	53回	53日	74,300人	(78.3%)	94,844人

2. 営業・広報

- ・ 個別演目について、マスコミ各社への情報提供、取材依頼、ポスター、チラシ、DM、会報誌「ジ・アトレ」、インターネット等により公演周知を行った。
- ・ ホームページ及び SNS (Facebook、Twitter) にて画像、動画等を用いて、公演前には過去の公演・リハーサル風景・出演者のインタビューを、公演開始後には舞台写真・動画等を掲載し、興味を喚起した。
- ・ 「ワルキューレ」「蝶々夫人」については特設サイトを開設し、より強い印象を与えるデザインと内容での公演紹介を行った。
- ・ 「ワルキューレ」「ローエン格林」では指揮を務める飯守泰次郎芸術監督による音楽講座を動画で制作し、ホームページだけでなく YouTube でも広く発信して作品理解に寄与した。
- ・ 「ウェルテル」「ワルキューレ」ではオペラトークを開催し、トークの様子をホームページと YouTube で動画配信して幅広い紹介に努めた。
- ・ 「ワルキューレ」においてコンセプト説明(10社15名)、「ルチア」において制作発表(49社56名)を行った。
- ・ 「ルチア」ではグラスハーモニカを演奏する奏者・楽器製作者によるレクチャー&ミニコンサートを開催し、作品の理解とオペラ公演への関心を高めた。
- ・ インターネットラジオ「OTTAVA」にて「ワルキューレ」「セビリアの理髪師」「ルチア」関連番組を放送した。
- ・ eメール Club(メールマガジン)登録者に対し、発売直前に発売情報と聴きどころ見どころ等を、公演直前に舞台稽古の状況等を、公演開始後にお客様の感想等を、ホームページや SNS (Facebook、Twitter) と連動させつつ連続して発信し、興味喚起と勧誘に努めた。
- ・ 音楽スタッフやオペラ研修所修了生を講師に起用したオペラ初級者向けのレクチャー付きの観劇プランや食事付きの観劇プランを実施し、団体誘致を行った。
- ・ チケット購入者に対して職員によるオペラ公演の事前レクチャーを実施した。
- ・ 作曲家関連の協会(ワーグナー協会、モーツァルト協会)の協力を仰ぎ、それぞれ関連する公演のチケット先行発売を実施した。
- ・ カード会社、生活協同組合等に対して団体販売を行った。また、出演者や旅行代理店、企業、高等学校、大学等に対し、積極的に営業活動を行った。
- ・ 空席がある場合の若年層向け特別優待制度「U25 優待メンバーズ」、「U39 オペラ優待メンバーズ」、「U15 ファミリー優待メンバーズ」を実施し、学生及び若年層の誘致を行った。「U25 優待メンバーズ」、「U39 オペラ優待メンバーズ」については、メールに加えて新たに LINE での情報配信を開始した。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に生かした。

4. アンケート調査

全 11 公演で実施(16 回)した。

回答数 8,784 人(配布数 20,940 人、回収率 41.9%)。回答者の 86.5%が概ね満足と答えた(7,596 人)。

【特記事項】

- ・ 平成 28 年度(第 71 回)文化庁芸術祭主催公演(「ワルキューレ」「ラ・ボエーム」)
- ・ 平成 28 年度(第 71 回)文化庁芸術祭協賛公演(「セビリアの理髪師」)
- ・ 「夕鶴」、高校生のための鑑賞教室「夕鶴」を除く全公演において、字幕による歌詞の日本語訳を表示した。
- ・ 新国立劇場合唱指揮者の三澤洋史が、第 3 回 JASRAC 音楽文化賞を受賞した(新国立劇場合唱団を世界有数といわれるレベルに引き上げた功績ほかに対して)。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 79,321 人／目標 74,300 人(達成度 106.8%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 11公演(本公演10公演、鑑賞教室1公演)を計画どおり実施し、全公演で目標値を上回る入場者数を達成した。
 - ・ いずれの公演も高い水準で上演され、外部専門家、評論家及び観客の高い評価を得た(アンケート満足率86.5%)。
 - ・ 新制作のうち、「ワルキューレ」はフィンランド国立歌劇場、「ルチア」はモンテカルロ歌劇場との連携協力により制作した。また「ルチア」では、公演関連イベントやレクチャーを実施して、作品の歴史的背景や意義、鑑賞の機会が少ない楽器の魅力にも触れ、幅広い普及に努めた。
- 良かった点・特色ある点
- ・ いずれの公演も高い水準で上演することができた。「ワルキューレ」はフィンランド国立歌劇場、「ルチア」はモンテカルロ歌劇場との連携協力により制作した。
 - ・ 「ウェルテル」というレパートリー作品の新制作は、今後繰り返し再演していくに相応しい舞台の出来栄であった。
 - ・ 「夕鶴」では全ての役に日本人歌手を起用したほか、「蝶々夫人」では新国立劇場オペラ研修所を修了した歌手が表題役を務め、日本人歌手の活躍の場を広げた。
 - ・ 「ウェルテル」及び「ワルキューレ」ではオペラトークを開催したほか、「ルチア」では公演関連レクチャー&ミニコンサートを行い、作品理解と公演への興味喚起に努めた。

<2> バレエ

《制作方針》

- ① スタンダードな演目を多彩なキャストで上演するとともに、国内外の振付家による質の高い新国立劇場のオリジナル作品の企画・上演にも努める。
- ② 上演作品をレパートリーとして蓄積し、繰り返し上演することにより、バレエの振興普及を図る。

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・ 本公演 6 公演とこどものためのバレエ劇場 1 公演を計画どおり実施
- ・ バレエ公演全体で目標入場者数を達成(達成度 120.2%)
- ・ こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」を新制作
- ・ 新制作「こどものためのバレエ劇場『白鳥の湖』」では、こどもバレエとして過去最高の入場者数及び入場率(入場者数 11,453 人、入場率 96.0%)を記録

2. 営業・広報

- ・ 画像、動画を多用したホームページ及び SNS (Facebook、Twitter) の活用により、興味を喚起
- ・ 若年層向け特別優待制度「U25 優待メンバーズ」等の実施により、学生及び若年層を勧誘
- ・ SNS やメール等、インターネットを積極的に活用した積極的な営業、広報活動により、「アラジン」「ロメオとジュリエット」「シンデレラ」ではいずれも 94% を超える入場率

3. 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し意見を聴取、後の事業運営に活用

4. アンケート調査

- ・ 全 7 公演で実施(7 回)、満足回答率 97.1%

《業務実績詳細》

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
「ドン・キホーテ」	オペラ 劇場	5/3(火・祝) ～8(日)	実績	5 回	5 日	7,579 人	(84.6%)	8,960 人
			計画	5 回	5 日	6,000 人	(67.0%)	8,960 人
「アラジン」		6/11(土) ～19(日)	実績	5 回	5 日	8,465 人	(94.5%)	8,960 人
			計画	5 回	5 日	7,600 人	(84.8%)	8,960 人
「ロメオとジュリエット」		10/29(土) ～11/5(土)	実績	6 回	6 日	10,107 人	(94.0%)	10,752 人
			計画	6 回	6 日	8,700 人	(80.9%)	10,752 人
「シンデレラ」		12/17(土) ～25(日)	実績	7 回	6 日	11,905 人	(94.9%)	12,544 人
			計画	7 回	6 日	10,100 人	(80.5%)	12,544 人
ヴァレンタイン・バレエ		2/17(金) ～18(土)	実績	2 回	2 日	2,816 人	(78.6%)	3,584 人
			計画	2 回	2 日	2,600 人	(72.5%)	3,584 人
「 Coppélia 」		2/24(金) ～26(日)	実績	4 回	3 日	5,963 人	(83.2%)	7,168 人
			計画	4 回	3 日	4,500 人	(62.8%)	7,168 人
【バレエ公演 小 計】		6 公演 (計画:6 公演)	実績	29 回	27 日	46,835 人	(90.1%)	51,968 人
			計画	29 回	27 日	39,500 人	(76.0%)	51,968 人
こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」 (新制作)	オペラ 劇場	7/21(木) ～24(日)	実績	8 回	4 日	11,453 人	(96.0%)	11,936 人
			計画	8 回	4 日	9,000 人	(75.4%)	11,936 人

【バレエ鑑賞教室 小 計】	1 公演 (計画:1 公演)	実績	8 回	4 日	11,453 人	(96.0%)	11,936 人
		計画	8 回	4 日	9,000 人	(75.4%)	11,936 人
【バレエ 合 計】	7 公演 (計画:7 公演)	実績	37 回	31 日	58,288 人	(91.2%)	63,904 人
		計画	37 回	31 日	48,500 人	(75.9%)	63,904 人

2. 営業・広報

- ・ 個別演目について、マスコミ各社への情報提供、取材依頼、ポスター、チラシ、DM、会報誌「ジ・アトレ」、インターネット等により公演周知を行った。
- ・ ホームページ及び SNS (Facebook、Twitter) にて画像、動画等を用いて、公演前には過去の公演、リハーサル風景、出演者のインタビューを、公演開始後には舞台写真等を掲載し、興味を喚起した。「ドン・キホーテ」「アラジン」「ロメオとジュリエット」「シンデレラ」「こどものためのバレエ劇場『白鳥の湖』」については特設サイトを開設し、より見やすいデザインにするとともに詳しく内容を紹介した。
- ・ e メール Club (メールマガジン) 登録者に対しては、発売直前に発売情報と見どころ等を、バレエ/ダンス DM メンバー登録者に対しては、一般発売に先駆けた先行発売を実施し、また両登録者に対して、公演直前に舞台稽古の状況等を、それぞれホームページや SNS (Facebook、Twitter) と連動させつつ連続して発信し、興味喚起と勧誘に努めた。
- ・ 空席がある場合の若年層向け特別優待制度「U25 優待メンバーズ」、「U15 ファミリー優待メンバーズ」を実施し、学生及び若年層の誘致を行った。
- ・ こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」において、関東圏のバレエ・ダンス教室に団体案内 DM を送付した。
- ・ ジュニア DM メンバー登録者に対して、親子で楽しめる演目の紹介及び先行発売を実施し、新たな観客層の誘致に努めた。
- ・ カード会社、生活協同組合等に対して団体販売を行った。また、出演者や旅行代理店、企業、高等学校、大学等に対し、積極的に営業活動を行った。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

4. アンケート調査

全 7 公演で実施 (7 回) した。

回答数 2,867 人 (配布数 9,975 人、回収率 28.7%)。回答者の 97.1% が概ね満足と答えた (2,785 人)。

【特記事項】

- ・ 平成 28 年度 (第 71 回) 文化庁芸術祭主催公演 (「ロメオとジュリエット」)
- ・ 「シンデレラ」で各公演の終演後に主演ダンサーによる握手会を開催した。
- ・ 新国立劇場バレエ団プリンシパルの米沢唯が、平成 28 年度 (第 67 回) 芸術選奨の舞踊部門で文部科学大臣新人賞を受賞した (「ロメオとジュリエット」ほかの成果に対して)。
- ・ 新国立劇場バレエ団ソリストの木村優里が、週刊オンステージ新聞「2016 年新人 (舞踊家) ベスト 1」を受賞した。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 58,288 人 / 目標 48,500 人 (達成度 120.2%)

《自己点検評価》

- 自己評定

A

(根拠)

- ・ 7 公演を計画どおり実施した。入場者数については全公演で目標値を大きく上回った (7 公演中 4 公演で 90% を超える入場率を記録)。

- ・ 古典作品から現代作品まで幅広いレパートリーを、技術面、表現、音楽性等いずれも極めて高い水準で上演し、評論家、外部専門家、観客から高い評価を得た(アンケート満足回答率97.1%)。
- ・ 20世紀における演劇バレエの最高峰の一つである、マクミラン版「ロメオとジュリエット」では、演劇的表現、高度なテクニック、リフトを通してドラマティックに舞台を創り上げ観客の感動を呼んだ。
- ・ 「ヴァレンタイン・バレエ」では、集客が難しいミックス・プログラムでありながら、 balan sin 振付「テーマとヴァリエーション」を軸に、ガラ公演風にグラン・パ・ド・ドゥ等を数作品入れ、また男性のみで上演する現代作品「トロイ・ゲーム」を加えた組合せで企画、上演し、目標を上回る集客を得た。
- ・ 新国立劇場バレエ団プリンシパルの米沢唯が、「ロメオとジュリエット」におけるヒロインの情熱や、愛と死を通じての内面的成長、物語の悲劇的テーマを繊細に描いた役作りに対し、平成28年度(第67回)芸術選奨の舞踊部門で文部科学大臣新人賞を受賞した。
- ・ 新国立劇場バレエ団ソリストの木村優里の優れた踊りが高く評価され、週刊オンステージ新聞「2016年新人(舞踊家)ベスト1」を受賞した。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 入場者数について、目標入場者数を超える実績を達成した。
- ・ 古典作品から現代作品まで幅広い演目を上演し、そのいずれも極めて高い水準であり、評論家、外部専門家、観客から極めて高い評価を得た(アンケート満足回答率97.1%)。
- ・ 積極的な若手の抜擢やスタッフの徹底指導により、複数の主役キャストそれぞれが高いテクニック・表現力で完成度の高い舞台を作り上げ、新国立劇場バレエ団の層の厚さをアピールすることができ、外部専門家等からも高い評価を得た。

<3> 現代舞踊

《制作方針》

特徴あるスタイルを持つ振付家による斬新な企画作品や国内外で高い評価を得ている作品等を上演し、現代舞踊の振興普及を図る。

《主要な業務実績》

1. 公演実績
 - ・ 4公演を計画どおり実施
 - ・ 現代舞踊公演全体で目標入場者数を達成(達成度 123.9%)
2. 営業・広報
 - ・ 画像、動画等を多用したホームページ及び SNS (Facebook、Twitter) の活用により、興味を喚起
3. 外部専門家等の意見
 - ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し意見を聴取、後の事業運営に活用
4. アンケート調査
 - ・ 全4公演で実施(4回)、満足回答率 91.6%

《業務実績詳細》

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
高谷史郎(ダムタイプ) 「CHROMA」	中劇場	5/21(土) ~22(日)	実績	2回	2日	1,412人	(87.3%)	1,617人
			計画	2回	2日	1,050人	(72.0%)	1,458人
JAPON dance project 2016 Move/Still		8/27(土) ~28(日)	実績	2回	2日	1,288人	(81.7%)	1,576人
			計画	2回	2日	1,100人	(76.5%)	1,438人
新国立劇場バレエ団 DANCE to the Future 2016 Autumn	小劇場	11/18(金) ~20(日)	実績	3回	3日	848人	(83.1%)	1,020人
			計画	3回	3日	750人	(73.5%)	1,020人
中村恩恵×新国立劇場バレエ団 「ベートーヴェン・ソナタ」	中劇場	3/18(土) ~19(日)	実績	2回	2日	1,409人	(89.4%)	1,576人
			計画	2回	2日	1,100人	(76.5%)	1,438人
【現代舞踊 合計】	4公演 (計画:4公演)		実績	9回	9日	4,957人	(85.6%)	5,789人
			計画	9回	9日	4,000人	(74.7%)	5,354人

2. 営業・広報

- ・ 個別演目について、マスコミ各社への情報提供、取材依頼、ポスター、チラシ、DM、会報誌「ジ・アトレ」、インターネット等により公演周知を行った。
- ・ ホームページ及び SNS (Facebook、Twitter) にて画像、動画等を用いて、公演前には過去の公演、リハーサル風景、出演者のインタビューを、公演開始後には舞台写真を掲載し、興味を喚起した。
- ・ e メール Club (メールマガジン) 登録者に対し、発売直前に発売情報と見どころ等を、バレエ/ダンス DM メンバー登録者に対しては、一般発売に先駆けた先行発売を実施し、興味喚起と勧誘に努めた。
- ・ ライブストーリーミングサイト「DOMMUNE」にて、「高谷史郎(ダムタイプ)『CHROMA(クロマ)』」、「JAPON dance project 2016」関連番組を放送した。
- ・ 「JAPON dance project 2016」において、関東圏のバレエ・ダンス教室に団体案内 DM を送付した。
- ・ 空席がある場合の若年層向け特別優待制度「U25 優待メンバーズ」を実施し、学生及び若年層の誘致を行った。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に生かした。

4. アンケート調査

全4公演で実施(4回)した。

回答数 558 人(配布数 2,357 人、回収率 23.7%)。回答者の 91.6%が概ね満足と答えた(511 人)。

【特記事項】

- ・ 平成 28 年度(第 71 回)文化庁芸術祭主催公演(「DANCE to the Future 2016 Autumn」)
- ・ 新国立劇場バレエ団ファースト・アーティストの宝満直也が、週刊オンステージ新聞「2016 年新人(振付家)ベスト 1」を受賞した。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 4,957 人/目標 4,000 人(達成度 123.9%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

A

(根拠)

- ・ 4公演を計画どおり実施した。入場者数については全公演で目標値を大きく上回った(達成度123.9%)。
 - ・ いずれの公演も、画期的で多彩な企画内容と高い水準に外部専門家や観客から極めて高い評価を得た(アンケート満足回答率91.6%)。
 - ・ 平成26年度文化庁芸術選奨(メディア芸術部門)文部科学大臣賞を受賞した、高谷史郎ディレクションによる舞台作品「CHROMA(クロマ)」が、新国立劇場の広い舞台空間、照明・音響・映像機材、優秀な舞台スタッフとカンパニー側の技術スタッフとの良いチームワークにより、新国立劇場ならではの最新の現代パフォーマンス作品に生まれ変わり、通常のパレエ・ダンス公演には訪れたことのない、アート全般に興味を持つと思われる観客を多く集客できた。
 - ・ 新国立劇場バレエ団を活用した「DANCE to the Future 2016 Autumn」の継続により、未来の振付家育成を確実に進展させた。振付作品を発表した新国立劇場バレエ団ファースト・アーティストの宝満直也は週刊オンステージ新聞「2016 年新人(振付家)ベスト 1」を受賞した。
 - ・ 新国立劇場バレエ団と国内外の振付家、ダンサーとコラボレーションを行った「JAPON dance project 2016」「ベートーヴェン・ソナタ」にて既存の新国立劇場バレエ団公演観劇者の誘導に成功し、「ベートーヴェン・ソナタ」では現代舞踊史上最高の会員販売数を達成した。
 - ・ ライブストリーミングサイト「DOMMUNE」にて、「高谷史郎(ダムタイプ)『CHROMA(クロマ)』」、「JAPON dance project 2016」の特集番組を放送し、現代舞踊の普及、振興に寄与した。
 - ・ 2016/2017シーズン4演目のセット券が過去最高の売上を達成し、全ての公演で目標を大きく上回る販売枚数を達成した。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 海外で活躍する日本人ダンサーを中心とした「JAPON dance project」第2弾や、新国立劇場バレエ団員の振付による「Dance to the Future 2016 Autumn」、「ベートーヴェン・ソナタ」等、新国立劇場バレエ団による現代作品への挑戦を通して水準の高い舞台が上演され、外部専門家等からも高い評価を得た。

<4> 演劇

《制作方針》

新作上演を企画・発信するとともに、国内作品の再評価や海外の優れた作品の紹介、芸術団体等との交流に努め、現代演劇の振興普及を図る。

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・ 8公演を計画どおり実施
- ・ 演劇公演全体で、目標入場者数を達成
- ・ 新シリーズ「かさなる視点ー日本戯曲のカー」を開始し、その Vol.1「白蟻の巣」では追加公演を実施

2. 営業・広報

- ・ 画像・動画を多用したホームページ及び SNS (Facebook、Twitter、Instagram) の活用により、興味を喚起
- ・ 若年層向け特別優待制度「U25 優待メンバーズ」等の実施により、学生及び若年層を勧誘
- ・ 出演者のファンクラブや旅行代理店、企業、大学等に対し、公演ごとに多彩な営業活動を展開し勧誘
- ・ 主に中劇場公演において新国立劇場にとっての新たな来場者層を多く演劇 DM メンバーに誘導
- ・ テーマや期間毎に4種類の通し券を販売

3. 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し意見を聴取、後の事業運営に活用

4. アンケート調査

- ・ 全8公演で実施(14回)、満足回答率91.3%

《実績》

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
鄭義信 三部作 Vol. 2 「たとえば野に咲く花のように」	小劇場	4/6(水) ~24(日)	実績	20回	17日	5,304人	(81.3%)	6,520人
			計画	20回	17日	4,400人	(67.9%)	6,480人
鄭義信 三部作 Vol. 3 「パーマ屋スミレ」		5/17(火) ~6/5(日)	実績	20回	18日	5,965人	(91.8%)	6,501人
			計画	20回	18日	4,600人	(71.0%)	6,480人
「あわれ彼女は娼婦」	中劇場	6/8(水) ~26(日)	実績	20回	17日	16,660人	(91.9%)	18,120人
			計画	20回	17日	13,300人	(74.4%)	17,880人
「かぐや姫伝説」より 「月・こうこう、風・そうそう」(新作)	小劇場	7/13(水) ~31(日)	実績	18回	17日	4,961人	(85.1%)	5,832人
			計画	18回	17日	4,100人	(69.9%)	5,868人
「フリック」(日本初演)		10/13(木) ~30(日)	実績	18回	16日	3,594人	(61.2%)	5,868人
			計画	18回	17日	4,300人	(73.3%)	5,868人
「ヘンリー四世 第一部ー混沌ー」	中劇場	11/26(土) ~12/22(木)	実績	15回	15日	10,324人	(75.1%)	13,755人
			計画	15回	15日	8,300人	(71.3%)	11,640人
「ヘンリー四世 第二部ー戴冠ー」		11/27(日) ~12/22(木)	実績	15回	15日	9,489人	(69.0%)	13,755人
			計画	15回	15日	8,300人	(71.3%)	11,640人
かさなる視点ー日本戯曲のカー Vol. 1「白蟻の巣」	小劇場	3/2(木) ~19(日)	実績	20回	16日	4,708人	(72.2%)	6,520人
			計画	18回	17日	4,400人	(75.0%)	5,868人
【演劇合計】	8公演 (計画:8公演)		実績	146回	121日	61,005人	(79.4%)	76,871人
			計画	144回	128日	51,700人	(72.1%)	71,724人

※「ヘンリー四世」は第一部・第二部の同日上演を10日間実施した。

2. 営業・広報

- ・ 個別演目について、マスコミ各社への情報提供、取材依頼、ポスター、チラシ、DM、会報誌「ジ・アトレ」、インターネット等により公演周知を行った。
- ・ ホームページ及び SNS (Facebook、Twitter、Instagram) にて画像、動画等を用いて、公演前にはリハーサル風景、出演者等のインタビューを、公演開始後には舞台写真等を掲載し、興味を喚起した。
- ・ 「あわれ彼女は娼婦」、「ヘンリー四世(二部作)」については、特設サイトを開設し、より強い印象を与えるデザインとともに詳しく内容を紹介し、SNS においてきめ細かい公演情報を提供した。
- ・ 若年層向け特別優待制度 U25 優待メンバーズ等の実施により、学生及び若年層を勧誘した。
- ・ e メール Club (メールマガジン) 登録者及び演劇 DM 登録者に対し、先行発売情報、発売直前に発売情報と見どころ等、公演直前に舞台稽古の状況等、公演開始後にお客様の感想等、またトーク等のイベント情報を、ホームページや Facebook と連動させつつ発信し、興味喚起と勧誘に努めた。
- ・ テーマや期間毎に各種公演をまとめた通し券「時代を記録する三つの名舞台 一鄭義信 三部作一」(27 年度公演を含む)、「2 作品セット割(「あわれ彼女は娼婦」「月・こうこう、風・そうそう)」、「2016/2017 シーズン演劇オープニング 3 作品セット割(「フリック」「ヘンリー四世(二部作)）」、「ヘンリー四世 二部作通し券～「混沌」、そして「戴冠」～」を発売した。
- ・ 演劇鑑賞団体やカード会社、生活協同組合等に対して団体販売を行った。また、出演者のファンクラブや旅行代理店、企業、大学等に対し、公演ごとに多彩な切り口で積極的に営業活動を行った。
- ・ 空席がある場合の若年層向け特別優待制度「U25 優待メンバーズ」、外部の演劇俳優養成所等に所属する研究生を対象とした「ユース・アクターズ・プラン」を実施し、学生及び若年層の勧誘を行った。「U25 優待メンバーズ」について、メールに加えて新たに LINE での情報配信を開始した。
- ・ 公演直前に空席がある場合、割引や良席等のインセンティブを付与する販売促進を実施した。
- ・ 中劇場公演を中心に積極的な貸切営業を行い、計 2 回を貸切公演とした。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に生かした。

4. アンケート調査

8 公演で実施(14 回)した。

回答数 1,004 人(配布数 4,585 人、回収率 21.9%)。回答者の 91.3%が概ね満足と答えた(917 人)。

【特記事項】

- ・ 平成 28 年度(第 71 回)文化庁芸術祭主催公演(「ヘンリー四世 第一部」「ヘンリー四世 第二部」)
- ・ 平成 28 年度(第 71 回)文化庁芸術祭協賛公演(「フリック」)
- ・ 「あわれ彼女は娼婦」「ヘンリー四世」出演の浦井健治が、平成 28 年度(第 67 回)芸術選奨の演劇部門で文部科学大臣新人賞を受賞した(「ヘンリー四世」ほかにおける演技に対して)。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 61,005 人 / 目標 51,700 人(達成度 118.0%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

A

(根拠)

- ・ 8 公演を計画どおり実施した。演劇公演全体で目標入場者数を達成した。
- ・ 新国立劇場のために書き下ろされた鄭義信三部作の「たとえば野に咲く花のように」「パーマ屋スマレ」や、別役実による新作「月・こうこう、風・そうそう」、2009 年以來上演されてきたシェイクスピア歴史劇シリーズ「ヘンリー四世(二部作)」等、新国立劇場ならではの多彩かつ意欲的な企画による公演が高い水準で上演された。外部専門家や評論家、観客から高い評価を得た(アンケート満足回答率 91.3%)。
- ・ 「ヘンリー四世(二部作)」については、キャストの半数は過去に上演したシリーズからの続演であったほか、二部作の同時上演により、作品全体の統一感がより高まり、完成度の高い舞台を上演できた。

演劇部門を代表するシリーズになっており、外部専門家等からも高い評価を得た。

- 「あわれ彼女は娼婦」「ヘンリー四世(二部作)」出演の浦井健治の高い演技力が評価され、平成 28 年度(第 67 回)芸術選奨の演劇部門で文部科学大臣新人賞を受賞した(「ヘンリー四世」ほかにおける演技に対して)。
- 良かった点・特色ある点
 - 鄭義信三部作の「たとえば野に咲く花のように」「パーマ屋スマレ」では、再演したことにより新たな視点が生まれ、また、キャストそれぞれの役への理解が深まり、作品全体の密度を高めた。
 - 「パーマ屋スマレ」「あわれ彼女は娼婦」は入場率が90%を超え演劇公演全体で目標入場者数を達成した。
- 見直し又は改善を要する点
 - 上演機会の少ない作品の集客には困難が伴うが、国立の劇場としての使命に鑑み、広報宣伝に一層の工夫を凝らす等により、上演の維持を図りたい。

2-(2)-② 現代舞台芸術の公演に際しての留意事項等

《主要な業務実績》

1. 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
 - ・ 各分野において専門委員に公演ごとのレポートを依頼し意見を聴取、後の事業運営に活用
 - ・ 全30公演41回でアンケート調査を実施、満足回答率89.4%
2. 共催、受託などによる公演
 - ・ 文化庁芸術祭主催公演6公演、協賛公演2公演を実施
 - ・ 大学との積極的な連携、協力を実施
3. 全国各地の文化施設等における公演
 - ・ オペラ1公演、バレエ2公演、演劇4公演、合計7公演を実施
 - ・ 合唱団は15の外部公演に出演
 - ・ 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を踏まえ、地域の公立文化施設に技術者を講師として派遣するなど、連携を強化
 - ・ 公益社団法人劇場演出空間技術協会、劇場・音楽堂等連絡協議会等と連携しフォーラムを開催
4. 国際文化交流公演等
 - ・ 海外劇場等との情報交換や訪問受入れによる文化交流の実施
 - ・ 在日各国大使のオペラ・バレエ鑑賞プログラムの実施

《業務実績詳細》

1. 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
 - (1) 外部専門家等の意見聴取

各部門の専門委員に各公演についてのレポート提出を依頼し、意見の聴取を行った。
また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に活かした。
 - (2) アンケート調査の実施

分野	実施回数	回答数	回収率(配布数)	概ね満足との回答 (回答数)
オペラ	11公演16回	8,784人	41.9%(20,940人)	86.5%(7,596人)
バレエ	7公演7回	2,867人	28.7%(9,975人)	97.1%(2,785人)
現代舞踊	4公演4回	558人	23.7%(2,357人)	91.6%(511人)
演劇	8公演14回	1,004人	21.9%(4,585人)	91.3%(917人)
合計	30公演41回	13,213人	34.9%(37,857人)	89.4%(11,809人)

2. 共催、受託などによる公演
 - (1) 平成28年度(第71回)文化庁芸術祭

区分	公演名
主催 公演	オペラ劇場：オペラ「ワルキューレ」「ラ・ボエーム」、バレエ「ロメオとジュリエット」 中劇場：演劇「ヘンリー四世 第一部」「ヘンリー四世 第二部」 小劇場：現代舞踊「DANCE to the Future 2016 Autumn」
協賛 公演	オペラ劇場：オペラ「セビリアの理髪師」 小劇場：演劇「フリック」

- (2) 大学との連携・協力
 - ・ 東京藝術大学、学校法人武蔵野音楽学園(武蔵野音楽大学)、国立音楽大学、東京音楽大学、大阪音楽大学、桐朋学園大学、北海道教育大学、昭和音楽大学、学校法人洗足学園(洗足学園音楽大学)、東京学芸大学、東邦音楽大学と、連携・協力に関する協定を締結している。
 - ・ オペラ劇場の舞台において、大学声楽科学生の実習が行われた(東京藝術大学、昭和音楽大学)。

- ・ オペラ研修所修了公演「コジ・ファン・トゥッテ」において、合唱及び管弦楽(藝大フィルハーモニア管弦楽団)に関し東京藝術大学等の大学と連携・協力した公演を行った。
- ・ 大学からのインターンシップ生の受入れを行ったほか、大学のアートマネジメントに関する講義等に、講師として新国立劇場職員を派遣した(昭和音楽大学、学校法人武蔵野音楽学園(武蔵野音楽大学)ほか)。

3. 全国各地の文化施設等における公演

(1) オペラ

- ① 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演「フィガロの結婚」(共催公演)
10/26・28、2回、ロームシアター京都
主催：京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)
入場者数：3,095人

(2) バレエ

- ① こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」(受託公演)
9/19、1回、サンポートホール高松
主催：高松市、公益財団法人高松市文化芸術財団
入場者数：1,315人
- ② バレエ「シンデレラ」(受託公演)
- ・ 1/8、1回、オーバードホール
主催：公益財団法人富山市民文化事業団
入場者数：1,505人
 - ・ 1/14、1回、びわ湖ホール
主催：公益財団法人びわ湖ホール
入場者数：1,149人

(3) 演劇

- ① 演劇「焼肉ドラゴン」(受託公演)
4/8～9、2回、兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール
主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター
入場者数：1,451人
- ② 演劇「たとえば野に咲く花のように」(受託公演)
4/28～29、2回、兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール
主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター
入場者数：1,313人
- ③ 演劇「パーマ屋スマレ」(受託公演)
- ・ 6/11～12、2回、北九州芸術劇場中劇場
主催：公益財団法人北九州市芸術文化振興財団
入場者数：758人
 - ・ 6/17～18、2回、兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール
主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター
入場者数：1,510人
- ④ ところで聴く三島由紀夫V リーディング「卒塔婆小町」(受託公演)
8/11、1回、山中湖村公民館
主催：山中湖村教育委員会、山中湖文学の森 三島由紀夫文学館
入場者数：147人

(4) 新国立劇場合唱団外部出演公演

- ① 東京フィルハーモニー交響楽団演奏会 グリーク「パール・ギュント」
4/24・25・27、3回、Bunkamura オーチャードホール(4/24)、サントリーホール(4/25)、東京オペラシティアンサンホール(4/27)
主催：東京フィルハーモニー交響楽団
- ② TDK オーケストラコンサート 2016 ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 来日公演
ベートーヴェン「交響曲第9番 ニ短調 op.125『合唱付き』」
5/15、1回、サントリーホール
主催：フジテレビジョン、サントリーホール

③長野県北信地区高等学校芸術鑑賞会

6/10、2回、ホクト文化ホール(長野県県民文化会館)

主催：長野県北信地区芸術鑑賞連絡会、長野県教育委員会

④平成28年度文化芸術による子供の育成事業

6/16～12/12、21回、神奈川県・静岡県・愛知県及び岐阜県の小・中学校内体育館

主催：文化庁

⑤東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会 プッチーニ「蝶々夫人」(演奏会形式)

7/22・24、2回、サントリーホール(7/22)、Bunkamura オーチャードホール(7/24)

主催：東京フィルハーモニー交響楽団

⑥第37回霧島国際音楽祭2016

7/29～8/4、6回、鹿児島県

主催：鹿児島県、公益財団法人ジュスク音楽文化振興会、公益財団法人鹿児島県文化振興財団

⑦N響90周年記念特別演奏会 マラー「交響曲第8番変ホ長調『一千人の交響曲』」

9/8、1回、NHKホール

主催：NHK、NHK交響楽団

⑧東京フィルハーモニー交響楽団演奏会 マスカーニ「イリス」(演奏会形式)

10/16・20、2回、Bunkamura オーチャードホール(10/16)、サントリーホール(10/20)

主催：東京フィルハーモニー交響楽団

⑨東京交響楽団演奏会 モーツァルト「コジ・ファン・トゥッテ」(演奏会形式)

12/9・11、2回、ミュンヘン・ザクセンホール(12/9)、東京芸術劇場(12/11)

主催：ミュンヘン・ザクセンホールほか

⑩NHK交響楽団定期公演 ビゼー「カルメン」(演奏会形式)

12/9・11、2回、NHKホール

主催：NHK、NHK交響楽団

⑪読売日本交響楽団演奏会 ベートーヴェン「交響曲第9番ニ短調 作品125『合唱付き』」

12/17・18・20～22・25・26、7回、東京芸術劇場(12/17・25)、横浜みなとみらいホール(12/18)、サントリーホール(12/20・21)、フェスティバルホール(12/22)、東京オペラシティコンサートホール(12/26)

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、公益財団法人読売日本交響楽団

⑫第60回NHKニューイヤーオペラコンサート

1/3、1回、NHKホール

主催：NHK、NHKプロモーション

⑬読売日本交響楽団演奏会 ドビュッシー「夜想曲」ほか

1/25、1回、サントリーホール

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

⑭題名のない音楽会 ベートーヴェン「交響曲第9番ニ短調 作品125『合唱付き』」

2/2、1回、サントリーホール

主催：テレビ朝日

⑮シン・ゴジラ対エヴァンゲリオン交響楽

3/22～23、4回、Bunkamura オーチャードホール

主催：株式会社カラー

(5) 地方との連携強化

- ・ 全国公演の際、制作及び技術職員間で情報交換を行った。
- ・ 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を踏まえ、地域の公立文化施設に技術者を講師として派遣するなど、連携を強化した。
- ・ 公益社団法人劇場演出空間技術協会、劇場・音楽堂等連絡協議会と連携しフォーラムを開催した。

4. 国際文化交流公演等

(1) 海外劇場等との交流

- ・ 海外の劇場との情報交換に努め、また海外より当劇場訪問の際には劇場見学、質疑応答等、交流の進展を図った。
- ・ オペラ「ワルキューレ」はフィンランド国立歌劇場(ヘルシンキ)の協力により、「ルチア」はモナコのモンテカルロ歌劇場との共同制作により制作した。
- ・ 27年度に上演した現代舞踊「平山素子『Hybrid-Rhythm & Dance』」では、スペイン公演(バスク地方5都市)が行われた。海外ツアーに伴い、上演許諾及び衣裳貸出を行った。

(2) 海外からの訪問受入れ

- ・ 海外から劇場関係者等、8か国12団体107名の訪問受入れを行った。
主な来場者：英国ナショナル・シアター・ウェールズ関係者、日独青少年指導者セミナー訪日団、香港文化庁 マネージャー、ベルギー国立劇場関係者、モナコ公国内務大臣、中国政府関係者、釜山都市公社職員、韓国国立劇団職員、「JENESYS2.0」中国大学生訪日団、韓国文化芸術委員会、韓国公演芸術産業研究所、釜山広域市職員、Tom Fleming Creative Consultancy(シンガポール・アーツカウンシル委託)ほか

(3) 在日各国大使のオペラ・バレエ鑑賞プログラム

- ・ 「在日各国大使のオペラ・バレエ鑑賞プログラム」を実施し、新国立劇場が内外で高い評価を受けるオペラ専門劇場を有しており、質の高いオペラ・バレエを制作し、上演していることを国際的に発信した。また、芸術・文化面における新たな観点からの日本に対する理解の増進を図り、国際交流の振興に寄与した。実施公演と参加国(大使/大使館文化担当官・文化機関)は以下のとおり。
 - ① オペラ「ローエングリン」5/29、5か国/9か国
 - ② バレエ「ロメオとジュリエット」10/30、7か国/5か国
 - ③ オペラ「蝶々夫人」2/11、10か国/8か国

【特記事項】

- ・ 文化庁芸術祭主催公演「ワルキューレ」に皇太子殿下の行啓があった。

《自己点検評価》

○自己評定

B

(根拠)

- ・ 国内外の劇場等と良好な協力関係を築き、共催、受託等による公演を積極的に実施した。
 - ・ 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を踏まえた全国の公立文化施設等との交流に積極的に取り組んだ。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 主催公演全30公演でアンケート調査を実施し、多くの観客の声を収集することができた。
 - ・ 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を踏まえた全国の公立文化施設等との交流に積極的に取り組んだ。
 - ・ 全国公演と合わせて、新国立劇場バレエ団員によるワークショップ等、公演に関連したイベントの拡充を行い、現代舞台芸術の普及に努めた。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため とるべき措置

伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

青少年等を対象とした公演

青少年等を対象とした公演 p.82

- 伝統芸能分野 p.83
- 現代舞台芸術分野 p.90

快適な観劇環境の形成

快適な観劇環境の形成 p.92

- 快適で安全な観劇環境の提供、外国人利用者への対応 p.96
- 多様な購入方法の提供によるチケット販売の促進 p.101
- 公演内容等の理解促進のための取組 p.102
- 意見・要望等の把握と対応 p.104

広報・営業活動の充実

広報・営業活動の充実 p.106

- 効果的な広報・営業活動の展開 p.110
- 会員組織の運営、会員向けサービスの充実 p.115

劇場施設の使用効率の向上等

劇場施設の使用効率の向上等 p.120

2-(3) 青少年等を対象とした公演

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(3) 青少年等を対象とした公演

- ア 青少年を対象とした伝統芸能公演を年間 6 公演程度実施
社会人や親子を対象とする入門企画の実施
各公演等の連携協力の強化
- イ 青少年を対象とした現代舞台芸術公演を年間 3 公演程度実施
各公演の連携協力の強化

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(3) 青少年等を対象とした公演

- ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表 3 のとおり実施
社会人や親子等を対象とした入門企画を別表 4 のとおり実施
各公演等の連携協力を強化
- イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表 3 のとおり実施し、親子でも楽しめるよう工夫
各公演の連携協力を強化

<1> 伝統芸能分野

《制作方針》

伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、中高生をはじめ青少年を対象とした入門公演を実施する。また、日頃伝統芸能に触れる機会の少ない社会人等を対象とした公演や、親子を対象とした公演を実施する。

本館では、歌舞伎鑑賞教室を実施し、6月は20年ぶりに「新皿屋舗月雨暈一魚屋宗五郎」を、7月は13年ぶりに「卅三間堂棟由来」を取り上げ、解説を付して上演することにより歌舞伎の普及振興、芸の継承を図る。また、文楽鑑賞教室では、文楽の保存と振興のため、名作の上演に留まらず、上演頻度が少ない演目や場面等を積極的に取り上げているが、例年の12月から今回は5月開催に変更し、近松門左衛門の手による著名作品「曾根崎心中」とともに、実演を交えた解説を付け鑑賞の一助とする。なお、各教室において開演時間を遅くした社会人のための公演を上演するほか、夏休み期間には、割安な親子セット料金を設定した「親子で楽しむ歌舞伎教室」を上演する。さらに、伝統芸能に親しみを感じてもらえるよう新たに企画した〈伝統芸能の魅力〉シリーズを継続し、舞踊・邦楽・雅楽・声明の4ジャンルを上演する。

演芸場では、寄席及び寄席で上演される大衆芸能(落語、講談、マジック、紙切り、パントマイム等)を子供たちに知ってもらうため、夏休み期間中に解説付きの公演「親子で楽しむ演芸会」を実施する。

能楽堂では、6月に能楽鑑賞教室を実施し、分かりやすい狂言「柿山伏」、動きが多く初心者向けの能「小鍛冶」に、学生が体験出演する解説を付け、学生が親しみを持てるよう配慮する。8月には親子向けの公演「親子で楽しむ能の会」「親子で楽しむ狂言の会」と仕事帰りの社会人向けの公演「働く貴方に贈る」を実施し、次世代、そして新たな観客層を開拓するための公演とする。

文楽劇場では、6月に文楽鑑賞教室を実施し、分かりやすい演目に学生・生徒が体験出演する解説を付け、親しみが持てるように配慮する。また公演中の2回を「社会人のための文楽入門」として夜公演とし、勤め帰りに気軽に文楽鑑賞を体験できるよう工夫する。7、8月の夏休み文楽特別公演の第一部「親子劇場」では、親子で楽しめるよう、新作も含めた作品の上演を試みる。

国立劇場おきなわでは、6月には社会人、8月には親子を対象とした「組踊鑑賞教室」を上演する。第一部において、解説を交えて構成した新作組踊を上演し、第二部の組踊の理解を深める工夫を行う。11月には、主に中高生を対象とした「組踊鑑賞教室」を実施するほか、前年度新たに企画し好評を博した「琉球舞踊鑑賞教室」を4月、「沖縄芝居鑑賞教室」を9月に上演する。

なお、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に伴う文化プログラムの実施を見据え、27年度に外国人向け入門公演「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」を試行的に実施した成果と課題等を踏まえ、歌舞伎(2回)、文楽(本館及び文楽劇場)、能楽、組踊にジャンル及び上演回数を拡大し、各館で実施する。実施に際しては、解説や外国語表示等に工夫を凝らし、当日の受け入れ態勢等のサービスにも留意する。

《主要な業務実績》

1. 主に青少年を対象とした公演

- ・ 歌舞伎鑑賞教室2公演、文楽鑑賞教室2公演(本館、文楽劇場)、能楽鑑賞教室1公演、沖縄芝居鑑賞教室1公演、組踊鑑賞教室1公演、合計7公演を計画どおり実施
- ・ 6月能楽鑑賞教室(全10公演)は前年度に続き全席を完売(有料入場率100.0%)

2. 社会人や親子等を対象とした入門企画・公演

(本館)

- ・ 6月・7月歌舞伎鑑賞教室で「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」を、6月歌舞伎鑑賞教室で「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」を、7月歌舞伎鑑賞教室で「親子で楽しむ歌舞伎教室」を実施

「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」は前年度の試行的実施を踏まえ回数を2回に拡大

- ・ 5月文楽鑑賞教室で「社会人のための文楽鑑賞教室」を実施
- ・ 5月文楽鑑賞教室で「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」を実施【新規】
- ・ 6月特別企画公演〈伝統芸能の魅力〉で「雅楽を楽しむ」「日本舞踊を楽しむ」「声明を楽しむ」「邦楽を楽しむ」を実施

(演芸場)

- ・ 7月特別企画公演「親子で楽しむ演芸会」を実施
(能楽堂)
- ・ 6月能楽鑑賞教室で「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を実施【新規】
- ・ 8月企画公演で「働く貴方に贈る」「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」を実施
(文楽劇場)
- ・ 6月文楽鑑賞教室で「社会人のための文楽入門」を実施
- ・ 6月文楽鑑賞教室で「Discover BUNRAKU—BUNRAKU for Beginners—」を実施【新規】
- ・ 夏休み文楽特別公演第一部を「親子劇場」として実施し、新作文楽を上演
(国立劇場おきなわ)
- ・ 普及公演で、4月「琉球舞踊鑑賞教室」、6月「社会人のための組踊鑑賞教室」、8月「親子のための組踊鑑賞教室」を実施
- ・ 11月組踊鑑賞教室で「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」を実施【新規】

《業務実績詳細》

1. 公演実績

(1) 主に青少年を対象とした公演(再掲)

公演名		劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」「新血 屋舗月雨暈—魚屋宗五郎—」	本館 大劇場	6/2(木) ~24(金)	実績	46回	23日	57,879人	(82.8%)	69,920人
				計画	46回	23日	55,000人	(78.7%)	69,920人
	7月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」「卅三間 堂棟由来」		7/3(日) ~24(日)	実績	44回	22日	59,635人	(89.2%)	66,880人
				計画	44回	22日	60,900人	(91.1%)	66,880人
文楽	5月文楽鑑賞教室 解説「文楽の魅力」「曾根崎心 中」	本館 小劇場	5/11(水) ~23(月)	実績	24回	13日	13,125人	(98.9%)	13,272人
				計画	24回	13日	13,000人	(98.0%)	13,272人
	6月文楽鑑賞教室 「二人三番叟」解説「文楽へよう こそ」「夏祭浪花鑑」	文楽劇場	6/3(金) ~16(木)	実績	28回	14日	19,719人	(96.3%)	20,468人
				計画	28回	14日	18,500人	(90.4%)	20,468人
能楽	6月能楽鑑賞教室 解説、狂言「柿山伏」、能「小鍛 冶」	能楽堂	6/20(月) ~24(金)	実績	11回	5日	6,893人	(99.9%)	6,897人
				計画	11回	5日	6,395人	(92.7%)	6,897人
組踊	沖縄芝居鑑賞教室 喜劇「沖縄芝居入門~つる・か め・とらと沖縄芝居~」、舞踊劇 「棒しばり」	国立劇場 おきなわ 大劇場	9/15(木) ~17(土)	実績	3回	3日	1,245人	(72.1%)	1,726人
				計画	3回	3日	1,379人	(80.0%)	1,724人
	組踊鑑賞教室「執心鐘入」		11/16(水) ~19(土)	実績	6回	4日	2,584人	(74.5%)	3,468人
				計画	6回	4日	2,764人	(80.0%)	3,455人
【伝統芸能分野 合計】 7公演(計画:7公演)				実績	162回	84日	161,080人	(88.2%)	182,631人
				計画	162回	84日	157,938人	(86.5%)	182,616人

(2) 社会人や親子等を対象とした入門企画・公演(一部再掲)

公演名		劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	本館 大劇場	6/10(金)	実績	1回	1日	1,345人	(88.5%)	1,520人

歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「Discover KABUKI—外国人のための歌舞伎鑑賞教室—」	本館 大劇場	6/17(金)	実績	2回	1日	2,246人	(73.9%)	3,040人
	7月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」		7/8(金) ・15(金)	実績	2回	2日	1,874人	(61.6%)	3,040人
	7月歌舞伎鑑賞教室 「親子で楽しむ歌舞伎教室」		7/18(月・祝) ～24(日)	実績	14回	7日	18,771人	(88.2%)	21,280人
文楽	5月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽鑑賞教室」	本館 小劇場	5/13(金)・ 16(月)・20(金)	実績	3回	3日	1,639人	(98.8%)	1,659人
	5月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKU—外国人のための文楽鑑賞教室—」		5/23(月)	実績	1回	1日	538人	(97.3%)	553人
	6月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽入門」	文楽劇場	6/7(火) ・13(月)	実績	2回	2日	1,302人	(89.1%)	1,462人
	6月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKU—BUNRAKU for Beginners—」		6/12(日)	実績	1回	1日	528人	(72.2%)	731人
	夏休み文楽特別公演 (第一部「親子劇場」) 「五条橋」解説「ぶんらくってなあに」 「新編西遊記 GO WEST! 玉うさぎの涙」		7/23(土) ～8/9(火)	実績	18回	18日	8,997人	(68.4%)	13,158人
舞踊・邦楽等	6月 第5回伝統芸能の魅力 「雅楽を楽しむ」 ／「日本舞踊を楽しむ」	本館 小劇場	6/4(土)	実績	2回	1日	936人	(79.3%)	1,180人
	6月 第6回伝統芸能の魅力 「声明を楽しむ」 ／「邦楽を楽しむ」		6/11(土)	実績	2回	1日	933人	(79.1%)	1,180人
大衆芸能	【特別企画公演】 親子で楽しむ演芸会	演芸場	7/23(土)	実績	1回	1日	294人	(98.0%)	300人
能楽	6月能楽鑑賞教室 「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」	能楽堂	6/24(金)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
	【企画公演】 働く貴方に贈る		8/4(木)	実績	1回	1日	617人	(98.4%)	627人
	【企画公演】 親子で楽しむ能の会		8/6(土)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
	【企画公演】 親子で楽しむ狂言の会		8/27(土)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
組踊等	琉球舞踊鑑賞教室 歌舞劇「はじめての琉球舞踊～やぎ・うし・とりと琉球舞踊～」	国立劇場 おきなわ 大劇場	4/16(土)	実績	1回	1日	338人	(59.5%)	568人
	社会人のための組踊鑑賞教室 「二童敵討」		6/11(土)	実績	1回	1日	413人	(71.5%)	578人
	親子のための組踊鑑賞教室 「万歳敵討」		8/6(土)	実績	1回	1日	343人	(59.3%)	578人
	組踊鑑賞教室 「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」		11/19(土)	実績	1回	1日	311人	(53.8%)	578人

(3) 全国各地の文化施設等における公演(再掲)

①6月歌舞伎鑑賞教室静岡公演

6/26、2回、静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ

共催：公益財団法人静岡県文化財団、静岡県 ほか

入場者数：1,406人

②7月歌舞伎鑑賞教室神奈川公演

7/26～27、4回、神奈川県立青少年センター

共催：かながわ伝統芸能祭実行委員会

入場者数：1,388人

2. 営業・広報

- ・ 本館、演芸場、能楽堂、文楽劇場が行う親子を対象とした公演について、振興会ホームページにそれぞれの親子企画を紹介する特設サイトを設置し、併せてトップページのバナーから誘導することにより対象者に狙いを絞った広報を行った。また、親子特別料金を設定して販売促進を図った。
- ・ マスコミへの宣伝材料の提供、ポスター・チラシ・インターネット・各会員組織の会報・振興会ニュースの配信・配布、新聞広告等により公演の周知を図った。

(本館)

- ・ 鑑賞教室公演の企画内容の周知と学校団体客の集客のため、関東甲信越地方の中学校・高等学校及び首都圏の専門学校を中心にDMを送付した(2回、のべ13,376通)。
- ・ 修学旅行の内容検討の際に広く全国の学校に活用されている月刊誌「教育旅行」(発行：公益財団法人日本修学旅行協会)10月号に、本館歌舞伎・文楽鑑賞教室のカラー広告(裏表紙)を出稿し、修学旅行での利用をアピールした。
- ・ 「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」及び「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」の集客のため、大学留学生センター・留学生支援団体・日本語学校等の外国人関係団体・ホテル・観光案内所を個別訪問した。また、「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」において、各国駐日大使等大使館関係者、旅行社の訪日外国人観光客部門及びホテルの担当者の特別招待を実施した。
- ・ 7月歌舞伎鑑賞教室内の企画「親子で楽しむ歌舞伎教室」において、専用チラシを東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県の小中学校及び教育委員会に送付したほか、上演期間中は劇場ロビー及び伝統芸能情報館で子供向けの各種イベントを開催した。
- ・ 29年度の鑑賞教室利用促進のため、過去3年間観劇履歴のない首都圏の高等学校・専門学校等の担当者及び教育委員会担当者を対象に鑑賞教室の企画説明及び鑑賞教室公演の観劇による「劇場見学会」を実施した(6月・7月歌舞伎鑑賞教室期間中に7回実施。参加者数：63校99名)。

(演芸場)

- ・ マスコミへの宣伝材料の提供、ポスター・チラシ・インターネット・あぜくら会会報・振興会ニュースの配信・配布、新聞広告等により公演の周知を図り、集客に努めた。

(能楽堂)

- ・ 6月能楽鑑賞教室では、特別チラシ(7,000枚)を作成し、都内・近県の学校及び過去の利用団体に配布して集客を図った。
- ・ 8月企画公演「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」では、特別チラシ(15,000枚)を作成し、渋谷区内の全小学校ほかに配布・設置して集客を図った。また、公演当日ロビーにおいて、「能の会」では楽器のワークショップ、「狂言の会」では狂言面を着けられる体験イベントを開催した。
- ・ 8月企画公演「働く貴方に贈る」では、特別チラシ(15,000枚)を作成・配布して集客を図った。

(文楽劇場)

- ・ 学校へ団体観劇案内のDMを送付したほか、「社会人のための文楽入門」への集客のために、大阪府教育委員会の協力を得て、同会の府立高校教職員向けホームページ(ポータルサイト)に案内を掲載した。
- ・ 大阪市と協力し、市からの在関西各国領事館への定期便等にて「Discover BUNRAKU」のチラシ配布、団体勧誘及び公演周知を行った。
- ・ 大阪市主催の親子劇場優待事業による販売促進のために専用チラシを作成し、市内小学校・中学校他へ配布した。
- ・ インターネット会員[NTJメンバー]、国立文楽劇場友の会及びあぜくら会のインターネットユーザー

登録者を対象に、発売日等の公演情報をメール配信した。

- ・ 夏休み文楽特別公演子供向けチラシを、奈良市・生駒市・尼崎市・西宮市・守口市の5市の教育委員会に依頼し小・中学校へ配布を行った。
- ・ 「Discover BUNRAKU」の開催に当たって近畿2府4県の国際交流プログラム等を持つ大学へDMを送り、団体勧誘及び公演周知を行った(127件)。
- ・ 外国語大学・外国語専門学校、国際交流センター、韓国文化院、日本文化研究所、大阪市内図書館(外国人資料コーナー)、近隣の博物館等で「Discover BUNRAKU」チラシを配布し公演周知を行った(約50件)。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」では、英語通訳付きのワークショップの開催、多言語パンフレット及び英語版公演チラシの作成、外国人向け情報誌への広告掲載、旅行代理店及び外国人関係団体への公演案内、旅行代理店と連携したツアーの企画、近隣ホテルへの営業等の誘客活動を展開した。
- ・ 社会人のための組踊鑑賞教室「二童敵討」では、チラシ2種(仮チラシ3,500枚、本チラシ13,000枚)を作成・配布した。
- ・ 親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」では、チラシ2種(仮チラシ3,500枚、本チラシ13,000枚)を作成・配布した。
- ・ 組踊鑑賞教室「執心鐘入」では、チラシ1種(4,000枚)を作成し、県内全小中学校・高校・専門学校・大学へ配布した。
- ・ 「琉球舞踊鑑賞教室」では、チラシ2種(仮チラシ3,500枚、本チラシ13,000枚)を作成・配布した。
- ・ 「沖縄芝居鑑賞教室」では、チラシ2種(仮チラシ3,500枚、本チラシ13,000枚)を作成・配布した。

3. アンケート調査

(本館)

- ・ 6月歌舞伎鑑賞教室で実施(6/6、17)。
回答数2,247人(配布数3,321人、回収率67.7%)。回答者の83.0%が概ね満足と答えた(1,865人)。
- ・ 7月歌舞伎鑑賞教室で実施(7/8)。
回答数738人(配布数1,036人、回収率71.2%)。回答者の81.2%が概ね満足と答えた(599人)。
- ・ 6月伝統芸能の魅力「雅楽を楽しむ」「日本舞踊を楽しむ」で実施(6/4)。
回答数646人(配布数887人、回収率72.8%)。回答者の89.8%が概ね満足と答えた(580人)。
- ・ 6月伝統芸能の魅力「声明を楽しむ」「邦楽を楽しむ」で実施(6/11)。
回答数616人(配布数842人、回収率73.2%)。回答者の89.8%が概ね満足と答えた(553人)。

(演芸場)

- ・ 7月特別企画公演「親子で楽しむ演芸会」で実施(7/23)。
回答数111人(配布数159人、回収率69.8%)。回答者の91.9%が概ね満足と答えた(102人)。

(能楽堂)

- ・ 8月企画公演「夏休み親子で楽しむ能の会」で実施(8/6)。
回答数121人(配布数238人、回収率50.8%)。回答者の93.4%が概ね満足と答えた(113人)。
- ・ 8月企画公演「夏休み親子で楽しむ狂言の会」で実施(8/27)。
回答数128人(配布数220人、回収率58.2%)。回答者の86.7%が概ね満足と答えた(111人)。

(文楽劇場)

- ・ 6月文楽鑑賞教室で実施(6/12、13)。
回答数532人(配布数1,069人、回収率49.8%)。回答者の93.0%が概ね満足と答えた(495人)。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 「琉球舞踊鑑賞教室」で実施(4/16)。
回答数179人(配布数250人、回収率71.6%)。回答者の93.9%が概ね満足と答えた(168人)。
- ・ 社会人のための組踊鑑賞教室「二童敵討」で実施(6/11)。
回答数184人(配布数250人、回収率73.6%)。回答者の85.3%が概ね満足と答えた(157人)。
- ・ 親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」で実施(8/6)。
回答数155人(配布数250人、回収率62.0%)。回答者の98.7%が概ね満足と答えた(153人)。
- ・ 「沖縄芝居鑑賞教室」で実施(9/16、17)。
回答数210人(配布数290人、回収率72.4%)。回答者の95.7%が概ね満足と答えた(201人)。
- ・ 組踊鑑賞教室「執心鐘入」で実施(11/16～19)。

回答数 493 人(配布数 601 人、回収率 82.0%)。回答者の 91.1%が概ね満足と答えた(449 人)。

【特記事項】

- ・ 公演内容等の理解を促進するため、「親子で楽しむ歌舞伎教室」「能楽鑑賞教室」「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」「社会人のための組踊鑑賞教室」「親子のための組踊鑑賞教室」「組踊鑑賞教室」「沖縄芝居鑑賞教室」では、イラスト入りの分かりやすいパンフレットを作成し、無料配布した。
- ・ 各館で実施した外国人向けの入門公演では、日本語のほか多言語の特別パンフレットを作成して、無料配布した。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 161,080 人／目標 157,938 人(達成度 102.0%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

A

(根拠)

- ・ 各分野とも年度計画どおり公演を実施し、伝統芸能分野全体で目標入場者数を達成した。
- ・ 青少年を対象とした鑑賞教室に加え、日頃伝統芸能に触れる機会の少ない社会人等を対象とした公演や、親子を対象とした公演の各館で実施することにより、伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図る取組を継続した。
- ・ 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムの一環として、「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」を 2 回に拡大して実施した。多言語による音声解説に加え、英語字幕の表示も行い好評を得た。また文楽・能楽・組踊等沖縄伝統芸能の各分野において、新たに外国人向け公演を実施した。実施に際しては、解説部分の構成のほか、大使館・学校等への働きかけ、字幕表示、多言語によるパンフレット配布、当日の外国人来場者の受け入れ態勢等について工夫を凝らしてサービスを向上させ、観客や外部専門家等から高く評価された。27 年度に試行した「Discover KABUKI」の成果や課題を踏まえ、外国人向け伝統芸能公演を拡大実施することができた。
- ・ 〈伝統芸能の魅力〉シリーズを継続し、舞踊・邦楽・雅楽・声明の入門公演を継続して実施した。テーマを明確に打ち出すなど企画面での充実に加え、体験コーナーを開演前に設定したことが体験時間の拡大と体験者の増加に繋がったことについて、高い評価を得た。

○ 良かった点・特色ある点

(本館)

- ・ 歌舞伎鑑賞教室は学生を中心に、親子・社会人・外国人も含めて好調な動員を重ねた。
- ・ 6 月歌舞伎鑑賞教室では、庶民の生活を描いた世話物の演目を取り上げ、青少年及び社会人から内容が分かりやすいとの評価を得た。また、「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」では、解説の工夫や初の試みである英語字幕の表示等が、外国人観客の演目に対する理解に大きく貢献した。
- ・ 7 月歌舞伎鑑賞教室では上演頻度が稀な義太夫狂言を取り上げ、作品のテーマが夫婦や親子の情愛という分かりやすい内容だったため、親子や社会人も含めて、観客に広く受け入れられた。
- ・ 前年度の好評を受けて公演回数を 2 回に拡大した「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」及び 28 年度新規実施の「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」の集客のため、それぞれ専用のチラシを作成して、大学留学生センター等の外国人関係団体やホテル・観光案内所に周知を行った結果、多くの外国人来場者を得ることができた。

(演芸場)

- ・ 「親子で楽しむ演芸会」では、冒頭の落語と解説から観客の興味を引きつけることができた。パントマイム、アニメの声優を務めている講談師による講談、マジック、紙切り、そしてテレビでお馴染みの林家たい平の登場と、息つくひまなく客席から身を乗り出すようにして高座に釘付けになる子供達の視線が感じられ、演芸への興味と関心を大いに喚起できた公演となった。
- ・ ロビーに風船や造花を飾り付けて、楽しい雰囲気盛り上げ、子供たちに喜ばれた。

(能楽堂)

- ・ 能楽鑑賞教室では、初心者にも分かりやすい内容の狂言「柿山伏」と能「小鍛冶」を取り上げた。全公演が完売となり、次世代の鑑賞者の育成に貢献した。
- ・ 公演内容等の理解を促進するため、「能楽鑑賞教室」「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」ではイラスト入りの分かりやすいパンフレットを作成し、無料配布した。また、座席字幕表示装置を活用して、「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」では子ども向けチャンネルを追加して3チャンネル方式とし、分かりやすい解説を表示して、観客層に合わせたきめ細かい字幕表示を行い、好評であった。

(文楽劇場)

- ・ 文楽鑑賞教室について、本年度も演者を4班に分ける形で実施し、概ね好意的に受け取られた。また、「社会人のための文楽入門」及び「Discover BUNRAKU—BUNRAKU for Beginners—」では、解説部分の構成を外部(落語作家のくまざわあかね氏)に委託し、形式を一新したことも評価された。芝居を上演していく中にナビゲーターが入って演者に質問を加える進行形式は、今後の定番の一つとなったと言える。ナビゲーターに知名度の高い浪曲の春野恵子を立てたことにより、テレビ局をはじめとするマスコミにも大きく取り上げられた。
- ・ 夏休み文楽特別公演第一部「新編西遊記 GO WEST!」において台本及び舞台美術を一新し、新たなシリーズとしての展開が可能となった。また、第三部において「金壺親父恋達引」を初めて文楽で舞台上演することができ、観劇した原作者・井上ひさし氏の親族や関係者からも高い評価を受けた。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 6月、8月の組踊鑑賞教室では、例年に続き、解説の代わりに「組踊版・シンデレラ」を上演した。ストーリーの流れに合わせ組踊の見方や約束事を楽しく学ぶスタイルが28年度も好評であった。また、27年度から企画している「琉球舞踊鑑賞教室」「沖縄芝居鑑賞教室」も同様のスタイルで実施し、やぎ・うし・とらを登場させた歌舞劇「はじめての琉球舞踊」、喜劇「沖縄芝居入門〜つる・かめ・とらと沖縄芝居〜」の創作上演により、それぞれ琉球舞踊、沖縄芝居の歴史や鑑賞のポイントなどを分かりやすく解説して、観客の興味をひきつけ、スムーズに鑑賞してもらうことができた。
- ・ 「組踊鑑賞教室」及び「沖縄芝居鑑賞教室」では、学校行事としての参加を促すため、公演の前年度から営業活動に取り組んだ結果、多くの学校団体の来場を得た。
- ・ 「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」では、英語通訳付きのワークショップの開催、多言語パンフレット及び英語版公演チラシの作成、外国人向け情報誌への広告掲載、旅行代理店及び外国人関係団体への公演案内、旅行代理店と連携したツアーの企画、近隣ホテルへの営業等の誘客活動を展開した。

<2> 現代舞台芸術分野

《制作方針》

新国立劇場では、青少年を対象とした鑑賞教室等を実施し、新たな観客層の育成を図るとともに、現代舞台芸術の普及と理解促進を図る。

《主要な業務実績》

1. 主に青少年を対象とした公演

- ・ オペラ鑑賞教室 1 公演、こどものためのバレエ 1 公演、合計 2 公演を計画どおり実施
- ・ 2 公演ともに目標入場者数を達成(達成度 113.9%)
- ・ 新制作「こどものためのバレエ劇場『白鳥の湖』」公演では、こどもバレエとして過去最高の入場者数(11,453人)を記録

《業務実績詳細》

1. 公演実績

(1) 主に青少年を対象とした公演(再掲)

公演名		劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	
オペラ	高校生のためのオペラ鑑賞教室「夕鶴」	オペラ劇場	7/9(土) ～15(金)	実績	6回	6日	9,500人	(89.2%)	10,653人	
				計画	6回	6日	9,400人	(88.5%)	10,620人	
バレエ	こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」(新制作)		7/21(木) ～24(日)	実績	8回	4日	11,453人	(96.0%)	11,936人	
				計画	8回	4日	9,000人	(75.4%)	11,936人	
【現代芸術分野 合計】				2 公演	実績	14回	10日	20,953人	(92.8%)	22,589人
					計画	14回	10日	18,400人	(81.6%)	22,556人

(2) 全国各地の文化施設等における公演(再掲)

① 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演「フィガロの結婚」(共催公演)

10/26・28、2回、ロームシアター京都

主催：京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、公益財団法人新国立劇場運営財団

入場者数：3,095人

② こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」

9/19、1回、サンポートホール高松

主催：高松市、公益財団法人高松市文化芸術財団

入場者数：1,315人

③ 新国立劇場合唱団外部出演公演

- ・ 長野県北信地区高等学校芸術鑑賞会

6/10、2回、ホクト文化ホール(長野県県民文化会館)

主催：長野県北信地区芸術鑑賞連絡会、長野県教育委員会

- ・ 平成28年度文化芸術による子供の育成事業

6/16～12/12、21回、神奈川県・静岡県・愛知県及び岐阜県の小・中学校内体育館

主催：文化庁

2. 営業・広報

- ・ 高校生のためのオペラ鑑賞教室「夕鶴」では、前年度9月に首都圏1,300校に募集要項を送付したほか、電話営業、東京都私立中学・高等学校協会経由での募集要項配布も行った。
- ・ こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」では、マスコミ各社への情報提供、ポスター、チラシ、DM、インターネット、会員会報誌等により公演の周知を図り、集客に努めた。さらにSNS(Twitter、Facebook)

やメール(ジュニア公演先行 DM メンバー、U15 ファミリー優待メンバーズ、バレエ/ダンス DM メンバー)を活用し、公演の興味喚起を図った。

3. アンケート調査

- ・ 高校生のためのオペラ鑑賞教室「夕鶴」で実施(全日程)。
回答数 4,893 人(配布数 9,500 人、回収率 51.5%)。回答者の 81.2%が概ね満足と答えた(3,972 人)。
- ・ こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」で実施(7/24)。
回答数 90 人(配布数 892 人、回収率 10.1%)。回答者の 94.4%が概ね満足と答えた(85 人)。

【特記事項】

- ・ こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」公演期間中、子供向け公演の DM メンバーに登録した来場者に新国立劇場オリジナルグッズ(学習ノート)を登録特典としてプレゼントし、2,126 件の登録を得た。
- ・ こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」公演期間中、オペラ劇場ホワイエに、バルーンアートやゲームコーナー、ネイル、ボディペインティングコーナー等を設置し、劇場で楽しく過ごせる雰囲気作りに努めた。
- ・ 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演に合わせて、28 年度より公演会場となったロームシアター京都にて、オペラ鑑賞教室の歴史や公演の舞台写真、衣裳、舞台模型等を展示した。
「オペラの扉 ～ Knock the Door, Opera Exhibition ～」
9/27～11/30、ロームシアター京都「ミュージックサロン」
主催：公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション、公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団
共催・制作：新国立劇場、協賛：ローム株式会社

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 20,953 人／目標 18,400 人(達成度 113.9%)

《自己点検評価》

○ 自己評価

B

(根拠)

- ・ 2 公演を年度計画どおり実施し、入場者数については 2 公演ともに目標を上回った。
 - ・ いずれの公演も青少年向け公演として観客や外部専門家から極めて高い評価を得た(アンケート満足回答率 81.4%)。
 - ・ 新制作「こどものためのバレエ劇場『白鳥の湖』」では、バレエに初めて触れる子供たちにも理解しやすく、かつ最高水準の作品を上演することができた。またこどもバレエとして過去最高の入場者数・入場率(入場者数 11,453 人、入場率 96.0%)を記録した。
 - ・ 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演に合わせて、28 年度より公演会場となったロームシアター京都にて、オペラ鑑賞教室の歴史や公演の舞台写真、衣裳、舞台模型等を展示し、オペラ作品理解に寄与するとともに舞台芸術への興味を喚起した。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 高校生のためのオペラ鑑賞教室では、初の試みとして、シーズン主催公演から指揮者のみが代わり鑑賞教室を行った。稽古スケジュールの調整を効率的に行い、スムーズに移行し上演できた。
 - ・ 新制作「こどものためのバレエ劇場『白鳥の湖』」では、バレエに初めて触れる子供たちにも理解しやすい作品を上演することができた。また、主役に 4 キャストを配し、ダンサー育成にも成功した。
 - ・ 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演に合わせて、28 年度より公演会場となったロームシアター京都にて、オペラ鑑賞教室の歴史や公演の舞台写真、衣裳、舞台模型等を展示し、オペラ作品理解に寄与するとともに舞台芸術への興味を喚起した。

2-(4) 快適な観劇環境の形成

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(5) 快適な観劇環境の形成

観客本位の快適な環境の形成のために行うサービスの向上

- ア 高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適で安全な劇場施設の整備、各種サービスの充実
- イ 入場券販売において、利用者にとって利便性の高い多様な購入方法の提供
- ウ 解説書等の作成、音声同時解説や字幕表示、公演内容の説明会等などのサービスの提供
- エ アンケート調査や劇場モニターの活用等

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(5) 快適な観劇環境の形成

- ア 売店・レストラン等におけるサービスの充実、観劇時のマナーの呼びかけ
高齢者、障害者、外国人等の利用者にも配慮した劇場内外の環境整備等各種サービスの充実
- イ 入場券販売における観客の利用形態に応じた多様な購入方法の提供
- ウ 公演内容に応じて、解説書等の作成並びに音声同時解説及び字幕表示の実施
鑑賞団体等に対し、公演内容の事前説明会や施設見学会を開催
- エ アンケート調査等の活用により、観客等の要望、利用実態等を把握、サービス向上に活用
意見・要望の一元的管理、対応の迅速化と職員間の情報共有の強化、内容の集計・分析結果をサービス向上に活用

《主要な業務実績》

1. 快適で安全な観劇環境の提供、外国人利用者等への対応

- ・ 観客用設備の適切な維持管理・改善を実施
- ・ 各館の売店・レストランのサービス改善のため、アンケート調査及び委託業者との定期的な会議を実施
- ・ 職員や委託業者等による消防訓練、避難訓練等を実施するとともに、利用者の安全を確保するための設備改修等を実施
- ・ 外国人利用者への対応として、劇場内外の案内表示の整備、外国語によるチラシ・リーフレット等を提供
- ・ 障害者差別解消法の施行に伴い、相談窓口を設置
- ・ その他、観客サービスの向上に繋がる取組を適宜実施
- ・ 国立劇場開場 50 周年記念公演上演に当たり観客用設備の整備及び特別仕様のチケットケースやオリジナルグッズを作成

(伝統芸能分野)

- ・ 快適な観劇環境を促進するためのマナーチラシ(日本語・英語)を作成
- ・ 国立劇場開場 50 周年記念公演の開始に合わせた装飾等の整備を実施
- ・ 隼町地区敷地内の道路及び駐車場の白線引き直し等を実施
- ・ 本館大劇場及び小劇場のロビー床及び便所ブースの改修工事を実施
- ・ 本館大劇場及び能楽堂のロビー階段の手摺を増設
- ・ 本館大劇場にて、四季を感じられるロビー飾り等を実施
- ・ 文楽劇場の 1 階ロビーと 2 階劇場を結ぶ大階段中央に手摺を新設
- ・ 各館の外国人向け公演において、パンフレットの作成及び字幕表示等の多言語対応を実施

(現代舞台芸術分野)

- ・ 劇場内に大型フロアマップやピクトグラムを設置して来場者の動線を補助、掲示パネルを大型化して情報の視認性を向上
- ・ レストラン、売店に加え、2階ブリッジでカフェを営業(開演前等に適宜営業)
- ・ オペラ劇場・中劇場の客席を補修、長時間の着席による疲労を軽減するクッション(レンタル)を開発

- ・ オペラ劇場プロムナードに続き小劇場ホワイエにテーブルとイスを増設
- ・ 劇場ホワイエの各種展示や動画上映等、公演内容とその観客に合わせた観劇環境の提供
- ・ 英語版公式サイトを充実させるとともに、英語版SNS(Facebook、Instagram)を開始し情報発信
- ・ 日本政府観光局、各国大使館・文化機関、外国人記者会、国際交流基金等外部団体の協力を得て広く情報提供、周知展開

2. 多様なチケット購入方法の提供

(伝統芸能分野)

- ・ インターネットチケット販売においても障害者割引を開始し、障害者の利便性を向上
- ・ チケット売場窓口で使用できるクレジットカードのブランドを拡大し、利便性を向上
- ・ 本館・演芸場・能楽堂における親子企画公演の親子先行発売を実施
- ・ チケットセンターホームページに各館の親子企画を紹介する特設サイトを設置
- ・ 10～12月歌舞伎公演「仮名手本忠臣蔵」3か月通しセット券を販売
- ・ 三井記念美術館で開催された特別展「国立劇場開場 50周年記念 日本の伝統芸能展」の観覧者(10月～3月歌舞伎公演、12月・2月文楽公演)や読売新聞読者(3月歌舞伎公演)に対し、特別割引販売を実施
- ・ 東日本大震災被災者招待を実施
- ・ 文楽劇場における文楽本公演で幕見席を販売

(現代舞台芸術分野)

- ・ 税込1,620円で一人1枚のみ公演当日に販売するZ席の販売方法を改善(オペラ、バレエ公演)するとともに、英語版Webボックスオフィスでも同Z席の取り扱いを追加
- ・ 若年層向け特別優待制度の情報伝達手段にLINEを新規導入

3. 公演内容等の理解促進のための取組

- ・ 公演内容に適した解説書等を作成

(伝統芸能分野)

- ・ 歌舞伎・文楽公演にて音声同時解説を実施、計106公演において字幕表示を実施
- ・ 公演内容の事前説明会を216件8,315名、施設見学会を52件944名、バックステージツアーを107件3,664名に対し開催
- ・ 国立劇場おきなわで、旅行者者と提携した組踊鑑賞ツアーにおいて、公演鑑賞前に組踊ワークショップを実施し、計8回で78名が参加

(現代舞台芸術分野)

- ・ 計9公演において字幕表示を実施
- ・ 公演内容の事前説明会を10件3,166名、施設見学会を57件779名、バックステージツアーを15件394名に対し開催

4. 意見・要望等の把握と対応

- ・ 意見・要望等を一元的に把握し、より迅速に対応
- ・ 対応状況に関し全役職員及び委託業者で情報を共有
- ・ 意見・要望等を踏まえサービス等を改善
- ・ 意見・要望等を集計・分析

《自己点検評価》

○ 自己評定

伝統芸能分野
B

(根拠)

- ・ 快適で安全な観劇環境の提供のため、設備等の整備やサービスの改善を適切に実施した。
- ・ 観客の利用傾向や要望に応じて、親子を対象とする公演の先行販売等、チケット購入における利便を図った。
- ・ 公演内容に応じて、解説書や音声同時解説、字幕表示、公演説明会等のサービスを実施し、公演内容の理解のための一助とした。
- ・ 意見・要望等により迅速に対応し、サービスの向上等業務改善を図った。
- ・ 意見・要望等を集計し、前年度データとの比較・分析を行った。
- ・ 観客食堂サービス向上推進チームの活動を通じ、食堂サービスの改善に努めた。
- ・ 障害者差別解消法の施行に伴い、振興会ホームページ内に相談窓口を設けるなど、相談体制の整備に

努めた。

- ・ 本館大劇場ロビーにおいて来場者が日本の四季を感じられるよう、季節ごとに造花等を飾り、ライティングを行った。
- ・ 国立劇場開場 50 周年記念公演上演に当たり、特別仕様のチケットケースやオリジナルグッズを作成した。
- ・ 千代田区等と連携して「国立劇場通り」等に提灯や懸垂幕の装飾を取付け、来場者に国立劇場開場50周年をPRするとともに、来場時の高揚感や観劇後の余韻を楽しめるよう努めた。
- ・ 本館大劇場及び小劇場の絨毯を全面更新し、華やかなロビー空間を演出した。また、本館大劇場及び小劇場の便所ブースを更新し、個室空間スペースの充実を図った。
- ・ 本館大劇場及び能楽堂等のロビー階段の手摺を増設し、来場者の安全性を高めた。
- ・ 隼町地区敷地内の道路及び駐車場の白線を引き直すなど、敷地内交通の整理と歩行者の安全を図った。

現代舞台芸術分野

B

(根拠)

- ・ 快適で安全な観劇環境の提供のため、引き続き案内表示や掲示を改善するとともに、カフェの営業やクッションの開発等を新しく実施した。
- ・ 観客の利用傾向や要望に応じて、チケット購入や割引サービス利用時の利便性を高めた。
- ・ 公演内容に応じて、解説書や字幕表示、公演説明会等のサービスを実施し、公演内容の理解の一助とした。
- ・ 観客からの意見・要望について、各部署での情報共有を行い、様々なサービス改善に繋げた。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 公演内容に応じた解説書等の作成や字幕表示サービス、観劇団体等の要望に応じた公演説明会等を実施し、公演内容の理解促進を図った。
- ・ 観客からの意見・要望を関係部署で共有し、迅速な回答を行った。また、設備の適切な整備やサービスの改善に繋げた。

(伝統芸能分野)

- ・ 親子を対象とする公演について、本館・演芸場・能楽堂・文楽劇場の4館が合同で販売キャンペーンを実施し、「親子を対象とする伝統芸能の公開」という振興会の事業を推進することができた。
- ・ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムの一環として、歌舞伎・文楽・能楽・組踊の各分野において外国人向け公演を実施し、各館で多言語による解説書、音声同時解説、字幕表示の提供、接客サービス等を行った。
- ・ 公演内容に応じた解説書等の作成や字幕表示サービス、観劇団体等の要望に応じた公演説明会等を実施し、公演内容の理解促進を図った。
- ・ 観客からの意見・要望を関係部署で共有し、迅速な回答を行った。また、設備の適切な整備を行いサービスの改善に繋げた。
- ・ 国立劇場開場 50 周年記念公演上演に当たり、特別仕様のチケットケースやオリジナルグッズを作成した。
- ・ 「国立劇場通り」等の装飾においては実施に至る交渉等により、千代田区や近隣町会との連携強化を図ることができた。
- ・ 本館大劇場及び小劇場のロビー絨毯を更新することにより明るく華やかな空間が創出された。また、便所ブースの扉に外側へ弧を描く仕様を導入したことにより個室空間の充実が図られた。
- ・ 本館大劇場及び能楽堂等のロビー階段の手摺増設、隼町地区敷地内道路等の白線引き直しを実施するなど来場者の安全・安心に配慮した。
- ・ 本館大劇場及び演芸場では、季節ごとにロビー飾りを行い、照明による効果もあり、ロビーに明るさや季節感あふれる華やかさが創出された。
- ・ 演芸場では、正面玄関のインフォメーションディスプレイ(デジタルサイネージ)を新機種に入れ替えたため、出演者の表示が見やすくなり、観客サービスの向上が図られた。
- ・ ホームページの公演情報にタイムテーブルを掲載するようにし、観客サービスを充実させた。

(現代舞台芸術分野)

- ・ 観客の利用傾向・要望の把握に努め、実際の様々なサービス改善に繋げることができた。

- ・ 劇場内の大型フロアマップやピクトグラム、掲示パネルの大型化等、表示案内を工夫して来場者のスムーズな移動に役立てた。
 - ・ 2階ブリッジでカフェを営業し、小劇場ではホワイエのテーブルとイスを増設するなど、開演前や休憩時間中を快適に過ごせる場を来場者に提供できた。
 - ・ 長時間の着席による疲労を軽減するクッションをメーカーと共同開発し、観客に供した。
 - ・ 英語版公式サイトを引き続き改修するとともに、英語版SNSを開始したほか、外部団体との連携協力等により英文情報がさらに充実した。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ バリアフリー化等、劇場施設の改善を引き続き検討する。
 - ・ サービスの質の維持・向上について、引き続き検証・改善に努める。

2-(4)-① 快適で安全な観劇環境の提供、外国人利用者への対応

《業務実績詳細》

1. 設備等の環境整備

- 各館の劇場受付、チケット売場等に筆談器具と筆談対応マーク(耳マーク)を設置した。

(本館)

- 本館大劇場及び小劇場ロビーの絨毯をより明るく華やかなデザインに更新した。また、便所ブースの扉を外側へ弧を描く仕様を導入するなどして更新した。
- 大劇場壁面に季節ごとに季節感を表す造花等の装飾を行った。(6月「若葉」、7月「笹」、10月「银杏」、11月「紅葉」、12月「寒椿」、3月「桜」)

(演芸場)

- 客席内のスピーカー(カラムスピーカー)、ワイヤレスマイクロホン及び舞台袖のスピーカー(トーマンタルスピーカー)を更新し、観客が聴き取りやすく改善されただけでなく、演者も高座を務めやすくなった。
- 場内のサインを見直し、ひと目で分かりやすく、かつ大劇場・小劇場と統一的なデザインとした。

(能楽堂)

- 能楽堂の建物は能楽の幽玄な世界に相応しい建築であり、観能の興趣をさらに醸成するよう、引き続き中庭の夜間ライトアップや庭園管理に努めて景観を保持した。
- ポータブル字幕画面の反射防止フィルムを、より反射の少ないものに更新した。

(文楽劇場)

- 安全性向上のため、観客が利用する1階ロビーと2階劇場を結ぶ大階段中央に手摺を新設した。
- 経年劣化が著しかった資料展示室を改装し、内装を一新させるとともに、新たに展示スペースの一面に、公演記録ほか展示に因んだ映像を流す「映像コーナー」(65型モニター)を新設した。

(新国立劇場)

- オペラ劇場及び中劇場の客席椅子について、観劇環境の向上及び予防保全の観点から補修・一部改修を行った。
- 3階ギャラリーへのコンセント設置等を行い、ディスプレイ等の活性化を図った。
- メインエントランス及び3階ギャラリーの一部照明器具を高効率LED照明に交換し、省エネルギー及び照度の向上を図った。
- 来場者の安全性向上の観点から、5階屋上庭園の階段に手摺を設置した。

2. 観客サービスの充実

- 一年の幕開けを寿ぎ、鏡開きや手拭いまき等、各館で正月のイベントを実施した。

(本館)

- 開演前の客席において、場内案内係による口頭での観劇マナーに関する注意喚起を行った。
- 保護者・子供向けのマナーチラシ・ポスターを設置した。
- 難聴者用ポータブル字幕の試用、熱中症対策ミストの設置等を行った。
- 音漏れ防止や障害者対応のため、イヤホンガイドの委託業者に改善を求め、骨伝導タイプのイヤホンガイドのテストを実施した。
- 観客食堂サービス向上推進チームは、27年度に引き続き観客食堂が提供する料理の品質及び接客サービスの向上等を図るための活動を行った。
- 10月から3月の歌舞伎公演の演目に因んだ特別メニューを観客食堂において提供した。また、ホームページに特別メニューの記事を掲載し、観客食堂の利用向上に努めた。
- 観客食堂のメニューに英語併記を行い、外国人利用者の利便性の向上に努めた。
- 観客食堂においてアンケートを実施し、観客からの意見を踏まえ、食堂業者及び担当部署との定期的な会議を行った。
- 公演内容に因んで、各地の観光協会等の協力により、劇場ロビー内に特設会場を設けて物産品等を販売した。
- 歌舞伎・文楽公演において託児サービスを行い、観客の利便を図った。また利用希望に応じ、その他の公演でも公演内容によって通常開設しない日にも開室し、サービスを提供した。
- 国立劇場開場50周年記念公演の開始に合わせ、半蔵門駅のホームやコンコース、駅から劇場までの街路灯やガードレール等を活用して国立劇場のロゴデザイン等を懸垂幕や提灯等で飾り、祝祭的な雰囲気

を創出した。

- ・ 国立劇場開場50周年記念公演上演に当たり、特別仕様のチケットケースやオリジナルグッズを作成した。
- ・ 3月歌舞伎公演において、特別席又は1等A席購入者で「特別な日」の記念に公演を鑑賞する方及びグループに対し、記念写真と粗品を贈呈するキャンペーンを実施し、50組の申込があった。

(演芸場)

- ・ 「国立劇場さくらまつり」会場で、「国立演芸場ご来場者プレゼント引換券」と4月定席チラシを配布し、公演の周知を図った。

(能楽堂)

- ・ 能面・能装束等をデザイン化したオリジナルグッズを、能楽堂内売店及び国立劇場売店で販売した。
- ・ レストランは公演状況に応じ開場前及び終演後も営業を行い、また売店は、公演中は一般の来場者でも買物ができるようにして、利用者の利便を図った。
- ・ 食堂、売店に関するアンケート調査を3月に実施し、結果について関係部署、食堂・売店業者間で意見交換を行い、一層のサービス向上に努めるよう指導した。
- ・ 7月<月間特集・能のふるさと 近江>に因み、ロビーで滋賀県長浜市及び滋賀県東京観光物産情報センターによる観光案内と名産品の販売を行い、ホームページ等で周知し集客を図った。また、演目ゆかりの地を示した滋賀県の地図をロビーに展示するとともに、レストランで滋賀県の特産品を使用した特別メニューを提供した。
- ・ 9月企画公演「女性能楽師による」に因み、着物で来場した女性のお客様に特製トートバックをプレゼントする企画を実施し、ホームページ等で告知し集客を図った。
- ・ 12月<月間特集・観世信光―没後500年―>に因み、信光作の演目の舞台写真やミニチュアの作り物等の展示をロビーで行った。
- ・ 1月定例公演(1/4)では、新年最初の公演に因み来場者全員に特製卓上カレンダーの配布を企画し、ホームページ等で告知し集客を図った。
- ・ 1/14まで能舞台に注連をはり、来場者に正月の雰囲気をお楽しみいただいた。

(文楽劇場)

- ・ 開演前の客席において、場内案内係による口頭及びプラカードでの観劇マナーに関する注意喚起を行った。
- ・ 劇場玄関で執り行う正月イベントにおいて、来場者に使い捨てカイロをプレゼントした。
- ・ 売店に文楽上演演目に因んだグッズ類を充実させて、観劇の雰囲気を盛り上げるように努めた。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 6月より、沖縄県の補助事業を活用して貸切バス費用助成事業を行った。
- ・ 8月企画公演「玉露の妖精」にて託児サービスを提供した。

(新国立劇場)

- ・ メインエントランスにある売店で、オペラ劇場公演日に劇場関連グッズ及び公演プログラムのバックナンバー等を販売した。
- ・ オペラ劇場の夜公演時に、劇場内で人数限定のbuffet「パレスサロン」を行い、飲食サービスを提供した。
- ・ オペラ劇場における公演日に、開演の90分前より2階ブリッジにてカフェの営業を行った。
- ・ 演劇「ヘンリー四世」の第一部・第二部連続上演日において、第一部と第二部の間の時間にレストランの営業及びブリッジにおけるカフェの営業を行い、特別メニューを提供した。
- ・ 2015/2016 シーズンシート又はオペラ・シーズンセット券を購入したアトレ会員/賛助会員を対象に、出演者との懇親を図るイベントとして、「お客様感謝の会」を行った(5/29)。当日上演のオペラ「ローエングリン」を指揮したオペラ芸術監督と表題役ゲスト歌手が参加し、芸術監督による今シーズン回顧と来シーズン演目解説、ゲスト歌手によるトークが行われた。参加者との歓談の後、記念写真を撮影し、後日参加者に送付した。
- ・ 2015/2016 シーズンシート又はバレエ・シーズンセット券を購入したアトレ会員/賛助会員を対象に、出演者との懇談を図るイベントとして、「バレエ・シーズンエンディングパーティー」を行った(6/19)。舞踊芸術監督と新国立劇場バレエ団ダンサー、当日上演のバレエ「アラジン」指揮者が参加し、トーク、参加者との歓談の後、記念写真を撮影し、後日参加者に送付した。
- ・ バレエ「シンデレラ」で各公演の終演後に主演ダンサーによる握手会を開催した。
- ・ バレエ「シンデレラ」の公演期間中、オペラ劇場ホワイエ内にクリスマスツリーを設置し、クリスマス関連の飾りで装飾するとともに、子供向けにバルーンアートやネイル、ボディペインティングコー

ナーを設置した。

- ・ 演劇公演では、劇場ホワイエにおいて、公演内容と連動した学術的な展示を実施した。
- ・ オペラ劇場各階の客席配置、化粧室、非常口の場所等が一目で分かる大型のフロアマップを設置した。
- ・ 中劇場と小劇場では、化粧室の方向を示すピクトグラムを作成し掲出することで、観客の利便性を高めた。
- ・ 上演時間等を表示する各劇場内の掲示パネルを大型化し、視認性を向上させた。
- ・ 公演時の案内係が用いるトランシーバーをデジタル化し、より確実な連携が取れるようにすることで、接客の質を向上させた。
- ・ 長時間の着席による疲労を軽減するクッションをメーカーと共同開発し、2016/2017 シーズンのオペラ劇場公演及び一部の演劇公演にてレンタル(有料)を開始した。
- ・ 小劇場ホワイエに小型で省スペース仕様のテーブル、椅子を設置し、多くの観客の利用に供した。

3. 安全な観劇環境の確保

(本館)

- ・ 大劇場ロビーの階段に手摺を増設した。
- ・ 隼町地区敷地内の道路及び駐車場の白線引き直し、ロードハンプの設置及び第一駐車場から劇場への新たな歩行者動線を新設した。

(演芸場)

- ・ ロビー内の片側にしか手摺のなかった売店脇の階段と下手通路のスロープに手摺を設置し、来場者の利便性と安全性向上を図った。
- ・ 職員、委託業者の協力のもと、消防訓練を行い、安全な観劇環境の確保に努めた(2/16)。

(能楽堂)

- ・ ロビー内の階段で来場者の転倒事故があったので、手摺を設置し昇降の安全を図った(5月)。
- ・ 職員、委託業者等、全職域が参加する自衛消防訓練を2回実施した。避難誘導等の実地訓練(10月・2月)及び模擬消火器による消火訓練を行ったほか、10月には起震車(地震体験車)で地震の揺れを疑似体験し、職員等の防災意識を高めることができた。
- ・ 職員、委託業者等、全職域が参加して、火災・地震等の緊急時の対応について確認・検討する能楽堂舞台運営安全会議を3月に実施した。

(文楽劇場)

- ・ 6月に団体観劇の高校生と教職員(計332名)の協力を得て、避難誘導訓練を実施した。2月には、職員及び委託業者社員が消防署制作のビデオを鑑賞し消防活動について学んだあと、避難誘導訓練を実施した。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 職員、委託業者等、全職域が参加する自衛消防訓練を年2回実施して、避難訓練、消火器の取扱い等について実地訓練を行った。

(新国立劇場)

- ・ 職員、委託業者等全職域が参加する自衛消防訓練を実施した。
- ・ 東京消防庁に優良防火対象物認定の申請を行い11月に認定された。
- ・ 日頃の消防訓練の成果を発表する場として、渋谷消防署の主催する自衛消防訓練審査会に防災センター要員が参加した。
- ・ 大規模災害時帰宅困難者受入施設としての役割を踏まえ、災害備蓄品の入替、補充を行った。
- ・ 非常時の電源確保と受電設備、発電設備の維持保全のため、一部機器の更新及びオーバーホールを実施した。

4. 外国人利用者等への対応

(本館)

- ・ 歌舞伎・文楽公演では解説書(有料)に英文あらすじを掲載し、舞踊や邦楽等の短期公演では英文リーフレット(無料)を配布した。
- ・ 6月歌舞伎鑑賞教室内の企画「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」及び5月文楽鑑賞教室内の企画「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」において、4か国語(日本語・英語・中国語・韓国語)によるイヤホンガイド(無料)を提供し、英語字幕表示を行った。また、あらすじ等を記載した4か国5言語によるパンフレット(無料)を配布した。
- ・ 「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」及び「Discover BUNRAKUー外国人のための

文楽鑑賞教室」の上演を 2020 年東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラム参画に向けた取組と位置付け、3 か国語(英語・中国語・韓国語)による特別チラシを海外からの旅行者の目に留まりやすい空港・観光案内所・主要ホテル等に配布した。

- ・ 旅行代理店・ホテル等との連携強化を一層進め、引き続き外国人から好評なデザインの英文スケジュールチラシを劇場内のほか、空港・観光案内所・主要ホテル等に配布した。
- ・ 歌舞伎・文楽紹介リーフレットのスペイン語版及びドイツ語版を新規作成した。また、歌舞伎・文楽紹介リーフレットの各国語版(英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語・フランス語)を増刷し、新規作成分とあわせて、国立劇場チケット売場に専用ラックを設置したほか、観光案内所等に配布した。
- ・ 主に外国人旅行者を対象としている東京駅前 KITTE 内観光案内所において、英文の歌舞伎イメージポスターを通年掲示した。

(能楽堂)

- ・ 英語による演目解説リーフレット、「主催公演予定表」(冊子)、施設紹介パンフレットの作成・配布、英語による案内表示、場内アナウンス等のサービスを提供し、外国人の利用環境の充実を図った。
- ・ 能楽堂の英語版ホームページに年間主催公演予定(スケジュール)を掲載し、外国人利用者への利便性の向上を図った。
- ・ 英語による能楽解説書「NOH & KYOGEN Guide Book」を新たに作成し、無料配布した。
- ・ 座席字幕表示装置を活用して、能楽堂主催公演(「蠟燭の灯りによる」を除く)計 50 公演にて字幕(日本語・英語)表示を実施した。
- ・ 「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」において、あらすじ等を記載した 3 か国語(英語・中国語・韓国語)によるパンフレットを作成し、無料配布した。また、多言語による字幕表示を実施した。
- ・ 座席字幕表示装置の操作方法を記した多言語(日本語・英語・中国語・韓国語)によるチラシを作成し、配布した。

(文楽劇場)

- ・ 「Discover BUNRAKU—BUNRAKU for Beginners—」「社会人のため文楽入門」の解説デモンストラーションを報道関係者向けに公開し、出演者(技芸員、(ナビゲーター)春野恵子)及び解説構成者くまざわあかねに対する取材の場を設けた(6/2)。放送局 2 社、新聞社 8 社が取材。テレビ放送のニュースで中継された。
- ・ 英文ニュースサイトでバナー広告を行った。
- ・ 「Discover BUNRAKU—BUNRAKU for Beginners—」において、6 か国語 7 言語(日本語・英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語・フランス語・スペイン語)による解説書等を作成した。また、外国人向け英語版文楽入門パンフレット(Introduction to BUNRAKU)の配布、字幕表示装置による英語字幕の表示、4 か国語(日本語・英語・中国語・韓国語)による音声同時解説の実施、外国人利用者対応スタッフの配置を行った。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 組踊公演、沖縄芝居公演(7 月「大新城忠勇伝」、9 月「沖縄芝居鑑賞教室」、2 月「米を作る家・こわれた南蛮甕」)について、外国人利用者向けにあらすじ等を英文で記したチラシを作成・配布した。
- ・ 3 か国語 4 言語(英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語)による自主公演の年間計画リーフレットを作成し、劇場内のほか空港及び観光案内所等に配布した。
- ・ 沖縄県の協力を得て、多言語表記の沖縄伝統芸能紹介パンフレットを作成し、各所に配布した。
- ・ ホームページをリニューアルし、従来の英語表記に加え、新たに 3 言語(中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語)表記のページを公開したほか、スマートフォンやタブレット等での閲覧にも対応した。
- ・ 外国人観客の来場時や電話での問合せに対応するため、多言語対応の電話通訳サービスを導入した。
- ・ 「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」では、3 か国語(英語、中国語、韓国語)による音声同時通訳及び英語通訳のある組踊ワークショップを実施した。
- ・ 多数の外国人客の来場が見込まれた公演では、劇場ロビー及びチケットカウンターに英語通訳者を配置した。

(新国立劇場)

- ・ 公演プログラムに英文によるあらすじ解説を掲載した。
- ・ 英語での対応ができる劇場案内スタッフを配置した。
- ・ メインエントランス近辺の案内用デジタルサイネージについて、2 か国語(日本語・英語)併記を原則とし、外国人利用者の利便性を高めた。
- ・ 英語版 Web ボックスオフィスでは、2016/2017 シーズンの研修公演を除く全ての主催公演で海外からの

チケット購入サービス等を引き続き提供した。また、オペラ・バレエ公演において英語版 Web ボックスオフィスでの Z 席の販売を新たに開始した。

- ・ 10 月より英語版 SNS (Facebook、Instagram) を開始、ネイティブによる外国人ならではの視点で公演情報を発信した。
- ・ 日本政府観光局のサイトに新国立劇場及び舞台美術センターの英文情報を掲載し、外国人観光客への適切な情報提供に努めた。
- ・ シーズンガイドの英語版及びシーズン 4 か月ごとの英文公演ガイドを作成して、各国大使館並びに文化機関、ホテル、観光案内所、外国人記者協会、世界各地の国際交流基金事務所等に配布し、公演概要を広く外国人に周知した。
- ・ 英字新聞、外国人向けフリーペーパー、海外のオペラ専門誌、在日英国商業会議所発行誌等に劇場及び公演の情報を掲載し、周知に努めた。
- ・ 大使鑑賞プログラムを実施したほか、同プログラム以外のオペラ公演でも出演者出身国の大使を招待し、楽屋訪問の様子をホームページ等に掲載した。また、大使館のホームページや SNS でも周知するなど広報協力を得た。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 「国立劇場通り」等の装飾において実施に至る交渉等により、千代田区や近隣町会との連携強化を図ることができた。
- ・ 本館大劇場及び小劇場のロビー絨毯を更新することにより明るく華やかな空間が創出された。また、便所ブースの扉に外側へ弧を描く仕様を導入したことにより個室空間の充実が図られた。
- ・ 本館大劇場ロビー階段の手摺増設、敷地内道路等の白線引き直しを実施するなど来場者の安全・安心に配慮した。
- ・ 本館大劇場では、27年度より実施している季節ごとのロビー飾りを引き続き行ったことで、ロビーに明るさや華やかさが創出された。
- ・ 演芸場では、客席内のスピーカー(カラムスピーカー)、ワイヤレスマイクロホン及び舞台袖のスピーカー(トーマンタルスピーカー)を更新したことから、より快適で安全な観劇環境が整備された。
- ・ 能楽堂では、英語による「主催公演予定表」(冊子及びホームページ)や能楽解説書「NOH & KYOGEN Guide Book」を作成し、無料配布した。
- ・ 能楽堂のポータブル字幕画面の反射防止フィルムを、より反射の少ないものに更新した。
- ・ 国立劇場おきなわでは、多言語表記の自主公演年間リーフレットや沖縄伝統芸能の紹介パンフレットを作成し、空港や観光案内所に配布した。また、外国人観客の来場時や電話での問合せに対応するため、多言語対応の電話通訳サービスを導入した。
- ・ 新国立劇場では、メインエントランス等の照明を LED 照明に交換し、劇場内に大型フロアマップやピクトグラム、掲示パネルの大型化等、表示案内を工夫して来場者のスムーズな移動に役立てた。
- ・ バレエ公演における子供向けの各種コーナー設置、演劇公演における公演内容と連動した学術的展示等、公演とその観客に合わせた快適な環境を提供できた。
- ・ 新国立劇場では、英語版公式サイトを充実させるとともに、英語版 SNS (Facebook、Instagram) を開始しネイティブによる外国人ならではの視点で公演情報を適切に発信した。
- ・ 新国立劇場では、日本政府観光局サイトへの掲出、各国大使館・文化機関、ホテル、観光案内所、外国人記者会、国際交流基金事務所等への英文ガイド配布、英字新聞、広報誌等への情報掲載等、外部団体の協力を得て広く情報提供、周知展開できた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ イヤホンガイドの音漏れ防止や障害者対応のため、引き続き委託業者に改善を求めていく。
- ・ 高齢者等の観客に留意し、バリアフリー化等、引き続き劇場施設の改善を検討する。
- ・ 英語圏以外の方を含めた外国人の観客に対し、周知、勧誘、利便の向上を図るべく、引き続き検討する。
- ・ サービスの質の維持・向上について、引き続き検証・改善に努める。

2-(4)-② 多様な購入方法の提供によるチケット販売の促進

《業務実績詳細》

- ・ 親子を対象とする公演のインターネット販売では、本館・演芸場・能楽堂の各公演は、会員及び一般発売に先行して発売した。文楽劇場の公演は一般発売に先行して会員発売日と同日に発売した。
- ・ チケットセンターホームページに各館の親子企画を紹介する特設サイトを設置し、さらに、振興会トップページのバナーから誘導した。
 - 1) 「親子で楽しむ歌舞伎教室」(7/18~24)
インターネット販売は5/26に開始、電話予約は5/27に開始
予約結果：インターネット予約4,694件(13,909枚)、電話予約1,291件(3,833枚)
 - 2) 「親子で楽しむ演芸会」(7/23)
インターネット販売は5/28に開始、電話予約は5/29に開始
予約結果：インターネット予約68件(190枚)、電話予約30件(92枚)
 - 3) 「夏休み親子のための能の会」(8/6)及び「夏休み親子のための狂言の会」(8/27)
インターネット販売は5/28に開始、電話予約は5/29に開始
予約結果：「夏休み親子のための能の会」インターネット予約186件(498枚)、電話予約30件(92枚)、「夏休み親子のための狂言の会」インターネット予約171件(470枚)、電話予約47件(143枚)
 - 4) 「文楽親子劇場」(7/23~8/9)
インターネット販売は6/3に開始、電話予約は6/4に開始
予約結果：インターネット予約367件(1,030枚)、電話予約167件(475枚)
- ・ 本館・演芸場・能楽堂・文楽劇場の各公演について、障害により電話予約が困難な利用者からの要望や「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」に鑑み、インターネットチケット販売においても、障害者割引を開始した(4/1~)。
- ・ チケット売場窓口で使用できるクレジットカードのブランドを、従来のVISA、MASTER、JCB、AMERICAN EXPRESS、DINERSに、28年度より中国銀聯を加えた。
- ・ 演芸場9月上旬公演において、東日本大震災被災者招待を全11ステージで実施した(来場者数190名)。
- ・ 3月歌舞伎公演において、東日本大震災被災者招待を全22ステージで実施した(来場者数442名)。
- ・ 10~12月歌舞伎公演「仮名手本忠臣蔵」3か月通しセット券の販売を、あぜくら会会員に対し8/20から、一般の観客に対し8/21から開始し、2,645セット(7,935枚)の購入があった。
- ・ 10月歌舞伎公演、11月歌舞伎公演、12月歌舞伎公演、初春歌舞伎公演、3月歌舞伎公演、12月文楽公演及び2月文楽公演において、三井記念美術館で開催された特別展「国立劇場開場50周年記念 日本の伝統芸能展」(11/26~1/28)の観覧者に対し、特別割引販売を実施し、9件9枚の購入があった。また、同展の観覧券購入の際に上記公演のチケットを提示することで観覧券が割引される相互割引サービスを実施した。
- ・ 3月歌舞伎公演において、読売演劇大賞を受賞した作品の再演であることから、読売新聞読者を対象に特別割引販売を実施し、420件673枚の購入があった。
- ・ 京王プラザホテルで開催された開業45周年記念特別イベント「能と美食を楽しむ午餐会」で、「Discover NOH & KYOGEN」のチラシを配布しチケット販売を行った(6/16)。また、12月に開催された公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団主催「赤坂能」公演では、ホールロビーで1月公演のチラシを配布し、1月普及公演のチケット販売を行った。
- ・ 文楽劇場では、文楽本公演において幕見席を販売した。
- ・ 新国立劇場では、オペラ劇場でのオペラ、バレエ公演において、税込1,620円で一人1枚のみ公演当日に販売するZ席の販売方法を改善(長時間待ちの弊害解消のため当日窓口販売を中止し、すべてWebボックスオフィス及びコンビニエンスストア端末で販売、また抽選でなく先着順にすることで重複応募を防止)、また英語版Webボックスオフィスでも同Z席の取扱いを追加した。
- ・ 新国立劇場では、若年層向けの特別優待制度の名称をアカデミック・プラン、ジュニアアカデミック、アカデミック39からU25優待メンバーズ、U15ファミリー優待メンバーズ、U39オペラ優待メンバーズと変更し、年齢別対象者を分かりやすく表した。また、U25優待メンバーズ、U39オペラ優待メンバーズについては新たにLINEを取り入れ、メンバーがお得な情報を受け取る手段の選択幅を広げた。

《自己点検評価》

- 良かった点・特色ある点
 - ・ 振興会の「親子企画」として、販売に先立ちインターネット販売システムに専用ページを設け、本館・演芸場・能楽堂・文楽劇場の4館が合同でインターネットを活用した販売キャンペーンを行ったことにより、多くの親子がこの企画を利用し、「親子を対象とした伝統芸能の公開」という振興会の事業を推進することができた。
 - ・ 本館・演芸場・能楽堂・文楽劇場の各公演について、インターネットチケット販売においても障害者割引を開始し、特に障害により電話予約が困難な利用者の利便性が向上した。
 - ・ チケット売場窓口で使用できるクレジットカードのブランドを拡大することで、利用者の利便性が向上した。
 - ・ 能楽堂では、国立能楽堂以外の能楽公演や近隣ホテルの能楽イベントに参加し、公演チラシの配布及びチケットの出張販売を行ったことにより、より多くの集客を図ることができた。
 - ・ 新国立劇場では、Z席の販売方法を改善(オペラ、バレエ公演)し、英語版 Web ボックスオフィスでも同Z席の取り扱いを追加して、一人1枚のみ公演当日税込1,620円で販売するZ席の効果的な運用に繋がった。
 - ・ 若年層向けの特別優待制度の分かりやすい名称変更、LINEの運用開始により、次世代観客の獲得に役立てた。
- 見直し又は改善を要する点
 - ・ 情報技術の発展に鑑み、今後も利便性の向上に努める。

2-(4)-③ 公演内容等の理解促進のための取組

《業務実績詳細》

1. 解説書等の作成

- ・ 本館の各公演において解説書を作成し、公演内容等に応じて以下の工夫を行った。
 - ・ 歌舞伎鑑賞教室、文楽鑑賞教室において、来場者全員に解説書及び読本を無料配布
 - ・ 「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」及び「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」において、あらすじ等を記載した4か国語5言語によるパンフレットを無料配布
- ・ 演芸場では、出演者の顔写真や略歴を掲載した公演ガイドを毎月作成して、無料配布を行い、公演内容の理解を図った。
- ・ 能楽堂では、毎月の公演において解説書を作成し、公演内容に応じて特集を組み、カラー写真や図版を挿入するなど工夫を凝らした。能楽鑑賞教室においては、漫画によるあらすじ解説を掲載し、公演内容の理解促進を図った。また、英語による能楽解説書「NOH & KYOGEN Guide Book」を新たに作成した上、「Discover NOH & KYOGEN」において、あらすじ等を記載した3か国語によるパンフレットを作成し、無料配布した。
- ・ 文楽劇場では、「上方演芸特選会」を除く各公演において解説書を作成した。文楽鑑賞教室において、来場者全員に配布する読本について、写真を多く用いたカラー版の「文楽入門」を作成し、無料配布を行った。また、外国人向け英語版文楽入門パンフレット(Introduction to BUNRAKU)を作成した上、「Discover BUNRAKUーBUNRAKU for Beginnersー」において、6か国語7言語による解説書等を作成し、無料配布した。
- ・ 国立劇場おきなわでは、公演解説書ステージガイド「華風」(月刊)を作成した。また、「社会人のための組踊鑑賞教室」「親子のための組踊鑑賞教室」「組踊鑑賞教室」「沖縄芝居鑑賞教室」で初心者向けのパンフレットを作成し、無料配布を行ったほか、「外国人のための組踊鑑賞教室」においてはあらすじを英訳したペーパーを無料配布した。
- ・ 新国立劇場では、全ての主催公演について公演解説書(プログラム)を作成した。なお2016/2017シーズンよりバレエ公演では現代舞踊公演と同様に無料配布とし、観客の関心が高いキャスト情報及び演目のあらすじに特化した解説書で広く公演内容を周知した。これと同時に新国立劇場バレエ団シーズンプログラム(有料)を別途作成、ラインアップ演目に関連する解説のみならずダンサー情報を充実させて観客の要望に応えた。また、公演プログラムに英文によるあらすじ解説を掲載した。

2. 音声同時解説・字幕表示の活用

(1) イヤホンガイドサービスの実施

- ・ 歌舞伎・文楽の全公演で、2 か国語(日本語・英語)によるイヤホンガイドサービスを実施した(文楽鑑賞教室は日本語版のみ)。
- ・ 能楽堂を除く各館での外国人向け公演において、多言語によるイヤホンガイドサービスを提供した。

(2) 字幕表示の実施

ジャンル	実施公演数	内 訳
歌舞伎公演(鑑賞教室含む)	2 公演	6 月鑑賞教室、7 月鑑賞教室
文楽公演(鑑賞教室含む)	10 公演	全公演
舞踊・邦楽・声明・民俗芸能・琉球芸能・特別企画公演	15 公演	5 月舞踊公演、11 月舞踊公演、3 月舞踊公演
		10 月邦楽公演、1 月邦楽公演、8 月邦楽公演(文楽劇場)
		10 月声明公演、9 月声明公演(文楽劇場)
		1 月民俗芸能公演、4 月民俗芸能公演(文楽劇場)
		3 月琉球芸能公演
4 月舞踊・邦楽公演、6 月〈伝統芸能の魅力〉公演(2 公演)、7 月特別企画公演		
能楽公演(鑑賞教室含む)	50 公演	2 月企画公演(蠟燭能)を除く全公演
組踊等沖縄伝統芸能公演(鑑賞教室含む)	29 公演	11 月企画公演「国立劇場寄席」を除く全公演
オペラ公演	9 公演	「夕鶴」を除く全公演

3. 公演説明会・施設見学等の実施

(1) 公演説明会の実施

区 分	件 数	参加人数
本館・演芸場	143 件	6,552 人
能楽堂	7 件	306 人
文楽劇場	57 件	1,359 人
国立劇場おきなわ	9 件	98 人
新国立劇場	10 件	3,166 人
合 計	226 件	11,481 人

(2) 施設見学の実施

区 分	件 数	参加人数
本館・演芸場	7 件	37 人
能楽堂	8 件	30 人
文楽劇場	1 件	35 人
国立劇場おきなわ	36 件	842 人
新国立劇場	57 件	779 人
合 計	109 件	1,723 人

(3) バックステージツアーの実施

区 分	件 数	参加人数
本館・演芸場	72 件	2,596 人
能楽堂	32 件	932 人
文楽劇場	1 件	43 人
国立劇場おきなわ	2 件	93 人
新国立劇場	15 件	394 人
合 計	122 件	4,058 人

【特記事項】

- ・ 上記施設見学のほか、新国立劇場では8 か国 12 団体 107 名の外国からの訪問者受入れを行った。

(4) 劇場外での伝統芸能講座の実施

- ・ 国立劇場おきなわでは、沖縄県の補助事業を活用して「組踊ファンミーティング」を大阪、名古屋、東京で実施した。普段、組踊に触れる機会が少ない県外の方を対象に、沖縄の伝統芸能の知識を得る機会を提供した(3回、参加者数52名)。

(5) 劇場外での現代舞台芸術講座の実施

- ・ 子供の日に親子で参加するイベント「芸術体験ひろば」(5/5)、主催：日本芸能実演家団体協議会、会場：芸能花伝舎)に参画した。舞台衣裳の世界を体験するコーナーを設置、オペラ「魔笛」「ラ・ボエーム」の衣裳を展示して特徴を解説、子供たちが試着して記念撮影するサービス等を実施し、舞台芸術への興味関心を育む一助とした(2回、合計参加者約40名)。
- ・ 共立アカデミー等、チケット購入者に対して職員によるオペラ公演の事前レクチャーを実施した。
- ・ オズモールとの共同企画で、演劇「あわれ彼女は娼婦」公演時に、上智大学においてシェイクスピア研究者の東郷公德氏による関連講座を実施した(1回50名)。
- ・ NTT インターコミュニケーションセンター(ICC)にて現代舞踊「高谷史郎(ダムタイプ)『CHROMA(クロマ)』」スペシャル・ライブ+トークが開催され、ディレクションを務める高谷史郎氏ほかスタッフが出演して音と映像を駆使した本公演の魅力についての解説が行われた。
- ・ 朝日カルチャーセンターの企画で演劇「あわれ彼女は娼婦」公演時に、翻訳の小田島雄志氏、出演者の横田栄治氏による関連講座を実施した(1回150名)。
- ・ カルチャビル LLC との共同企画で、シネリーブル池袋における「エンターテイナー」上映時に、同じ劇作家の作品である演劇「怒りをこめて振り返れ」(29年7月公演)の関連トークショーを、翻訳の水谷八也氏に依頼し、実施した(1回、100名)。
- ・ 駐日ブラジル大使館の企画で、演劇「白蟻の巣」公演に関連し、芸術監督の宮田慶子氏、三島由紀夫文学館館長の松本徹氏、サンパウロ大学の二宮正人氏に依頼し、講演会を行った(駐日ブラジル大使館内ホール、1回、150名)。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 能楽堂では、座席字幕表示装置により、2月企画公演(蠟燭能)を除く全公演で日本語・英語の2チャンネル方式で字幕表示を行った。また、「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」ではこれに子ども向けチャンネルを追加し、より分かりやすい解説を表示し、好評を得た。
- ・ 国立劇場おきなわでは、公演内容等に応じて、上演に先立ち、沖縄県の補助事業等を活用してレクチャーやワークショップ等を開催し、鑑賞の一助とした。
- ・ 新国立劇場では、外部団体との連携協力により、公演に関連した講義やセミナーを劇場内外で実施し、現代舞台芸術に触れ、理解する機会を広く提供した。

2-(4)-④ 意見・要望等の把握と対応

《業務実績詳細》

1. 意見・要望等への対応体制

- ・ 各館に寄せられた観客の意見・感想・要望については、より迅速な対応を図るとともに、対応状況の把握と、職員や案内業務委託業者への周知のほか、各館で情報共有し、サービスの向上・改善に活用するよう努めている。
- ・ 障害者差別解消法の施行に伴い、振興会ホームページ内に相談窓口を設けた。

(新国立劇場)

- ・ 全公演でアンケート調査日を設定し、入場時にアンケート用紙を配布、終演後に粗品と引換に回収する形で実施した。また、オペラを除く公演においてはアンケート用紙にQRコードを掲載し、Web上でも同内容のアンケートに回答できる仕組みを導入した。アンケート調査日以外においても、劇場各所にアンケート用紙を設置した。
- ・ アンケート結果については、関係部署間で共有した。また、来場者アンケートに記載された観客の声のうち、掲載を許可されたコメントについて、ホームページに掲載した。
- ・ 意見・要望については、委託業者も交えて必要な対応を行い、提供するサービスの質の向上に努めた。
- ・ 主催公演において、公演会場に職員が劇場支配人として立ち会い、委託業者とともに観客と直接コミュニケーションを図るとともに、不測の事態に常に備えた。

2. 意見・要望等への対応状況

区分		受付件数	回答件数
ご意見箱	本館	86 件	63 件
	演芸場	31 件	19 件
	能楽堂	11 件	3 件
	文楽劇場	90 件	51 件
	国立劇場おきなわ	13 件	0 件
	合計	231 件	136 件
メールによるご意見	振興会	157 件	96 件
	国立劇場おきなわ	1 件	1 件
	新国立劇場	314 件	131 件
	合計	472 件	228 件

主な対応・改善例

- 各館の劇場受付、チケット売場等に筆談器具と筆談対応マーク(耳マーク)を設置
- 従来の電話予約と窓口販売での障害者割引に加え、28年4月1日より、インターネットで一般料金(定価)で購入したチケットと障害者割引との差額分を、本館・演芸場・能楽堂・文楽劇場の売場窓口で払い戻すことで、インターネットでも障害者割引に対応することを決定、同日より実施
- 本館大劇場トイレの使用状況が明確になるよう、28年8月に、個室扉をアークスライド方式にする改修工事を実施
- 国立劇場おきなわでは、劇場内の洋式トイレの増設を求める声が多いため、29年度に改修を行う予定
- 新国立劇場では、「オペラ公演において一部のお客様の拍手のタイミングが早すぎる」というご指摘を受け、公演当日お客様に配布するキャスト表に拍手のタイミングについて呼びかける文言の記載を開始
- 長時間の着席による疲労を軽減するクッションをメーカーと共同開発(オペラ劇場及び一部の演劇公演で有料でのレンタル開始)
- オペラ劇場テラスに設置された喫煙所の灰皿を従来よりも室内からさらに離れた位置に移動させ、灰皿近辺での喫煙を案内する掲示を行い、「ホワイエ内で煙草の臭いがする」との声に対応
- バックステージツアーの実施公演では、その申込用紙を配布しているが、「実施自体に気づかなかった」との声を受け、実施する旨のご案内をより目立つように配布場所に掲出
- 「オペラ劇場内の導線が分かりにくい」という声に対応し、大型フロアマップを作成し、オペラ劇場内各所に設置
- 小劇場について、「ロビーにイスが少ない」という声に対応し、テーブル、イスを小型で省設置スペースのものに変更し、より多くのイスを設置

《自己点検評価》

- 良かった点・特色ある点
 - 意見・要望等により迅速に対応し、サービスの向上等業務改善を図った。
 - 意見・要望等の集計結果をグラフ化し、前年度データとの比較・分析を行った。
 - 新国立劇場では、アンケート用紙にQRコードを掲載し、Web上でも同内容のアンケートに回答できる仕組みを導入した。またアンケート調査日以外にもアンケート用紙を劇場各所に設置し、意見・要望等の収集に努めた。
 - 意見・要望は関係部署間で共有、検討して、実際の様々なサービスに活かすことができた。
- 見直し又は改善を要する点
 - 引き続き意見・要望等の把握に努め、迅速な対応を図るとともに業務・サービス改善に活用したい。

2-(5) 広報・営業活動の充実

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(6) 広報・営業活動の充実

より多くの人が幅広い分野の公演を鑑賞することを目標として、次の取組により一層効果的な広報・営業活動を展開

- ア 公演内容に応じた効果的な宣伝活動、各種事業に関する広報の充実
- イ 観客の需要を的確に捉えた営業活動
- ウ 会員に向けた各種サービスの提供による会員の観劇機会の増加

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(6) 広報・営業活動の充実

ア 効果的な広報・営業活動の展開

- ①公演内容に応じて、記者会見・取材等によるマスメディアを通じた広報や、インターネット広告等の多様な媒体を活用して、広報活動を効果的に実施
- ②各種事業に関する広報の充実に努め、ホームページ等を活用して随時最新の情報を提供
 - (a)ホームページについて、各種情報の早期掲載及び内容の充実、アクセス動向等を分析
 - ・日本芸術文化振興会ホームページ目標アクセス件数：3,000,000件
 - ・国立劇場おきなわホームページ目標アクセス件数：293,000件
 - ・新国立劇場ホームページ目標アクセス件数：3,700,000件
 - (b)メールマガジンにより、公演等の情報を随時配信
 - (c)外国語版のホームページやパンフレット等の充実を図り、外国人に対する情報発信を強化
 - (d)国立劇場開場50周年記念事業について、特別ポスター・チラシ、ホームページ上の特設サイト等の広報活動を実施

③各種事業に関する広報誌を次のとおり発行

- ・日本芸術文化振興会ニュース(毎月発行)
- ・国立劇場おきなわ情報誌「華風」(毎月発行)
- ・新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」(毎月発行)

④シーズンシートやセット券等の企画・販売、各種キャンペーンを企画・実施

⑤団体観劇促進のため、公演内容に応じた営業活動を展開、旅行代理店・ホテル等との連携を強化

⑥「国立劇場キャンパスメンバーズ」の運営、サービスの提供、拡充

⑦全職員が積極的に団体観劇を勧誘する「おすすめキャンペーン」を引き続き実施

イ 個人を対象とする会員組織の会員に対し、会報等による情報提供を定期的にも実施

入場券の会員先行販売や会員向けイベント等の各種サービスを提供

アンケート調査の結果等を、会員向けサービスの充実に活用

会員向けサービスの周知による、新規会員の増加

①あぜくら会(本館・演芸場・能楽堂)

会報「あぜくら」(毎月発行)、会員向けイベント(年8回程度)

目標会員数 18,000人

②国立文楽劇場友の会

「国立文楽劇場友の会会報」(年6回発行)、会員向けイベント(年6回程度)

目標会員数 8,100人

③国立劇場おきなわ友の会

「国立劇場おきなわ友の会会報」(年4回発行)、会員向けイベント(年3回程度)

目標会員数 2,200人

④クラブ・ジ・アトレ(新国立劇場)

会報「ジ・アトレ」(毎月発行)、会員向けイベント(年12回程度)

目標会員数 9,700人

《主要な業務実績》

1. 効果的な広報・営業活動の展開

- ・ 団体観劇を促進するため、公演内容に応じた営業活動を展開
- ・ マスコミ各社への記者会見や取材依頼のほか、各種媒体により公演情報を周知
- ・ 公演内容に応じて各種セット券等を販売
- ・ 英語版ホームページの改善、公演情報の早期掲載、特設サイトの開設、SNS(Facebook、Twitter)の活用等によりホームページの内容を充実化、メールマガジンを随時配信
- ・ 振興会、国立劇場おきなわ、新国立劇場の各ホームページにおいて目標アクセス件数を大幅に超えて達成
- ・ 旅行代理店・ホテル等との連携を強化
- ・ 国立劇場開場50周年記念公演に関連したイベントや営業活動を実施
- ・ 「日本芸術文化振興会ニュース」、国立劇場おきなわ会報誌「華風」、新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」等の広報誌を発行

(伝統芸能分野)

- ・ 国内および訪日外国人等スマートフォン利用者のホームページ利用環境向上のため、振興会ホームページをスマートフォン用に対応
- ・ 外国人来場者の誘致のため、6月に「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」において各国駐日大使等大使館関係者を招待(41か国69人が参加)
- ・ 9月に、有楽町駅周辺まちづくり協議会の協力を得て、有楽町駅前地上広場で国立劇場開場50周年事業の周知及び文化プログラムの一環として、「有楽町×国立劇場 (Yurakucho Times National Theatre)」を実施
- ・ 11月に、日本橋福徳の森で国立劇場開場50周年記念イベントを実施
- ・ 法人を対象とする事前登録制の団体チケット販売システム「法人利用サービス」を提供
- ・ 大学等を対象とする会員制度「国立劇場キャンパスメンバーズ」のサービスを提供
- ・ 全職員が積極的に観劇を勧誘する「ご観劇おすすめキャンペーン」を引き続き実施
- ・ 「国立劇場開場50周年記念サイト」及び「国立劇場歌舞伎情報サイト」に、公演に関する情報やトピックスを掲載して周知
- ・ 能楽堂の「主催公演予定表」(年間スケジュール)を継続して作成
- ・ 文楽劇場のホームページにおいて、芸員インタビュー動画の公開を開始したほか、公演記録映像を活用したダイジェスト版動画の作成を全ての文楽公演において実施
- ・ 文楽劇場独自のコンテンツである「文楽かんげき日誌」を継続して実施
- ・ 文楽劇場では文楽本公演において幕見席を販売
- ・ 国立劇場おきなわホームページを改修し、中国語版・韓国語版ページを公開、スマートフォンやタブレットでの閲覧に対応

(現代舞台芸術分野)

- ・ 公演会場ホワイエ内で、今後の主催公演に関するパネル掲示や映像上映を実施
 - ・ オペラ公演、演劇公演のトークや解説の外部番組に出演、サイトにも配信されて広く周知
 - ・ オペラ公演に関連する「音楽講座」を動画配信
 - ・ 劇場内で公演関連講座やレクチャー、芸術監督による2017/2018シーズンラインアップ説明会を実施
 - ・ ホームページのスマートフォン読み込み速度を改善
 - ・ ホームページの日本語トップ画面を改修しイベント情報の周知強化、バレエ団ページも改修
 - ・ 英語版SNS(Facebook、Instagram)を開始、日本語SNS(Facebook、Twitter、Instagram)も情報発信を大幅増加
 - ・ オペラ、バレエのシーズンセット券、演劇のテーマ別セット券を販売
 - ・ 都内ホテル、百貨店等と連携した観劇プランや学校団体向け営業を積極的実施
- ### 2. 会員組織の運営、会員向けサービスの充実
- ・ 会員組織の会員に対し、会報による情報提供及び先行販売、会員向けイベント等のサービスを実施
 - ・ あぜくら会、国立文楽劇場友の会、クラブ・ジ・アトレにおいて目標会員数を達成
 - ・ 会員サービスの充実及び新規入会キャンペーン等による入会促進

《数値目標の達成状況》

【ホームページへのアクセス状況】

日本芸術文化振興会ホームページの年間アクセス件数：実績 3,256,254 件／目標 3,000,000 件(達成度 108.5%)

国立劇場おきなわホームページの年間アクセス件数：実績 330,365 件／目標 293,000 件(達成度 112.8%)
新国立劇場ホームページの年間アクセス件数：実績 4,599,610 件／目標 3,700,000 件(達成度 124.3%)

【会員数】

- あぜくら会：実績18,694人／目標18,000人(達成度103.9%)
- 国立文楽劇場友の会：実績8,316人／目標8,100人(達成度102.7%)
- 国立劇場おきなわ友の会：実績1,810人／目標2,200人(達成度82.3%)
- クラブ・ジ・アトレ：実績10,363人／目標9,700人(達成度106.8%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

伝統芸能分野
B

(根拠)

- ・ 公演内容に応じた広報活動を実施し、公演情報の周知拡大を図り、一般の集客に努めた。
- ・ 各種キャンペーン等、公演内容に応じた広報・営業活動を実施した。
- ・ 国立劇場開場 50 周年記念公演に関連したイベントや営業活動を実施した。
- ・ 国立劇場開場 50 周年事業の周知及び文化プログラムの一環として実施した「有楽町×国立劇場 (Yurakucho Times National Theatre)」では、計 6 回芸能の上演を行い、各回 400～500 名の集客を得たほか、記念公演等のチラシ等の配布、ポスターの掲出等を行って周知を図った(9/18)。
- ・ 国立劇場開場 50 周年記念イベント(日本橋福徳の森)では、日本舞踊や着物の所作ワークショップ等を上演し、買い物客等のべ 1,500 名程度の観客を集めたほか、記念公演等のチラシや英文チラシを 5,000 部配布して周知を図った(11/12・13)。
- ・ 「国立劇場キャンパスメンバーズ」のサービス内容を拡充し、利用者を増加させることができた。
- ・ 会員組織については、イベントの開催等、サービスの充実に努め、概ね会員数の目標を達成することができた。
- ・ 文楽劇場では、各種キャンペーンやホームページを利用した広報等により、公演内容に応じた広報・営業活動を実施した。広報活動を一層強化し好結果を得た。
- ・ 国立劇場おきなわでは、沖縄県や旅行業者と連携して、組踊ワークショップを含む組踊鑑賞ツアーを実施した(8回、参加者計78名)。

現代舞台芸術分野
B

(根拠)

- ・ 公演内容に応じて、様々な媒体による広報・営業活動を実施した。
- ・ 英文サイトを含めたホームページのデザイン改修、全ジャンルでのFacebook、Twitterの活用や、様々な媒体による動画配信により、これまで以上に多くの情報を随時発信することができ、年間アクセス件数も年度計画目標を大きく上回った。
- ・ 会員向けサービスの充実を図るとともに、ハウスカード(クレジットカード機能のないカード)の入会促進を積極的に行った結果、クラブ・ジ・アトレは会員数の目標を大きく上回ることができた。

○ 良かった点・特色ある点

(伝統芸能分野)

- ・ 振興会ホームページのスマートフォン対応により、近年増加が著しい外国人観光客等、スマートフォン利用者のホームページ利用環境向上を図った。
- ・ 国立劇場開場 50 周年記念公演に関連したイベントや営業活動を実施した。
- ・ 有楽町駅前地上広場で「有楽町×国立劇場(Yurakucho Times National Theatre)」を実施することで、通常とは異なる利用者層へ国立劇場開場 50 周年事業を周知した。
- ・ 国立劇場開場 50 周年記念イベント(日本橋福徳の森)では日本舞踊と着物の所作ワークショップを上演し、短時間で伝統芸能に触れる機会を提供できた。
- ・ 「国立劇場キャンパスメンバーズ」のサービス内容を拡充し、利用者を増加させることができた。
- ・ あぜくら会においては、歌舞伎公演演目に因んだバスツアーや能楽師による座談会を実施するなど、

バラエティに富んだイベントを実施し、会員増を図った。

- ・ 能楽堂では、テーマ性の強い企画公演等において、通常の月間チラシとは別に当該公演に特化した特別チラシを作成し、公演内容の一層の周知を図った。
- ・ 文楽劇場では、特にホームページにおいて、技芸員インタビュー動画、舞台のダイジェスト版動画、「文楽かんげき日誌」等で公演 PR の内容充実を図り、トピックスアクセス数を向上させ、宣伝効果を高めることができた。その他、放送局等外部とのコラボレーションによる公演 PR を実施し、これまでにない切り口の宣伝活動を行った。
- ・ 国立劇場おきなわではホームページを改修し、従来の英語版に加え中国語版・韓国語版ページを公開したほか、スマートフォンやタブレットでの閲覧に対応した。

(現代舞台芸術分野)

- ・ 公演に関連したトークや解説を劇場内外で多数実施した。さらにWebと連結して動画配信やニュース発信することで広範囲に情報展開することができた。
 - ・ ホームページを引き続き改修し、様々な情報が取り出しやすくなると同時に、SNS (Facebook、Twitter、Instagram) へ積極的に配信し反応を精査することで、効果的なニュース配信ができた。
 - ・ 入会促進キャンペーンをクレジット機能のないハウスカードも対象とした。またジャンル横断の情報誌を発行し新規会員獲得の積極的な活動が展開できた。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 今後もジャンルや演目の特性を見据え、きめ細かな広報宣伝営業活動を続けたい。
 - ・ 引き続き、各会員組織において入会キャンペーン等の実施により新規会員の増加を図るとともに、会員向けサービスの一層の充実に努めたい。

2-(5)-① 効果的な広報・営業活動の展開

《業務実績詳細》

1. 公演内容に応じた効果的な広報活動

(本館)

- ・ 国立劇場開場 50 周年事業の周知及び文化プログラムの一環として、有楽町駅周辺まちづくり協議会の協力を得て実施した「有楽町×国立劇場 (Yurakucho Times National Theatre)」では、計 6 回芸能の上演を行い、各回 400～500 名の集客を得たほか、記念公演等のチラシ等の配布、ポスターの掲出等を行って周知を図った(9/18)。
- ・ 国立劇場開場 50 周年記念イベント(日本橋福徳の森)では記念事業のPR及び文化プログラムに向けた取組の一環として、日本舞踊(「操り三番叟」「獅子」)や着物の所作ワークショップ等の上演、記念公演等のチラシや英文チラシを配布し周知を図った(11/12・13、「TOKYO KIMONO WEEK 2016」内イベント「きものフェスタ」への協力)。
- ・ 「国立劇場歌舞伎情報サイト」に、歌舞伎に関する情報やトピックスを掲載し、周知を図った。
- ・ マスコミ各社を招いて、出演者・関係者の記者会見、舞台稽古の取材、ゆかりの地での取材会等を実施した。出演者のテレビ出演、ポスター、チラシ、ホームページ、あぜくら会会報、振興会ニュース等での広報、公演情報の周知拡大を図り、一般の集客に努めた。
- ・ 「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」において各国駐日大使等大使館関係者を招待し、外国人来場者の誘致を図った(41 か国 69 人が参加)。

(演芸場)

- ・ 新聞や「東京かわら版」等への広告掲載、NTJ メンバー等へのメール発信、ダイレクトメール送付を行った。

(能楽堂)

- ・ チラシ、ポスター、ホームページ、あぜくら会会報、振興会ニュースによる通常の広報とともに、公演によっては企画性を周知するため、特別チラシを作成・配布したほか、ホームページにトピックス等を随時掲載した。
- ・ 6月に京王プラザホテルにおいて、同ホテルの開業 45 周年記念イベント「能 雅を継ぐもの」に資料展示で協力し、「Discover NOH & KYOGEN」等の公演宣伝を行った。
- ・ 公演のテーマに応じて他ジャンルの関連雑誌等へ公演情報や広告を掲出した(7 月企画公演「能と箏曲」は「邦楽ジャーナル」7月号、2月<月間特集・近代絵画と能>は「芸術新潮」1月号等)。
- ・ 「Discover NOH & KYOGEN」はNHK 国際放送局が取材し、インターネット配信「NHK WORLD」で公演及びワークショップの様子が放送された。
- ・ 3月定例公演(3/17)を三重テレビが取材した。(29年5月に関西ローカルにて放送予定)

(文楽劇場)

- ・ 外部団体の協力を得て、交通広告、商店等において宣伝活動の充実を図り、公演内容を効果的に PR することができた。また、放送局、空港、図書館等と連携し、様々なコラボレーションによる公演 PR を実施した。
- ・ マスコミへの積極的な働きかけを実施したほか、文楽協会や大阪市営地下鉄、JR 西日本との協力により、壁面広告や車内ステッカー広告等による公演 PR を行った。
- ・ ラジオ CM を実施するとともに、在阪ラジオ局への働きかけにより、番組内で定期的に公演紹介を行うコーナーを設けることができた。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 公演演目にゆかりのある地域の公民館や関係団体等、各公演の特性にあわせた誘客活動を展開した。
- ・ 近畿日本ツーリスト沖縄と提携して、「沖縄の伝統芸能『組踊』鑑賞と琉球史に触れる 1 日」と題した組踊鑑賞ツアーを企画し、集客に努めた。
- ・ 那覇まちま〜いと提携して、「沖縄芸能実演家が案内する国立劇場おきなわ舞台裏」と題したツアーを企画し、集客に努めた。

(新国立劇場)

- ・ 演目の制作発表やフォトコール(報道写真撮影会)を行い、積極的な情報提供に努めた。
- ・ 演目別の広報については、プレスリリース、個別インタビュー、稽古場取材の実施等、きめ細かいマスコミ対応により、記事掲載の促進を図った。
- ・ 演目発表後、早い段階から特設サイト等に舞台写真や動画等を掲載し、公演開始後はすみやかに初日

の舞台映像を掲出するなどして観劇意欲の促進を図った。

- ・ 公演会場ホワイエ内で、会報誌「ジ・アトレ」の記事やポスター等を利用して、今後の主催公演に関する情報のパネル掲示を行ったほか、レパトリー公演のダイジェスト映像やスタッフ・キャストのインタビュー映像を上映し、観客の興味を喚起した。
- ・ オペラ「ローエングリン」ではオペラ芸術監督のピアノ演奏、解説による「音楽講座」、「ルチア」ではグラスハーモニカ奏者の実演と解説の動画等をホームページに掲載し、作品への理解を深めるとともに期待感の醸成に繋げた。
- ・ オペラ「ワルキューレ」ではオペラトーク(9/17、会場：オペラ劇場ホワイエ、参加者：196名)を開催してより詳しく作品解説を行うとともに、会場でオペラ芸術監督がピアノ演奏しながら解説した様子を公式サイト及びYouTubeで広く動画配信した。
- ・ オペラ「ワルキューレ」(9/8・11)、「セビリアの理髪師」(11/17・20)、「ルチア」(3/2・5)について、インターネットラジオ「OTTAVA」にて特集番組を放送した。制作スタッフのピアノ演奏による解説やトークを行い、その後YouTubeで配信され多くの視聴者を得た。
- ・ オペラ「ルチア」でグラスハーモニカを演奏する奏者・楽器製作者によるレクチャー&ミニコンサートを開催し、珍しい楽器グラスハーモニカへの理解とオペラ公演への関心を高めた(3/22)。
- ・ 現代舞踊「高谷史郎(ダムタイプ)『CHROMA(クロマ)』」、「JAPON dance project 2016 Move/Still」において、ライブストリーミングサイト「DOMMUNE」にて生放送番組を制作し放映した。出演者等によるトークを行い、多くの視聴者を得た。
- ・ 現代舞踊「高谷史郎(ダムタイプ)『CHROMA(クロマ)』」ではNTTインターコミュニケーションセンター(ICC)にてスペシャル・ライブ+トークが開催され、音と映像を駆使した本公演の魅力について解説が行われた(5/11)。
- ・ 演劇「怒りをこめてふり返れ」(29年度公演)と同じ劇作家作品の映画上映に因んだトークイベントが開かれ、翻訳者により同作品にも言及しての解説が行われた(1/7)。
- ・ 演劇「白蟻の巣」で駐日ブラジル大使館の協力により「ブラジルでの三島由紀夫」と題した講演会とレセプションを開催、作品への理解を高めるとともにブラジルとの交流の場を演出した(1/27)。
- ・ オペラ、舞踊、演劇の各芸術監督による2017/2018シーズンラインアップ記者発表を行った(1/12)。
- ・ 1月のオペラ公演「カルメン」と2月のバレエ公演「ヴァレンタイン・バレエ」のそれぞれの終演後において各1回、オペラ芸術監督、舞踊芸術監督による次シーズンのラインアップ説明会を実施した。
- ・ 隣接する新宿区及び公益社団法人日本芸能実演家団体協議会が主体となって開催している新宿区の文化イベント「新宿フィールドミュージアム」に参加した(10/1~11/30)。

2. ホームページにおける情報の内容の充実、メールマガジンの配信

(1) ホームページアクセス件数

日本芸術文化振興会ホームページの年間アクセス件数：3,256,254件(目標3,000,000件)

(内、23,012件が携帯電話からのアクセス)

国立劇場おきなわホームページの年間アクセス件数：330,365件(目標293,000件)

新国立劇場ホームページの年間アクセス件数：4,599,610件(目標3,700,000件)

(2) ホームページの内容の充実

(振興会)

- ・ 国立劇場開場50周年記念サイトを開設し、記念公演のラインナップ、イベントの情報、関連トピックスを掲載し、より積極的な情報発信を行った。また、歌舞伎、文楽については公演ごとの特設サイトを開設した。
- ・ 「国立劇場歌舞伎情報サイト」に、歌舞伎に関する情報やトピックスを掲載し、周知を図った。
- ・ 能楽堂では、28年1月に29年度の全主催公演の番組をホームページに掲載し、団体観劇の受付を開始した。
- ・ 能楽堂の英語版ホームページに年間主催公演スケジュールを掲載し、外国人利用者の利便性の向上を図った。
- ・ 文楽劇場では、引き続きホームページにおいて、手作りで芸員のインタビュー動画の公開を開始したほか、公演記録映像を活用したダイジェスト版動画の作成を全ての文楽公演に拡大した。また、文楽劇場独自のコンテンツである「文楽かんげき日誌」を継続して実施した。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 国立劇場おきなわではホームページを改修し、従来の英語版に加え中国語版・韓国語版ページを公開したほか、スマートフォンやタブレットでの閲覧に対応した。

- ・ 国立劇場おきなわでは、各種事業に関する広報の充実に努め、各種情報の早期掲載及び内容の充実を図り、随時最新の情報を提供した。
- ・ 国立劇場おきなわ公式 Facebook ページを活用して、公演案内をはじめとする沖縄伝統芸能等に関する情報を提供し、ファンとのコミュニケーションを図った。

(新国立劇場)

- ・ 総合トップ、各ジャンルトップ、英語版トップ各画面のレイアウトをさらに見やすく改修した。各ジャンルへの導線をスムーズにすると同時に閲覧の少ないページを整理し、ニュースやバナー等で最新情報が目に入るよう改善した。
- ・ ホームページのスマートフォン読み込み速度を改善した。また、新たに「劇場のご案内」ページをスマートフォン対応した。
- ・ 10月より英語版 SNS (Facebook、Instagram) を開始、ネイティブに依頼し外国人ならではの視点で公演情報を発信した。
- ・ 動画や英語ニュースを追加するなど、英語版ホームページの更新頻度を向上させた。
- ・ トップ画面のカレンダーにイベント情報を追加し、劇場が行う様々なイベント情報の周知と集客に役立てた。
- ・ 動画コンテンツ「新国立劇場の一日」を総合トップ画面に掲載、現代舞台芸術の魅力をバックステージからより多面的に紹介することで、公演への興味、理解促進に繋げた。
- ・ Facebook や Twitter 等の SNS での情報発信を大幅に増やした。公演ごとに画像、動画、文章を用いて、過去の公演、リハーサル風景、出演者のインタビューを随時発信し、興味喚起に努めた。反応の状況を逐一精査することで観客の嗜好を把握し、ニュース内容の組立・発信に役立てた。また、演劇公演について、Instagram での配信を新たに開始した。
- ・ 演目によって特設サイトを開設し、画像や動画の掲載を更に充実させるとともに、コラムの連載等、より多くの情報発信を行い、一層の興味喚起を図った。
- ・ 新国立劇場バレエ団ページを改修しトップ画面に動画を新規挿入したほか、バレエ団ブログを Facebook に集約し、バレエ団のファンから要望の高いリハーサル情報等をきめ細かく発信できる体制を整えた。
- ・ 前年立ち上げたスマートフォン用アプリ「劇場コンシェルジュ」では、首都圏のクラシック公演について、公演チラシ画像を中心とした公演基本情報に加え、それぞれに主催者ホームページ、会場アクセス、チケット購入先への連結を整えた。ジャンル別の検索機能も付加し、アプリ全体の利便性を高めた。新国立劇場内で案内チラシを配布し普及に努めた。

(3) メールマガジンの配信

- ・ 国立劇場メールマガジン：毎月2回、主催公演や関連イベント、その他事業等の情報を配信
29年3月末登録者数：68,530人(対前年度+8,550人)
- ・ 国立劇場おきなわメールマガジン：毎月1回、主催公演や貸劇場公演に関する情報を配信
29年3月末登録者数：678人(対前年度+186人)
- ・ 新国立劇場 e メール Club (メールマガジン)：発売直前に発売情報と見どころ等を、公演直前に舞台稽古の状況等を、公演開始後に観客の感想等を、ホームページや SNS (Facebook、Twitter) と連動させつつ発信

3. 広報誌の発行

以下の広報誌等を作成した。

- ・ 「日本芸術文化振興会ニュース」(毎月発行)
- ・ 「独立行政法人日本芸術文化振興会概要(日本語)」(28年5月発行)
- ・ 「独立行政法人日本芸術文化振興会要覧」(28年9月発行)
- ・ 「独立行政法人日本芸術文化振興会(国立劇場)50年の歩み」(28年9月発行)
- ・ 「独立行政法人日本芸術文化振興会年報 平成27年度」(28年11月発行)
- ・ 「独立行政法人日本芸術文化振興会概要(英語)」(28年12月発行)
- ・ 国立劇場おきなわ情報誌「華風」(毎月発行)
- ・ 新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」(毎月発行)
- ・ 「新国立劇場 2016/2017 シーズンガイド」(28年6月発行)
- ・ 「新国立劇場 2016/2017 シーズンガイド(英語版)」(28年8月発行)
- ・ 「新国立劇場 平成27年度年報」(28年10月発行、2か国語(日本語・英語)表記)

4. シーズンシートやセット券等の販売

- ・ あぜくら会会員に対して、各歌舞伎公演の初日から三日目の入場券をセットにした「三日目の会」の入場券の販売を行った。(10月～1月・3月の5公演分2,485枚)
- ・ 10月～12月歌舞伎公演「仮名手本忠臣蔵」3か月通しセット券の販売を、あぜくら会会員(8/20～)、及び一般の観客(8/21～)に対して開始し、2,645セット(7,935枚)の購入があった。
- ・ 入場券のセット購入者に対する割引を公演形態に合わせて実施した。舞踊や邦楽等の短期の公演でも、内容の異なる2回又は3回公演の場合は同時に購入すると割引となる、セット割引を行った。(5月民俗芸能公演(文楽劇場)88枚、6月伝統芸能の魅力(雅楽・舞踊)72枚、6月伝統芸能の魅力(声明・邦楽)96枚、7月邦楽公演54枚、7月特別企画公演764枚、9月舞踊公演40枚、9月特別企画公演60枚、10月邦楽公演42枚、10月声明公演618枚、10月舞踊公演(文楽劇場)172枚、11月舞踊公演45枚、1月民俗芸能公演122枚、3月舞踊公演30枚)。また、昼夜通し公演の場合は同時に購入すると割引となる通し割引を、4月文楽公演(文楽劇場)において行った(1,264枚)。
- ・ 国立劇場おきなわでは、1月定期公演 組踊「執心鐘入」、2月企画公演『「執心鐘入」にまつわる芸能」、3月企画公演 新作組踊「さかさま『執心鐘入』」の3公演を、「執心鐘入」関連公演セット券として35セット販売した。

(新国立劇場)

- ・ オペラ、バレエ、現代舞踊の2016/2017シーズンセット券の販売を27年度より継続して行い(2016/1/20～)、2017/2018シーズンセット券の販売を開始した(2017/1/20～)。
- ・ オペラ及び舞踊の2017/2018シーズンセット券の発売に合わせ、約1か月間にわたりオペラパレスのロビー内にてセット券の案内カウンターを設け、担当者が申込方法等の問合せに対応するなど販売促進にあたった。
- ・ 演劇公演において、芸術監督が企画するテーマに沿った演目をセットにし、27年度から続く「時代を記録する三つの名舞台－鄭義信三部作－」(「焼肉ドラゴン」「たとえば野に咲く花のように」「パーマ屋スマイル」)、「あわれ彼女は娼婦」「月・こうこう、風・そうそう」の2作品セット、2016/2017演劇オープニング3作品セット(「フリック」「ヘンリー四世第一部」「ヘンリー四世第二部」)、「ヘンリー四世」二部作、「かさなる視点－日本戯曲のカー」3作品セット(「白蟻の巣」から29年度「城塞」「マリアの首」)をそれぞれ特別割引通し券として販売した。

5. 団体観劇の促進、団体チケット販売システムの運用

(1) 団体観劇の促進、旅行代理店・ホテル等との連携強化

(本館)

- ・ 団体の営業活動として、国立劇場開場50周年記念公演や公演演目に因んだイベントを実施したほか、観劇団体の幅広いニーズに応える特別価格の「公演プログラム付きプラン」「イヤホンガイド付きプラン」や付加価値のある「舞台見学付きプラン」「レクチャー付きプラン」「国立劇場開場50周年記念グッズ付きプラン」等の観劇プランを各種提供して、団体客の増加に努めた。
- ・ 歌舞伎公演の公演内容の周知と団体客の集客のため、過去10年間に観劇履歴のある団体及び新規見込み団体に向けて、定期的に最新の公演情報や団体観劇プランのご案内等の内容のDMを送付した(年12回、のべ15,816通)。
- ・ 10月～12月歌舞伎公演「仮名手本忠臣蔵」の3か月連続上演に当たって、3か月通しの団体利用を提案した(14団体、のべ9,820枚販売)。
- ・ 鑑賞教室公演の企画内容の周知と学校団体客の集客のため、関東甲信越地方中学・高等学校、首都圏専門学校を中心にDMを送付した(年2回、のべ13,376通)。
- ・ 29年度の鑑賞教室利用促進のため、過去3年間観劇履歴のない首都圏の高等学校・専門学校等の担当者及び教育委員会担当者を対象に鑑賞教室の企画説明及び鑑賞教室公演の観劇による「劇場見学会」を実施した(6月・7月歌舞伎鑑賞教室期間中に7回実施。参加者数：63校99名)。
- ・ 5月文楽鑑賞教室の企画「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」及び6月歌舞伎鑑賞教室の企画「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」の集客のため、大学留学生センター・留学生支援団体・日本語学校等の外国人関係団体・ホテル・観光案内所を個別訪問した。
- ・ 「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」及び「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」の上演を2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の文化プログラム参画に向けた取組と位置付け、3か国語(英語・中国語・韓国語)による特別チラシを海外からの旅行者の目に留まりやすい空港・観光案内所・主要ホテル等に配布したほか、「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」公演当日に旅行社の訪日外国人観光客部門及びホテルの担当者の特別招

待を実施した。

- ・ 海外からの旅行者の観劇を増やすため、旅行代理店・ホテル等との連携強化を一層進め、引き続き外国人から好評なデザインの英文スケジュールチラシを、国立劇場、羽田空港・成田空港・東京都庁各観光案内所(東京観光財団運営)、有楽町 TIC(日本政府観光局運営)、東京駅前 TIC TOKYO(森ビル運営)、東京駅前 KITTE 内観光案内所(日本郵便・JTB 運営)、都内主要ホテルに配布した。
- ・ 歌舞伎・文楽紹介リーフレットのスペイン語版及びドイツ語版を新規作成した。また、歌舞伎・文楽紹介リーフレットの各国語版(英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語・フランス語)を増刷し、新規作成分とあわせて、国立劇場チケット売場に専用ラックを設置したほか、観光案内所等に配布した。
- ・ 主に外国人旅行者を対象としている東京駅前 KITTE 内観光案内所において、英文の歌舞伎イメージポスターを通年掲示した。

(能楽堂)

- ・ 「事前レクチャー付きプラン」や研修能舞台を使った「能舞台体験プラン」、チケット委託販売団体の協力による「着物着付けプラン」等、観客の多彩なニーズに応える観能プランを提案して、集客を図った。
- ・ 公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団主催の「外国人弁論大会」(4/23)では会場内で「Discover NOH & KYOGEN」のチラシを配布した(400 枚)。また、同財団主催の「Kabuki for Everyone」公演(9/24)や、文部科学省・独立行政法人日本学生支援機構主催の「国費留学生歓迎会」(11/19)に参加し、会場内の国立能楽堂のブースにおいて能楽堂公演及び今後の「Discover NOH & KYOGEN」の PR と団体勧誘に努めた。

(文楽劇場)

- ・ 団体の営業活動として、公演演目に因んだイベント等を実施したほか、フリーペーパー、ミニコミ誌への記事広告掲出、外部団体のメールマガジンへの公演情報掲出等、幅広い客層に対して興味を持ってもらえるよう工夫を行った。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 県の補助金を活用した貸切バス助成事業を旅行代理店等に PR することで、団体観劇を促進した。
- ・ 近畿日本ツーリスト沖縄と連携し、8 回の組踊ワークショップを含む組踊鑑賞ツアー(参加者計 78 名)及び 3 回の県外組踊ファンミーティング(1 月大阪、2 月名古屋、2 月東京、参加者計 52 名)を実施した。
- ・ 沖縄県及び一般財団法人沖縄観光コンベンションビューローの主催する「沖縄修学旅行フェア 2016」(県内及び東京都で開催)に参加し、県外学校関係者及び修学旅行を担当する旅行代理店等に対し、修学旅行における団体観劇の PR を行った。

(新国立劇場)

- ・ バレエ公演「シンデレラ」観劇とクリスマスディナーを組み合わせたプラン等、都内ホテル、百貨店、高級呉服店、自動車のオーナークラブ、社交クラブ、不動産オーナー及び外部 Web サイトの会員組織等と連携した観劇プランを実施した。
- ・ 修学旅行誘致及びラインアップ発表のための DM を全国の旅行代理店各支店宛に送付した。
- ・ 各学校の入学式に向けて、「U25 優待メンバーズ」のチラシを関東近郊の大学及び専門学校に送付した。

(2) 団体チケット販売システムの運用

- ・ 法人を対象とする事前登録制の団体チケット販売システム「法人利用サービス」を提供した。
- ・ 福利厚生メニューの充実と福利厚生業務担当者の事務軽減を図ることができる「法人利用サービス企業様向け」と、ホテル宿泊客等へのコンシェルジュサービスをサポートする「法人利用サービスホテル・観光案内所様向け」の 2 種類のプランを設定し、既存団体及び新規見込み団体への営業活動を行った。

加入実績：15 団体

6. キャンパスメンバーズサービスの提供

(1) 会員数

19 校

(27 年度より継続加入：13 校)

お茶の水女子大学、国士舘大学文学部文学科日本文学・文化専攻、女子美術大学アート・デザイン表現学科アートプロデュース領域、清泉女子大学、東京海洋大学、東京学芸大学、東京藝術大学音

楽学部、東京工芸大学、獨協大学、日本大学芸術学部、一橋大学、法政大学文学部日本文学科、明治学院大学文学部芸術学科

(28年度より新規加入：6校)

大妻女子大学文学部・短期大学国文科/英文科、神奈川歯科大学・神奈川歯科大学短期大学部、鎌倉女子大学・鎌倉女子大学短期大学部、白百合女子大学、二松学舎大学、フェリス女学院大学文学部日本語日本文学科

(2) 利用枚数

1,651枚(学生：1,412枚、教職員：239枚) ※前年度実績：1,078枚

(3) 会員限定イベントの実施

4回実施(参加者数：70名)

バックステージツアー(10月歌舞伎)、文楽技芸員レクチャー(2月文楽)、歌舞伎レクチャー(3月歌舞伎)、バックステージツアー(3月歌舞伎)

(4) サービスの拡充

- ・ 歌舞伎公演の特別席を割引対象に追加
- ・ 本館の養成事業公演を対象公演に追加
- ・ 3月発売の29年4月公演から能楽堂の普及公演を対象公演に追加

7. おすすめキャンペーンの実施

- ・ 職員のコミュニティー等を活用した「ご観劇おすすめキャンペーン」を引き続き実施した(28年度実績：2,391枚)。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 「国立劇場キャンパスメンバーズ」のサービス内容を拡充し、利用者を増加させることができた。
- ・ 国立劇場50周年記念公演や公演演目に因んだイベントや団体営業を行い、団体客の増加に努めた。
- ・ 国立劇場開場50周年記念イベント(日本橋福徳の森)では日本舞踊と着物の所作ワークショップを上演し、短時間で伝統芸能に触れていただく機会を提供できた。
- ・ 能楽堂では、観劇団体に対して事前レクチャーや体験プラン等を提案して、公演を見るだけでなく、より理解が深まり楽しく観劇できるように工夫した。結果として、団体客が前年度に比して1,137人増え、全有料入場者数に占める割合も前年度から増加して28.0%に達し、入場率向上に貢献することができた。
- ・ 能楽堂では早期に演目と出演者が決まるため、年間の主催公演スケジュール(日本語・英語)をホームページに掲載し、また冊子(主催公演予定表、日本語・英語)を作成し、公演の周知を図ることができた。
- ・ 文楽劇場では、特にホームページにおいて、技芸員インタビュー動画、舞台のダイジェスト版動画、「文楽かんげき日誌」等で公演PRの内容充実を図り、トピックスアクセス数を向上させ、宣伝効果を高めることができた。その他、放送局・百貨店・地域商店街等外部とのコラボレーションにより公演PRの充実に努めた。
- ・ 新国立劇場では、公演に関連したトークや解説を劇場内外で多数実施した。さらにWebと連結して動画配信やニュース発信することで広範囲に情報展開することができた。また、ホームページを引き続き改修し、スマートフォン読み込み速度を改善するなど、様々な情報が取り出しやすくなった。SNS(Facebook、Twitter、Instagram)でも積極的に情報発信し、反応の状況を精査することで観客の嗜好を把握し、効果的なニュース配信ができた。
- ・ オペラ、バレエ公演のシーズンセット券、演劇公演のテーマ別セット券を販売し、新国立劇場の固定客拡大を図った。

2-(5)-② 会員組織の運営、会員向けサービスの充実

《業務実績詳細》

1. あぜくら会

(1) 会員向けサービスの充実

- ・ 毎年好評を得ているバックステージツアーや出演者による対談等に加え、国立劇場開場50周年記念の特別イベントとして歌舞伎公演の舞台稽古見学のほか、会員同士の親睦を図るイベントとしてバ

スツアーや新春かるた会を実施し、好評を得た。

- ・ イベントにおいては前年度アンケートで要望の多かった休日実施や指定席制をできる限り取り入れるよう努めた。
- ・ 国立劇場開場 50 周年記念式典に抽選で 180 名の会員を招待した(出席 177 名)。
- ・ 国立劇場開場 50 周年記念品としてオリジナルミニレターセットを会員全員に郵送した。
- ・ イベント参加の抽選落選者に対し、国立劇場 50 周年記念公演来場の際、ミニクリアファイルを進呈した。
- ・ 29 年 1 月～3 月末日の間に入会申込書が届いた入会者について、入会金を開場 50 周年に因んで 50% 引きとする国立劇場開場 50 周年新規入会キャンペーンを実施した(期間中入会申込者数 658 人)。
- ・ 振興会ホームページ内に会員専用ページを作成した。
- ・ 会報発行日に会報を会員専用ページに掲載した。

(2) 会報の発行(計画：毎月発行)

- ・ 「あぜくら」を毎月 25 日に発行した(計 12 回)。

(3) 会員向けイベント(計画：年 8 回程度)

①あぜくらの集い「会員特別バックステージツアー」

4/23、14:00～15:45

本館大劇場及び楽屋、有料、参加者 169 人(応募者 882 人、当選者 178 人)

アンケートの実施：回答数 158 人(配布数 169 人、満足回答率 99.4%)

②あぜくらの集い「文楽を支える人々ーかしらと床山ー」

5/15、14:00～15:35

伝統芸能情報館レクチャー室、参加者 125 人(応募者 365 人、当選者 150 人)

講師＝高橋晃子(文楽技術室室長)、村尾愉(文楽技術室技術係長)

アンケートの実施：回答数 103 人(配布数 125 人、満足回答率 97.9%)

③あぜくらのタベ「納涼 BIG 対談ー狂言「木六駄」をめぐってー」

8/29、18:00～19:35

能楽堂大講義室、参加者 127 人(応募者 302 人、当選者 160 人)

出演＝野村萬(和泉流)、山本東次郎(大蔵流)、司会：田口和夫(文教大学名誉教授)

アンケートの実施：回答数 90 人(配布数 127 人、満足回答率 98.9%)

④あぜくらの集い「舞台稽古への招待」

10/2、10:30～13:00

本館大劇場および伝統芸能情報館レクチャー室

参加者 111 人(応募者 991 人、当選者 120 人)

講師＝杉山美樹(舞台監督美術課主任専門員)

アンケートの実施：回答数 84 人(配布数 111 人、満足回答率 97.5%)

⑤あぜくらの集い「忠臣蔵ー義士引揚げの道をたどる」バスツアー

10/22・24、9:50～17:00

都内(旧吉良邸跡・泉岳寺・大石内蔵助ら切腹の跡他)

有料、参加者 77 人(応募者 248 人、当選者 80 人(同伴者含む))

講師＝中島康夫(中央義士会理事長)

アンケートの実施：回答数 70 人(配布数 77 人、満足回答率 98.5%)

⑥あぜくらのタベ「明日、誰かに話したくなる文楽～文楽人形の魅力～」

11/29、18:30～20:10

伝統芸能情報館レクチャー室、参加者 123 人(応募者 312 人、当選者 120 人)

出演＝吉田玉翔、ダニエル・カール

アンケートの実施：回答数 92 人(配布数 123 人、満足回答率 97.8%)

⑦あぜくらの集い「新春かるた会ーせりふを愉しむー」

1/20、12:30～14:00

本館大劇場お休み処、参加者 58 人(応募者 129 人、当選者 72 人)

ゲスト＝中村萬太郎、山川静夫

アンケートの実施：回答数 51 人(配布数 58 人、満足回答率 100.0%)

⑧あぜくらの集い「復曲素浄瑠璃試演会」

2/21、14:00～17:00

本館小劇場、参加者 477 人(応募者 545 人、当選者 500 人)

出演＝竹本千歳太夫、豊竹靖太夫、豊竹亘太夫、豊澤富助、野澤錦糸、豊澤龍爾

解説＝児玉竜一(早稲田大学教授)

アンケートの実施：回答数 351 人(配布数 477 人、満足回答率 99.1%)

(4) アンケート調査

- ・ 「あぜくらの集い」について毎回アンケート調査を行った。(配布数 1,267 枚、回答数 999 枚)
- ・ アンケート結果として、「あぜくらの集い」は好評で満足度も高かった。
- ・ あぜくら会と国立文楽劇場友の会の会員全員を対象に、現在の会員制度の利点と問題点を調査するため、合同アンケートを実施した。(配布数 27,100 人、回答数 10,130 人)

(5) 会員数

在籍者数(対前年度)	目標会員数
18,694 人(+583 人)	18,000 人

2. 国立文楽劇場友の会

(1) 会員向けサービスの充実

- ・ 新規入会キャンペーンを実施した。
- ・ 既存会員へ記念品贈呈の「文楽公演観劇ラリー」を実施した。
- ・ 振興会ホームページ内に会員専用ページを作成した。
- ・ 会報発行日に会報を会員専用ページに掲載した。

(2) 会報の発行(計画：年 6 回発行)

- ・ 文楽本公演に合わせて年 6 回発行した。

(3) 会員向けイベント(計画：年 6 回程度)

①5 月特別企画(民俗芸能)公演関連プレ講座「雄勝法印神楽・黒森神楽－震災からこれまでの歩み－」

5/7、14:00～16:00

文楽劇場小ホール、参加者 75 人(応募者 109 人、当選者 109 人)

講師＝阿部武司(東北文化財映像研究所所長)

②第 109 回「文楽のつどい」夏休み文楽特別公演「伊勢音頭恋寝刃」ゆかりの地バスツアー

6/24、9:30～17:00

三重県伊勢市(古市遊郭跡・伊勢神宮内宮)、有料、参加者 37 人(応募者 53 人、当選者 40 人)

アンケートの実施：回答数 29 人(配布数 37 人、満足回答率 90.0%)

③9 月特別企画(声明)公演関連プレ講座「日本音楽における声明とその魅力」

9/3、14:00～16:00

文楽劇場小ホール、参加者 128 人(応募者 262 人、当選者 174 人)

講師＝茂手木潔子(聖徳大学教授)

④復曲試演会『花魁苔八総』墓六住家の段・丸塚山の段

10/17、17:00～20:00

文楽劇場小ホール、参加者 128 人(応募者 262 人、当選者 174 人)

出演＝竹本千歳太夫、野澤錦糸 対談聞き手＝亀岡典子(産経新聞社文化部編集委員)

解説＝久堀裕朗(大阪市立大学准教授)

⑤第 110 回「文楽のつどい」バックステージツアー

11/9、11:00～12:00

文楽劇場食堂「文楽茶寮」、参加者 43 人(応募者 260 人、当選者 45 人)

出演＝竹本小住太夫、鶴澤清志郎、桐竹紋臣、桐竹紋吉、吉田玉峻

⑥第 111 回「文楽のつどい」茶話会「初春文楽公演の見どころ・聞きどころ」

12/21、14:00～15:30

文楽劇場食堂「文楽茶寮」、有料、参加者 63 人(応募者 152 人、当選者 70 人)

出演＝竹本文字久太夫、竹澤宗助、聞き手＝くまざわあかね(落語作家)

⑦第 112 回「文楽のつどい」4 月文楽公演に因み、お話と講談、座談及びお楽しみ抽選会

お話「太平記の浄瑠璃と講談」、講談「楠木の泣き男」、座談「楠昔噺をめぐって」

3/27、18:00～19:50

文楽劇場小ホール、参加者 136 人(応募者 219 人、当選者 170 人)

出演＝荻田 清、旭堂南陵、吉田和生、吉田玉男

(4) 会員数

在籍者数(対前年度)	目標会員数
8,316人(+37人)	8,100人

3. 国立劇場おきなわ友の会

(1) 会員向けサービスの充実

- ・ 前年度に引き続き、チケット購入時に押されるスタンプをためて割引券等がもらえるポイントカード制度、キャンセル待ちサービス、公演チラシ送付サービス、会員対象の講演会・バスツアーを実施した。
- ・ 現会員の紹介により家族・友人等が入会した場合に双方へ割引券を進呈する「ご家族・ご友人ご紹介キャンペーン」を2月より実施し、会員獲得に努めた。
- ・ インターネットからの入会した場合に割引券を進呈する「Web 新規入会促進キャンペーン」を2月より実施し、会員獲得に努めた。

(2) 会報の発行(計画：年4回発行)

- ・ 「国立劇場おきなわ友の会会報」を6、9、12、3月に発行した(計4回)。

(3) 会員向けイベント(計画：年3回程度)

①友の会半日バスツアー&公演鑑賞 組踊「仲村渠真嘉戸」

12/17、豊見城市・糸満市ほか、有料、参加者40人(先着順)

講師=垣花武信

アンケートの実施：回答数40人(配布数40人、満足回答率100.0%)

②友の会新春講演会

2/25、国立劇場おきなわ小劇場、参加者160人

講師=島袋光晴、聞き手=嘉数道彦

アンケートの実施：回答数107人(配布数160人、満足回答率86.9%)

(4) アンケート調査

- ・ バスツアー・新春講演会で実施した。
満足回答率：バスツアー100.0%、新春講演会86.9%

(5) 会員数

在籍者数(対前年度)	目標会員数
1,810人(△182人)	2,200人

4. 新国立劇場クラブ・ジ・アトレ

(1) 会員向けサービスの充実

- ・ 10%割引価格にて先行販売(郵送申込及びインターネット申込による「会員抽選受付」並びに電話、窓口及びインターネット申込による「先行受付」)を行った。一般発売後は5%割引を実施した。
- ・ シーズンセット券を10%から最大25%の割引価格にて優先的に販売した。また2015/2016シーズンに引き続きバレーセット券で、購入後も会員抽選受付期間中に日程変更が可能な、会員限定の「キャストセレクトサービス」を実施した。また、オペラセット券では、全公演購入者限定のサービスとして、一定の回数まで日程変更が可能な「エクステンジサービス」を引き続き実施した。
- ・ 購入金額に応じて加算されるポイント数に応じて、ポイントアップサービスを実施した。具体的には、チケット購入時の優待サービス、各種クーポン、グッズの提供、ゲネプロ見学や公演への招待を実施した。
- ・ 入会・カード利用促進キャンペーン(ゲネプロ見学会、バックステージツアー等各種イベントへの招待)を10月から2月にかけて実施し、会員募集に努めた。28年度は三井住友VISAカード及びゴールドカードのみならずクレジット機能のないハウスカードもキャンペーン対象とし、オペラ劇場公演にて入会促進カウンターを設けるなど、より積極的な宣伝展開を図った。
- ・ 新規会員獲得のため、オペラ、舞踊、演劇の3ジャンル横断で現代舞台芸術全般の興味を喚起する話題を集めた「NNTT Navi」を発行し、2017/2018シーズンセット券発売までの10月~1月の期間、主催公演来場者に配布、同時にホームページ上に特設サイトを立ち上げて情報発信した。
- ・ クラブ・ジ・アトレ会員サイトの内容をより充実させ、会員向けのチケット発売情報を随時ニュースに掲載するなど、利便性の向上を図った。

(2) 会報の発行(計画：毎月発行)

- ・ 新国立劇場月刊会報誌「ジ・アトレ」を毎月発行した(計12回)。

(3) 会員向けイベント(計画：年 12 回程度)

- ・ オペラ及びバレエにおいて、会員から希望を募り、抽選でゲネプロに招待する見学会を 7 回(オペラ 2 演目、バレエ 5 演目)実施した。
- ・ 2015/2016 シーズンのオペラ、バレエでお客様感謝の会、シーズンエンディングパーティーをそれぞれ開催した。
- ・ 入会・カード利用促進キャンペーンの一環として、特別バックステージツアー及びバレエリハーサル見学を実施した。

(4) サービスに対する意見収集

- ・ 今後の運営に活用するため、公演会場でのアンケートやポイントアップサービス等を通じて、各種サービスに対する会員の興味・関心の把握に努めた。

(5) 会員数

在籍者数(対前年度)	目標会員数
10,363 人(+491 人)	9,700 人

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 国立劇場おきなわ友の会では、本館 3 月琉球芸能公演「組踊『執心鐘入』と琉球舞踊」の際、本館小劇場ロビーで国立劇場おきなわの公演広報と併せて、友の会入会の勧誘を行った。
- ・ 新国立劇場クラブ・ジ・アトレでは、入会・カード利用促進キャンペーンを実施し、ゲネプロ見学会やバックステージツアー等各種イベントへ招待するなど会員募集に努めた。28 年度はクレジット機能のないハウスカードも対象とし、オペラ劇場公演で入会促進カウンターを設けるなど、より積極的な宣伝展開を図った。
- ・ 「NNTT Navi」を発行し、オペラ、舞踊(バレエ、現代舞踊)、演劇の 3 ジャンル横断で現代舞台芸術全般の興味を喚起することにより新規会員獲得に努めた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 国立劇場おきなわ友の会では、新規入会者数が伸び悩み、会員数が目標に達しなかったが、29 年 2 月から 9 月にかけて新規入会キャンペーンを実施することで、新規会員の増加を図っていく。また、入会・継続手続きがインターネットで可能であることなど、会員サービスが向上した点も PR し、勧誘に努めたい。

2-(6) 劇場施設の使用効率の向上等

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

ア 劇場施設の使用効率の向上

伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を貸与

イ 利用方法、空き日情報等をホームページ等により提供

利用者に対して提供するサービスの向上

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

ア 劇場施設の使用効率の向上

伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を貸与

区分	貸与日数	使用効率
本館大劇場	73日	82%
本館小劇場	129日	72%
演芸場	104日	89%
能楽堂本舞台	180日	69%
文楽劇場	80日	62%
文楽劇場小ホール	91日	52%
国立劇場おきなわ大劇場	65日	42%
国立劇場おきなわ小劇場	131日	65%
(小計)	853日	68%
新国立劇場オペラ劇場	31日	44%
新国立劇場中劇場	211日	82%
新国立劇場小劇場	159日	82%
(小計)	401日	71%
(合計)	1,254日	69%

※ 使用効率は、使用可能日数のうち鑑賞機会の提供(主催公演、主催公演関連企画、貸し劇場公演)を行った日数の割合。

イ 各施設の利用促進を図るため、次の取組を実施

- ①各施設の設備等の概要、利用方法及び空き日等の情報をホームページへ掲載
- ②パンフレットやダイレクトメールによる広報
- ③利用希望者への説明・見学等
- ④利用者に対しアンケート調査を実施、その調査結果を踏まえたサービスの充実
- ⑤他の劇場施設等の利用方法、利用料金等の調査、調査結果の検討・活用

《主要な業務実績》

1. 劇場施設の貸与、使用効率の向上

- ・ 伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を貸与
- ・ 伝統芸能分野・現代舞台芸術分野の合計で、貸与日数・使用効率とも年度計画目標を達成

2. 劇場施設の利用促進を図るための取組

- ・ 施設利用に関する情報を、ホームページ・パンフレット・専門誌等で随時発信
- ・ サービス向上のため、利用者へのアンケートや他劇場調査を実施

1. 劇場施設の貸与、使用効率の向上

劇場	貸与日数		使用効率		(参考) 劇場稼働率
	実績	目標	実績	目標	
本館大劇場	78日	73日	79.6%	81.8%	94.6%
本館小劇場	120日	129日	70.4%	71.9%	90.1%
演芸場	107日	104日	89.8%	89.1%	96.3%
能楽堂	212日	180日	73.1%	68.7%	90.5%
文楽劇場	80日	80日	63.5%	62.4%	77.3%
文楽劇場小ホール	96日	91日	53.9%	51.6%	71.7%
小計	693日	657日	72.4%	71.6%	87.3%
国立劇場おきなわ大劇場	67日	65日	40.3%	42.1%	84.1%
国立劇場おきなわ小劇場	108日	131日	58.2%	65.4%	61.7%
小計	175日	196日	48.1%	52.6%	74.3%
伝統芸能分野 合計	868日	853日	67.5%	67.7%	84.7%
新国立劇場オペラ劇場	34日	31日	47.0%	44.0%	99.6%
新国立劇場中劇場	222日	211日	84.3%	82.0%	100.0%
新国立劇場小劇場	165日	159日	82.6%	82.0%	98.8%
現代舞台芸術分野 合計	421日	401日	72.5%	70.8%	99.5%
総合計	1,289日	1,254日	69.0%	68.6%	89.0%

※主催公演等での使用と貸与とが重複する日は、使用効率の算出において1日と計上されるため、重複日が多い施設は、貸与日数が増加した場合でも使用効率が低下する場合がある。(28年度実績では本館大劇場、おきなわ大劇場、伝統芸能分野合計が該当)

2. 劇場施設の利用促進を図るための取組

(1) ホームページ、パンフレット等による広報、説明会等の実施

- 施設、設備等の概要及び利用手続き方法、空き日情報、貸劇場公演情報等をホームページに掲載した。
- 劇場利用パンフレットを作成して過去の利用者・利用団体・関係団体等に配布・送付した。
- 施設申込受付期間の案内を、過去の劇場利用者へのDMや専門誌に掲載して広報を行った。
- 施設申込受付期間や申込方法を、楽屋・稽古場等に掲示して周知を図った。
- 舞台の保守点検日や整備期間の設定について、関係部署と調整しながら貸与希望者の使用希望日に沿うように調整した。

(本館)

- 劇場利用パンフレット及び使用申込書を振興会ホームページに掲載し、利用者の利便を図った。
- 小劇場利用希望者に対し、申込受付開始前に、申込手続きについての説明及び施設・設備の見学会を開催し、劇場利用者の増加に努めた。
- 大劇場・小劇場とも、初めての利用者や利用を検討している方からの希望に応じて、随時劇場見学等の案内を行った。

(能楽堂)

- ホームページに使用可能日を随時掲出するなど、広報の充実を図った。また利用希望者には、舞台見学等の案内を行った。
- 申合せの利用については、時間単位できめ細かい調整を行い、劇場利用の増加に努めた。

(文楽劇場)

- 劇場内にチラシ・ポスターを掲出した。
- ホームページに使用可能日を掲出するなど、広報の充実を図った。
- 文楽劇場・小ホールとも、初めての利用者や利用を検討している方からの希望に応じて、随時劇場見学等の案内を行った。
- 団体営業と連携して観劇団体等へも劇場利用をPRした。

(国立劇場おきなわ)

- ホームページやパンフレットによる広報に加えて、国立劇場おきなわ友の会会報誌に貸劇場利用に関する情報を掲載し、一般・会員等への広報宣伝を行った。

(新国立劇場)

- ・ 関係団体への郵送やホームページでの公開により使用方法や貸与可能日の状況を広く周知し、利用の促進を図った。ホームページの貸劇場公演ページは画像を多用し見やすいレイアウトに改修した。
- ・ 劇場カレンダーへの反映、団体ホームページへのリンクの貼付、チラシ画像・座席表の掲載等、利用団体の公演情報について劇場ホームページに掲載する情報をより充実させた。

(2) アンケート調査の実施

(本館・演芸場)配布数 178 件、回答数 54 件(回収率 30.3%)、満足回答率 98.1%

(能楽堂) 配布数 95 件、回答数 36 件(回収率 37.9%)、満足回答率 97.2%

(文楽劇場)配布数 122 件、回答数 55 件(回収率 45.1%)、満足回答率 100.0%

(国立劇場おきなわ)配布数 86 件、回答数 28 件(回収率 32.6%)、満足回答率 93.3%

(新国立劇場)

- ・ 施設利用者にアンケート用紙を渡し、ご意見を伺った。施設・スタッフの対応いずれも良好との回答であった。

《数値目標の達成状況》

【劇場施設の貸与状況】

伝統芸能分野	実績67.5%／目標67.7%(達成度99.7%)
現代舞台芸術分野	実績72.5%／目標70.8%(達成度102.4%)
合計	実績69.0%／目標68.6%(達成度100.6%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

伝統芸能分野
B

(根拠)

- ・ 伝統芸能の保存振興等を目的とする事業に対し、劇場施設を積極的に貸与した。
- ・ 各劇場の貸与日数及び使用効率は、全体で年度計画の目標を概ね達成できた。

現代舞台芸術分野
B

(根拠)

- ・ 舞台の安全と公演の質に留意しつつスケジュールを精査して貸与可能日を確保し、オペラ劇場、中劇場、小劇場とも劇場稼働率の限度まで有効活用して芸術団体等へ貸与することができた。

○ 良かった点・特色ある点

(本館)

- ・ 30 年度の施設使用の申込を 28 年 12 月に受け付けた。26 年度分から受付期間は従来の 2 か月間を 1 か月間に短縮しているが、利用者にも広く浸透してきている。
- ・ 演芸場の施設使用の申込については、26 年度の使用分から申込受付開始を早期化している。30 年度の受付においても、館内に案内を置いたり、利用実績のある顧客に DM を送付したりすることで、この方法が利用者に定着し、申込数が安定するとともに円滑な受付ができた。
- ・ 小劇場使用日選定抽選会では会場に施設利用システム搭載のパソコン等を設置し、受付から抽選、施設使用申込書や内定通知書発行まで、円滑に処理し参加者の待ち時間を縮小することができた。
- ・ 本館・演芸場では、紙媒体での配布のみならず、劇場利用パンフレット及び使用申込書を振興会ホームページに掲載し、利用者の利便を図った。

(能楽堂)

- ・ 27 年度同様、目標を大きく上回る利用数があった。観世能楽堂が休館していることも一因であるが、きめ細かな時間調整をしながら申合せの利用を促進したことや、第 3 種(能楽以外の公演)の利用希望に対しても積極的に対応したことが原因として挙げられる。
- ・ 能楽堂では、紙媒体での配布のみならず、劇場利用案内及び使用申込書を振興会ホームページに掲載し、利用者の利便を図った。

(文楽劇場)

- ・ 特に小ホールの利用促進に注力し、劇場内にチラシ・ポスターを掲出した。
- ・ 団体営業と連携して観劇団体等へも劇場利用をPRした。

(国立劇場おきなわ)

- ・ ホームページに施設利用案内パンフレットを掲載し、利用希望者の利便性を向上させた。

(新国立劇場)

- ・ オペラ劇場、中劇場、小劇場とも、舞台の安全と公演の質に留意しつつスケジュールを精査し可能な範囲で貸与可能日を確保した。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 本館大小劇場、国立劇場おきなわ大小劇場の使用効率が目標に届かなかった。劇場利用について一層周知に努め、利用の増加を図りたい。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため
とるべき措置

伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

伝統芸能の伝承者の養成

伝統芸能の伝承者の養成 p.124

- 養成研修の実施 p.128
- 既成者研修の実施 p.132
- 実施に当たっての留意事項 p.134

現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修 p.137

- 研修の実施 p.140
- 実施に当たっての留意事項 p.143

3- (1) 伝統芸能の伝承者の養成

《中期計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

伝統芸能を長期的な視点に立って保存振興し、各分野の伝承者を安定的に確保するため、伝承者の養成を次のとおり実施

ア 国としての支援が必要となる分野に限定し、外部専門家等から、我が国の伝統芸能を保持するために引き続き伝承者を養成する必要があるとの意見が示された、歌舞伎、大衆芸能、能楽、文楽、組踊の各分野について実施

実施に当たっては、各分野の充足状況等を把握するとともに、関係団体等との協議、外部専門家等の意見等を踏まえ、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施

研修修了生の動向把握等により成果の検証を行い、対象とする分野、人数等の不断の見直し

イ 重要無形文化財保持者等を講師として、実践的・体系的なカリキュラムにより、中期目標の期間中に次の人数の研修修了を目途とした養成研修を実施

①歌舞伎俳優、音楽伝承者養成：18人程度(研修期間2年間又は3年間)

②大衆芸能伝承者養成：8人程度(研修期間2年間又は3年間)

③能楽伝承者養成：基礎課程5人程度(研修期間：基礎課程3年間、専門課程3年間)

④文楽伝承者養成：6人程度(研修期間2年間)

⑤組踊伝承者養成：18人程度(研修期間3年間)

ウ 研修修了生を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次のとおり既成者研修を実施

①既成者研修発表会

- ・歌舞伎俳優既成者研修発表会(年2回程度)
- ・歌舞伎音楽既成者研修発表会(年1回程度)
- ・能楽既成者研修発表会(年3回程度)
- ・文楽既成者研修発表会(年3回程度)
- ・組踊既成者研修発表会(年1回程度)

②能楽研究課程(1年間)

(3) 実施に当たっての留意事項

ア 養成研修事業についての国民の関心を喚起するため、広報活動を充実

イ 研修生等が実演経験を積む機会の充実及び学校等との連携による波及効果の拡大を図るため、児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動へ参画

ウ 伝統芸能の担い手を確保するための効果的かつ効率的な取組について検討

エ 合同講義の実施等、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を実施

オ 国立劇場等の人材や施設を活用し、公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力

《年度計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家等その他の関係者の研修

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

ア 中期計画の方針に従い、次のとおり養成研修を実施

①歌舞伎俳優・音楽

(歌舞伎俳優)

(a) 歌舞伎俳優第22期生(研修期間2年、9名)の2年目の養成(修了)

(b) 歌舞伎俳優第23期生の募集

(歌舞伎音楽)

(c) 竹本第22期生(研修期間2年、2名)の2年目の養成(修了)

(d) 竹本第23期生の募集

(e) 鳴物第15期生(研修期間2年、1名)の2年目の養成(修了)

(f) 鳴物第16期生の募集

(g) 長唄第7期生(研修期間3年、3名)の1年目の養成

②大衆芸能

- (a) 寄席囃子第 14 期生(研修期間 2 年、6 名)の 1 年目の養成
 - ③能楽(ワキ・囃子・狂言：研修期間 6 年)
 - (a) 第 9 期生(2 名)の 3 年目の養成
 - (b) 第 10 期生の募集
 - ④文楽(太夫、三味線、人形：研修期間 2 年)
 - (a) 第 27 期生(3 名)の 2 年目の養成(修了)
 - (b) 第 28 期生の募集
 - ⑤組踊(立方・地方：研修期間 3 年)
 - (a) 第 4 期生(10 名)の 3 年目の養成(修了)
 - (b) 第 5 期生の募集
- イ 研修修了生を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次の通り既成者研修を実施

①既成者研修発表会

- (a) 歌舞伎俳優既成者研修発表会(2 公演実施)
 - ・稚魚の会・歌舞伎会合同公演(本館小劇場)8 月 18 日～21 日、8 回
 - ・上方歌舞伎会(文楽劇場)8 月 24 日～25 日、4 回
- (b) 歌舞伎音楽既成者研修発表会(1 公演実施)
 - ・音の会(本館小劇場)8 月 12 日～13 日、2 回
- (c) 能楽既成者研修発表会(3 公演実施)
 - ・若手能(京都：観世会館)9 月 17 日、1 回
 - ・若手能(大阪：大槻能楽堂)1 月 21 日、1 回
 - ・若手能(東京：能楽堂)3 月 4 日、1 回
- (d) 文楽既成者研修発表会(4 公演実施)
 - ・文楽若手会(文楽劇場)6 月 18 日～19 日、2 回
 - ・文楽若手会(本館小劇場)6 月 25 日～26 日、2 回
 - ・若手素浄瑠璃の会(文楽劇場小ホール)8 月 25 日、1 回
 - ・若手素浄瑠璃の会(文楽劇場小ホール)2 月 24 日、1 回
- (e) 組踊既成者研修発表会(1 公演実施)
 - ・若手伝承者公演(国立劇場おきなわ大劇場)12 月 3 日、1 回

②能楽研究課程を開講、研修機会の拡大と伝承者間の交流を促進

ウ 各分野の充足状況等の把握、研修修了後の就業機会確保のための関係団体等との協議、外部専門家等からの伝統芸能の伝承状況等の意見等の聴取により、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施

研修修了生の動向把握等により成果の検証、対象とする分野、人数等について不断の見直し

(3) 実施に当たっての留意事項

- ア 養成研修事業についての国民の関心を喚起するため、ホームページ等を活用し、事業の周知を促進
研修生募集について、様々な広報活動により周知
- イ 研修生及び研修修了生によるワークショップ等を全国の文化施設、学校等と協力して実施
外部公演への出演等、文化普及活動への参画
- ウ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義の実施
- エ 国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用した、公演制作者や舞台技術者等に対する実地研修の受入れ、協力

《主要な業務実績》

1. 養成研修の実施

- ・ 歌舞伎俳優第 22 期生(研修期間 2 年、9 名)の 2 年目の研修を実施、修了
- ・ 竹本第 22 期生(研修期間 2 年、2 名)の 2 年目の研修を実施、修了
- ・ 鳴物第 15 期生(研修期間 2 年、1 名)の 2 年目の研修を実施、修了
- ・ 長唄第 7 期生(研修期間 3 年、2 名)の 1 年目の研修を実施
(年度当初の 3 名のうち 1 名が 8 月に研修を辞退、また 2 名が 9 月適性審査に合格)
- ・ 寄席囃子第 14 期生(研修期間 2 年、4 名)の 1 年目の研修を実施
(年度当初の 6 名のうち 4 名が 9 月適性審査に合格)
- ・ 能楽第 9 期生(研修期間 6 年、2 名)の 3 年目の研修を実施
- ・ 文楽第 27 期生(研修期間 2 年、3 名)の 2 年目の研修を実施、修了

- ・ 組踊第4期生(研修期間3年、10名)の3年目の研修を実施、修了
 - ・ 歌舞伎俳優・歌舞伎音楽(竹本・鳴物)研修修了発表会及び歌舞伎音楽(長唄)・大衆芸能(寄席囃子)研修発表会(合同開催、1回)、青翔会(能楽、3回)、東西合同研究発表会(能楽、1回)、文楽研修修了発表会(1回)、組踊研修生発表会(2回)を実施
2. 既成者研修の実施
- ・ 歌舞伎俳優既成者研修発表会「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」「上方歌舞伎会」を実施
 - ・ 歌舞伎音楽既成者研修発表会「音の会」を実施
 - ・ 能楽既成者研修発表会「若手能(京都公演・大阪公演・東京公演)」を実施
 - ・ 文楽既成者研修発表会「文楽若手会(大阪公演・東京公演)」「若手素浄瑠璃の会(2公演)」を実施
 - ・ 組踊既成者研修発表会「若手伝承者公演」を実施
 - ・ 能楽研究課程を引き続き開講(受講者33名、実施回数363回)
3. 実施に当たっての留意事項
- ・ 第40回全国高等学校総合文化祭広島大会会場、歌舞伎鑑賞教室、既成者研修発表会、研修修了発表会のロビーで養成研修事業を周知
 - ・ 能楽研修修了生を中心とした若手能楽師が全国の学校・文化施設等に出向いて行うワークショップ等を23件実施
 - ・ 五館合同特別講義において、歌舞伎音楽(鳴物)研修主任講師の田中佐太郎を招いての講演「良き舞台人となるために」とその後の研修生交流会を開催し、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を実施
4. 外部専門家等の意見
- ・ 養成事業委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取して、後の事業運営に活用

《自己点検評価》 _____

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 伝統芸能を長期的な視点に立って保存振興し、各分野の伝承者を安定的に確保するため、伝承者の充足状況等の調査、関係団体との協議、外部専門家の意見聴取を行いながら28年度の事業を進めた。中期目標の達成状況も概ね順調である。
 - ・ 新人研修、研修発表会及び既成者研修等について、計画どおり実施した。
 - ・ 歌舞伎俳優研修が舞台実習として出演した稚魚の会・歌舞伎会合同公演「寿曾我対面」における演技、研修修了発表会の「仮名手本忠臣蔵」の演技に対して、外部専門家から大きな研修の成果であるとして高い評価を得た。
 - ・ 稚魚の会・歌舞伎会合同公演は、国立劇場開場50周年を記念する番組を構成したこともあり、高い入場率(96.6%)を達成するとともに、舞台成果にも外部専門家から高い評価を得た。
 - ・ 国立劇場開場50周年に当たって研修事業が各種新聞雑誌等に取り上げられ、国立劇場設立の大きな成果の一つとして認められた。
- 良かった点・特色ある点
- (歌舞伎俳優・音楽、大衆芸能)
- ・ 歌舞伎俳優研修では、日本体育大学体操部演技発表会において、国立代々木競技場第二体育館という国立劇場大劇場等の通常歌舞伎を上演する劇場よりも大きな会場で、2,800名の観客の前で立廻りの演技を披露するという貴重な体験ができた。
 - ・ 歌舞伎俳優研修発表会の歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」与市兵衛内勘平腹切の場は、難しい演目であり研修発表会では初めての上演演目であったが、観客及び養成事業委員から好評を得た。
 - ・ 竹本研修では、2年次の研修生の太夫・三味線共に技芸の進歩が高く認められたため、研修発表会の歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」与市兵衛内勘平腹切の場において、竹本の演奏を研修生だけで披露することができた。
 - ・ 長唄研修では、研修生2名が1年間の唄と三味線両方の研修成果を、研修発表会における2演目の中でそれぞれ披露することができた。
 - ・ 寄席囃子の研修生は、研修発表会で難しい演目や演奏に取り組み、各研修生はいずれも予想を上回る到達度を披露することができた。

- ・ 歌舞伎俳優9名、竹本2名、鳴物1名の12名が無事研修を修了するとともに、それぞれの所属先が決定し、就業の機会を確保することができた。
- ・ 国立劇場開場50周年に当たり、各種新聞雑誌の取材を受け、養成事業の意義が評価された。

(能楽)

- ・ 計画どおりに能楽研修発表会と能楽既成者研修発表会を実施し、若手能楽師が様々な役に挑戦して研鑽の成果を発表する機会を提供した。

(文楽)

- ・ 太夫の技芸員が不足している状況下にあつて、太夫専攻の研修生を無事に修了させることができたことは大きな意味がある。
- ・ 通常の実技研修や講義に加え、文楽関係史跡を巡る部外研修や、各種芸能の公演見学を積極的に行い、芸能に関する理解を深めさせることができた。
- ・ 文楽研修紹介 DVD の新規製作や、各種広報活動を通じて、養成事業及び文楽研修について PR することができた。

(組踊)

- ・ 第4期生10名全員について、順調に3年目の研修を実施し、修了することができた。また第5期研修生の募集に当たり、県外2名を含む17名の応募があった。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 応募者の増加を図るため、募集時期の見直し、広報活動や研修見学会の充実等の方策を検討する。
- ・ 組踊研修修了生において、芸能活動を継続的に行っていくための出演機会の創出について、各関係団体・関係機関と調整し、協力、連携していく必要がある。

3-(1)-① 養成研修の実施

《研修方針》

歌舞伎俳優、歌舞伎音楽(竹本)、歌舞伎音楽(鳴物)、大衆芸能(寄席囃子)研修においては、1年目に基礎研修、2年目には、専門研修と並行して、実践の場においてすぐに役立つ実技研修を実施する。歌舞伎音楽(長唄)においては、1年目に基礎研修、2年目に専門研修を行い、3年目に実践の場においてすぐに役立つ実技研修を実施する。

能楽(三役)研修においては、能楽を長期的な視点に立って保存振興し、各役の伝承者を安定的に確保するため、基礎課程3年、専門課程3年の研修を実施する。

文楽(三業)研修においては、本館、文楽劇場等で開催する文楽公演における太夫・三味線・人形の後継者を育成するため、2年間の基礎的な研修を実施する。

組踊研修においては、国立劇場おきなわ等で組踊の保存振興に寄与することを目的とし、将来にわたって継続的に組踊を支える、質の高い優れた立方・地方を養成するため、組踊実技を中心にして、琉球舞踊等の副実技、発声訓練等の基礎実技、芸能史等の講義等バランスのとれたカリキュラムを実施する。

《業務実績詳細》

1. 養成研修の実施

区分	研修期間	研修実績	うち 修了者	年度計画	中期計画(25~29年度)		
					修了者累計	目標	
歌舞伎 俳優・音楽	俳優 22期(2年次)	2年	9名	9名	9名	21名	18名 程度
	竹本 22期(2年次)	2年	2名	2名	2名		
	鳴物 15期(2年次)	2年	1名	1名	1名		
	長唄 7期(1年次)	3年	2名	-	3名		
大衆芸能	太神楽(休止)	-	-	-	-	8名	8名 程度
	寄席囃子 14期(1年次)	2年	4名	-	6名		
能楽	9期(3年次)	基礎課程3年 専門課程3年	2名	-	2名	2名	基礎課程 5名程度
文楽	27期(2年次)	2年	3名	3名	3名	6名	6名 程度
組踊	4期(3年次)	3年	10名	10名	10名	19名	18名 程度

2. 主な授業及び回数

区分	授業内容	
歌舞伎俳優 計 737 回	実技 計 623 回	歌舞伎実技、立廻り・とんぼ、化粧・衣裳、日本舞踊、義太夫、長唄、鳴物、黒御簾音楽、箏曲
	その他 計 114 回	講義、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、舞台実習、部外研修、あげざらい、発表会ほか
竹本 計 684 回	実技 計 478 回	義太夫(竹本)、義太夫、狂言、箏曲・胡弓
	その他 計 206 回	習字、講義、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、楽屋実習、部外研修、あげざらい、発表会ほか
鳴物 計 469 回	実技 計 319 回	大太鼓、小鼓・太鼓、大鼓、長唄、能楽(大鼓)
	その他 計 150 回	講義、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、楽屋実習、部外研修、発表会ほか
長唄 計 499 回	実技 計 404 回	長唄(鳥羽屋三右衛門社中・尾上菊五郎劇団音楽部)、五線譜、鳴物
	その他 計 95 回	作法、講義、習字、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、部外研修、あげざらい、発表会ほか

寄席囃子 計 428 回	実技 計 325 回	寄席囃子、長唄、五線譜、小唄・俗曲、囃子(太鼓・小鼓)、日本舞踊
	その他 計 103 回	作法、講義、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、部外研修、あげざらい、発表会ほか
能楽 計 636 回	実技 計 493 回	シテ謡、笛、小鼓、大鼓、太鼓、狂言
	その他 計 143 回	講義、五館合同特別講義、公演・稽古見学、舞台・楽屋実習、部外研修、その他(発表会等)
文楽 計 884 回	実技 計 155 回	義太夫、義太夫三味線、人形実技
	その他 計 729 回	謡・狂言、日本舞踊、体操、作法、講義、五館合同特別講義、実習、公演・稽古見学、部外研修、発表会
組踊 計 468 回	実技 計 434 回	組踊実技、副実技、基礎実技
	その他 計 34 回	講義、五館合同特別講義、鑑賞・見学研修等、その他(発表会等)

3. 研修発表会等の実施

- ・ あげざらい
 - 第1回あげざらい
 - 9/14、本館大稽古場(一般非公開)
 - 歌舞伎俳優研修生：歌舞伎「本朝廿四孝」長尾謙信館十種香の場、「菅原伝授手習鑑」吉田社頭車引の場(中村時蔵・市川團蔵・市村橋太郎＝歌舞伎指導)
 - 歌舞伎音楽(竹本)研修生：「菅原伝授手習鑑」吉田社頭車引の場(竹本葵太夫・竹本東太夫・野澤松也・鶴澤泰二郎＝竹本指導)、箏曲「千鳥の曲」(川瀬露秋＝指導)、胡弓「六段の調べ」(高橋翠秋＝指導)
 - 第2回あげざらい
 - 1/6、本館中稽古場(一般非公開)
 - 歌舞伎音楽(長唄)研修生：「さくらくずし」「うさぎうさぎ」「ずいずいずっころばし」
 - 大衆芸能(寄席囃子)研修生：「日本橋」、自作曲「ラジオ体操第一」「カルメン」「アンパンマンのマーチ」「ゴッド・ファーザー」(杵屋巳織＝指導)
 - ・ 歌舞伎俳優第22期生・歌舞伎音楽(竹本)第22期生・歌舞伎音楽(鳴物)第15期生研修修了発表会、歌舞伎音楽(長唄)第7期生・大衆芸能(寄席囃子)第14期生研修発表会(合同)
 - 3/9、本館小劇場、入場料：無料、入場者数：436人
 - 歌舞伎俳優研修生：日本舞踊「雛鶴三番叟」「玉屋」、立廻り「小金吾の立廻り」
 - 竹本研修生：義太夫「伊達娘恋緋鹿子」櫓のお七
 - 歌舞伎俳優研修生・竹本研修生：歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」与市兵衛内勘平腹切の場
 - 鳴物研修生：長唄「鞍馬山」、鳴物「大太鼓奏法」
 - 長唄研修生：長唄「五郎時致」、長唄「末広狩」
 - 寄席囃子研修生：曲芸「太神楽曲芸」、小唄「花の雲」他、長唄「吾妻八景」
 - ・ 能楽研修発表会
 - 第7回稽古会
 - 4/18、研修能舞台(非公開)
 - 舞囃子「箆」(喜多流)、舞囃子「班女」(宝生流)、舞囃子「天鼓」(金春流)、袴能「高砂」(観世流)
 - 第10回青翔会
 - 6/14、能楽堂、入場料：正面1,500円、脇正面1,000円、中正面700円(学生 脇正面700円、中正面500円)、入場者数：587人
 - 舞囃子「忠度」(宝生流)、舞囃子「七騎落」(金春流)、舞囃子「絃上」(喜多流)、狂言「盆山」(和泉流)、能「高砂」(観世流)
 - 第8回稽古会
 - 7/26、研修能舞台(非公開)

「伯母ヶ酒」(和泉流)、舞囃子「放下僧」(喜多流)、舞囃子「百萬」(観世流)、舞囃子「融」(金春流)、袴能「熊坂」(宝生流)

第11回青翔会

10/18、能楽堂、入場料：正面1,500円、脇正面1,000円、中正面700円(学生 脇正面700円、中正面500円)、入場者数：589人

舞囃子「羽衣」(金春流)、舞囃子「小督」(喜多流)、舞囃子「春日龍神」(観世流)、狂言「柿山伏」(和泉流)、能「八島」(宝生流)

第9回稽古会

2/13、研修能舞台(非公開)

狂言小舞「海道下り」(和泉流)、舞囃子「花月」(喜多流)、舞囃子「安宅」(観世流)、舞囃子「唐船」(宝生流)、袴能「項羽」(金春流)

第12回青翔会

3/14、能楽堂、入場料：正面1,500円 脇正面1,000円 中正面700円(学生 脇正面700円 中正面500円)、入場者数：586人

舞囃子「半葩」(喜多流)、舞囃子「玉葛」(金春流)、舞囃子「猩々」(宝生流)、狂言「梟山伏」(和泉流)、能「賀茂」(観世流)

第47回東西合同研究発表会

8/30、名古屋能楽堂、入場料：無料、入場者数：313人

舞囃子「高砂」「忠度」「自然居士」「葛城」「歌占」「枕慈童」、狂言「附子」、ワキ連吟「鵜之段」、狂言小舞「桑の弓」「餅酒」「海老救川」、能「巻絹」「葵上」

- 第27期文楽研修修了発表会

1/28、文楽劇場、入場料：無料、入場者数：473人

「花競四季寿」より万才、素浄瑠璃「一谷嫩軍記」熊谷桜の段、「本朝廿四孝」十種香の段

- 第4期組踊研修生第5回発表会

10/14、国立劇場おきなわ大劇場、入場料：無料、入場者数：446人

独唱「二揚下出し仲風節」「二揚下出し述懐節」、組踊「女物狂」ほか

- 第4期組踊研修修了発表会

3/2、国立劇場おきなわ大劇場、入場料：無料、入場者数：520人

組踊「花売の縁」

4. 適性審査の実施

コース	試験日	受験者数	合格者数
歌舞伎音楽(長唄)	9/21	2名	2名
寄席囃子	9/12	6名	4名

5. 募集・選考の状況、今後の募集に向けた取組・検討

コース	選考日	応募者数	受験者数	合格者数
歌舞伎俳優	3/10	12名	12名	9名
歌舞伎音楽(竹本)	3/10	5名	5名	4名
歌舞伎音楽(鳴物)	2/23	2名	2名	2名
能楽	3/15	5名	4名	3名
文楽	10/25・3/15	7名	6名	4名
組踊	11/5~6	17名	17名	10名

【特記事項】

- 歌舞伎俳優研修生9名は、8月稚魚の会・歌舞伎会合同公演、1/22 伝統歌舞伎保存会研修発表会において舞台実習を行った。
- 歌舞伎音楽(竹本)研修生2名は、国立劇場(7月、11月)において楽屋実習を行った。
- 歌舞伎音楽(鳴物)研修は、22年度の第14期修了以降久しぶりに修了生を送り出した。
- 歌舞伎俳優、歌舞伎音楽(竹本・鳴物・長唄)、大衆芸能(寄席囃子)研修生は、10/26に両国・深川界限にて、また3/15に浅草・吉原・向島界限にて、史跡を巡る部外研修を講師の講義を受けながら行った。
- 寄席囃子研修生は、11/17~18の部外研修で、寄席囃子の発祥の地である大阪の芸能を見(文楽劇場上

方演芸特選会・錦秋文楽公演、天満天神繁昌亭昼席)、歴史についての地元講師の講義を受け、上方落語の実演に触れたことで、落語に関わる東西の寄席囃子の違いについて学べて有意義であった。

- ・ 次期開講の歌舞伎俳優の地方出身の研修生計4名について振興会宿舎への入居希望を受け入れることで、研修生の経済的負担の軽減を図った。また、中学を卒業して初めて上京する研修生については、生活のサポートがついている民間の施設を紹介して、研修に打ち込める環境を確保するように努めた。
- ・ 能楽研修は、6年ごとの募集を3年ごととし、第10期研修生の募集を行った。これに伴い、次年度に向けて研修カリキュラムの見直しを検討した。
- ・ 能楽研修第9期生が部外研修として「大阪若手能」の公演見学を行った(1/21)。
- ・ 文楽研修生は、部外研修(京都市内の文楽関係史跡見学、7/6)を実施した。研修講師が同行し、現地で講習を行った。
- ・ 文楽研修生は、国立劇場・国立文楽劇場の以下の文楽公演にて舞台実習を行った。
太夫専攻(1名):5月文楽、6月文楽鑑賞教室、文楽若手会、12月文楽
人形専攻(2名):4月文楽、5月文楽、6月文楽鑑賞教室、文楽若手会、夏休み文楽、9月文楽、錦秋文楽、12月文楽、初春文楽、2月文楽

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

(歌舞伎俳優・音楽、大衆芸能)

- ・ 歌舞伎俳優研修の舞台実習の稚魚の会・歌舞伎会合同公演「寿曾我対面」の大名の渡り台詞は、「堂々としていて、少ない研修期間でこうも身につくものなのか」と外部専門家からの評価を得た。
- ・ 外部専門家の意見として、研修発表会の歌舞伎俳優については、「仮名手本忠臣蔵」与市兵衛内勘平腹切の場では、「多様な登場人物をそれぞれがきちんとこなしていてまとまりがあり、チームワークで興味深い舞台を作りあげた」との評価を得た。
- ・ 歌舞伎俳優研修、竹本研修は、あげざらい及び修了発表会において、合同で一つの演目に取り組むことができ、歌舞伎俳優は歌舞伎音楽をよく聞きながら芝居をし、竹本は俳優に合わせて演奏するという、より実践的な研修を行うことができた。
- ・ 竹本研修では、2年次の研修生の太夫・三味線共に技芸の進歩が高く認められたため、研修発表会の歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」与市兵衛内勘平腹切の場において、竹本の演奏を研修生だけで披露することができた。

(能楽)

- ・ 第9期生が部外研修として大阪若手能を見学したことで、普段は接することのない関西の若手能楽師と交流の場を持つことができた。
- ・ 第9期生が稽古会や能楽研修発表会(青翔会)で少しずつ大きな役を務めるようになり、基礎研修課程の最終年次として充実した研修を行うことができた。
- ・ 能楽研修発表会(青翔会)は、若手能楽師を応援しようという大勢の観客の来場があり、有料入場率が99%を超えた。

(文楽)

- ・ 文楽関係史跡を巡る部外研修を、研修講師による現地講習のもとで実施し、文楽の歴史や演目の背景等を身近に感じながら学習させることができ、とても有意義であった。
- ・ 従来実施してきた人形専攻の舞台実習に加え、太夫専攻も舞台実習を実施できたことは、研修生にとっては公演の現場を肌で感じるができ、有意義であった。
- ・ 振興会主催の文楽公演や歌舞伎公演、能楽公演、各種講座等に加え、外部団体主催の文楽公演、歌舞伎公演等の公演見学を多数行い、各種芸能に関する知識・理解を深めさせることができた。
- ・ 研修修了発表会において、若手・中堅技芸員とともに、第27期生(太夫と人形)が懸命に舞台を務めた姿は、三位一体のあり方を感じさせ、文楽の将来を嘱望させた。

(組踊)

- ・ 第4期生10名全員が順調に3年目の研修を実施し、修了することができた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 能楽研修では、応募者の増加を図るため、募集時期を見直し新たな広報活動や研修見学会等を実施したが、応募者の増加を図ることはできなかった。この結果を精査し、次回に繋げていきたい。
- ・ 引き続き、組踊研修第5期生10名の円滑な研修の実施に取り組んでいく。特に、高校生2名については、保護者と協力、連携して対応していきたい。

3-(1)-② 既成者研修の実施

《研修方針》

研修修了生の技芸の一層の向上を図るとともに、就業者としての意識の向上を促すため、既成者研修発表会等の公演を行う。さらに、既成者の技芸の向上のため、必要に応じて各種研修を適宜実施する。

1. 発表会

引き続き既成者研修発表会を実施する。

歌舞伎俳優 2 公演・歌舞伎音楽 1 公演・能楽 3 公演・文楽 4 公演・組踊 1 公演

2. 能楽の研究課程の開講

能楽の既成者研修として、研修修了生と能楽師子弟を対象に研究課程を開講し、研修機会の拡大と伝承者間の交流を図る。

《業務実績詳細》

1. 既成者研修発表会の実施

区分	実績	年度計画	公演名
歌舞伎俳優既成者研修発表会	2 公演	2 公演	「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」「上方歌舞伎会」
歌舞伎音楽既成者研修発表会	1 公演	1 公演	「音の会」
能楽既成者研修発表会	3 公演	3 公演	「若手能」(京都公演・大阪公演・東京公演)
文楽既成者研修発表会	4 公演	4 公演	「文楽若手会」(大阪公演・東京公演)「若手素浄瑠璃の会(8月・2月)」
組踊既成者研修発表会	1 公演	1 公演	「若手伝承者公演」

(1) 歌舞伎俳優既成者研修発表会

- 第 22 回稚魚の会・歌舞伎会合同公演

8/17～21、5 日 5 回、本館小劇場、入場料：4,100 円(学生 2,900 円)、障害者 2 割引

入場者数：2,522 人(入場率 96.6%)

「寿式三番叟」(藤間勘十郎＝振付)、「寿曾我対面」工藤祐経館の場(中村又五郎＝指導)、「女車引」(藤間勘十郎＝振付)、「義経千本桜」すし屋(松本幸四郎＝監修、松本錦吾＝指導)

- 第 26 回上方歌舞伎会

8/24～25、2 日 4 回、文楽劇場、入場料：4,100 円(学生 2,900 円)

入場者数：2,456 人(入場率 90.7%)

「夏祭浪花鑑」住吉鳥居前の場、釣舟三婦内の場、長町裏の場(片岡仁左衛門・片岡秀太郎＝指導)、上「五條橋」・下「団子売」(藤間豊宏＝振付)

(2) 歌舞伎音楽既成者研修発表会

- 第 18 回音の会

8/12～13、2 日 2 回、本館小劇場、入場料：2,600 円(学生 1,800 円)、障害者 2 割引

入場者数：686 人(入場率 65.7%)

長唄「舌出し三番叟」、鳴物・長唄「寒行雪姿見-まかしよ-」、長唄「鞘当」、歌舞伎「摂州合邦辻」合邦庵室の場(坂田藤十郎＝監修、中村鴈治郎＝監修・指導)

(3) 能楽既成者研修発表会

- 第 26 回能楽若手研究会：「若手能」京都公演

9/17、1 日 1 回、京都観世会館、入場料：3,100 円(当日)、2,600 円(前売・一般)、1,500 円(学生)

入場者数：449 人(入場率 94.7%)

能「雲林院」、舞囃子「忠度」、舞囃子「龍田 移神楽」、舞囃子「歌占」、狂言「附子」、能「善界 黒頭」

- 第 26 回能楽若手研究会：「若手能」大阪公演

1/21、1 日 1 回、大槻能楽堂、入場料：3,100 円(当日)、2,800 円(前売・一般)、1,500 円(学生)

入場者数：437 人(入場率 87.1%)

能「小督」、狂言「千鳥」、能「鶴飼」

- 第 26 回能楽若手研究会：「若手能」東京公演

3/4、1 日 1 回、国立能楽堂、入場料：正面 3,100 円 脇正面 2,600 円 中正面 2,100 円(学生 脇

正面 1,800 円 中正面 1,500 円) 障害者 2 割引

入場者数：623 人(入場率 99.4%)

能「吉野静」、狂言「文蔵」、能「須磨源氏」

(4) 文楽既成者研修発表会

・ 第16回文楽若手会

6/18～19、2日2回、文楽劇場、入場料：2,100円(学生1,400円)

入場者数：1,303人(入場率89.1%)

「妹背山婦女庭訓」井戸替の段、杉酒屋の段、道行恋苧環、鱧七上使の段、姫戻りの段、金殿の段

・ 第4回文楽若手会

6/25～26、2日2回、本館小劇場、入場料：2,600円(学生1,800円)

入場者数：1,088人(入場率98.4%)

「妹背山婦女庭訓」井戸替の段、杉酒屋の段、道行恋苧環、鱧七上使の段、姫戻りの段、金殿の段

・ 第16回若手素浄瑠璃の会

8/25、1日1回、文楽劇場小ホール、入場料：1,000円(学生700円)

入場者数：139人(入場率87.4%)

「伽羅先代萩」竹の間の段、御殿の段

・ 第17回若手素浄瑠璃の会

2/23、1日1回、文楽劇場小ホール、入場料：1,000円(学生700円)

入場者数：144人(入場率90.6%)

「ひらかな盛衰記」松右衛門内より逆櫓の段、「新版歌祭文」野崎村の段

(5) 組踊既成者研修発表会

・ 第6回若手伝承者公演

12/3、1日1回、国立劇場おきなわ大劇場、入場料：2,100円(学生1,000円)

入場者数：227名(入場率40.2%)

斉唱「かぎやで風」、独唱「赤田風節」組踊「伏山敵討」ほか

2. 能楽研究課程の開講

能楽の既成者研修として、研修修了生と能楽師子弟を対象に研究課程を開講し、研究生33名が受講した(実施回数：363回)。研究課程では、若手能楽師が専門以外の副科(シテ謡・笛・小鼓・大鼓・太鼓)を受講し、他役・他流との交流を通じて研鑽を積んだ。

3. その他の既成者研修の取組

太神楽について、研修修了生の技芸向上を図るため、歌舞伎の基本動作や笛の実習等を実施し、延べ178名の修了生が受講した(実施回数46回)。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 稚魚の会・歌舞伎会合同公演では、通常芸歴30年以下の俳優を対象としているが、国立劇場開場50周年に当たり芸歴31年以上の研修修了生による記念演目を配し、長年の養成事業の成果を披露することができた。外部専門家からは高い水準の舞台成果があったとの評価を得た。また、入場者数は2,522人(入場率96.6%)と、27年度の2,250人(入場率86.2%)を上回った。
- ・ 音の会は、演奏では実際に歌舞伎公演でも上演される機会の多いものが揃い、芝居ではベテランの俳優の助演を得て、大曲に挑戦することができた。また、入場者数は686人(入場率65.7%)と、27年度の552人(入場率52.9%)を上回った。
- ・ 太神楽について、研修修了生からの要望を受け既成者研修を実施し、技芸の向上を図った。(計46回)
- ・ 若手能では、若手能楽師が大曲に挑戦し、日頃の研鑽の成果を発表した。
- ・ 上方歌舞伎会は、普段は脇役に徹する役者が大役を勤めることで、演目に対する理解も深まり、若手俳優の技芸向上に大きく貢献する有意義な会となった。
- ・ 文楽既成者研修発表会はいずれも、若手の技芸員が普段は演じることのない大役を勤めることで、技芸の向上に大きく貢献する有意義な公演となった。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 発表会の入場者については、より多くの観客に対して技芸を披露できるよう、周知方法等を検討し、集客に努める。入場率が下降傾向にあるものは、修了生との連携を強化して効果的な集客活動を検討し

ていく。

3-(1)-③ 実施に当たっての留意事項

《業務実績詳細》

1. 広報活動の充実、応募者増加のための活動

(歌舞伎俳優・音楽、大衆芸能)

- ・ 中高生やその保護者、研修事業に関心を持つ観客が多数集まる会場における取組として、第40回全国高等学校総合文化祭広島大会の各会場において、研修生募集チラシを配布した。また、歌舞伎鑑賞教室、音の会、稚魚の会・歌舞伎会合同公演、研修発表会のロビーで養成研修を紹介するDVDを映写し、事業の周知に努めた。
- ・ これまで利用してきた養成事業紹介用のDVDに、大衆芸能(寄席囃子)研修に関する内容が収録されていなかったため、今後の募集及び養成研修紹介等の説明に利用する新たなDVDを作成した。
- ・ 次期募集のコースを主とした、養成内容を説明する「研修見学会」を3回実施した。(参加者数11/20:19人、12/23:21人、1/14:37人)研修風景の見学に加え、DVDや資料も使用して、研修コースの内容や特徴を説明し、応募対象者だけでなく、伝統芸能に関心を持つ参加者にも養成研修の意義・必要性を伝え、事業の普及に努めた。
- ・ 有楽町及び日本橋において開催された国立劇場開場50周年PRイベントに際し、研修生募集チラシの配布、DVDの上映と共に、特設ステージ上で出演者が研修生の募集告知を行った。
- ・ 朝日新聞(9/16)・毎日新聞(10/3)・東京新聞(10/14)の国立劇場開場50周年特集記事において養成事業が紹介され、研修風景の写真が掲載された。
- ・ スポーツ報知(11/12)に、歌舞伎俳優研修生の募集記事が掲載され、修了生の市川春猿のインタビューと共に、事業について紹介された。
- ・ しんぶん赤旗(11/20)に、歌舞伎俳優及び歌舞伎音楽(竹本)研修の修了生が取り上げられ、インタビュー記事を交えながら、事業について紹介された。
- ・ 週刊ダイヤモンド(9/24号)の「後継者不足に対応する国立劇場の俳優育成制度」の記事に歌舞伎俳優研修事業が紹介された。
- ・ NHK(Eテレ)「にっぽんの芸能」国立劇場開場50周年のあゆみ(10/21放送)で、伝統芸能伝承者養成事業が取り上げられ、歌舞伎俳優研修講師の中村時蔵のインタビューと研修風景が紹介された。
- ・ 「邦楽の友」「日本舞踊」「邦楽ジャーナル」「演劇界」ほか各種雑誌及びフリーペーパー、「歌舞伎 on the web」「歌舞伎美人」ほか各種Webサイトへの募集記事又は広告の掲載を行った。

(能楽)

- ・ 能楽(三役)研修の第10期生募集については、全国の学校や図書館等へ3館合同でのチラシ配布、インターネット広告、新聞広告、テレビやラジオでの放送、研修見学会を実施し、また初めての試みとして募集を広報する3分程度の映像を制作しホームページ等へ掲載するなど、周知に努めた。
- ・ 振興・普及事業(ワークショップ等)で小・中・高校を回る際は研修制度と募集について必ず紹介し、養成研修事業の広報に努めた。

(文楽)

- ・ 26年度から製作を開始した文楽研修について紹介するDVDを完成させ、養成事業PR及び募集情報周知に活用した。
- ・ 国立劇場・文楽劇場の文楽公演、文楽鑑賞教室、文楽若手会、上方歌舞伎会、研修修了発表会等の公演のロビーで、上記DVDの素材を利用して作成した文楽研修を紹介する映像を流し、募集情報の周知に努めた。
- ・ 文楽劇場外での各種文楽公演や、イベント等でのチラシ配布等を実施し、募集情報の周知に努めた。
- ・ 近畿圏を中心とした学校並びに全国のマスコミや劇場施設等へのDM、首都圏の芸術系学校や近畿圏を中心とした地域でのポスター掲出広告、雑誌・フリーペーパー広告を実施し、募集情報の周知に努めた。
- ・ マスコミ各社に取材の申し入れを行い、文楽研修を紹介いただき、養成事業及び募集情報の周知に寄与した(新聞4件、フリーペーパー1件)。
- ・ 文楽研修を中心とした振興会の養成事業に関するレクチャー(高等学校1件)を実施し、文楽研修の広報及び募集情報の周知に努めた。

(組踊)

- ・ 国立劇場おきなわホームページに、研修生の発表会や、研修概要、第5期研修生選考試験の案内・結果、修了生の活動状況等、関係情報を掲載して広く活動を周知した。第5期生募集の際、組踊研修概要リーフレット、研修募集チラシを作成し、各都道府県教育機関等、関係団体へ配布し広報に努めた。また、研修の見学、県内新聞の取材を受け入れ、広く研修制度、研修募集の宣伝周知を行った。

2. 研修生等の実演機会の充実及び伝統芸能の振興・普及のための活動

- ・ 日本体育大学体操部主催の第48回演技発表会(12/18、国立代々木競技場第2体育館)に歌舞伎俳優研修生9名が出演し、「歌舞伎立廻り」を演じ、日頃の研修の成果を披露した。
- ・ 能楽研修修了生を中心とした若手能楽師を講師に起用し、振興・普及活動を23件実施した。
 - ① 「届けます。体験教室」10件
全国の小中学校・高校へ出向いて、学生・生徒を対象とするもの。
 - ② 「楽しもう！能と狂言」6件
全国の文化施設・ホール等と連携して、主に大人を対象とするもの。
 - ③ 「楽しもう！能の世界」7件
国立能楽堂の研修能舞台で、自主公演の鑑賞とセットで、または能楽器等の連続講座を有料で行うもの。
- ・ 国立劇場おきなわでは、旅行業者と提携した組踊鑑賞ツアーにおいて、研修修了生を起用した組踊ワークショップを8回実施した。また、研修修了生で構成する「子の会」では、沖縄県の補助事業を活用し、県内の離島を含む小中高校15か所で組踊の学校鑑賞会を行った。

3. 伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流

幅広い分野で養成・研修事業を実施している振興会の特長を生かし、各分野の研修生が一堂に会して一流の舞台芸術家から舞台に対する心構えを学ぶとともに、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を図った。

- ・ 五館合同特別講義、研修生交流会(12/1)
講義：伝統芸能情報館レクチャー室(3階)、交流会：事務棟第1会議室(3階)
講師：田中佐太郎(歌舞伎音楽(鳴物)研修主任講師)
講義内容：「良き舞台人になるために」
参加者：研修生58名(歌舞伎俳優9名、竹本2名、鳴物1名、長唄2名、寄席囃子4名、能楽2名、文楽1名、組踊10名、オペラ研修所第19期生5名、バレエ研修所第13期生7名、演劇研修所第12期生15名)

4. 公演制作者・舞台技術者等に対する研修の受入れ、協力

- ・ 歌舞伎鑑賞教室の移動公演において、舞台職員・スタッフを派遣し、現場での打合せから仕込み、舞台稽古、本番に至る流れの中で、国立劇場のノウハウを提供した。
- ・ 東京都公立文化施設協議会研修会に全面協力し、劇場施設及び国立劇場独自の研修プログラムを提供した。

5. 外部専門家等の意見

- ・ 養成事業委員会を開催(2回)し、外部専門家等の意見を聴取して、事業運営への活用に努めた。主な意見は以下のとおりであった。
 - ・ 「音の会」公演において、長唄は助演の先輩たちの演奏とそん色ない演奏で、鳴物は長唄を引っ張っている雰囲気を感じさせる演奏ぶり、義太夫は若さを前面に出した熱演で客席にいい印象を与える舞台であったとの評価を得た。
 - ・ 稚魚の会・歌舞伎会合同公演は水準の高いもので、国立劇場開場50周年にあたり特別に上演された「女車引」は、芸歴30年を超える研修修了生の風格が漂う安定感のある踊りであった。
 - ・ 能楽研修のワークショップは、能楽の普及と研修修了生の活躍の場の提供という両面から意義がある。
- ・ 国立劇場おきなわにおいて、養成事業委員会を開催し、外部有識者から組踊養成事業についての意見を聴取した(3/3)。主な意見は以下のとおりであった。
 - ・ 現在のカリキュラムは大変よくできており、講師も熱心で、誰も脱落せず、大きな成果を出しているとの評価を得た。胡弓の募集については、今後検討していくことを確認した。
 - ・ 身体訓練で発声に大きな成果があったことが評価された。

- ・ 既成者研修発表会の集客について、演者自身が、舞台人としてもっと興行の仕方、ファンを増やす営業意識を持つことが重要であるなどの意見があった。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 研修見学会を3回実施した。養成事業紹介のDVDを使用して、研修コースの内容や特徴を説明し、応募対象者だけでなく、伝統芸能に関心を持つ参加者にも養成研修の意義を伝え、事業の普及に努めた。また今回、小中学生(9歳・11歳・13歳)の親子見学者が3組参加したことは、将来の応募に繋がる良い成果であった。
- ・ 大衆芸能(寄席囃子)研修に関する内容を追加収録し、今後の募集及び養成研修紹介等の説明に利用する新たなDVDを作成した。
- ・ 能楽研修修了生による振興・普及活動(ワークショップ等)を通じて、養成事業及び能楽研修について、広く一般の方々への周知に努めた。
- ・ 文楽研修について紹介するDVDを新たに製作し、養成事業PR及び募集情報周知のために活用することができた。
- ・ 組踊研修の広報活動について、第5期研修生募集の際、組踊研修概要リーフレット、研修募集チラシを作成し、各都道府県教育機関、沖縄県等関係団体へ配布し、研修の見学、県内新聞の取材を受け入れ、広く研修制度、研修募集の宣伝周知を行った。
- ・ 国立劇場おきなわホームページに、研修生の発表会や、研修概要、第5期研修生選考試験の案内・結果、修了生の活動状況等、関係情報を掲載して広く活動を周知できた。
- ・ 五館合同特別講義では、歌舞伎囃子方・十二世田中流宗家の田中佐太郎を招き、舞台人としての心得や芸道に取り組む姿勢について貴重な話を聞くことにより、研修生の意識を高めることができた。

3- (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

《中期計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

高い技術と豊かな芸術性を備えた実演家等を育成するため、実演家等の研修を次のとおり実施

ア 研修実施に当たっては、民間団体の役割を踏まえつつ、グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成を実施

外部専門家等の意見を聴取し、成果の検証を行い、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数などについて不断の見直しを実施

イ オペラ研修及びバレエ研修については、国際的な活躍が期待できる水準の実演家を育成することを目標とし、演劇研修については、確かな演技力等を備えた次代の演劇を担う実演家を育成することを目標として、第一線で活躍する各分野の専門家等を講師として、実践的・体系的なカリキュラムにより、中期目標の期間中に次の人数の研修修了を目途とした研修を実施

①オペラ研修：25人程度(研修期間3年間)

②バレエ研修：30人程度(研修期間2年間)

③演劇研修：60人程度(研修期間3年間)

(3) 実施に当たっての留意事項

ア 養成研修事業についての国民の関心を喚起するため、広報活動を充実

イ 研修生等が実演経験を積む機会の充実及び学校等との連携による波及効果の拡大を図るため、児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動へ参画

エ 合同講義の実施等、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を実施

オ 新国立劇場等の人材や施設を活用し、公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力

《年度計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

ア 中期計画の方針に従い、次のとおり研修を実施

①オペラ研修(研修期間3年)

(a) 第17期生(5名)の3年目の研修(修了)

(b) 第18期生(5名)の2年目の研修

(c) 第19期生(5名)の1年目の研修

(d) 第20期生(5名程度)の募集

(e) 研修発表会等(3公演実施)

・ 試演会(新国立劇場小劇場)7月2日～3日、2回

・ 修了公演(新国立劇場中劇場)2月24日～26日、3回

・ 歌唱コンサート(新国立劇場中劇場)11月8日、1回

(f) 海外研修の実施(9月～10月)

②バレエ研修(研修期間2年)

(a) 第12期生(6名)の2年目の研修(修了)

(b) 第13期生(7名)の1年目の研修

(c) 第14期生(6名程度)の募集

(d) バレエ予科生について、次のとおり研修及び募集

・ 第7期生(5名)の2年目の研修

・ 第8期生(2名)の1年目の研修

・ 第9期生(若干名)の募集

(e) 研修発表会等(3公演実施)

・ 発表公演(新国立劇場中劇場)10月22日～23日、2回

・ 修了公演(新国立劇場中劇場)2月11日～12日、2回

・ 「バレエ・アステラス2016」(新国立劇場オペラ劇場)7月31日、1回

③演劇研修(研修期間3年)

(a) 第10期生(8名)の3年目の研修(修了)

(b) 第11期生(13名)の2年目の研修

(c) 第12期生(16名)の1年目の研修

(d) 第13期生(16名程度)の募集

(e) 研修発表会等(3公演実施)

- ・ 試演会(新国立劇場小劇場)11月3日～13日、6回(予定)
- ・ 修了公演(新国立劇場小劇場)2月10日～15日、6回(予定)
- ・ 未定(新国立劇場小劇場)8月1日～6日、3回(予定)

イ グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成の実施
外部専門家等の意見の聴取、成果の検証により、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数など
について不断の見直し

(3) 実施に当たっての留意事項

- ア 養成研修事業についての国民の関心を喚起するため、ホームページ等を活用し、事業の周知を促進
研修生募集について、様々な広報活動により周知
- イ 研修生及び研修修了生によるワークショップ等を全国の文化施設、学校等と協力して実施
外部公演への出演等、文化普及活動への参画
- ウ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義の実施
- エ 国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用した、公演制作者や舞台技術者等に対する実地研修の
受入れ、協力

《主要な業務実績》

1. 研修の実施

- ・ オペラ研修(研修期間3年)：第17期生5名の3年目の研修を実施、修了
第18期生5名の2年目の研修を実施
第19期生5名の1年目の研修を実施
- ・ バレエ研修(研修期間2年)：第12期生6名の2年目の研修を実施、修了
第13期生7名の1年目の研修を実施
予科第7期生5名の2年目の研修を実施、修了
予科第8期生2名の1年目の研修を実施
- ・ 演劇研修(研修期間3年)：第10期生8名の3年目の研修を実施、修了
第11期生12名の2年目の研修を実施(1名が退所)
第12期生15名の1年目の研修を実施(1名が退所)
- ・ 研修発表会等を実施：オペラ3回(7月試演会、11月歌唱コンサート、2月研修所公演のうち、7月
試演会は年度計画で2回公演のところ、券売好調のため1回追加実施)、バレエ3回(7月バレエ・ア
ステラス2016、11月第12期生・第13期生発表公演、2月修了公演)、演劇3回(8月第10期生朗読
劇公演、11月試演会、2月修了公演)
- ・ 各研修所において次年度入所の研修生の募集・選考を実施
- ・ オペラ研修所において海外研修を、28年度創設のANAスカラシップに基づき拡大して実施
- ・ 研修事業委員会を開催、27年度の成果検証に基づき今後の方向性を検討

2. 実施に当たっての留意事項

- ・ ホームページやFacebook等を活用し、研修の実施状況、修了生の活動状況等の詳細な情報を随時
発信
- ・ バレエ研修生がJ.P.モルガン協賛による聾学校生徒を対象としたレッスン見学会に出演
- ・ 演劇研修所第10期生がラジオの特別番組に出演し、広島をテーマとした作品を朗読
- ・ 五館合同特別講義、研修生交流会を開催し、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を実施
- ・ 舞台技術者、インターン等の受入れを行うとともに、芸術団体や公立文化施設、提携大学と連携し
て新国立劇場の人材及び施設を活用

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ オペラ研修生5名、バレエ研修生6名、演劇研修生8名が修了し、年度計画における目標を達成した。
 - ・ 研修発表会等について、計画どおり実施した。なおオペラ研修所7月試演会では、1回追加公演を行った。
 - ・ オペラ研修所では、全日本空輸株式会社の協賛により「ANA スカラシップ」を創設、ミラノ・スカラ座アカデミーでの海外研修に加え、ミュンヘン・バイエルン州立歌劇場付属研修所でも研修を行った。
 - ・ 舞台技術者等の研修については、関係諸団体と協力し、新国立劇場の人材及び施設を活かして積極的に実施した。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 第一線で活躍する講師陣のもと、実践的・体系的なカリキュラムによって研修を実施した。その成果は、発表会、試演会、修了公演等で広く示され、観客及び専門家から高い評価を得ることができた。
 - ・ 26年度から開始された研修事業委員会を引き続き開催し、外部専門家である研修事業委員と各研修所所長が研修所の現状を確認し、研修所の環境、研修内容の改善について意見を交わし、今後の方向性を検討することができた。
 - ・ 研修事業について、ホームページや Facebook を活用した多様な広報活動により広く関心を喚起するとともに、修了生については、最新の活動状況をホームページに掲載、また研修公演会場におけるパネル展示等により、その成果の周知を図ることができた。
 - ・ 27年度に引き続き韓国国立劇団との交流の一環で、韓国から研修所担当スタッフが10月に来日し、演劇研修所にて授業見学、韓国演劇についてのレクチャー、交歓会を行った(共催：国際交流基金)。
 - ・ 演劇研修所では第10期生有志企画公演として「東京裁判」を芸能花伝舎内実習室で上演した。
 - ・ 演劇研修所では第12期生から、より優れた人材の育成を図るために評価会を導入し、研修生の将来に向けた個別指導を徹底するとともに、2年次への進級審査を行った。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 研修事業への各方面からの大きな期待に応えるべく、研修内容、研修事業の在り方や展望については、引き続き研修事業委員会や講師会等において検討を重ねていく必要がある。
 - ・ 研修施設等については、関係各所と相談し、引き続き見直しを検討していきたい。

3-(2)-① 研修の実施

《研修方針》

オペラ研修所では、プロのオペラ歌手としての舞台活動を目指している人のために、国際的なレベルの研修を行うことを目的として3年制の研修を行う。各種音楽レッスンを行うほか、語学、演技、発声法等、オペラ歌手として必要な技能を総合的に研修する。また、コンサート、試演会、修了公演等聴衆を意識した演奏や舞台経験を積み、新国立劇場主催公演への出演をはじめ、海外歌劇場の舞台に立てる人材育成を目指す。

バレエ研修所ではプロのダンサーを目指す者のために、ダンサーとして必要な技能の研鑽、知識と教養の付与及び舞台実習を行うことを目的として、2年制の研修を行う。また、予科生を募集し、資質や将来性ある若年層に、心身の柔軟な時期に古典バレエの基礎的技術を徹底して習得する機会を提供する。

演劇研修所は、明晰な日本語を使いこなし、柔軟で強度のある精神と身体を備えた次世代の演劇界を担える人材の育成を目的として、3年制の研修を行う。1、2年次は基礎的俳優訓練とともに、第一線の演出家や俳優指導の専門家を軸とする講師陣によるシーンスタディを展開し、3年次には修了公演に向けて数本の舞台実習公演を行う。

《業務実績詳細》

1. 研修の実施

区分	研修期間	研修実績	うち修了者	年度計画	中期計画(25～29年度)	
					修了者累計	目標
オペラ	17期(3年次)	5名	5名	5名	20名	25名程度
	18期(2年次)	5名	—	5名		
	19期(1年次)	5名	—	5名		
バレエ	12期(2年次)	6名	6名	6名	23名	30名程度
	13期(1年次)	7名	—	7名		
バレエ 予科	7期(2年次)	5名	5名	5名	12名	—
	8期(1年次)	2名	—	2名		
演劇	10期(3年次)	8名	8名	8名	37名	60名程度
	11期(2年次)	12名	—	13名		
	12期(1年次)	15名	—	16名		

2. 主な授業及び回数

区分	授業内容		
オペラ	実技	第17期 計308回 第18期 計332回 第19期 計363回	オペラ実習、身体表現
	座学	第17期 計113回 第18期 計101回 第19期 計108回	特別講義(サロン)、五館合同特別講義、語学(英語・ドイツ語・イタリア語)
	その他	第17期 計26回 第18期 計27回 第19期 計28回	舞台実習ほか
バレエ	実技	第12期 計355回 第13期 計348回	クラシック・バレエ、身体表現ほか
	座学	第12期 計58回 第13期 計60回	特別講義(サロン)、五館合同特別講義、語学(英語)ほか
	その他	第12期 計10回 第13期 計10回	舞台実習ほか

バレエ 予科	実技	第7期 計313回 第8期 計307回	クラシック・バレエ、身体表現ほか
	座学	第7期 計53回 第8期 計55回	特別講義(サロン)、語学(英語)ほか
	その他	第7期 計10回 第8期 計10回	舞台実習ほか
演劇	実技	第10期 計126回 第11期 計349回 第12期 計302回	演劇実習ほか
	座学	第10期 計7回 第11期 計25回 第12期 計52回	講義、特別講義(サロン)、五館合同特別講義
	その他	第10期 計8回 第11期 計86回 第12期 計76回	観劇、スタッフ研修、見学ほか

3. 研修発表会等の実施

(1) 研修公演

(オペラ研修)

- ・ オペラ試演会「ジャンニ・スキッキ」
7/1～3、3回、小劇場、入場者数：689人(入場率77.1%)
※計画2回のところ1回追加公演(7/1)
- ・ 「NNTT Young Opera Singers Tomorrow 2016」
11/8、1回、中劇場、入場者数：413人(入場率68.7%)
- ・ 研修所修了公演「コジ・ファン・トゥッテ」
2/24～26、3回、中劇場、入場者数：1,175人(入場率43.2%)

(バレエ研修)

- ・ 「バレエ・アステラス 2016」
7/31、1回、オペラ劇場、入場者数：1,060人(入場率59.2%)
- ・ 第12期生・第13期生発表公演「オータム・コンサート 2016」
10/22～23、2回、中劇場、入場者数：1,445人(入場率72.4%)
- ・ 「エトワールへの道程 2017 新国立劇場バレエ研修所の成果」
2/11～12、2回、中劇場、入場者数：1,453人(入場率80.2%)

(演劇研修)

- ・ 朗読劇「ひめゆり」
8/4～6、4回、小劇場、入場者数：858人(入場率84.4%)
- ・ 試演会「ロミオとジュリエット」
11/9～13、6回、小劇場、入場者数：1,229人(入場率82.7%)
- ・ 修了公演「MOTHER—君わらひたまふことなかれ」
2/10～15、6回、小劇場、入場者数：1,105人(入場率70.1%)

(2) その他出演

- ・ バレエ研修生がJ.P.モルガン協賛による(聾学校生徒を対象とした)レッスン見学会を行った。
12/18、1回、バレエリハーサル室
- ・ 演劇研修所第10期生が有志による自主企画公演「東京裁判」を上演した。
6/24～25、2回、芸能花伝舎演劇研修所実習室
- ・ 演劇研修所第10期生が東京FMの夏休み特別企画「八月の光」に朗読者として出演した(8/29(月)放送)。

(3) 海外研修

- ・ オペラ研修所では、全日本空輸株式会社の協賛により「ANAスカラシップ」を創設、第18期生5名がミラノ・スカラ座アカデミーで海外研修を行った(9/14～10/11)。これに加え、前年度ミラノで学んだ第17期生5名がミュンヘン・バイエルン州立歌劇場付属研修所にて一層の研鑽を積んだ(3/4～

3/21)。

4. 募集・選考の状況、今後の募集に向けた取組・検討

コース	選考日	応募者数	受験者数	合格者数
オペラ	10/11～20	56名	53名	5名
バレエ	1/15～22	33名	33名	6名
バレエ予科	12/3～4	31名	31名	3名
演劇	1/17～21	78名	70名	16名

5. 外部専門家等の意見聴取、成果の検証、対象分野・人数等の不断の見直し

- ・ 研修事業委員会を開催し、昨年度の成果検証に基づき今後の方向性の検討を行った(5/16)。
- ・ 研修事業委員に授業、公演の視察を依頼し、レポートにて意見を聴取した。
- ・ 各研修所において定期的に講師会等を開催し、研修内容や今後の方向性について話し合いを行った。

【特記事項】

- ・ 日本バレエ協会による2016日独青少年指導者セミナーの訪日団メンバー8名が来訪し、バレエ研修所でクラス見学及び意見交換を行った(5/9)。
- ・ 27年度に引き続き韓国国立劇団との交流の一環で、韓国から研修所担当スタッフが10月に来日し、演劇研修所にて授業見学、韓国演劇についてのレクチャー、交歓会を行った(共催：国際交流基金)。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

(オペラ研修)

- ・ 個々の研修生のアリア技量の向上を目指すだけでなく、オペラの舞台で必須となるアンサンブル稽古の充実や、身体訓練等の新規授業により、成果を挙げることができた。
- ・ 海外研修については、「ANAスカラシップ」創設により27年度に続きイタリア最高峰といえるミラノ・スカラ座アカデミーへ第18期生を派遣したことに加え、28年度はバイエルン州立歌劇場附属研修所とも提携し、第17期生が海外研修を行った。研修生にプロとしての自覚、将来の目標、世界の舞台を意識させる貴重な機会となった。
- ・ 研修公演においては、研修生はそれぞれ日頃の研修成果を大いに発揮してレベルの高い公演ができた。7月試演会では券売好調により追加公演を行ったことが特筆される。アンケート調査においても非常に高い満足度を得ることができた。

(バレエ研修)

- ・ コンテンポラリーダンスや演劇の授業を実施し、ダンスの幅を広げることができた。演劇の授業では、演劇研修所との合同授業も実施したことで、成果の向上に繋がった。
- ・ 「バレエ・アステラス2016」に参加し、国内の複数バレエ団のダンサー、海外で活躍するダンサーとの交流を深め、同じ舞台に立ったことは、研修生にとって貴重な機会となった。
- ・ 研修公演「エトワールへの道程2017」においては、クラシック・バレエでは古典の大作3作品に臨み修了する第12期生が主要な役を演じた。またコンテンポラリーダンス作品では新国立劇場バレエ団の現役ダンサーに新作を委嘱した。研修生予科生全員が出演し、またオーケストラの生演奏による上演は初の試みとなり、研修の成果として高く評価された。

(演劇研修)

- ・ 第10期生有志企画として「東京裁判」(作 野木萌葱)を芸能花伝舎内実習室で上演し、その企画と成果に高い評価を得た。
- ・ 第10期生が新作の朗読劇「ひめゆり」に挑戦する機会を得、その舞台が高く評価され、研修所の財産となった。
- ・ 演劇研修所で毎年実施している朗読劇公演が契機となり広島をテーマとしたラジオ特別番組に朗読者として出演、経験を深め実践的な舞台実習を行うことができた。
- ・ 第10期生の朗読劇、試演会、修了公演とも多くの観客に研修の成果を披露することができたと同時に、マネジメント事務所への積極的な働きかけが奏功して関係者が多数来場し、修了生の進路選定に寄与した。
- ・ 韓国国立劇団の研修所担当スタッフが来日し、演劇研修所にて授業見学、韓国演劇についてのレク

チャー、交歓会を行ったことにより、韓国国立劇団との交流が進展した。

- ・ 第11期生、第12期生も研修公演において舞台裏や表周りのスタッフ、プロンプターとして参加し、多くのことを学ぶ貴重な機会となった。
- ・ 27年度からの研修制度の見直しに伴い、第12期生の1年次終了時から、より優れた人材の育成を図るために評価会を導入し、研修生の将来に向けた個別指導を徹底するとともに、2年次の進級審査を行った。

3-(2)-② 実施に当たっての留意事項

《業務実績詳細》

1. 広報活動の充実

- ・ ホームページや Facebook を活用し、研修の実施状況、研修公演の稽古、公演の様子等を随時発信した。また、その内容を主催公演の Twitter アカウントと共有することで、幅広い層の目に留まるよう努めた。
- ・ 修了生の活動状況を定期的に把握し、その成果をホームページに掲載するとともに研修公演会場におけるパネル展示等で紹介した。
- ・ 公式サイト上の研修所トップページから各研修所ページへの動線を整理して見やすくした。また、オペラ研修所の新しい試みである「ANA スカラシップ」ページを新設した。演劇研修所では修了生のプロモーションのため、「NNT アクターズ」ページを改修し英語版を新設、それぞれ研修所の活動をアピールした。
- ・ 「ANA スカラシップ」創設によるオペラ研修所の取組について、協賛の全日本空輸株式会社により広く周知を図った。
- ・ 研修所の存在及び研修内容を広く周知し、将来的に優秀な研修生の確保に資することを目的として、バレエ研修所では8月に夏期特別講習会を実施した。演劇研修所では8月と11月にオープンスクールを実施したほか、9月と12月に説明会を開催した。なお9月は関西で初めての開催だった。

2. 研修生等の実演機会の充実及び現代舞台芸術の振興・普及のための活動

(バレエ研修)

- ・ バレエ研修生が J.P. モルガン協賛による聾学校生徒を対象としたレッスン見学会を行った。
12/18、1回、バレエリハーサル室

(演劇研修)

- ・ 演劇研修所第10期生が有志による自主企画公演「東京裁判」を上演した。
6/24～25、2回、芸能花伝舎演劇研修所実習室
- ・ 演劇研修所第10期生が東京 FM の夏休み特別企画「八月の光」に朗読者として出演した(8/29 放送)。

3. 伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流

- ・ 五館合同特別講義、研修生交流会(12/1)

講義：伝統芸能情報館レクチャー室(3階)、交流会：事務棟第1会議室(3階)

講師：田中佐太郎(歌舞伎音楽(鳴物)研修主任講師)

講義内容：「良き舞台人になるために」

参加者：研修生58名(オペラ研修所第19期生5名、バレエ研修所第13期生7名、演劇研修所第12期生15名、歌舞伎俳優9名、竹本2名、鳴物1名、長唄2名、寄席囃子4名、能楽2名、文楽1名、組踊10名)

4. 公演制作者・舞台技術者等に対する研修の受入れ、協力

- ・ 舞台技術者、インターン等の受入れを行うとともに、劇場・音楽堂等連絡協議会と連携して劇場にて総会を実施したほか、公共劇場舞台芸術者連絡会、日本照明家協会セミナー、公益社団法人劇場演出空間技術協会への職員の派遣、提携大学の学生に向けた講義等、新国立劇場の人材及び施設を活用した取組を行った。

《自己点検評価》

- 良かった点・特色ある点

- 研修事業について、ホームページや Facebook を活用して継続的に情報を発信した。また、その内容を主催公演の Twitter アカウントと共有することで、幅広い層の目に留まるよう努めた。
 - 「ANA スカラシップ」創設によるオペラ研修所の取組について、協賛の全日本空輸株式会社により広く周知することができた。
 - 国内外での修了生の活躍を積極的に発信し、研修事業の意義やそのレベルの高さを広く知らしめることができた。
 - 五館合同特別講義、研修生交流会を通じ、伝統芸能分野との相互交流を進めることができた。
 - 演劇研修所で毎年実施している朗読劇公演が契機となり広島をテーマとしたラジオ特別番組に朗読者として出演、経験を深め実践的な舞台実習を行うことができた。
- 見直し又は改善を要する点
- 国内外の新しい講師との出会いを模索するなど、より幅広い視野を持たせる研修内容の充実を図りたい。
 - 日本各地の関係団体・劇場等との連携を深め、研修事業の活動の幅を広げていきたい。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため
とるべき措置

伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 p.145

- 伝統芸能の調査研究 p.147
- 伝統芸能の資料の収集・活用 p.150
 - 資料の収集と公開 p.151
 - 収集資料の活用 p.151
 - 文化デジタルライブラリー等の整備と公開 p.152
 - 展示公開 p.153
- 公演記録の作成・活用、普及活動の実施 p.158
 - 公演記録の作成・活用 p.158
 - 公開講座等、普及活動の実施 p.159

現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 p.163

- 現代舞台芸術の調査研究 p.164
- 現代舞台芸術の資料の収集・活用 p.167
 - 資料の収集と公開 p.167
 - 展示公開 p.168
- 公演記録の作成・活用、普及活動の実施 p.170
 - 公演記録の作成・活用 p.170
 - 公開講座等、普及活動の実施 p.171

4- (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

《中期計画の概要》

- 4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
 伝統芸能の公開の充実等に資するとともに、その理解の促進を図るための調査研究及び資料の収集、並びに研究者や国民一般への成果の提供
- (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
- ア 伝統芸能に関する調査研究を次のとおり実施
- ①上演資料集の作成
 - ②日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録の調査研究、組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録の調査研究
 - ③伝統芸能に関する古文献等についての調査研究、復刻・刊行等
- イ 伝統芸能に関する資料の収集及び活用を次のとおり実施
- ①伝統芸能関係図書、歌舞伎錦絵等博物資料等の収集及び分類整理、閲覧、図録等の作成、博物館施設等への貸与等
 - ②収集した資料のデータベース化、デジタルコンテンツの充実
- ウ 収集した資料等の展示公開
- | | |
|-----------------|--------|
| ・ 伝統芸能情報館資料展示室 | 年3企画程度 |
| ・ 演芸資料館資料展示室 | 年3企画程度 |
| ・ 能楽堂資料展示室 | 年4企画程度 |
| ・ 文楽劇場資料展示室 | 年4企画程度 |
| ・ 国立劇場おきなわ資料展示室 | 年4企画程度 |
- (3) 公演記録の作成・活用、普及活動の実施
- ア 演技・演出等の記録の作成・保存、閲覧・視聴
- イ 公演記録映像の鑑賞会等の開催による有効活用
- ウ 講座、展示等の実施

《年度計画の概要》

- 4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
- (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
- ア 中期計画の方針に従い、伝統芸能に関する調査研究を次のとおり実施
- ①歌舞伎、文楽及び組踊等沖縄伝統芸能公演の実施に当たり、過去の公演記録、演出等を調査した上演資料集を作成
 「仮名手本忠臣蔵」の歌舞伎及び文楽の上演年表データを収録したCDを作成、提供
 - ②日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録及び組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録の調査研究調査研究を次のとおり実施
 - (a)「近代歌舞伎年表」名古屋篇第十一巻の刊行及び第十二巻の刊行準備
 - (b)「義太夫年表 昭和篇」第四巻の刊行準備
 - ③伝統芸能に関する古文献等について調査研究を行い、次のとおり復刻・刊行等を実施
 - (a)歌舞伎資料選書・12「芝居見たまま 明治篇」第五巻の刊行
 - (b)未翻刻戯曲集第二十三巻の刊行
 - (c)正本写合巻集(2冊)の刊行
- イ 中期計画の方針に従い、伝統芸能に関する資料の収集及び活用を次のとおり実施
- ①図書・資料の収集及び分類整理、閲覧のための提供
 伝統芸能全般に関する図書・資料のほか、主に各館の公開分野に関する図書・資料を収集開架図書の充実、一般利用の促進
 - ②収集した資料等を活用し、次のとおり刊行
 また、博物館施設等に対し、収集した資料を貸与
 - (a)特別展示図録(能楽堂)
 - (b)英文演目解説「The Guide to Noh of National Noh Theatre」(6)(能楽堂)
 - ③収集した資料のデータベース化やデジタルコンテンツの充実及びインターネットによる公開

(a) 図書、資料及び公演記録等について、次の情報のデータベース化を実施

- ・ 図書(本館公演筋書)
- ・ 錦絵
- ・ ブロマイド
- ・ 公演記録情報(上演情報、公演記録写真、扮装図鑑)

(b) 文化デジタルライブラリーホームページ目標アクセス件数：520,000件

ウ 収集した資料等を別表8のとおり展示公開

各館の収蔵資料を活用し、三井記念美術館において、三井記念美術館及びNHKプロモーションとの共催により「国立劇場開場50周年記念 日本の伝統芸能展」を開催

本館劇場ロビーにおいて公演ポスター展を開催

(3) 公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、閲覧・視聴のために提供

イ 公演記録映像を公演記録鑑賞会、講座・レクチャー等で活用

ウ 公開講座等、普及活動の実施

① 公開講座等を別表9のとおり実施

広報活動を十分に実施

アンケート調査の実施、目標満足回答率80%以上

② 公演関連講座、展示等を適宜実施、内容に応じてホームページ等で公開

③ 教員免許更新制における免許状更新講習を実施

④ 組踊等沖縄伝統芸能への理解促進のため、全国の文化施設や学校等における普及活動を充実

4-(1)-① 伝統芸能の調査研究

《方針》

- ・ 国立劇場開場 50 周年記念公演の上演に合わせた企画を実施する。
- ・ 日本各地の歌舞伎を中心とした演劇興行についての年表・資料である「近代歌舞伎年表」を作成する。すでに刊行した「大阪篇」全九巻十冊、「京都篇」全十巻十一冊に続き、28 年度は「名古屋篇」第十一巻の刊行及び第十二巻刊行に向けての基礎調査、原稿準備を行う。
- ・ 「義太夫年表 昭和篇」第四巻の刊行に向けた準備、資料収集を行う。

《主要な業務実績》

- ・ 伝統芸能に関する調査研究を実施し、その成果として以下の刊行及び刊行準備を計画どおり実施
上演資料集(歌舞伎 7 冊、文楽 4 冊、組踊 3 冊)
上演資料集別冊「仮名手本忠臣蔵 上演年表(歌舞伎・文楽)」CD-R
「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十一巻(刊行)、同第十二巻以降(刊行準備・資料収集)
「義太夫年表 昭和篇」第四巻(刊行準備・資料調査)
- ・ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究を実施し、その成果として以下の復刻・刊行等及び刊行準備を計画どおり実施
歌舞伎資料選書・12「芝居見たまま 明治篇」第五巻(刊行)全五巻完結
未翻刻戯曲集・23「江戸桜清水清玄」(刊行)、同 24(古文献調査)
正本写合巻集・18「江戸桜清水清玄」(刊行)、同 19「西南雲晴朝東風」(刊行)
その他古文献調査
- ・ 外部専門家等の意見聴取
調査事業委員会において外部専門家等より意見を聴取し、後の事業運営に活用。調査研究成果の外部機関への積極的な発信を求めたいという意見に対応して、ドイツ・フランス・韓国、計 6 か所の研究機関等へ刊行物を寄贈。
- ・ アンケート調査を実施
満足度：上演資料集(歌舞伎・文楽・上演資料集別冊・組踊)92.9%、「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十一巻 95.8%

《業務実績詳細》

1. 刊行実績

事 項	実 績
上演資料集	歌舞伎 7 冊、文楽 4 冊、組踊 3 冊 合計 14 冊 上演資料集別冊「仮名手本忠臣蔵 上演年表(歌舞伎・文楽)」CD-R
近代歌舞伎年表 義太夫年表	刊 行：「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十一巻(29 年 3 月) 刊行準備：「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十二巻のデータ集積、一部原稿作成 「義太夫年表 昭和篇」第四巻の刊行準備 調査作業：「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十三巻以降の資料調査 「義太夫年表 昭和篇」第四巻の資料調査
古文献の復刻等	刊 行：「芝居見たまま 明治篇」第五巻(歌舞伎資料選書・12)(29 年 2 月)全五巻完結 「江戸桜清水清玄」(未翻刻戯曲集・23)(29 年 3 月) 「江戸桜清水清玄」(正本写合巻集・18)(29 年 2 月) 「西南雲晴朝東風」(正本写合巻集・19)(29 年 3 月) 刊行準備：(未翻刻戯曲集 24)の古文献調査 (正本写合巻集)2 冊の古文献調査及び原稿準備 (演芸資料選書 12)の古文献調査

- ・ 過去の研究成果の普及のため、外部出版社による「歌舞伎の型 仮名手本忠臣蔵」(昭和 47 年度、芸能調査室発行)の復刊に、資料提供等の協力を行った。

2. 外部専門家等の意見及びアンケート調査

(1) 外部専門家等の意見

- ・ 調査事業委員会において外部専門家等より意見を聴取し、後の事業運営に活用した。主な意見は以

下の通り。

- ・ 上演資料集並びに近代歌舞伎年表・義太夫年表をはじめ、資料選書等、毎年非常に充実した形で、継続的に実施されており、大変貴重な仕事である。
- ・ 国立劇場開場 50 周年記念公演の上演(歌舞伎及び文楽)に合わせて実施された、上演資料集「仮名手本忠臣蔵 第一・二・三部」、また上演資料集別冊として「仮名手本忠臣蔵 上演年表(歌舞伎・文楽)」CD-R の制作は、振興会ならではの仕事であり、極めて貴重な成果である。
- ・ 上演資料集別冊「仮名手本忠臣蔵 上演年表(歌舞伎・文楽)」は、CD-R で発行され、大学の研究者などにとても喜ばれている。従来の分冊(年代別・冊子)では使いにくい面もあるので、全期間、しかも歌舞伎・文楽公演も含めまとまった形になったのは素晴らしく、検索機能もとても便利。最大級の評価に値する。
- ・ 「評価」ではルーティンワークを重んじないことがあるが、こうした調査研究は基礎研究として継続的な積み重ねがなくてはできない。上演資料集別冊 CD-R もそうした成果として高い評価が望まれる。
- ・ 毎回の公演記録、演出等の上演資料の整理とそれに基づく上演資料集の作成・刊行は、伝統芸能にあっては継承と創造の基本にあるものである。舞台を作る全ての構成員が共有し、確認することを基盤に具体的に舞台を創造していくことが、明日へと伝統芸能を繋いでいく唯一の道である。また伝統芸能の研究においては、こうした記録とデータこそが基礎資料であり、その蓄積という、地道で、変化が少ないように映る作業こそが重要であり、大きな価値がある。
- ・ 継続事業の「近代歌舞伎年表 名古屋篇」等も同様に貴重な事業であり、時間のかかる作業ではあるが、鋭意継続をお願いしたい。また歌舞伎資料選書 12「芝居見たまま 明治篇」も順調に巻を重ねて今回で終了するようであるが、近代の日本演劇の動きを考える上で貴重な資料の提供となっている。
- ・ 今回の正本写真巻集(2冊)と未翻刻戯曲集の刊行で、黙阿弥研究のめざましい進展を実感する。このような素晴らしい研究成果が、誰でも手に取れる刊行物という形で続々と公開され続けることの意義は極めて大きい。まさに国立劇場の調査・研究事業としてふさわしいものであり、今後ともこの方向での刊行事業を期待する。
- ・ 「義太夫年表 昭和篇」は振興会ならではの貴重な事業であり、時間のかかる作業ではあるが、鋭意継続をお願いしたい。
- ・ 歌舞伎資料選書 12「芝居見たまま 明治篇」は、企画はいいが、注釈は語句の説明だけでなく、もう少し工夫があった方がいいのではないかと。

(2) アンケート調査

① 「上演資料集」

- ・ 歌舞伎 No. 608 :
回答者数 55 人(配布数 119 人、回答率 46. 2%)、96. 4%の回答者から満足との回答を得た(53 人)。
- ・ 文楽 No. 611 :
回答者数 45 人(配布数 107 人、回答率 42. 1%)、95. 6%の回答者から満足との回答を得た(43 人)。
- ・ 上演資料集別冊「仮名手本忠臣蔵 上演年表(歌舞伎・文楽)」CD-R :
回答者数 54 人(配布数 126 人、回答率 42. 9%)、98. 1%の回答者から満足との回答を得た(53 人)。
- ・ 組踊 No. 41 :
回答者数 29 人(配布数 57 人、回収率 50. 9%)、72. 4%の回答者から満足との回答を得た(21 人)。

② 「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十一巻 :

回答者数 48 人(配布数 111 人、回答率 43. 2%)、95. 8%の回答者から満足との回答を得た(46 人)。

《自己点検評価》 _____

○ 自己評定

A

(根拠)

- ・ 国立劇場開場 50 周年記念公演「通し狂言 仮名手本忠臣蔵」上演に合わせて、上演資料集別冊「仮名手本忠臣蔵 上演年表(歌舞伎・文楽)」CD-R を制作した。過去に発行した「仮名手本忠臣蔵」(歌舞伎)上演資料集は、上演年表の情報が膨大なため年代別に分冊となっており、初演から現代までの全期間を通じての上演年表の作成が従来から望まれていた。そのため、これまでの年代別の上演年表に新たに再調査を加えて一つに集約することができたのは非常に意義深い。さらに歌舞伎・文楽を同時収録としたこ

とは、国立劇場にしかできない事業であり画期的な成果である。加えて利用者の検索等の便宜を図るためデータ(PDF、Excel)として活用できるように配慮し、研究者、大学教授のみならず学生や個人にまでその汎用性を高めた。専門家、研究機関等のアンケートでも、いずれも高い評価を得た。

- ・ 外部専門家の意見では、上演資料集別冊として「仮名手本忠臣蔵 上演年表(歌舞伎・文楽)」CD-Rの制作は、国立劇場ならではの仕事であり、極めて貴重な成果である等、最大級の評価を得た。また、「従来の分冊(年代別・冊子)という形態だとやや使いにくい面があったので、全期間まとまった形になったのは素晴らしい」「検索がとてとても便利である」「歌舞伎と文楽が同時に見られるのは評価できる」等の意見があった。
- ・ アンケートでは、「CD-Rによるデータ配布。しかも書込み可能なExcelでの配布というのは画期的で、大英断」「このような上演資料集が欲しかった、研究機関のデータベースにとって非常に役立つ」等、好評であった。
- ・ 公益財団法人統計情報研究開発センターの発行する機関誌「ESTRELA」に、上演資料集別冊「仮名手本忠臣蔵上演年表(歌舞伎・文楽)」CD-Rが紹介された。比類ないボリュームに加え、文字表記の統一等、使い勝手にも気が配られている、と評価され、「忠臣蔵」上演の時代別、上演場所、全十一段の上演パターンの特徴等、データでの提供により多様なアプローチが可能となった点が注目された。
- ・ アンケートでは、「満足」との回答が、上演資料集別冊「仮名手本忠臣蔵 上演年表(歌舞伎・文楽)」CD-Rで98.1%と、特に高い評価を得た。
- ・ 上演資料集では「仮名手本忠臣蔵」上演に合わせ、歌舞伎公演は3冊(10月～12月)、文楽は1冊(12月)発行し、その膨大な参考文献に加え、過去の演出資料・芸談等をいずれも300頁を超える豊富な情報を掲載し、出演者・スタッフ・観客等に調査研究成果を提供することができた。
- ・ 振興会が刊行する資料、年表、文献類は、伝統芸能のみならず江戸期以降の歴史研究において基礎資料となるものであり、これまでの刊行物に対して研究者等から高く評価されている。これらの調査研究の成果は刊行後すぐに現れるものではなく、長期的計画のもと確実に行われることが最重要である。
- ・ 伝統芸能に関する調査研究を不断に実施し、各刊行物を作成した。次年度以降の刊行物の準備についても、資料集積、原稿作成等の作業を計画的に進めた。正本写合巻集(2冊)と未翻刻戯曲集の刊行については、これにより黙阿弥研究のめざましい進展、大きな意義があったと外部専門家から高く評価され、国立劇場の調査研究事業の意義を高めた。また、「芝居見たまま 明治篇」の全5巻完結とともに、歌舞伎研究の進展に寄与する大きな成果を得た。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 「仮名手本忠臣蔵 上演年表(歌舞伎・文楽)」CD-Rでは、全時代の年表をまとめて見ることができ、しかも歌舞伎・文楽を同時に収録しているという点で国立劇場独自の事業として非常に価値が高い。また冊子ではなくデータという形態で提供することにより、膨大な情報量から検索によって必要な事項だけを知ることができ、またExcelで自由に加工・整理できるなど、利用者への様々な便宜を図って汎用性を高めた点でも、研究者等の評価も非常に高かった。
- ・ 「義太夫年表 昭和篇」について、文楽劇場では、昭和30年から36年までの公演プログラム、チラシによる基本的なデータ入力を終了し、出版物及び新聞記事や個人所有の記録類等で調査・確認を行った。第三巻に引き続き、文楽座の二派分裂時期の活動を詳細に収録し、ラジオ・テレビ等の出演についても別ページを立てるなど、社会情勢を反映した編集方針により、29年度の第四巻刊行に向けて順調に作業を進めた。
- ・ 国立劇場おきなわの上演資料集第40集「執心鐘入」では、平成16年に国宝指定された尚家文書三一「組踊」掲載の「執心鐘入」を底本に、現存する「執心鐘入」台本10冊を校合した、「組踊『執心鐘入』校訂本」を掲載した。

4-(1)-② 伝統芸能の資料の収集・活用

《方針》

伝統芸能全般に関する基本的な新旧の図書、雑誌、博物資料の収集を主軸に実施する。歌舞伎については、錦絵・番付・ブロマイド写真・上演台本を、大衆芸能については、落語・講談の速記本、見世物・曲芸の絵画資料と映像・音声資料(ビデオ・CD)等の収集を行う。また、図書情報のデータベース化を進め、研究者及び一般の利用に供する。

国立劇場開場 50 周年記念事業として、伝統芸能情報館では「国立劇場 50 年の歩み展」、三井記念美術館で「日本の伝統芸能展」を開催、また歌舞伎公演期間中に本館大劇場において過去の主催公演のポスター展示を行うなど、開場 50 周年を広く周知する。

2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムの一環として、今後増加が見込まれる海外からの観光客や観劇客の理解と興味を深めるため、デジタルコンテンツの多言語化を進める。

能楽堂では主として能楽に関する研究書、実演資料、図録、一般図書等の芸能図書及び能楽の普及・伝承・研究の上で、特に意義があると認められる資料の収集を行う。

文楽劇場では、収集資料の貸与等、文楽をはじめとする伝統芸能に対する理解の促進に努める。

国立劇場おきなわでは、組踊等沖縄伝統芸能を主とし、伝統芸能全般に関する図書・資料、博物資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供する。

《主要な業務実績》

1. 資料の収集と公開

- ・ 伝統芸能全般の文献(図書・解説書・台本・雑誌等)、図画(錦絵・番付・絵画等)、写真、映像・音声資料、舞台装置等の資料について、収集、分類整理を各館で実施

2. 収集資料の活用

- ・ 整理した資料等を、展示、閲覧、講座、公演記録鑑賞会等で活用
- ・ 三井記念美術館において、特別展「国立劇場開場 50 周年記念 日本の伝統芸能展」を三井記念美術館、NHK、NHK プロモーションと共催
- ・ 国立劇場の 50 年を彩った主催公演のポスターを、歌舞伎公演期間中、本館大劇場ロビーの特設展示コーナーにおいて展示
- ・ 伝統芸能情報館図書閲覧室にて、毎月の公演・展示に関するコーナーを設け、関連文献を配架
- ・ 能楽堂資料展示室での特別展示及び企画展示のための調査結果をもとに、図録を作成
- ・ 外部展示への資料の貸出
 - ・ 株式会社吉徳主催の国立劇場 50 周年記念「立版古と芝居絵」展への立版古貸出
 - ・ 京王プラザホテルの開業 45 周年記念イベント「幽玄～芸のブランディング～展」への能面、能装束、文献・絵画等の貸出
 - ・ 金沢能楽美術館開館 10 周年記念Ⅱ特別展「狂言一笑の美意識」への狂言装束、絵画の貸出
 - ・ 大阪市立中央図書館の「図書館で“観る”ぶんらく」展への過去の文楽上演ポスター及び文楽人形のかしらの製作工程貸出
 - ・ 豊中市立伝統芸能館の展示への文楽人形及び文楽入門解説パネル貸出
 - ・ 文楽を中心とした古典芸能振興事業実行委員会主催(大阪市・公益財団法人文楽協会)「ムムム！文楽シリーズ『まちなか文楽展』」への文楽人形、義太夫三味線及び小道具等貸出
 - ・ 和歌山大学紀州経済史文化史研究所主催の特別展「道成寺の縁起・伝承と実像」への丸本、稽古本及び公演記録写真等貸出
 - ・ 独立行政法人国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センター、堺市、文化庁主催の無形文化遺産国際シンポジウム「技と心を受け継ぐ」への文楽紹介パネル貸出
 - ・ 阪神高速道路株式会社の阪神高速ミナミ交流プラザ(愛称 LoopA)での錦秋文楽公演に関する展示への、写真パネル、舞台模型及び文楽人形のかしらの製作工程等の貸出
 - ・ 関西国際空港旅客ターミナル KIX ギャラリー「文楽展 2017」への文楽人形、文楽絵看板等貸出

3. 文化デジタルライブラリー等の整備と公開

- ・ 計画どおり収集資料のデータベース化を引き続き実施、ブロマイド 261 点を登録・公開するなどデジタルコンテンツを充実
- ・ ユネスコ無形文化遺産解説コンテンツ「文楽への誘い」多言語版(8 言語)を作成

4. 展示公開

- ・ 収集資料の展示公開を計画どおり実施し、19 企画で入場者数 231,460 人(目標 184,490 人 達成度 125.5%)
- ・ 伝統芸能情報館情報展示室及び演芸場資料展示室では、歌舞伎・文楽・大衆芸能に興味と理解を深めることを目的に展示を実施
- ・ 文楽劇場展示室では、英語による展示解説を充実させ、さらに文化プログラム事業の一環として外国人向け小冊子「Introduction To BUNRAKU」を作成し、展示室にて配布。また、来場者アンケートでも好評であった公演記録映像上映を充実させるため、改修時に映像コーナーを新設し、展示に因んだ過去の公演記録映像を 10 分～20 分程度に編集し上映
- ・ 国立劇場おきなわでは、自主公演と関連付けて企画展を実施

5. 外部専門家等の意見及びアンケート調査

- ・ 調査事業委員会において外部専門家等より意見を聴取し、後の事業運営に活用
- ・ アンケート調査を実施
満足度：図書閲覧室(全館)91.8%、資料展示室(全館)88.3%

《業務実績詳細》

<1>資料の収集と公開

1. 収集・公開実績

区分	収集	公開
伝統芸能情報館	収集図書：2,855 冊 収集資料：1,353 点	閲覧室利用者数：4,530 人(開室 254 日) 写真複製使用件数：302 件 博物資料閲覧 12 件、視聴利用 1,059 件
能楽堂	収集図書：769 冊 収集資料：7,231 点	閲覧室利用者数：3,553 人(開室 234 日) 写真複製使用 82 件 博物資料閲覧 1 件、視聴利用 2,107 件
文楽劇場	収集図書：712 冊 収集資料：323 点	閲覧室利用者数：1,598 人(開室 242 日) 写真複製使用 32 件、視聴利用 610 件
国立劇場おきなわ	収集図書：670 冊 収集資料：371 点	レファレンスルーム利用者数：2,656 人(開室 186 日) 写真複製使用 11 件、視聴利用 1,151 件

2. 外部専門家等の意見及びアンケート調査

(1) 外部専門家等の意見

- ・ 「国立劇場 50 年の歩み展」は開場 50 周年の今年こそこの企画であったと評価する。

(2) アンケート調査

- ・ 伝統芸能資料館図書閲覧室(1/24～3/21)
回答者数 111 人。回答者の 95.5%が概ね満足と答えた(106 人)。
- ・ 能楽堂図書閲覧室(2/16～3/29)
回答者数 68 人(配布数 68 人、回収率 100.0%)回答者の 91.2%が概ね満足と答えた(62 人)。
- ・ 文楽劇場図書閲覧室(7/4～11/30)
回答者数 28 人(配布数 28 人、回収率 100.0%)、回答者の 78.6%が概ね満足と答えた(22 人)。

【特記事項】

- ・ 伝統芸能情報館情報展示室は、社会人のための歌舞伎鑑賞教室(開演午後 7 時)・文楽鑑賞教室(開演午後 6 時 30 分)の公演日において、来場者の利用に配慮して午後 8 時まで開室時間を延長した。
- ・ 伝統芸能情報館図書閲覧室にて、毎月の公演・展示に関するコーナーを設け、関連文献を配架した。

<2>収集資料の活用

1. 活用実績

(本館)

- ・ 株式会社吉徳浅草橋本店主催の国立劇場 50 周年記念「立版古と芝居絵」展への資料貸出(能楽堂)

- ・ 英文演目解説「The Guide to Noh of the National Noh Theatre」6の作成
- (文楽劇場)
- ・ 大阪市立中央図書館の「図書館で“観る”ぶんらく」展への過去の文楽上演ポスター及び文楽人形のかしらの製作工程貸出(7/8～20)
 - ・ 豊中市立伝統芸能館の展示への文楽人形及び文楽入門解説パネル貸出(10/4～23 人形展示は23日のみ)
 - ・ 文楽を中心とした古典芸能振興事業実行委員会主催(大阪市・公益財団法人文楽協会)「ムムム！文楽シリーズ『まちなか文楽展』」への文楽人形、義太夫三味線及び小道具等貸出(10/21～23)
 - ・ 和歌山大学紀州経済史文化史研究所主催の特別展「道成寺の縁起・伝承と実像」への丸本、稽古本、公演記録写真等貸出(11/8～16)
 - ・ 独立行政法人国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センター、堺市、文化庁主催の無形文化遺産国際シンポジウム「技と心を受け継ぐ」への文楽紹介パネル貸出(11/19)
 - ・ 阪神高速道路株式会社の阪神高速ミナミ交流プラザ(愛称 LoopA)での、錦秋文楽公演に関する展示への写真パネル等の貸出(10/25～11/7)
 - ・ 関西国際空港旅客ターミナル KIX ギャラリー「文楽展 2017」への文楽人形、文楽絵看板等貸出(2/28～3/22)
- (国立劇場おきなわ)
- ・ 三井記念美術館で開催された特別展「国立劇場開場 50 周年記念 日本の伝統芸能展」に、紅型衣裳等の収蔵品 5 点を出品(11/26～1/28)

<3>文化デジタルライブラリー等の整備と公開

1. 実績

(1) データベース化

事項	実施内容
図書	逐次刊行物等 4,000 件 本館所蔵の他劇場の公演プログラム 4,000 件を、図書管理システム・国立情報学研究所のデータベースに登録した。
資料	ブロマイド 261 点 新たに考証・整理が終了したブロマイド写真(戦前の歌舞伎俳優)261 点を、文化デジタルライブラリーに追加登録した。
上演情報	141 公演 歌舞伎 7 公演、新派 1 公演、文楽 16 公演、舞踊・邦楽 10 公演、雅楽・声明 5 公演、民俗芸能 1 公演、特別企画 5 公演、能・狂言 51 公演、大衆芸能 45 公演の公演情報を、文化デジタルライブラリーに登録した。
公演記録写真	79,546 点 国立劇場、国立演芸場、国立能楽堂で 28 年 11 月までに撮影した全ジャンル(昭和 47 年からの新派公演 11 公演を含む)の公演記録写真 22,665 点、国立文楽劇場開場からの公演記録写真 56,881 点を文化デジタルライブラリーに登録した。
扮装図鑑	13 公演 国立劇場で 24 年 3 月から 28 年 7 月に上演された歌舞伎公演(鑑賞教室含む)・文楽公演(鑑賞教室含む)に上演された公演の「扮装図鑑」を、文化デジタルライブラリーに登録した。

(2) デジタルコンテンツの作成

- ・ ユネスコ無形文化遺産解説コンテンツ「文楽への誘い」多言語版(8 言語)の作成

(3) 文化デジタルライブラリーホームページへのアクセス件数

898,468 件(計画：520,000 件)

(4) 文化デジタルライブラリーシステムの改修

- ・ 現在公開中のコンテンツにおいて、スマートフォンやタブレット PC では視聴できない部分の改修方法の調査・検討を行い、仕様書を作成した。また、「日本の伝統音楽 楽器編」、演目解説「菅原伝授手習鑑」、演目解説「義経千本桜」については、視聴できない部分の改修を行い視聴できるようにした。

2. 外部専門家等の意見

- ・ 調査事業委員会において外部専門家等より意見を聴取し、後の事業運営に活用した。主な意見は以

下のおりであった。

- ・ ユネスコ無形文化遺産コンテンツの多言語化が進んで喜ばしい。さらに幅広く作成されることを期待する。

<4> 展示公開

1. 展示公開の実績

展示室	企画数	開催日数	来場者数	
			実績	計画
伝統芸能情報館 資料展示室	4回	327日	70,774人	45,000人
演芸場 資料展示室	3回	286日	44,199人	36,000人
能楽堂 資料展示室	4回	208日	32,432人	27,040人
文楽劇場 資料展示室	4回	247日	71,834人	64,450人
国立劇場おきなわ 資料展示室	4回	281日	12,221人	12,000人
総計	19回 (計画19回)		231,460人	184,490人

(伝統芸能情報館)

- ・ 「歌舞伎・文楽入門展—舞台のうら・おもて—」では、歌舞伎・文楽の鑑賞教室の観客を対象に、それぞれの芸能の特色や上演の仕組み、舞台の裏側等を舞台模型・小道具等の展示を通じて紹介した。
- ・ 国立劇場開場50周年記念事業期間中を2期に分け、国立劇場開場50周年記念「国立劇場50年の歩み展」を開催した。国立劇場の3つの主要な事業、「公演」「伝統芸能の伝承者の養成」「調査研究・資料の収集及び活用」をテーマに様々な資料で50年を振り返る展示とした。前期は開場から昭和までを、後期は平成を主に紹介した。
- ・ 「親子で楽しむ歌舞伎教室」期間中に本館大劇場ロビーで撮影した写真を、伝統芸能情報館1階受付で提示すると、特製ブックカバーがもらえる催しを行い、併せて展示を鑑賞してもらうよう努めた。

(演芸場)

- ・ 「昭和・平成の寄席—二代目桂小南筆・寄席風景画でたどる—」では、没後20年に当たる二代目桂小南が描いた東京各地の寄席風景画を中心に展示した。
- ・ 「めくらます奇術と写し絵の世界」では国立劇場が所蔵する山本慶一氏の奇術コレクションと緒方奇術文庫の貴重な資料により奇術と写し絵の世界を紹介した。
- ・ 「一大衆芸能を彩った女性—魔術の女王 松旭齋天勝—」では、明治末から昭和初期にかけて、あでやかな舞台姿で万人を魅了した初代松旭齋天勝を所蔵資料で紹介した。

(能楽堂)

- ・ 「収蔵資料展」では、国立能楽堂が開場以来収集した能楽資料の内、近年収集した資料を中心に展示紹介し、解説には新たな知見も盛り込んだ。
- ・ 入門展示「能楽入門」では、4か国語(日本語・英語・中国語・韓国語)による解説を付したパンフレット及び出品目録を作成して無料配布した。
- ・ 特別展示「宇和島伊達家の能楽」では、公益財団法人宇和島伊達文化保存会が所蔵する能楽資料を展示紹介し、特別展示図録『宇和島伊達家の能楽』を刊行した。同会が所蔵する能・狂言面や楽器類に関しては、今回初めて本格的な調査が行われた。特別展示図録には資料の翻刻、宇和島伊達家能楽関連年表を付けるなどして、研究資料としても活用しやすいものとした。
- ・ 企画展示「能絵の世界」では、室町時代から近代までの能を描いた絵画を展示紹介した。すでにこの分野の一級資料として知られていた「能絵鑑」3本(宇和島伊達文化保存会蔵、法政大学能楽研究所蔵、国立能楽堂蔵)全てを初めて一堂に集め、比較展示した。第Ⅱ期(1/31～2/26)には国立能楽堂2月公演<月間特集・近代絵画と能>と関わりの深い松岡映丘筆の絵画「屋島の義経」(東京国立近代美術館蔵)を展示した。また展示図録として『能絵鑑』を作成し、「能絵鑑」3本全ての図版を掲載し、曲名索引を付けるなど、今後の基礎資料としても利用できるものとした。

(文楽劇場)

- ・ 常設展示「文楽入門」(4月～6月)では、6月の文楽鑑賞教室の主な観客層(生徒、学生)にも理解を深めてもらえるよう、4月公演の「妹背山婦女庭訓」を題材にした展示により、文楽を構成する三業(太夫・三味線・人形)の基本的内容を分かりやすく紹介した。また、6月の「Discover BUNRAKU」に合わせ英語による展示解説を充実させ、さらに文化プログラム事業の一環として外国人向け小冊子「Introduction To BUNRAKU」を作成し、展示室にて配布した。なお、英語による展示解説、外国人向

け小冊子配布は、当展示以降継続して実施した。

- ・ 企画展示「文楽の新作」(7月～9月)では、夏休み文楽特別公演の新作上演にあわせて、近代に新たな視点で取り組まれた作品について、上演写真、公演記録映像、道具帳、舞台模型、台本草稿をはじめ様々な資料で、新作の世界をより楽しめるよう紹介した。また、夏休み文楽特別公演第一部「親子劇場」の時間帯に、ボランティアグループ「文楽応援団」スタッフが折紙で作ったキャラクターを、展示室内で子どもたちにプレゼントした。
- ・ 企画展示「勸進帳の世界」(9月～11月)では、錦秋文楽公演の「勸進帳」の上演にあわせて、能・歌舞伎・文楽で描かれた勸進帳の世界について、古典籍、衣裳、小道具、錦絵、公演記録映像等、様々な資料により、それぞれの芸能に表現された魅力を紹介した。
- ・ 常設展示「文楽入門」(1月～2月)では、企画コーナー「初春文楽公演の演目にちなんで」において、「寿式三番叟」「染模様妹背門松」を中心に上演演目に関連した文楽人形等の資料を分かりやすく紹介した。また、展示室改修時に新設した映像コーナーにおいて、文楽劇場で過去に上演した「寿式三番叟」の公演記録映像をダイジェストで紹介した。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 4月普及公演「琉球舞踊鑑賞教室」、5月定期公演「男性舞踊家の会」、6月定期公演「古典女七踊」に因み、企画展「はじめての琉球舞踊」(4～6月)を行った。琉球舞踊について、「老人踊」「女踊」「雑踊」「若衆踊・二才踊」の 카테고리ごとに衣裳や小道具を展示し、初心者や観光客向けにその特徴や魅力について紹介した。
- ・ 7月定期公演「史劇 大新城忠勇伝」に因み、企画展「沖縄芝居－史劇－」(7～9月)を行った。沖縄芝居の中でも特に「史劇」を取り上げ、作品の解説と魅力について、写真や衣裳、大道具帳や台本等を展示し、分かりやすく紹介した。また、戦後、沖縄民政府の直轄で運営された劇団のうち、竹劇団団長の平良良勝氏が使用していた衣裳や写真資料等を展示し、当時の沖縄芝居の状況等について紹介した。
- ・ 11月普及公演「組踊鑑賞教室『執心鐘入』」及び「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」に因み、企画展「組踊入門」(10～12月)を行った。組踊について、初めて鑑賞する方や国内外の観光客にも分かりやすいよう、衣裳や道具、台本等を使って紹介した。また、外国人向けに外国語翻訳パンフレット及び展示解説リーフレットを設置・無料配付し、組踊作品の魅力を紹介した。
- ・ 企画展「チョンダラーの芸能」(1～3月)では、沖縄の民俗芸能集団「チョンダラー(京太郎)」について、沖縄各地に伝わる民俗芸能の写真や衣装・小道具を展示するとともに、今は途絶えたチョンダラーの芸能が組踊等に残した痕跡等も紹介した。また、チョンダラー芸能の一つ「馬舞者」は本土の「春駒」の系統であるが、特に新潟県佐渡島の「春駒」との共通性が見られるため、佐渡博物館所蔵の「春駒」資料も合わせて紹介した。

2. 目録等刊行物の実績

(伝統芸能情報館) 展示資料一覧「新派の華」

(演芸場) 展示資料一覧「昭和・平成の寄席－二代目桂小南筆・寄席風景面でたどる」「めくらます奇術と写し絵の世界」「一大衆芸能を彩った女性－魔術の女王 松旭斎天勝」

(能楽堂) 出品目録「収蔵資料展」「能楽入門展」(日本語・英語・中国語・韓国語)、「特別展示 宇和島伊達家の能楽」、「企画展示 能絵の世界」
パンフレット「能楽入門」(日本語・英語・中国語・韓国語)
展示図録『宇和島伊達家の能楽』『能絵鑑』

3. 外部専門家等の意見及びアンケート調査

(1) 外部専門家等の意見

調査事業委員会において外部専門家等より意見を聴取し、後の事業運営に活用した。主な意見は以下の通り。

(伝統芸能情報館・演芸場)

- ・ 例えば国立劇場に来れば、他にもこんな図書館や研究機関がある、という情報が分かるように、集約した情報を発信してほしい。そうした役割を担うことを望む。

(能楽堂)

- ・ 能楽堂の展示は非常にクオリティが高く、いつも感心する。
- ・ 「能絵鑑」は江戸時代の記念アルバムなので、展示図録は作り物、装束、面などの図像資料としても貴重である。

- ・ 外国人向けの鑑賞教室に合わせた入門展「能楽入門」ではキャプションなどの多言語化も進んでいるようだが、その手応えをどう量るかは今後の課題である。

(文楽劇場)

- ・ ボランティアの力がとても大きい。丁寧な説明、実物に触れられる機会もあり、大変に熱気あふれる状況で感心した。
- ・ フリースペースで床几などが置いてあり、まず入りやすいのが良い。自然と展示に目が行くようになっていく。

(2) アンケート調査

(伝統芸能情報館)

- ・ 「新派の華」(4/1～4/17)期間中に実施。回答数9人。回答者の88.9%が概ね満足と答えた(8人)。
- ・ 「歌舞伎・文楽入門展—舞台のうら・おもて—」(4/29～8/21)期間中に実施。回答数162人。回答者の88.9%が概ね満足と答えた(144人)。
- ・ 「国立劇場50年の歩み展」前期(9/3～11/27)期間中に実施。回答数84人。回答者の78.6%が概ね満足と答えた(66人)。
- ・ 「国立劇場50年の歩み展」後期(12/2～3/27)期間中に実施。回答数74人。回答者の89.2%が概ね満足と答えた(66人)。

(演芸場)

- ・ 「昭和・平成の寄席—二代目桂小南筆・寄席風景画でたどる」(4/1～7/25)期間中に実施。回答数62人。回答者の95.2%が概ね満足と答えた(59人)。
- ・ 「めくらます奇術と写し絵の世界」(8/1～11/27)期間中に実施。回答数44人。回答者の95.5%が概ね満足と答えた(42人)。
- ・ 「—大衆芸能を彩った女性—魔術の女王 松旭齋天勝」(12/1～3/25)期間中に実施。回答数44人。回答者の88.6%が概ね満足と答えた(39人)。

(能楽堂)

- ・ 特別展示「宇和島伊達家の能楽」(10/5～12/7)期間中に実施。回答数245人。回答者の86.5%が概ね満足と答えた(212人)。

(文楽劇場)

- ・ 企画展示「文楽の新作」(同時開催「文楽入門」(7/23～9/10)期間中の8/8に実施。回答者数131人。回答者の92.4%が概ね満足と答えた(121人)。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 全展示期間中に実施。回答数72人。回答数の86.1%が概ね満足と答えた(62人)。

【特記事項】

(能楽堂)

- ・ 特別展示「宇和島伊達家の能楽」では、監修者(外部研究者3名)による「監修者会議」を定期的に開催し、最新の研究成果を反映した展示を行った。例えば、「能絵鑑」、「指面」、「乱舞方重習」(古文書)に関しては、25～27年度に人間文化研究機構国文学研究資料館で基幹研究「日本古典文学における〈中央〉と〈地方〉」が行われていたが、今回はそれを活用しつつ、監修者がそれぞれの立場でさらに研究を深めて、展示と特別展示図録によってその研究成果を公開した。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 国立劇場おきなわ県外公演に合わせて、会場の京都・春秋座で組踊・琉球舞踊の衣裳・小道具等の展示を行った。

《数値目標の達成状況》

【文化デジタルライブラリーホームページへのアクセス状況】

年間アクセス件数：実績898,468件／目標520,000件(達成度172.8%)

【展示公開の実施状況】 実績19回／目標19回(達成度100.0%)

【展示公開の来場者数】 実績231,460人／目標184,490人(達成度125.5%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

A

(根拠)

- ・ ユネスコ無形文化遺産解説コンテンツ「文楽への誘い」多言語版(8言語)を作成した。また、デジタルコンテンツの充実等により、アクセス件数は大幅に増加した(前年度比32.1%増)。
- ・ 収集資料のデータベース化を計画どおり実施した。
- ・ 計画どおり資料の収集を行い、閲覧・展示・貸出等に活用した。
- ・ 展示公開の来場者数は合計231,460人であり、年度計画目標の達成度は125.5%に至った。
- ・ 国立劇場開場50周年記念事業として、三井記念美術館で「日本の伝統芸能展」を開催した。これは平成15年に行った「歌舞伎400年展」以来13年ぶりの外部での大規模な展示となり、来場者からは大変な好評を得た。
- ・ 能楽堂の展示図録は、年度計画では1冊のところを2冊刊行した。
- ・ 能楽堂の特別展示と企画展示は、相互の展示企画に連続性があり、また公演(月間特集)や公開講座とも連動して、効率的かつ効果的に行うことができた。
- ・ 能楽堂の特別展示では監修者会議を定期的に開催して、最新の調査・研究成果を取り入れた展示を行うことができた。
- ・ 国立劇場おきなわ県外公演に合わせて、会場の京都・春秋座(5/20~23、6/5)で、組踊・琉球舞踊の衣裳・小道具等の展示を行った。

○ 良かった点・特色ある点

(文化デジタルライブラリー)

- ・ コンテンツの充実により文化デジタルライブラリーホームページへのアクセス件数が大幅に増加した。

(伝統芸能情報館・演芸場)

- ・ 情報館展示「歌舞伎・文楽入門展」では、歌舞伎公演の舞台上で実際に使用している大名駕籠と町駕籠を比較展示し、実際に駕籠に乗り込んで写真撮影ができる体験展示とし好評を得た。
- ・ 伝統芸能情報館の展示及び講座の伝統芸能サロンは「国立劇場の50年を振り返る」をテーマに伝統芸能や資料に対する理解と興味を促した結果、非常に高い満足度であった。

(能楽堂)

- ・ 特別展示「宇和島伊達家の能楽」では、監修者(外部研究者3名)による「監修者会議」を定期的に開催し、最新の研究成果を反映した展示を行うことができた。今後、特別展、企画展を企画するに当たり、一つのモデルケースとなろう。
- ・ 企画展示「能絵の世界」では「能絵鑑」3本全て(宇和島伊達文化保存会蔵、法政大学能楽研究所蔵、国立能楽堂蔵)を初めて一堂に集めて展示し、写真パネルによる解説も併用して視覚的に比較できるように工夫した。研究者の評価も高く、一般の来場者からは「見て楽しい展示」として好評であった。
- ・ 企画展示は目標を大幅に超える来場者があった。2月公演の<月間特集・近代絵画と能>とタイアップして松岡映丘筆の絵画「屋島の義経」(東京国立近代美術館蔵)を展示したこと、能絵を様々な角度から読み解く公開講座を期間中3回開催したこと、「芸術新潮」をはじめとする雑誌や新聞等に広告や記事を掲載して幅広い層に周知を図ったことが要因と思われる。
- ・ 京王プラザホテルのロビー展示「開業45周年記念 能 雅を継ぐもの 特別展示『幽玄〜芸のブランディング〜』展」では、能面、能装束、文献・絵画等40点を展示し、外国人を含む多くの宿泊客やホテル利用者に能楽をPRすることができた。

(文楽劇場)

- ・ 文楽劇場展示室では、展示に因んだ過去の公演記録映像を10分~20分程度に編集して上映し、公演記録映像の有効活用に努めた。入場者へのアンケートでは「動画での案内がとてもわかりやすく興味を持ってよかった」等の回答があり好評だった。また、外部専門家からも「公演記録映像を流していたが、多くの人が目に留めている様子が見られた」「能・歌舞伎・文楽での同じ場面が映像で順に紹介され、比較するおもしろさがある。身近な演目であるだけに、楽しい展示となった。」「今後も公演記録映像等は大いに生かすべきである」という意見を得た。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 企画展「組踊入門」で作成した外国人向けの沖縄伝統芸能紹介パンフレット及び展示解説リーフレットは、5か国語6言語(英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語・スペイン語・ポルトガル語)と多言語表記にし、各方面からの外国人来場者に対応した。
- ・ 企画展ごとに、展示に関連した過去の公演記録映像を15分ほどに編集して上映した。展示内容がより分かりやすくなったと、入場者からも好評であった。
- ・ 国立劇場おきなわ県外公演に合わせて、会場の京都・春秋座(5/20~23、6/5)で、組踊・琉球舞踊の衣

裳・小道具等の展示を行い、組踊と琉球舞踊についての普及を図った。公演前後、多くの来場者が展示コーナーに足を運び、好評であった。

○ 見直し又は改善を要する点

(文化デジタルライブラリー)

- ・ 27年度評価を受けて、今年度も文化デジタルライブラリーホームページへのアクセス件数の実績を踏まえ、29年度計画の年間目標数を見直し、28年度の520,000件から100,000件増の620,000件とする。

4-(1)-③ 公演記録の作成・活用、普及活動の実施

《方針》

(公演記録の作成・活用)

- ・ 主催公演を中心に記録された録画・録音・写真等を適切に作成し、今後の伝統芸能の振興・普及に活用するため、閲覧・視聴に供する。

(公開講座等、普及活動の実施)

- ・ 伝統芸能に関する理解の促進と普及を図るため、公演記録鑑賞会や入門講座のほか、公演に合わせた関連講座等を適宜実施する。また、教員免許状更新講習も前年度に引き続き実施する。公演記録鑑賞会、伝統芸能サロンについては、国立劇場開場 50 周年を鑑み貴重な映像の上映や、50 年を振り返る講演を行って参加者の増加に努める。

《主要な業務実績》

1. 公演記録の作成・活用

- ・ 主催公演について、映像・写真等による記録を作成
本館・演芸場64公演、能楽堂51公演、文楽劇場16公演、国立劇場おきなわ30公演
- ・ 各館図書閲覧室・視聴室において、公演記録写真・公演記録映像を出演者及び公演関係者と一般来場者の閲覧・視聴に供するとともに、出演者、教科書等の出版社及び放送局等の依頼に応じて複製物を作成・提供

2. 公開講座等、普及活動の実施

- ・ 伝統芸能に関する理解の促進と普及を図るため、公演記録映像を活用した以下の鑑賞会等を開催
「公演記録鑑賞会」伝統芸能情報館 14 回、文楽劇場 12 回、国立劇場おきなわ 4 回
「能楽鑑賞講座」能楽堂 12 回
- ・ その他講座等普及活動の実施
伝統芸能サロン(伝統芸能情報館、6 回)、能楽特別講座(能楽堂、1 回)、伝統芸能講座(文楽劇場、1 回)、沖縄伝統芸能講座(国立劇場おきなわ、4 回)
- ・ 鑑賞会、講座等の普及活動は計 54 回で参加者数 6,902 人(目標 6,100 人 達成度 113.1%)
- ・ 教員免許状更新講習を引き続き実施
- ・ 日本の伝統芸能を題材にした英語教材の作成

《業務実績詳細》

<1>公演記録の作成・活用

1. 作成実績

区分	記録件数・内容
本館・演芸場	映像・音声・写真 64 公演、扮装図鑑 7 公演、文楽人形等 5 公演
能楽堂	映像・音声・写真 51 公演
文楽劇場	映像・音声・写真 16 公演、文楽人形等 5 公演
国立劇場おきなわ	映像・音声・写真 30 公演、小道具写真 2 公演

- ・ 公演内容に応じて、扮装図鑑・下座の附帳・文楽人形・小道具等の写真による記録を作成した。

2. 公演記録映像・音声の活用

- ・ 出演者・演出家等に、公演記録映像・音声を複製・提供し、他劇場を含めて公演制作等に資するとともに、出版社・放送局等に複製物を提供し、伝統芸能の普及に努めた。
- ・ 能楽堂では、公開講座において、講演と合わせて公演記録映像を活用した。
- ・ 文楽劇場では、展示室内において展示に因んだ過去の公演記録映像を 10 分～20 分程度に編集して上映し、公演記録映像を活用した。

3. 活用実績

(1) 視聴(映像資料及び音声資料)利用件数総計：件(時間)

区分	一般	関係者(出演者等)	合計
本館	619 件(1,563 時間)	440 件(544 時間)	1,059 件(2,106 時間)

能楽堂	1,507件(3,012時間)	600件(840時間)	2,107件(3,852時間)
文楽劇場	40件(116時間)	570件(468時間)	610件(584時間)
国立劇場おきなわ	249件(222時間)	902件(1,023時間)	1,151件(1,245時間)

(2) 複製(映像資料及び音声資料)

区 分	関係者(出演者等)
本館	206件(303時間)
能楽堂	215件(273時間)
文楽劇場	164件(490時間)
国立劇場おきなわ	38件(68時間)

※ 複製は出演者等に対してのみ実施。

※ 時間は項目ごとに切上げまたは切捨てして表記しているため、合計と合わない場合がある。

<2> 公開講座等、普及活動の実施

1. 伝統芸能に関する公開講座等

会場	名称	区分	回数	参加者数	アンケートによる 有意義回答の割合
伝統芸能 情報館	伝統芸能サロン	実績	6回	782人	88.4%
		計画	6回	570人	
能楽堂	能楽鑑賞講座	実績	12回	1,885人	87.5%
		計画	12回	1,800人	
文楽劇場	公演記録鑑賞会	実績	14回	1,568人	93.5%
		計画	14回	1,400人	
能楽堂	能楽特別講座	実績	1回	132人	84.0%
		計画	1回	100人	
文楽劇場	公演記録鑑賞会	実績	12回	1,905人	90.5%
		計画	12回	1,500人	
国立劇場 おきなわ	伝統芸能講座	実績	1回	145人	93.7%
		計画	1回	70人	
国立劇場 おきなわ	公演記録鑑賞会	実績	4回	329人	84.1%
		計画	4回	480人	
国立劇場 おきなわ	沖縄伝統芸能公開講座	実績	4回	156人	83.8%
		計画	4回	180人	
合 計		実績	54回	6,902人	89.7%
		計画	54回	6,100人	80%以上

(伝統芸能情報館)

- 「国立劇場開場50周年記念—国立劇場の足跡—」と題し、主催公演の映像記録のうち過去の開場記念公演や周年記念公演を中心とした公演記録鑑賞会を27年度(12回)より回数を増やし、14回行った。
4月・5月は国立劇場開場祝賀公演、6月・7月は国立文楽劇場開場記念公演と周年記念公演を上映した。
50周年事業のスタートとなる9月には「国立劇場開場50周年記念特別鑑賞会」として、昭和61年10月から12月に上演された、国立劇場開場20周年記念公演「假名手本忠臣蔵」を連続した3日間で完全上映した。3月は国立劇場の大きな成果である復活狂言として非常に評価が高い「桜姫東文章」を上映した。
- 伝統芸能サロンは6回開催し、伝統芸能の普及に努めた。実演家・研究者を講師に招き、初めて伝統芸能に触れる方向けに鑑賞入門として2回、国立劇場開場50周年記念として「国立劇場の50年を振り返る」をテーマに4回実施した。(6月「伝統芸能に触れる—文楽の楽しみ方」講師:渡辺保、7月「伝統芸能に触れる—歌舞伎の楽しみ方」講師:渡辺保、8月「国立劇場と日本の太鼓」講師:林英哲、9月「養成研修創成期—私たちの研修生時代—」講師:第1・2期修了生4名、11月「文楽と国立劇場の50年」講師:竹本住太夫、1月「国立劇場設立秘話」講師:木戸敏郎・西角井正大・織田紘二)

(能楽堂)

- 公開講座として、「能楽鑑賞講座」を12回(各月1回)、特別展示と連携した「能楽特別講座」を1回(10月)開催した。
- 「能楽鑑賞講座」は、初歩的な知識から専門的な奥深い内容までを取り上げ、幅広い層を対象として

27年度から開催した「能楽をより楽しむために」シリーズ(全20回)を11月まで継続した。12月は公演の「月間特集」と連携した「観世信光の能」を、1～3月は企画展示「能絵の世界」に関連した講座をそれぞれ開催した。

- 「能楽特別講座」は、特別展示「宇和島伊達家の能楽」と連携して、伊達宗信氏(公益財団法人宇和島伊達文化保存会理事長 宇和島伊達家13代当主)と神應幸男氏(宇和島市立南予文化会館館長)を講師として、宇和島伊達家や同家と能楽の関連についての講演を行った。また初めての試みとして、特別講座の開催日を特別展示開催の前日に設定し、受講者には講座の後で特別展示を内覧する時間を設けた。

(文楽劇場)

- 公演記録鑑賞会は、半期を通したテーマを設定し、アンケートでリクエストの多かった作品・出演者を中心に選定した。上半期は大正生まれで昭和後半に円熟期を迎えた幹部クラスの歌舞伎役者、文楽太夫を取り上げ上映した。下半期は過去の文楽劇場公演記録鑑賞会で上映しておらず、かつ過去10年以上、国立劇場・文楽劇場で上演していない演目を取り上げ上映した。
- 伝統芸能講座「復曲試演会『花魁蒼八総』」では、「南総里見八犬伝」を題材にした『花魁蒼八総』「芳流閣の段」を中心とした作品解説を、大阪市立大学大学院文学研究科准教授の久堀裕朗氏により行った。また、文楽座技芸員の竹本千歳太夫氏、野澤錦糸氏による演奏、及び竹本千歳太夫氏、野澤錦糸氏、産経新聞社文化部編集委員の亀岡典子氏による鼎談等を行った。

(国立劇場おきなわ)

- 公演記録鑑賞会では国立劇場の文楽、歌舞伎、国立演芸場の寄席、文楽劇場の琉球芸能の公演記録により、4回(6、8、11、2月)開催した。
- 沖縄伝統芸能公開講座では、6月に国立劇場おきなわの茂木仁史調査養成課長が講師を務めた「声明を聴く」、8月には実演家の阿嘉修氏・新垣悟氏・嘉数道彦芸術監督を講師として「親子のための組踊鑑賞教室」の上演に合わせて打楽器の三板演奏を体験する「子ども伝統芸能体験講座」、11月に沖縄県立芸術大学名誉教授の波照間永吉氏を講師に招き「琉球古典芸能と言葉」、2月に国際基督教大学准教授の矢内賢二氏を講師に招き「河竹黙阿弥一歌舞伎「三人吉三」を中心に一」を計4回開催した。

2. 公演の実施にあわせた関連講座等

名称	会場	日程	回数	参加者数
5月特別企画公演関連プレ講座 「雄勝法印神楽・黒森神楽－震災からこれまでの歩み－」	文楽劇場 小ホール	5/7	1回	75人
あぜくらの集い「文楽を支える人々－かしらと床山－」	伝統芸能情報館 レクチャー室	5/15	1回	125人
第109回「文楽のつどい」 夏休み文楽特別公演「伊勢音頭恋寝刃」ゆかりの地バスツアー	三重県伊勢市	6/24	1回	37人
あぜくらの夕べ「納涼BIG対談－狂言「木六駄」をめぐる－」	能楽堂 大講義室	8/29	1回	127人
9月特別企画公演関連プレ講座 「日本音楽における声明とその魅力」	伝統芸能情報館 レクチャー室	9/3	1回	128人
特別座談会「国立劇場開場50周年を迎えて」	伝統芸能情報館 レクチャー室	9/20	1回	57人
あぜくらの集い「舞台稽古への招待」	本館大劇場 伝統芸能情報館 レクチャー室	10/2	1回	111人
あぜくらの集い「忠臣蔵－義士引揚げの道をたどる」バスツアー	都内	10/22 10/24	2回	77人
第111回「文楽のつどい」 茶話会「初春文楽の見どころ・聞きどころ」	文楽劇場 文楽茶寮(食堂)	12/21	1回	63人
第112回「文楽のつどい」 お話「太平記の浄瑠璃と講談」、講談「楠木の泣き男」、 座談「楠昔噺をめぐる」、おたのしみ抽選会	文楽劇場 小ホール	3/27	1回	136人

3. 教員免許状更新講習

学校教育の現場における伝統芸能普及の裾野を広げることを目的とした「教員免許状更新講習」を実施(本館、7/21～24)、体系的に伝統芸能の知識を身につけることができるよう、全19時間の講習を、各種芸能に関する講義・公演見学(歌舞伎鑑賞教室)・舞台見学・邦楽(鳴物)の実演体験等で構成し、免許の更新期限を迎える現職教員等80名が受講した(定員80名に対し応募99名)。講習の実施に当たっては、講座内容、講師等を見直し、その充実を図った。

4. 学校等における組踊等沖縄伝統芸能等の普及活動

- ・ 組踊等沖縄伝統芸能の普及のため、国立劇場おきなわ県外公演に合わせて、会場の京都・春秋座(5/20～23、6/5)で、組踊・琉球舞踊について、衣装、小道具、写真や解説パネル等の展示を行った。また、組踊と琉球舞踊のリーフレットも来場者へ配付した。

5. 日本の伝統芸能を題材にした英語教材の作成

- ・ 伝統芸能(歌舞伎)を題材にした英語教材を作成し、全国の小中学校及び教育委員会宛に発送した。また、データ版テキスト及びリスニングのための音声映像教材を振興会ホームページ上で公開した。

《数値目標の達成状況》

【講座等の実施状況】 実績54回／目標54回(達成度100.0%)

【講座等の参加者数】 実績6,902人／目標6,100人(達成度113.1%)

【講座等の満足度】 実績89.7%／目標80%(達成度112.1%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 公演記録の作成について、計画どおり実施した。
 - ・ 公開講座は、全館の合計で目標参加者数を達成した。またアンケートにおいても有意義回答の割合が目標を達成した。
 - ・ 伝統芸能サロンは6回開催し、伝統芸能の普及に努めた。実演家・研究者を講師に招き、初めて伝統芸能に触れる方向けに鑑賞入門として2回、国立劇場開場50周年記念として「国立劇場の50年を振り返る」をテーマに4回実施した。参加者数の達成率が137.2%と非常に高く、アンケートの満足度も88.4%であった。
 - ・ 本館の公演記録鑑賞会は、「国立劇場開場50周年記念－国立劇場の足跡－」と題し、主催公演の映像記録のうち過去の開場記念公演や周年記念公演を中心とした公演記録鑑賞会を27年度(12回)より回数を増やし、14回行った。参加者数の達成率が112.0%であり、満足度は93.5%と目標を大幅に上回った。
 - ・ 文楽劇場の公演記録鑑賞会及び伝統芸能講座等においては、参加者数の目標を大幅に上回った。(達成度127.0%、207.1%)
 - ・ 教員免許状更新講習を計画どおり実施し、定員を超える応募があった。また講習の実施に当たっては、講座内容、講師等を見直し、その充実を図った。
 - ・ 「大規模改修基本構想」の基本方針にある「ナショナルセンターとしての機能強化」を図るため、伝統芸能の教育普及に向けた取組の一環として、伝統芸能を題材とした英語教材を作成し、全国の小中学校及び教育委員会宛に発送した上、ホームページに公開することで、普及を進めた。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 参加者のアンケート結果から、要望が多かった、公演記録鑑賞会と伝統芸能サロンの応募方法を当日先着順に改め、往復はがきによる事前申込制に変更し、利用者から好評を得た。
 - ・ 伝統芸能情報館の企画展示「歌舞伎・文楽入門展－舞台のうら・おもて」に併せて、初めて伝統芸能に触れる方に向けた講座を2回行い、好評であった。
 - ・ 国立劇場開場50周年記念事業「伝統芸能サロン」は「国立劇場の50年を振り返る」をテーマに4回の講座を開催した。
「国立劇場と日本の太鼓」では、民俗芸能公演「日本の太鼓」に最も多く出演いただいている太鼓奏者を講師に迎えた。「養成研修創成期－私たちの研修生時代－」では、国立劇場の主要な事業である伝統芸能の伝承者の養成を取り上げ、歌舞伎俳優養成研修生第1期生と第2期生の4人を講師に招き、開設当時の養成研修について貴重な話を伺った。「文楽と国立劇場の50年」は、国立劇場開場以来文楽の舞台に立ち

続け、文楽と国立劇場が歩んできた50年を竹本住太夫師が振り返る講座とした。最終講座「国立劇場設立秘話」は「外から見た国立劇場・内から見た国立劇場」を副題に、50年前のとおきのおきの設立秘話を伺い、いずれも好評だった。

- ・ 能楽堂の能楽鑑賞講座は、全ての回で定員(160人)を大幅に上回る応募があった(年間応募者数は定員の1.46倍)。
 - ・ 能楽堂では、企画展「能絵の世界」と連携した「能楽鑑賞講座」(1~3月)を行った。展示資料について外部専門家により様々な角度から講演していただいたことで、参加者の理解も一層深まり、結果的に企画展の来場者増に繋がった。
 - ・ 文楽劇場の公演記録鑑賞会は、アンケートでリクエストの多かった作品・出演者も取り上げ、来場者の期待に応える工夫をした。歌舞伎・文楽公演の上映は目標を上回る参加があり、これまであまり上映してこなかった舞踊の上映回は、若干目標に満たなかったものの、アンケートでは好評を得た。
 - ・ 文楽劇場の伝統芸能講座「復曲試演会『花魁蒼八総』」は、「南総里見八犬伝」を題材にした『花魁蒼八総』『芳流閣の段』を中心に、作品解説、鼎談を行った。定員(130名)を大幅に上回る応募があり(応募542名、参加145名)、文楽劇場における上映可能な演目の拡大を目指す古典演目の復活準備事業を広く一般に周知することができた。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 国立劇場おきなわでは、公演記録鑑賞会及び伝統芸能公開講座の参加者数が目標に及ばなかった。公演記録鑑賞会は、沖縄伝統芸能以外の記録上映の会の参加者数が少なかった。伝統芸能公開講座は、「子ども三板体験教室」の募集定員(30人)が少なかったこと、他の講座は申込者数は目標人数に達していたものの、当日に来られなかった人数が多かったことが原因に挙げられる。今後も上演演目や講座の内容を検討するとともに、引き続きマスコミを利用した広報に努めていきたい。

4- (2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

《中期計画の概要》

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

現代舞台芸術の公演の充実等に資するとともに、その理解の促進を図るための調査研究及び資料収集、研究者や国民一般への成果の提供

(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

- ア 上演作品等についての資料調査
- イ 図書、資料等の収集及び分類整理、閲覧、貸与
- ウ 収集した資料等の展示公開
 - ・ 新国立劇場内 年2企画程度
 - ・ 舞台美術センター資料館 年1企画程度

(3) 公演記録の作成・活用、普及活動の実施

- ア 演技・演出等の記録の作成・保存、閲覧・視聴
- イ 公演記録映像の鑑賞会等の開催による有効活用
- ウ 講座、展示等の実施

《年度計画の概要》

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 新国立劇場で上演する現代舞台芸術の主催公演等に関し、上演作品等についての資料調査を実施

- ① 現代舞台芸術に関する調査を実施、調査結果の活用
- ② 海外の主要劇場や演劇祭等の情報を収集・活用、公開
- ③ 主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料などについて、整理・保存

イ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集及び分類整理、閲覧のために提供、他の劇場施設等への貸与

- ① 開架図書の充実、一般利用の促進
- ② 図書等の情報のデータベース化
- ③ 過去の寄贈資料や公演関連資料のデータベース化

ウ 収集した資料等を、別表8のとおり展示公開

舞台美術センター資料館の活用方法を検討、来場者の利便性の向上と広報活動の強化を実施

(3) 公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、閲覧・視聴のために提供

イ 公演記録映像を鑑賞会、講座・レクチャー等で活用

ウ 公開講座等、普及活動の実施

- ① 公開講座等を別表9のとおり実施
 - 広報活動を十分に実施
 - アンケート調査の実施、目標満足回答率80%以上
- ② 公演関連講座、展示等を適宜実施、内容に応じてホームページ等で公開
- ⑤ オンラインコンテンツの充実

4-(2)-① 現代舞台芸術の調査研究

《方針》

- ・ 中期計画の方針に従い、新国立劇場で上演する現代舞台芸術の主催公演等に関し、上演作品等についての資料調査を実施する。
- ・ 現代舞台芸術に関する調査を行い、新国立劇場での上演に活用するとともに、調査結果を活用して公演会やリーディング公演を実施する。
- ・ 海外の主要劇場や演劇祭等の情報を引き続き収集して、公演の充実等に活用するとともに、公演プログラムやホームページ等において広く公開する。
- ・ 主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料などについて、引き続き、整理・保存を行う。

《主要な業務実績》

- ・ 現代舞台芸術に関する調査を行い、その成果として、「マンスリー・プロジェクト」を14講座開催
- ・ 民間出版社と連携し、戯曲を刊行
- ・ 公演記録映像の公開
- ・ 海外の演劇祭や演劇都市の現状等についての調査研究の成果を公演プログラムやホームページで広く発信
- ・ 主催公演に関する資料等について整理・保存及び活用
- ・ 主催公演の出演者やスタッフのデータベースの整理公開に着手

《業務実績詳細》

1. 現代舞台芸術に関する調査研究・活用

宮田慶子演劇芸術監督及び3名の企画サポート委員による「企画サポート会議」を定期的で開催した。その成果として、下表のとおり、演劇へ多角的にアプローチするイベント「マンスリー・プロジェクト」を開催し、その概要をホームページで公開した。

日程	内容	参加者数
4/22・23	演劇講座「都市と劇場」Ⅱ	115人 65人
5/21	トークセッション「鄭義信 三部作の世界」	217人
6/11	演劇講座「ジョン・フォードとエリザベス朝演劇」	357人
7/24・25	リーディング公演「門」別役実作	244人 228人
8/27	ワークショップ「プチ・ミュージカルをやってみる？」	22人
9/16・17	演劇講座「アメリカの演劇と映画」	92人 62人
10/23	演劇講座 シリーズ「世界の演劇の今」Ⅷ-アメリカ3 「ピューリッツァー賞受賞作品とアメリカ社会」 -2016年、日本に上陸した最新アメリカ演劇を中心に-	131人
11/11・12	連続講座 たっぷりシェイクスピア！ 「シェイクスピアの台詞の音楽性」	97人 90人
11/22・23	連続講座 たっぷりシェイクスピア！ 「『ヘンリー四世』のダイナミズム」	198人 195人
12/7	連続講座 たっぷりシェイクスピア！ 「『ヘンリー四世』の面白さ」	270人
12/14	連続講座 たっぷりシェイクスピア！ 「『ヘンリー四世』の魅力と、いま日本語でシェイクスピアを演じるということ」	258人
1/29	ワークショップ「リーディングをやってみる？」	21人

2/17・18	演劇講座 シリーズ「日本の劇」Ⅶ「近代戯曲以前」	73 人 55 人
3/17・18	演劇講座 シリーズ「日本の劇」Ⅷ「戯曲が文学だったとすると」	66 人 75 人
	14 講座	2,931 人

(目標参加者数：1,500 人)

2. 出版物の刊行

- ・ 民間出版社と連携して下記戯曲を刊行した。
6 月演劇公演「あわれ彼女は娼婦」(早川書房刊「悲劇喜劇」平成 28 年 7 月号)
- ・ 現代舞台芸術に関する調査研究の成果を記事として掲載する下記公演プログラムを作成した。
 - ・ オペラ 10 冊
 - ・ バレエ 7 冊 (バレエ団ガイドを含む)
 - ・ 演劇 7 冊

3. 海外の主要劇場・演劇祭等の情報収集・活用

- ・ 「企画サポート会議」の協議の結果、2 개국 5 都市(韓国・ソウル、韓国・居昌、韓国・釜山、ルーマニア・クライオーヴァ、ルーマニア・シビウ)の演劇祭、及び演劇都市としての 3 都市(釜山、ロンドン、ニューヨーク)について調査研究した成果を、公演プログラム(7 冊)やホームページに掲載し、広く発信した。
- ・ 国内外の劇場の組織、職員数、公演入場率、財政等について、劇場のホームページや年報等の情報を基に調査・比較を行った。

4. 公演記録の整理・保存

- ・ 主催公演のプログラム、上演台本、ポスターなどの主催公演資料を管理システムに登録、公開した。
- ・ 新国立劇場が実施する公演の上演資料の整理を進め、劇場内外の利用に供するよう、資料の保存及び公開の方法について検討を進めた。
- ・ 主催公演の出演者やスタッフのデータベースの作成に着手した。

5. 「日本の現代舞台芸術」年表作成

- ・ 文化プログラムの一環として行う特別展示「日本の現代舞台芸術」のために、明治元年から昭和 20 年までの年表を作成した。

《自己点検評価》 _____

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ マンスリー・プロジェクトにおいて、主催公演と連動した演劇講座やトークセッション、リーディングやミュージカルを体験するワークショップ等、多角的に演劇にアプローチする企画を実施し目標(1,500 人)を大きく上回る参加者を得た(参加者 2,931 人、達成度 195.4%)。
 - ・ 特にシェイクスピア没後 400 年特別企画関連では、翻訳家 2 名、演出家 2 名を講師に迎え計 4 回の集中講座を開催するとともに(参加者 1,108 人)、企画展示を同時に実施することができた。
 - ・ 2 개국 5 件(韓国 3 件、ルーマニア 2 件)の演劇祭及び世界の演劇都市の現地レポート(3 件)についての調査研究の成果を、公演プログラム(7 冊)やホームページに掲載し、広く発信した。
 - ・ 主催公演の出演者やスタッフのデータベースの作成に着手した。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 民間企業の支援を受けることができたため、特別企画として、シェイクスピア関連の講座は例年よりも拡大することができた。
 - ・ 開場以来 20 年間の主催公演の出演者やスタッフのデータベースの作成に着手した。

○ 見直し又は改善を要する点

- 引き続き、インターネット環境を構築するとともに、閲覧室等の利用環境を整備するなど、利便性を向上させ、調査研究の結果をより広く公開するための方策を検討したい。
- 民間の舞台創造の現場の参考となり、かつ公演の実施に役立つ資料を、広く舞台制作者や研究者の利用に供するための方策を検討したい。
- 主催公演データベースについては、文化デジタルライブラリーや大学の研究機関等との連携を積極的に検討したい。

4-(2)-② 現代舞台芸術の資料の収集・活用

《方針》

- ・ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供するとともに、他の劇場施設等への貸与を行う。
- ・ 情報センターについて、閲覧室の開架図書を充実させるとともに、ホームページで所蔵資料検索サービスを提供するなど、一般の利用の促進に努める。
- ・ 図書資料管理システムについて、引き続き図書等の情報のデータベース化を行う。
- ・ 所蔵品管理システムについて、引き続き過去の寄贈資料や公演関連資料のデータベース化を行う。
- ・ 収集した資料等を展示公開する。実施に当たっては、引き続き、舞台美術センター資料館の活用方法について検討するとともに、来場者の利便性の向上と広報活動の強化を図る。

《主要な業務実績》

1. 資料の収集と公開

- ・ 現代舞台芸術に関する図書資料・視聴覚資料等を収集、分類整理
- ・ 基金部との連携により、助成団体・公演のプログラム及びポスターを譲り受け、管理システムに登録するとともに、一般の利用に提供

2. 展示公開

- ・ 舞台美術センター及び新国立劇場内において展示公開を実施
- ・ 文化プログラムの一環として明治以降の日本の現代舞台芸術を調査し、第一次展示として明治元年から昭和20年までを年表と人物プロフィールにまとめ公開
- ・ シェイクスピア没後400年企画として所蔵する古書や版画などシェイクスピア関連の資料を展示
- ・ オペラ鑑賞教室関西公演に合わせて開催された外部展示に衣裳、舞台模型を提供

《業務実績詳細》

<1>資料の収集と公開

1. 収集・閲覧等

区分	収集	活用
新国立劇場情報センター	収集図書：2,497冊 収集視聴覚資料：86件	閲覧室利用者数：26,310人(開室210日) うち、ビデオブース利用者数：1,545人 タブレット利用者数：384人 ビデオシアター利用者数：3,138人 図書貸出件数：905件
舞台美術センター資料館	—	利用者数：828人(開室260日) うち、AVコーナー利用者数：144人

2. 情報センター等の利用促進

- ・ ホームページの情報センターページを改修し、お知らせや閲覧室の開室カレンダーをトップに配置して利用者の利便性を高めた。またサイト上で開示しているデータや様々な資料を項目別に整理し、個々の内容がすぐ閲覧できるようにした。
- ・ ビデオブースや公演記録映像の上映会等を中心に、情報センターの紹介を英語サイトにもニュース掲出した。
- ・ 7月、閲覧室に夏休みキッズコーナーを設け、こども向け書籍を中心に劇場や舞台芸術に親しめるような資料を用意した(7/13～24、期間中の入室者数1,791人)。
- ・ 上演される公演にあわせて、関連書籍、過去の公演のプログラム等を閲覧室の開架とし、広く利用に供した。

3. 図書資料管理システムのデータベースの充実

- ・ 単行本、台本、公演プログラム等の図書資料や映像資料等を登録し、収蔵情報をホームページで公開した。
- ・ 国立劇場や文楽劇場等で使用している図書管理システム及び文化デジタルライブラリーを新国立劇場

においても共同利用し、利用者の利便性を高めることについて検討を行った。

4. 所蔵品管理システムへの登録

- ・ 公演ポスター(主催公演・貸劇場公演等、410 件)を新たに登録し、公演の充実に資するとともに、所蔵情報をホームページで公開した。

<2> 展示公開

1. 展示公開の実績

展示室	企画数	開催日数	来場者数	
			実績	計画
舞台美術センター	3回	260日	828人	800人
新国立劇場内	5回	188日	—	—

- ・ 舞台美術センターでは、常設展「オペラハウスの感動」のほか企画展「舞台のデザイン～模型で見る新国立劇場のオペラ・バレエ～」を実施した。
- ・ 新国立劇場内では、ギャラリーでの舞台衣裳、公演記録写真の常設展示、「舞台のデザイン～模型で見る新国立劇場のバレエ～」として閲覧室にバレエ公演の舞台美術模型の展示を加えた。また、特別展示「シェイクスピアと英国王朝」を実施し、中劇場ホワイエ(11/26～12/22)ではシェイクスピア関連年表、英国王朝系譜、ヘンリー四世人物相関図、シェイクスピアの歴史劇、舞台模型など、また情報センター閲覧室(10/29～12/25)では稀観本複製、シェイクスピア銅版画集、関連公演プログラムやポスターなどを展示した。
- ・ 上記の他に、「たとえば野に咲く花のように」、「アラジン」、演劇研修「ロミオとジュリエット」ほか、計9公演の公演関連展示(舞台模型、関連書籍、関連公演プログラム等)を会場ホワイエや閲覧室等で、また、情報センター「夏のこどもシアター」開催時のキッズコーナーでバレエ、オペラの絵本や小道具の展示を行った。さらに、演劇「かさなる視点ー日本戯曲のカー」シリーズ公演にあわせた展示「昭和30年代の演劇～劇団の時代」を閲覧室で実施した(29年度もシリーズ上演中継続の予定)。
- ・ 演劇公演「白蟻の巣」においては、作家の系譜とともに、ブラジル大使館の協力のもと作品の背景でもあるブラジルの日系人の生活の写真展を行った。
- ・ 文化庁推進の文化プログラムの一環として特別展示「日本の現代舞台芸術」を開始した。28年度は明治元年から昭和20年までの年表を作成、劇場3階ギャラリーにパネル展示するとともに、タブレット端末で年表中の人物・団体について詳細が見られるようにした。

2. その他の展示

- ・ 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演に合わせて、28年度より公演会場となったロームシアター京都にて、オペラ鑑賞教室の歴史や公演の舞台写真、衣裳、舞台模型などを展示した。(「オペラの扉 ～ Knock the Door, Opera Exhibition ～」、9/27～11/30、ロームシアター京都「ミュージックサロン」)
- ・ 早稲田大学演劇博物館の展覧会「シェイクスピア没後400年記念特別展 沙翁復興」に協力し、オペラ「マクベス」の衣裳を貸し出した。

《数値目標の達成状況》

- 【展示公開の実施状況(舞台美術センター)】 実績 3 回 / 目標 3 回(達成度 100.0%)
- 【展示公開の来場者数(舞台美術センター)】 実績 828 人 / 目標 800 人(達成度 103.5%)
- 【展示公開の実施状況(新国立劇場内)】 実績 5 回 / 目標 5 回(達成度 100.0%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 主催公演に関連した展示をほぼ全ての演劇公演で行うことができた。
- ・ シェイクスピア没後400年に因み、特別展示「シェイクスピアと英国王朝」を実施した。
- ・ 特別展示「日本の現代舞台芸術」を開始した。
- ・ ロームシアター京都において、新国立劇場オペラ公演の展示を実施した。

- ・ 早稲田大学演劇博物館に資料の貸出を行った。
- 良かった点・特色ある点
 - ・ 文化プログラムの一環として特別展示「日本の現代舞台芸術」を実施した。28年度は明治から昭和20年までであったが、29年度は20年以降を作成する予定である。
 - ・ 大使館、他劇場及び民間企業の協力のもと、劇場内外で特色ある展示を実施することができた。
- 見直し又は改善を要する点
 - ・ 舞台美術センターの講座(オペラコンサート「銚子!?!のいい仲間たち」)は、大変好評で継続を望まれているが、展示については見直しが必要と思われる。そのため、引き続き施設の活用方法について多角的に検討を行いたい。

4-(2)-③ 公演記録の作成・活用、普及活動の実施

《方針》

- ・ 主催公演を中心に、録音・録画・写真等による記録を作成し、閲覧・視聴に供する。
- ・ 公演記録映像については、鑑賞会を開催するとともに、講座・レクチャー等で活用する。また、著作権処理や違法コピー対策等を行った上で、常時来場者に向けて公開する。
- ・ 現代舞台芸術に関する公開講座を実施する。また、公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施し、内容に応じてホームページで公開する。
- ・ オンラインコンテンツを充実させ、現代舞台芸術の魅力をより多面的に、幅広い層に向けて発信する。

《主要な業務実績》

1. 公演記録の作成・活用

- ・ 主催公演を中心に、録音・録画・写真等による記録を作成
- ・ 主催公演の公演記録映像のデータベース化を実施
- ・ 新国立劇場ホームページにて、開場以降ほぼ全ての公演に関して、公演記録写真及び公演情報等を公開
- ・ 公演記録映像を利用して、ホームページの公演特設サイトなどで関連動画が視聴できるようにし、広く公演内容の理解を促進
- ・ オペラ鑑賞教室関西公演に合わせて開催された外部展示に公演記録写真を提供

2. 公開講座等、普及活動の実施

- ・ 舞台美術センター資料館において現代舞台芸術講座として舞台美術センターコンサートを実施(1日2回、参加者数336人)
- ・ 舞台美術センター資料館においてDVD現代舞台芸術鑑賞会を実施(12回、参加者数98人)
- ・ 新国立劇場において現代舞台芸術講座として「マンズリー・プロジェクト」を実施(14講座 21回、参加者数 2,931人) 特に、シェイクスピア没後 400年企画は民間企業の支援により計 4講座開催
- ・ 情報センターにおいて現代舞台芸術鑑賞会として月例の「情報センター上映会」に加え、「夏のこども劇場」の一環として「夏のこどもシアター」を実施(5企画 4日間 32回、参加者数 375人)
- ・ 29年度上演の現代舞踊公演「ふしぎの国のアリス」の関連企画として、こどもワークショップを実施(1回、参加者数 59人)
- ・ オペラ「ルチア」の上演にあたり、レクチャー&ミニコンサート「グラスハーモニカって？」を開催(1回、参加者数 207人)
- ・ 公演内容に対する理解の促進を図るため、上演に合わせて説明会、オペラトーク及びシアタートークを実施(11件、参加者数 3,646人)
- ・ 団体観劇者・学校・劇場見学者を対象に、公演記録映像を利用した公演観劇前のレクチャーや、劇場施設紹介映像によるオンラインツアーを、情報センター内ビデオシアターで実施(18件 484名)

3. 現代舞台芸術の普及のための公演関連映像の公開等

- ・ インターネットコンテンツ「新国立劇場の1日」を作成・公開

《業務実績詳細》

<1> 公演記録の作成・活用

1. 公演記録の作成

主催公演を中心に、録音・録画・写真等による記録を作成した(30公演 30件)。

2. 公演記録の活用

- ・ 記録映像
主催公演の公演記録映像を情報センター閲覧室にて追加公開した(21公演 29件)。
- ・ 記録写真
ホームページの「舞台写真・公演記録」ページにて主催公演の公演記録写真を追加公開した(30公演)。
- ・ 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演に合わせて、28年度より公演会場となったロームシアター京都にて、オペラ鑑賞教室の歴史や公演の舞台写真、衣裳、舞台模型などを展示した。(「オペラの扉 ～ Knock the Door, Opera Exhibition ～」、9/27～11/30、ロームシアター京都「ミュージックサロン」)
- ・ 公演記録写真、映像を雑誌社、放送局等へ貸出した(39件)。

<2>公開講座等、普及活動の実施

1. 現代舞台芸術に関する公開講座等

会場	名称	区分	回数	参加者数	アンケートによる 有意義回答の割合
舞台美術 センター	現代舞台芸術講座	実績	2回	336人	99.5%
		計画	1回	150人	
	現代舞台芸術鑑賞会	実績	12回	98人	—
		計画	12回	70人	
新国立 劇場	現代舞台芸術公開講座 ※マンスリー・プロジェクトとして既出	実績	21回	2,931人	96.9%
		計画	14回	1,500人	
	小野寺修二「ふしぎの国のアリス」 こどもワークショップ	実績	1回	59人	100.0%
		計画	—	—	
	レクチャー&ミニコンサート 「グラスハーモニカって？」	実績	1回	207人	90.2%
		計画	—	—	
	現代舞台芸術鑑賞会 (情報センター上映会)	実績	44回	666人	95.0%
		計画	12回	216人	
合計		実績	81回	4,297人	96.6%
		計画	39回	1,936人	

- 現代舞台芸術講座(舞台美術センター資料館)

現代舞台芸術の理解の促進と普及を図るために、現代舞台芸術の関連展示に加えて、舞台美術センター資料館においてオペラコンサートを実施した。

舞台美術センター オペラコンサート「銚子!?!のいい仲間たち」

10/17、11:00(一般)・14:00(銚子第七中学校貸切)

新国立劇場舞台美術センター資料館 1F展示ホール

出演：新国立劇場合唱団員4名、ピアニスト

参加者数：336人

アンケートによる有意義回答率：99.5%
- 小野寺修二「ふしぎの国のアリス」こどもワークショップ

29年度6月に上演される現代舞踊「ふしぎの国のアリス」の構成・振付者により、こどもを対象としたパントマイムのワークショップを行った。

1/21、新国立劇場リハーサル室

参加者数：59人

アンケートによる有意義回答率：100.0%
- レクチャー&ミニコンサート「グラスハーモニカって？」

オペラ「ルチア」の上演にあたり、現在では演奏されることの少ない世界でも希少な楽器であるグラスハーモニカが原曲の指定通りに採用されることに関連し、本公演の奏者によるレクチャーと実演を行った。

3/22、18:30、新国立劇場小劇場

参加者数：207人

アンケートによる有意義回答率：90.2%
- 現代舞台芸術鑑賞会(新国立劇場情報センター)

月例の情報センター上映会に加え、「夏のこども劇場」の一環として、こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」公演期間中に「夏のこどもシアター」を実施した。併せて、閲覧室をファミリー層に開放し、舞台芸術の関連の入門図書を開架するとともに大型モニターで新国立劇場紹介ビデオを上映した。

情報センター「夏のこどもシアター」

7/21～24、新国立劇場情報センター閲覧室・シアター

「白鳥の湖3、4幕」「くるみ割り人形2幕」「シンデレラ2幕」「アラジン3幕」「ドン・キホーテ3幕」の幕ごとの抜粋をシアターで上映、閲覧室の大型モニターで[森山開次「サーカス」]の全編、[3分でわかるバレエシリーズ]ほかの映像を終日放映。

参加者数：375人

アンケートによる有意義回答率：100.0%

2. 公演の実施にあわせた関連講座等

内 容	名 称	回数	参加者数
オペラ関連	2017/2018 シーズンオペラ演目説明会、オペラトーク(「ワルキューレ」)	2回	396人
バレエ・現代舞踊関連	2017/2018 シーズンバレエ&ダンス演目説明会、アフタートーク(「CHROMA(クロマ)」)	2回	700人
演劇関連	シアタートーク(「たとえば野に咲く花のように」「パーマ屋スマイル」「あわれ彼女は娼婦」「月・こうこう, 風・そうそう」「フリック」「ヘンリー四世」「白蟻の巣」)	7回	2,550人

- ・ 公演記録映像を利用して、団体観劇者・学校・劇場見学者を対象に、公演観劇前のレクチャーや劇場見学を情報センター・ビデオシアターで実施した(18件484名)。

3. 現代舞台芸術の普及のための公演関連映像の公開等

映像で分かりやすく伝える劇場施設紹介コンテンツ「劇場をあらく」と、オペラ、バレエ、演劇の舞台ができるまでを各ジャンルの特性に沿って紹介したコンテンツに加え、3劇場で公演が同時に上演されている新国立劇場を「劇場の1日」という視点から紹介するコンテンツを作成した。現代舞台芸術の魅力をバックステージからより多面的に紹介することで、公演への興味・理解を促進する。いずれもホームページで公開し、幅広い層に向けて発信した。

《数値目標の達成状況》

【講座等の実施状況】実績 81 回／目標 39 回(達成度 207.7%)

【講座等の参加者数】実績 4,297 人／目標 1,936 人(達成度 222.0%)

【講座等の満足度】実績 96.6%／目標 80% (達成度 120.8%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 公演記録の作成を計画どおり実施した。
 - ・ 公開講座のうち、マンスリー・プロジェクト(現代舞台芸術講座)においては、公演に関連した適切なテーマと内容を工夫したことにより、参加者数(2,931人)が年度計画目標(1,500人)を大きく上回った(達成度195.4%)。有意義回答の割合(96.9%)も目標(80%以上)を大きく上回った。
 - ・ 現代舞台芸術鑑賞会では、「こどものためのバレエ劇場」の公演期間中に、公演と連動して「夏のこどもシアター」を企画・実施し、多数の参加者を得た。
 - ・ 例年開催している講座に加え、新たに現代舞踊、オペラにおいても公演に関連した講座を開催し多くの参加者を得た。
 - ・ オペラ鑑賞教室関西公演に合わせて開催された外部展示に公演記録写真を提供することで、新国立劇場の取組を周知し、現代舞台芸術の一層の普及を図った。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 公開講座について、公演に関連した適切なテーマと内容を工夫し実施した結果、参加者数と有意義回答の割合が目標値を大きく上回った。
 - ・ ビジュアル年表の展示、主催公演の舞台美術の模型等の展示、ホームページのリニューアル等、現代舞台芸術を多角的に紹介することができた。
 - ・ 劇場の1日の動きを多角的に映像収録し、インターネットコンテンツとして公開できた。
 - ・ 懸案事項であった、演劇以外での講座の開催ができた。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ インターネットや通信技術を利用し、展示方法の工夫や資料利用の利便性の向上を図りたい。

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために とるべき措置

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 p.173

- 効率化に関する取組 p.175
 - 情報システムの活用 p.175
 - 事務手続きの簡素化 p.176
 - 省エネルギー、リサイクルの推進 p.176
 - 組織機構の在り方の検討 p.177
 - 保有資産の有効活用 p.179
 - 内部統制の充実・強化 p.180
 - 効率化に関する目標の達成状況 p.182
- 給与水準の適正化 p.184
- 契約の適正化 p.185

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

《中期計画の概要》

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 サービスその他の業務の質の向上を考慮しつつ、次の取組を行い、事務及び事業を改善

(1) 一般管理費等の削減

運営費交付金を充当して行う業務について、平成24年度予算を基準として中期目標期間中に、退職手当、特殊要因経費を除き、一般管理費などの事務的経費については15%以上、事業費についても毎事業年度につき1%以上効率化

(2) 効率化に関する取組

- ア 効率的な情報システムの整備による各事業の効果的・効率的な運営の支援
- イ 手続きの簡素化等による業務運営の効率化及び利用者の利便性の向上
- ウ 国立劇場等の管理運営業務について、外部委託の範囲拡大による経費削減
- エ 省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクル、ペーパーレス化等の推進

(3) 給与水準の適正化等

役職員の給与について、国家公務員の給与見直しの動向を見つつ、必要な措置を実施、適正化に関する検証結果や取組状況について公表

(4) 契約の適正化

原則として一般競争入札等によることとし、次の取組により、契約の適正化を推進
監事による監査を受けるとともに、財務諸表等に関する監査の中で会計監査人によるチェックを要請

- ア 「調達等合理化計画」に基づく取組を着実に実施、取組状況を公表
- イ 一般競争入札等により契約を行う場合であっても、競争性、公正性及び透明性が十分確保される方法により実施

(5) 組織機構の在り方の検討

組織機構の在り方について検討を行い、必要な措置を実施

(6) 保有資産の有効利用

保有する劇場施設等の資産の一層の有効利用に資するための方策を検討・実施
金融資産の適切な管理・運用

(7) 内部統制の充実・強化

- ア 評価委員会において、組織、運営、事業などについて評価、評価結果の公表と組織の改善、事業の見直し、事務の改善等に反映
- イ 人員・劇場等施設及び運営費交付金等を有効に活用し、理事長のマネジメントの強化や監査機能の充実について検討、検討結果の逐次活用
- ウ 国民の理解が得られるよう分かりやすく説明する意識を徹底、情報開示を推進
法令等に基づき適切に情報を開示、適切な情報セキュリティ対策を推進

《年度計画の概要》

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の効率化を進めるため、次の措置を実施

(1) 効率化に関する取組

- ア 情報システムの活用
 - ①業務システムの安定稼働
 - ②情報システムの更新に際し、情報セキュリティの確保を前提に外部サービスの活用を推進
 - ③情報セキュリティ対策に関して、各職員の自己点検及び専門家による研修等を実施
- イ 事務手続きの簡素化
事務手続きの効率化、決裁事務の簡素化
- ウ 契約の適正化
 - ①「調達等合理化計画」に基づく契約の適正化、取組状況の公表

- ②契約監視委員会による契約の点検、その結果を踏まえた見直しの実施
- ③電子入札を一部の案件で実施
- エ 省エネルギー、リサイクルの推進
 - ①二酸化炭素(CO2)の削減を推進
 - ②光熱水量の節減
 - ③廃棄物の減量化
 - ④ペーパーレス化
 - ⑤環境配慮物品等の調達を行い省エネルギー、リサイクルを促進
- (2) 給与水準の適正化
 - 役職員の給与について、国家公務員給与制度の総合的見直し等の動向を見つつ、必要な措置を実施
適正化に関する検証結果や取組状況について公表
- (3) 組織機構の在り方の検討
 - 人員配置など組織機構の再編について検討、必要な措置を実施
- (4) 保有資産の有効利用
 - 施設の適切な管理・運用
 - 各劇場施設の使用効率の向上及び利用者の増加を図る取組
 - 金融資産の適切な管理・運用
- (5) 内部統制の充実・強化
 - ア 平成27年度の事業の実施結果について、自己点検評価及び外部専門家からの意見聴取を実施
 - イ 上記の自己点検評価をもとに、評価委員会による業務の実績に関する評価を実施
評価結果の公表、事業の見直し及び事務の改善等に反映
 - ウ 理事長のリーダーシップの下に業務の適正を確保するための体制(内部統制システム)を整備、監事及び監事監査に係る機能を充実・強化
 - エ 情報開示を推進、分かりやすく説明する意識を徹底

II-1 効率化に関する取組

《主要な業務実績》

1. 情報システムの活用
 - ① 業務システムの整備
 - ・ 財務会計等システムと文書管理システムの更新
 - ・ 監視カメラシステムの更新
 - ② 振興会ホームページの対応
 - ③ ネットワーク関連
 - ・ 基幹スイッチの更新
 - ・ 業務用クライアント機器の更新
 - ④ 情報セキュリティ対策の実施
 - ⑤ プログラム脆弱性対策の実施
2. 事務手続きの簡素化
 - ・ 軽易な収受文書の供閲手続きの簡素化を検討
3. 省エネルギー、リサイクルの推進
 - ・ 光熱水量の削減について、観劇環境や業務に支障のない範囲で節電対策を実施
 - ・ 廃棄物について、引き続き減量化を図るとともに種別分別を徹底
 - ・ ペーパーレス化促進のため、両面コピー、グループウェアの活用等を実施
4. 組織機構の在り方の検討
 - ・ 基金部芸術活動助成課に調整係を設置
5. 保有資産の有効利用
 - ・ 「独立行政法人の職員宿舎の見直し計画」等に沿って、実物資産を適切に管理運営
 - ・ 各種金融資産について、適切に管理・運用を実施
6. 内部統制の充実・強化
 - ・ 内部統制の充実・強化を図り、評議員会、公演専門委員会ほか外部専門家等の意見を事業に反映
 - ・ 国立劇場等大規模改修懇談会を開催
 - ・ 国立劇場等大規模改修事業者選定委員会を開催
 - ・ リスク管理委員会を開催
 - ・ 内部統制に関する研修会を開催
7. 効率化に関する目標の達成状況
 - ・ 一般管理費は前年度からの繰越執行及び特殊要因により、基準額である24年度運営費交付金予算額に対し5%増となったが、それらを除くと6%の効率化を達成
 - ・ 事業費は前年度からの繰越執行及び特殊要因により、前年度予算額に対し10%増となったが、それらを除くと2%の効率化を達成

《業務実績詳細》

<1>情報システムの活用

- ① 業務システムの整備
 - ・ 財務会計等システム及び文書管理システムを更新し、業務の効率化を図った。
 - ・ 隼町地区設置の監視カメラを更新し、地域内のセキュリティ強化を図った。
- ② 振興会ホームページの対応
 - ・ 国立劇場開場 50 周年記念サイトを開設し、周年事業の情報を掲載した。
 - ・ スマートフォン対応画面及び変換機能を導入し、利用者の利便性を図った。
- ③ ネットワーク関連
 - ・ ネットワーク基幹スイッチを更新し、ネットワークの安定稼働を図った。
 - ・ 全施設で運用する業務用クライアント機器を一括更新し、業務の効率化を図った。
- ④ 情報セキュリティへの対応
 - ・ 公演情報管理システムについてセキュリティ監査を実施し、情報セキュリティの対応状況を確認した。

- ・ 情報セキュリティについての意識向上を図るため、専門家を招いた情報セキュリティ研修に加え、全職員を対象としたe-Learning研修を実施した。
- ・ 標的型メール攻撃に関する教育・意識啓発を目的に、訓練用の標的型攻撃メールの受信体験を通じて同攻撃への適切な対処を職員に身につけさせることを意図した「標的型メール攻撃に対する訓練」を実施した。

⑤ プログラム脆弱性対策の実施

- ・ 脆弱性対応手順を整備し、脆弱性情報の発表を受け、随時、振興会内の全情報システムを調査し、脆弱性対策を行い、情報セキュリティを確保した。

<2>事務手続きの簡素化

- ・ マニュアル化、館内LANを介しての一斉通知等により、引き続き事務手続きの効率化に努めた。
- ・ 軽易な収受文書の供関手続きについて、効率化の観点から見直しを行った。

<3>省エネルギー、リサイクルの推進

1. 光熱水量の節減 ※ 光熱水量は、食堂・売店等テナントの使用量を除く。

事 項	区 分	使用量	対前年度増減
電気	本館・演芸場	5,071,104kwh	3.3%
	能楽堂	807,239kwh	△ 0.9%
	文楽劇場	1,223,246kwh	△ 18.9%
	合 計	7,101,589kwh	△ 1.8%
ガス	本館・演芸場	176,493 m ³	9.3%
	能楽堂	85,675 m ³	3.0%
	文楽劇場	103,990 m ³	0.0%
	合 計	366,158 m ³	5.1%
水道	本館・演芸場	35,792 m ³	0.8%
	能楽堂	8,104 m ³	19.7%
	文楽劇場	12,758 m ³	△ 4.0%
	合 計	56,654 m ³	2.0%

- ・ 引き続き各館において、観劇環境や業務に支障のない範囲で以下の節電対策を行った。
 - ・ 執務室、会議室、通路等の照明を業務に支障のない範囲で間引き・減灯した。
 - ・ 事務所部分を中心に夏季の軽装を奨励するとともに、冷暖房の抑制(夏季ピーク時の制限、設定温度の制限)を実施した。
 - ・ 能楽堂では、水道使用量が増加していたが、土中配管からの漏水が原因と特定できたため、2月に配管工事を行った。その後、水道使用量は例年並みに戻っている。

2. 廃棄物の減量化

事 項	区 分	処理量	対前年度増減
一般廃棄物	本館・演芸場	52,851kg	7.7%
	能楽堂	4,980kg	△ 35.3%
	文楽劇場	16,791kg	△ 10.5%
	合 計	74,622kg	0.2%
再利用廃棄物	本館・演芸場	55,118kg	△ 27.5%
	能楽堂	6,445kg	△ 12.6%
	文楽劇場	13,930kg	5.1%
	合 計	75,493kg	△ 21.9%
産業廃棄物	本館・演芸場	4,673kg	△ 72.5%
	能楽堂	1,203kg	△ 61.7%
	文楽劇場	15,260kg	190.1%
	合 計	21,136kg	△ 16.7%

- ・ 引き続き廃棄物の減量化に努めた。
 - ・ 本館・演芸場では、リサイクル意識の向上に努めたことにより、再利用廃棄物が減少した。また 27 年度は、機器及び機材等の整理を進め、特に経年劣化や不要と判断される物の廃棄に努めたことにより産業廃棄物の処理量が多かったため、産業廃棄物が前年度に比べ減少した。
 - ・ 文楽劇場では、行政の指摘に従い厨芥とプラスチックゴミを厳しく分別したこと、またレンタル方式に切り替えて不要になった記録用機材等の大型廃棄物があったことから、産業廃棄量が一時的に大きく増加した。

3. ペーパーレス化

事 項	区 分	使用量	対前年度増減
コピー枚数	本館・演芸場	1,107,383 枚	5.3%
	事務棟	1,746,411 枚	12.0%
	伝統芸能情報館	280,877 枚	19.7%
	能楽堂	314,360 枚	31.8%
	文楽劇場	338,556 枚	17.0%
	合 計	3,787,587 枚	12.3%
	うち管理部門	1,180,755 枚	13.4%
コピー用紙 購入枚数	本館・演芸場・事務 棟・伝統芸能情報館	3,362,000 枚	5.8%
	能楽堂	333,500 枚	9.7%
	文楽劇場	437,000 枚	0.8%
	合 計	4,132,500 枚	5.6%

- ・ 28 年度は、国立劇場開場 50 周年関連事業や国立劇場大規模改修事業等による会議実施回数の増等から、事務棟及び伝統芸能情報館におけるコピー枚数が増加した。引き続き、両面コピー、グループウェアの活用等によりペーパーレス化促進に努める。
- ・ 能楽堂では 28 年度、初めて開催した「外国人のための能楽鑑賞教室」及び外国人のためのワークショップや、27 年度はなかった補助金による工事(4 件)の実施、行幸啓の実施等により、多くの資料を作成する必要があった特殊要因により、コピー枚数が増加した。
- ・ 文楽劇場では 28 年度、初めて開催した「外国人のための文楽鑑賞教室」及び新作を 2 本上演した夏休み文楽特別公演に関連して、多くの資料等を作成する必要があったため、コピー枚数が増加した。

4. グリーン購入法に基づく調達

事務用消耗品を中心に、環境物品等の調達の推進を図るための方針に基づいた物品購入等を行い、可能な限り環境への負荷の少ない物品等の調達に努めた。

<4>組織機構の在り方の検討

1. 人員配置等組織機構の再編の検討

(1) 28 年 4 月に以下の組織改正を実施した。

- ・ 基金部を改組し、芸術活動助成課に調整係を設置

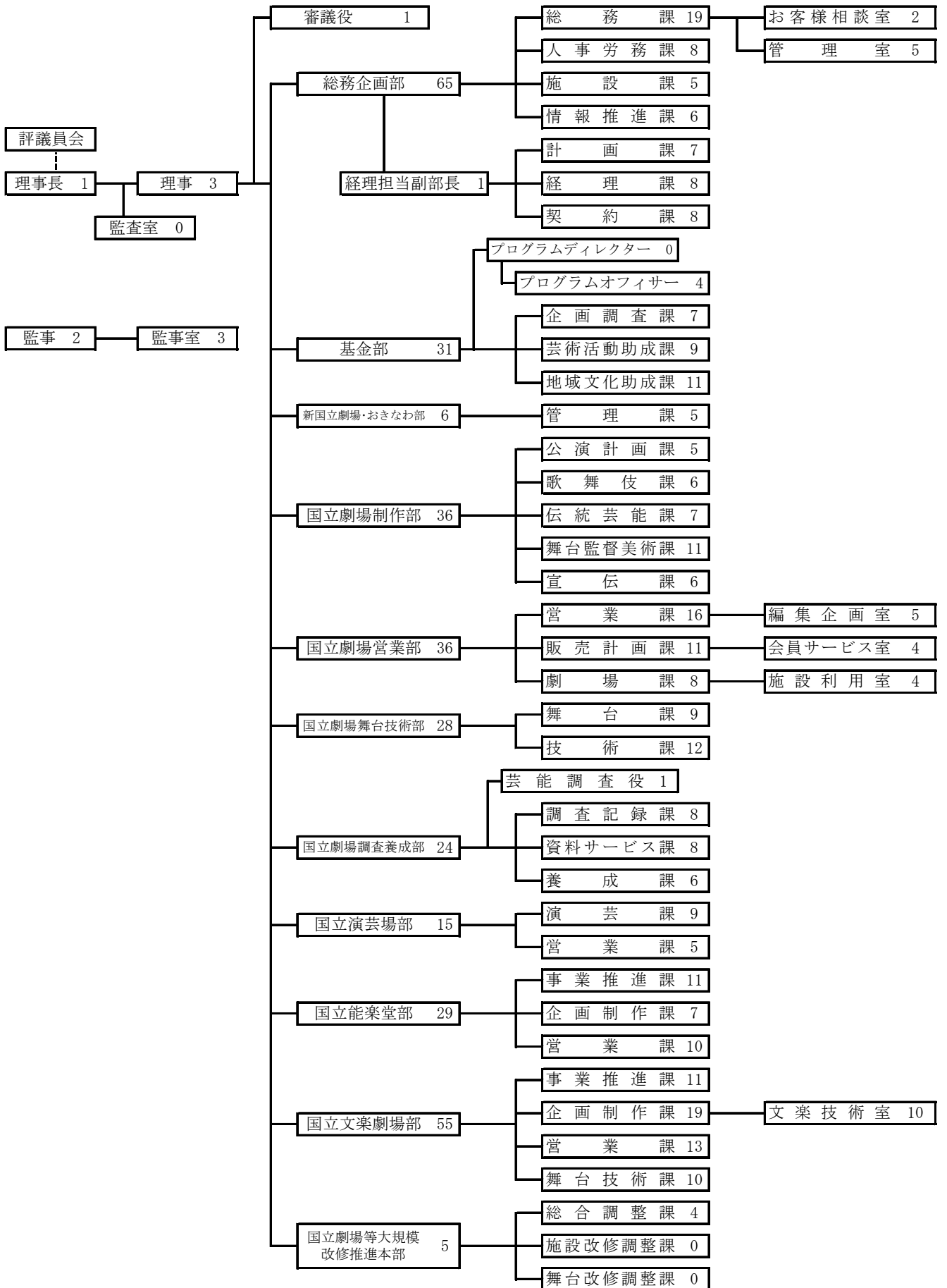
日本版アーツカウンシルの本格導入に伴い配置されているプログラムディレクター・プログラムオフィサー及び文化芸術活動調査員による事後評価及び公演調査等の実施に関する業務を行う。

(2) 29 年 4 月に以下の組織改正を実施することとした。

- ・ 基金部地域文化助成課の改組

文化庁から移管される「劇場・音楽堂等活性化事業」の実施体制を整備するため、基金部地域文化助成課の改組と同事業を担当する係の新設を内容とする組織再編に向け、所要の準備を進める。

[組織図] ※ 数字は役員及び常勤職員数(29年4月1日現在)



<5>保有資産の有効利用

1. 実物資産の保有状況等

(1) 資産の概要と保有目的・利用状況

施設名(数)	所在地	用途	保有目的及び利用状況
国立劇場 本館・演芸場(1)	東京都千代田区	劇場施設	伝統芸能の保存・振興を図るための拠点施設として設置され、伝統芸能の公開、伝承者の養成等の事業を安定的、継続的に実施するために必要な施設である。 28年度の稼働率の実績：P.120 参照
国立能楽堂(1)	東京都渋谷区		
国立文楽劇場(1)	大阪市中央区		
国立劇場おきなわ(1)	沖縄県浦添市		
新国立劇場(1)	東京都渋谷区	劇場施設	現代舞台芸術の振興・普及を図るための拠点施設として設置されたものであり、現代舞台芸術の公演、実演家の研修等の事業を安定的、継続的に実施するために必要な施設である。 28年度の稼働率の実績：P.120 参照
新国立劇場舞台美術センター(1)	千葉県銚子市	保管施設	現代舞台芸術の公演に必要な舞台装置・衣装等を保管し、新国立劇場におけるレパトリー公演を安定的、継続的に実施するために必要な施設であり有効に活用されている。
職員宿舎(8)	東京地区(7) 大阪地区(1)	職員宿舎	東京・大阪に事業所を保有しており、円滑な人事異動など業務上の必要から、安定的かつ継続的に職員宿舎を確保する必要がある、養成研修生の利用も含めた適切な管理運営を図っている。なお借上げ宿舎については23年度に6戸、24年度に3戸、25年度に1戸廃止した。保有宿舎については26年度に14戸廃止した。 保有宿舎全29戸(廃止宿舎、廃止予定宿舎及び改修中の宿舎を除く)、入居率は62.1%(29年4月末現在)。その他、借上宿舎が1施設(1戸)あり、入居率は100%。

- ・ 「独立行政法人の職員宿舎の見直し計画」(24年4月3日行政改革実行本部決定)及び「独立行政法人の職員宿舎の見直しに関する実施計画」(24年12月14日行政改革担当大臣)に沿った見直しを進めている。23年度に6戸の借上げ宿舎を廃止したことに続き、24年度には東京地区の借上げ宿舎3戸、25年度には大阪地区の借上げ宿舎1戸、26年度には東京地区の保有宿舎14戸を廃止した。引き続き、宿舎の適切な管理運営に努めるとともに、入居者の円滑な退去等に配慮しつつ、職員宿舎の削減を図る。このため、宿舎の利用状況(29年4月末時点)は、全体(保有及び借上)で63.3%の入居率となっている。
- ・ 一部の宿舎については、養成研修生への貸与を実施している。
- ・ 28年度決算において、業務の実績等の状況からサービス提供能力の低下等減損事由に該当する実物資産はない。

2. 金融資産の保有状況

① 金融資産の名称と内容、規模

- ・ 定期預金 2,000,000,000 円
- ・ 投資有価証券 74,873,828,976 円

② 保有の必要性(事業目的を遂行する手段としての有用性・有効性)

芸術文化振興基金については、芸術文化振興基金の運用の基本的考え方を踏まえ、毎年度芸術文化振興基金運用計画を策定し、長期的・安定的な運用を行っている。

政府出資金見合いの資金については、「政府出資金見合いの資金及びその運用に関する基準」に従い、伝統芸能の公開事業及び現代舞台芸術の公演事業を安定的に継続するため、可能な限り長期的な運用を行うこととしている。

- ③ 資産の売却や国庫納付等を行うものとなった金融資産の有無、取組状況
該当する金融資産はない。

3. 資金運用の実績

主な資金である芸術文化振興基金の運用実績はP. 11 を参照。

<6>内部統制の充実・強化

1. 自己点検評価の実施、外部専門家等からの意見聴取

① 27年度の業務実績に関する自己点検評価について

28年2月～3月 各公演専門委員会、事業委員会において事業に対する意見聴取を実施

28年3月～4月 各部において自己点検評価を実施

28年4月～5月 総務企画部計画課を中心に自己点検評価を取りまとめ

28年5月9日 理事長により自己点検評価を決定

28年6月28日 評議員会において、27年度の業務の実績に関する評価を審議・決定

② 28年度の業務の実績に関する自己点検評価について

自己点検評価は膨大な作業量となるため、毎月の業務実施状況について定期的に役員会で報告するとともに、公演事業については四半期ごとに自己点検評価を実施して、作成業務の効率化と内容の充実を図った。

2. 外部評価委員会における検討・評価、評価結果の公表・事業への反映

① 評議員会の開催

第41回(6/28)、第42回(10/28)、第43回(3/29)の3回開催した。

議題等：27年度評価及び27年度決算についての審議、27年度評価結果についての報告、28年度計画実施状況の報告、29年度計画についての審議、国立劇場等大規模改修に係る審議等

② 評価委員会の開催

27年度第2回(5/16)、第3回(6/13)、第4回(6/23)、28年度第1回(10/31)の4回開催した。

議題等：27年度評価の実施、27年度評価についての審議等

③ 公演専門委員会、事業委員会、芸術文化振興基金運営委員会の開催

・ 公演専門委員会

議題等：28年度公演状況の報告、29年度公演計画の説明、29年度公演計画についての意見聴取等

歌舞伎公演専門委員会 2回開催(6/15・3/16)

文楽公演専門委員会(本館) 2回開催(6/21・3/17)

舞踊公演専門委員会 2回開催(6/22・3/28)

邦楽公演専門委員会 2回開催(6/15・3/16)

雅楽・声明公演専門委員会 2回開催(6/16・3/16)

民俗芸能・琉球芸能公演専門委員会 2回開催(6/16・3/23)

大衆芸能公演専門委員会 2回開催(6/21・3/22)

能楽公演専門委員会 2回開催(2/8・3/10)

文楽公演専門委員会(文楽劇場) 2回開催(5/19・2/24)

文楽劇場短期公演等専門委員会 2回開催(5/18・3/7)

・ 事業委員会

議題等：27年度評価結果の報告、28年度の事業実施状況、29年度事業計画についての意見聴取等

養成事業委員会 2回開催(6/7・3/17)

調査事業委員会 2回開催(6/7・3/17)

・ 芸術文化振興基金運営委員会 3回開催(9/9・1/25・3/13)

議題等：27年度事後評価結果の決定、29年度審査基準・助成対象活動募集案内の決定、29年度助成金の分野別配分予算案の決定、29年度助成対象活動及び助成金交付予定額の決定等

④ 国立劇場等大規模改修懇談会の開催

第5回(10/14)の1回開催した。

議題等：国立劇場等大規模改修基本計画の見直しについての意見聴取等

- ⑤ 国立劇場等大規模改修事業者選定委員会の開催
第1回(2/8)の1回開催した。
議題等：委員長の選出、事業概要・委員会スケジュールの報告等

3. 内部統制の充実・強化

(1) 理事長がリーダーシップを発揮できる環境の整備

① 役員会の開催

- 役員会を開催し、振興会の業務に係る重要事項を審議した(開催回数：22回)。

【役員会における目標管理の状況】

- ・ 中期計画、年度計画の遂行に関わる、目標達成状況、収支状況、予算執行状況等を定期的に理事長に報告
- ・ 状況把握に基づき、理事長より各部署に改善等を指示
- ・ 各部署は対策を案出し、措置状況を役員会で報告

② 情報伝達

- 理事長の経営方針等を、館内 LAN 等を介して全職員に周知した。
- 全役員及び総務企画部長による会合を役員会の前に実施し、情報共有を図った。
- 事故等発生時の際は、定められた方法により関係者間の情報共有、理事長への報告を行った。
- 利用者から寄せられた要望・苦情、それに対する回答内容を、月毎に集約して役員に報告するとともに、館内 LAN を介して全職員に周知した。

③ 内部統制に関する研修会の開催

- 前年度において理事長、理事、部長を対象に行った内部統制研修を課長以下職員向けに開催し、内部統制の概要に係る周知を図った(開催回数：3回)。

(2) 監査

① 監事監査

定期監査、重要書類の回付等により業務の執行状況及び会計経理事務の処理状況を監査した。

<定期監査(業務監査及び平成 27 事業年度決算監査)>

- 監事と理事長、理事とのディスカッション(6/20)
- 監事と会計監査人とのディスカッション(12/19、6/15)
- 監事監査計画提出(4/22 提出先：理事長)
- 監査実施(5～6月)
- 監査報告書提出(6/20 提出先：理事長)
- 意見書「平成 28 年度監事監査の結果に基づく検討希望事項」提出(9/5 提出先：理事長)
(検討希望事項 8件)
 - ・ 内部統制システムの整備及び運用の状況について
 - ・ 中期目標の達成状況について
 - ・ 委員会等の状況について
 - ・ 防災対策について
 - ・ 懸案事項及びその他重要事項について
 - ・ 入札・契約について
 - ・ スペシャリストの育成及び労務管理について
 - ・ 新規事業の実施状況及び集客について

<監事の意見書への対応>

- 監事からの意見を受けて対応計画を取りまとめ、各担当において措置するよう指示

② 内部監査

内部監査要綱に基づき内部監査を実施した。

- 内部監査計画の作成(11/30 同日監事に通知)
- 監査実施(1～2月)
- 監査事項
 - ・ 勤務時間の管理状況(28年度分)

- ・旅行命令、旅費の状況(28年度分)
- ・法人文書の管理状況(27年度分)
- ・物品・役務等、調達手続きの状況(27年度分)
- ・物品の管理状況(27年度分)
- ・現金取扱細則の運用状況
- ・切手、はがき、乗車ICカード(Suica等)の管理状況
- ・その他必要な事項

○監査報告書提出(3/16 提出先：理事長 3/21 監事に写しを送付)

○意見書「平成28年度独立行政法人日本芸術文化振興会内部監査結果に基づく事務処理の適正化及び改善を要する事項について」提出(監査報告書に添付)

③ 監事の機能を強化する組織体制の整備

前年度に引き続き、監事室において監事の職務の遂行を補佐した。

(3) 情報開示の推進

- ホームページの情報掲載に当たっては、迅速な発信とともに、表現、掲載位置等を工夫し、より確実に情報が伝わるよう努めた。
- 情報開示請求等に適切に対応するため、情報公開・個人情報保護制度の運用等に関する研修に職員を参加させた。

(4) リスク管理

- ・ リスク管理委員会の開催
 - 平成29年度においてリスクの評価と対応に係る措置に取り組むための具体的な作業要領を審議した(開催回数：2回)。

<7> 効率化に関する目標の達成状況

1. 一般管理費

以下の数式により効率化の達成状況を計っている。

A：平成24年度の一般管理費予算額(退職手当を除く)

※運営費交付金算定の基礎となった額

B：当該年度の一般管理費決算額(退職手当を除く)

増減比率：(B-A)÷A

(単位：百万円、%)

区分	種別	28年度
基準額(A)	一般管理費	513
	人件費	537
	計	1,050
金額(B)	一般管理費	341
	人件費	757
	計	1,099
増減比率		5%

※ 前年度からの繰越執行及び特殊要因により5%増となったが、それらを除くと6%の効率化を達成した。

2. 事業費

以下の数式により効率化の達成状況を計っている。

A：前年度の事業費予算額(退職手当を除く)

※運営費交付金算定の基礎となった額

B：当該年度の事業費決算額(退職手当を除く)

増減比率：(B-A)÷A

(単位：百万円、%)

区分	種別	28年度
基準額(A)	事業費	6,532
	人件費	1,777
	計	8,309
金額(B)	事業費	7,180
	人件費	1,986
	計	9,166
増減比率		10%

※ 前年度からの繰越執行及び特殊要因により10%増となったが、それらを除くと2%の効率化を達成した。

《自己点検評価》 _____

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 内部統制の充実・強化を図り、外部意見や評価結果等を事業に反映させた。評議員会、評価委員会、公演専門委員会、事業委員会(調査、養成)、芸術文化振興基金運営委員会を計画どおり適切に開催した。また監事監査、内部監査を引き続き実施した。
 - ・ 情報システムの活用につき、計画どおり必要な措置を講じた。
 - ・ 省エネルギー、リサイクルの推進に引き続き取り組んだ。
 - ・ 課長以下職員を対象とした研修会を開催したことで、内部統制に関する共通認識を持つことができた。
 - ・ リスク管理委員会においてリスクの評価と対応に係る措置に取り組むための作業要領を策定することができた。
 - ・ 一般管理費、事業費の効率化を達成した。
- 良かった点・特色ある点
- ・ OSやソフトウェアの脆弱性対策(44件)を迅速に実施することにより、情報セキュリティを確保した。
 - ・ 情報セキュリティ維持に関する訓練として標的型メール攻撃訓練を実施し、標的型メール攻撃に対する職員の意識啓発に一定の効果を上げることができた。
 - ・ ペーパーレス化促進について、両面コピー、グループウェアの活用等に努めた。
 - ・ 監事の提言により、課長以下職員を対象とした内部統制に関する研修会を開催した。
 - ・ 外部専門家による各委員会等を開催し、意見等を事業に反映するよう努めた。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 監査の実効性を高めるため、引き続き、指摘事項等に対するフォローアップを行う。
 - ・ 廃棄物減量化に取り組む姿勢を堅持する。引き続き適正な分別及び総量の圧縮に努める。

II-2 給与水準の適正化

《主要な業務実績》

- ・ 国家公務員の給与改定に倣い、給与の改定を実施
- ・ 俸給表の改定に当たっては、世代間の給与配分の観点から若年層に重点を置きながら水準を引き上げ
- ・ 前年度の給与水準に関する検証結果や取組状況について公表
- ・ 前年度の給与水準に対する文部科学大臣の検証結果は適正

《業務実績詳細》

1. 給与水準の適正化に関する検証結果・取組状況の公表

- ・ 引き続き、国家公務員との給与の比較を行い、ホームページに「独立行政法人日本芸術文化振興会の役職員の報酬・給与等について」を掲載し、給与水準に係る適正化に関する検証結果及び取組状況を公表した(27年度ベース)。
- ・ ラスパイレス指数(※)は、104.7(地域・学歴勘案=92.0)であり、地域・学歴を勘案した指数では国家公務員の水準未満であった。
- ・ また、全独立行政法人のラスパイレス指数は、102.6(地域・学歴勘案=100.8)であり、当振興会の水準は、地域・学歴を勘案した指数では全独立行政法人の水準未満であった。

(※)ラスパイレス指数=国の一般職俸給表適用者の給与を100としたときの給与水準の指数

<国からの財政支出>

支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 77.1%

(国からの財政支出額 14,290百万円/支出予算の総額 18,541百万円(27年度予算))

2. 効率的な事業遂行のための職員配置及び採用

人員配置については、各部長から要望を広く聞き、適切な人事異動を行うとともに、任期を定めた採用の強化等、人件費の抑制を踏まえた採用を実施した。

3. 人事・給与制度の検討

(1) 国家公務員の給与改定に準じた役職員の給与改定

- ・ 国家公務員の給与改定に倣い若年層に重点を置きながら俸給表の水準を引き上げた(平均改定率0.2%)。
- ・ 賞与の支給月数を引き上げた(年間支給月数:4.14か月→4.24か月)。引き上げ分は、勤務実績に応じた評価による給与支給の推進のため、勤勉手当に配分した。
- ・ 55歳を超える課長補佐級以上の職員に実施している減額支給措置(△1.5%)は、経過措置終了後に廃止する。(平成30年度以降)

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 役職員給与について、国家公務員給与の改定に倣い、給与の改定を実施した。
- ・ 前年度の給与水準について、検証結果や取組状況を公表した。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 東京、大阪の大都市に事務所があることや大学卒以上の職員の比率が高いことから、地域と学歴を勘案した対国家公務員比較指標は92.0であり、適正であると考えられる。

II-3 契約の適正化

《主要な業務実績》

- ・ 「調達等合理化計画」に基づく一般競争入札の取組状況に関し、「日本芸術文化振興会契約監視委員会」において、定期的な契約の点検を実施し、報告書を理事長に提出
- ・ 入札参加の機会の拡大を図るため、ホームページ上の「調達情報」に仕様書のほか、セキュリティ面において公開することに問題があると判断されるものを除き、その他すべての資料を掲載
- ・ 工事及び設計・コンサルティング業務について、文部科学省文教施設企画部施設企画課契約情報室ホームページへ入札情報を掲載するとともに、電子入札を実施
- ・ 一者応札・応募事案の事後点検体制として要因分析を実施

《業務実績詳細》

1. 契約監視委員会の開催、「調達等合理化計画」に関する取組

- ・ 外部有識者を含めた委員による「日本芸術文化振興会契約監視委員会」（第15回、第16回）において、定期的な契約の点検を実施し、報告書を理事長に提出した。
- ・ 第15回契約監視委員会を開催し、競争性のない随意契約、多数回入札となった案件を中心に点検審議を行い、高落札率の改善について検討した(6/17)。
- ・ 第16回契約監視委員会を開催し、連続一者応札・応募等事案について点検を行い、一者応札・応募の改善等について検討した(12/7)。
- ・ 公正性・透明性を確保しつつ、自律的かつ継続的に調達等の合理化に取り組むことを目的として、28年度から新たに「調達等合理化計画」を策定し、公表した。
- ・ 「調達等合理化計画」に基づき、随意契約の検収に際し調達原課以外の職員による立会いを行うなど、相互牽制の体制を整備した。
- ・ 「調達等合理化計画」に基づき、調達に関するガバナンスの徹底のため、少額随意契約を除く随意契約を締結することとなる案件について、経理担当副部長及び契約担当部署が調達原課の報告に対し点検を行い、随意契約に関する内部統制の確立に努めた。
- ・ 「調達等合理化計画」に基づき、適正な調達手続きの周知、理解を徹底し、不祥事の発生の未然防止を図るため、経理関係業務研修会及び施設担当職員研修会を開催した。

2. 契約内容及び入札方法の見直し等外部委託の推進

案件ごとに業務内容を精査し、以下のとおり契約方法を見直して、より効率的な外部委託を推進した。

(28年度契約からの移行業務)

- ・ 「平成28年度メール便(角型0号サイズ)請負業務」(仕様を見直し、業務を分割して委託内容の適正化を図ることとした。公募から随意契約へ移行)
- ・ 「平成28年度メール便(角型2号サイズ)請負業務」(仕様を見直し、業務を分割して委託内容の適正化を図ることとした。)
- ・ 「平成28・29・30年度国立文楽劇場機械設備等保守管理及び警備その他の業務」(仕様を見直し、業務を包括化し、3年間の複数年契約として委託内容の効率化を図ることとした。)

(29年度契約に向けて見直しを行った業務)

- ・ 「平成29・30年度国立劇場及び国立能楽堂構内清掃業務 一式」(一般競争入札(最低価格落札方式)から一般競争入札(総合評価落札方式)へ移行)
- ・ 「平成29・30年度国立劇場チケット電話予約受付等業務及び会員事務局業務の委託」(一般競争入札(最低価格落札方式)から一般競争入札(総合評価落札方式)へ移行)
- ・ 「平成29・30年度国立劇場大・小劇場及び国立演芸場における案内等業務の委託」(一般競争入札(最低価格落札方式)から一般競争入札(総合評価落札方式)へ移行)

また、業務の質的な面での特殊性を検証した上で適正な契約方法を検討し、以下のように実施した。

(28年度契約からの移行業務)

- ・ 「平成28年度国立劇場特別高圧受変電設備等定期点検整備業務」(一般競争入札から随意契約へ移行)
- ・ 「平成28年度国立文楽劇場自主公演字幕表示等業務」(一般競争から随意契約へ移行)

(29年度契約に向けて見直しを行った業務)

- ・ 「平成 29・30 年度国立劇場本館等舞台及び楽屋業務の委託」(一般競争から随意契約へ移行)
- ・ 「平成 29 年度国立能楽堂座席字幕表示装置運用及び定期保守業務」(一般競争から随意契約へ移行)

3. 入札機会の拡大

(1) 一者応札・応募をリストアップし、以下の見直しを行った。

① 仕様書の内容の見直し

- ・ 特定の業者しか参加することができない条件を見直す。

② 公告期間の見直し

- ・ 一般競争入札について、10 日以上としている公告期間を 10 営業日以上確保する。
- ・ 公募については、20 日以上としている公告期間を 20 営業日以上確保する。

③ 入札参加要件の緩和

- ・ 過去の請負実績等の条件を緩和する。

(2) 契約情報提供の充実

- ・ 入札公告等を劇場敷地内に掲示するとともに、入札参加の機会拡大を図るため、ホームページ上の「調達情報」に仕様書のほか、セキュリティ面において公開することに問題があると判断されるものを除き、その他すべての資料を掲載した。
- ・ 入札参加の機会拡大を図るため、年間の調達予定を一覧にまとめ、公告前に、劇場敷地内及びホームページ上で公表した。
- ・ 工事及び設計・コンサルティング業務について、文部科学省文教施設企画部施設企画課契約情報室ホームページへ入札情報を掲載するとともに、電子入札を導入している。

(3) 一者応札・応募事案の事後点検体制

仕様書を取り寄せる等調達に関心を示したが、応札を行わなかった業者に対してその理由を聴き取るなど、一者応札・応募となった要因分析を行い、一者応札・応募の改善を図った。

《自己点検評価》 _____

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 確実な取組と不断の見直しを行い契約の適正化を推進した。
- ・ 契約の適正化に係る制度に基づき、調達等合理化計画を策定し、公表した。また、契約監視委員会を開催して契約の点検を行った。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 「調達等合理化計画」について職員への周知を図るとともに、計画に基づき、引き続き競争性のある契約への移行を推進した。
- ・ 入札情報入手の利便性向上を図るため、ホームページ(調達情報)に掲載する情報を公示するだけでなく、仕様書等も掲載することなどにより、一層充実させることができた。新規参入も含めた入札参加者の増加を図るため、23 年から引き続き工事及び設計コンサルティング業務について、文部科学省文教施設企画部施設企画課契約情報室ホームページへ入札情報の掲載を行っている。
- ・ 入札事務の効率化を図るほか、入札参加者の利便性向上のため、工事及び設計・コンサルティング業務について電子入札を導入している。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 業務効率の向上、事務作業の軽減、経費の削減効果を得られることが見込まれる契約については、複数案件の包括契約や複数年での契約締結について引き続き検討していく。
- ・ 入札辞退の理由について確認する体制に関し、仕様書・入札説明書等情報を入手後又は入札参加申請書提出後に参加を辞退する場合、辞退届の提出を求める等、できる限り理由を調査することを継続して行い、更に広く参加者を募るための参考とする。

Ⅲ 財務内容の改善に関する事項

財務内容の改善に関する事項 p.187

- 財務状況 p.187
- 剰余金 p.189
- 運営費交付金債務 p.190
- 外部資金の獲得状況 p.190
- 短期借入金 p.190

Ⅳ その他主務省令で定める業務運営に関する事項

その他主務省令で定める業務運営に関する事項 p.191

- 人事に関する計画 p.192
- 施設及び設備に関する計画 p.194
- 積立金の使途 p.196
- その他振興会の業務運営に関し必要な事項（運営委託） p.197

Ⅲ 財務内容の改善に関する事項

《中期計画》

Ⅲ 予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画および資金計画

収入面に関しては、実績を勘案しつつ、国民の鑑賞機会の確保と芸術活動の独創性等に十分留意した上で劇場入場料等自己収入の増加を図ることや税制措置を活用した寄附金の確保等により、計画的な収支計画により運営各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算により運営

Ⅳ 短期借入金の限度額：10億円

Ⅴ 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産の処分：計画なし

Ⅵ 重要な財産の処分等：計画なし

Ⅶ 剰余金の使途

決算において剰余金が発生したときは、次の経費等に充当

- 1 助成事業の充実
- 2 公演事業の充実
- 3 伝統芸能伝承者養成事業・現代舞台芸術実演家等研修事業の充実
- 4 調査研究・資料の収集活用・公演記録の作成活用等事業の充実
- 5 研修器具、芸能資料等の購入・修理
- 6 観劇者サービス、情報提供の質的向上、老朽化対応等のための施設・設備の充実

《方針》

収入面に関しては、実績を勘案しつつ、外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な収支計画による運営を図る。また、管理業務の効率化を進める観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営を図る。

《業務実績詳細》

1. 財務状況

(1) 予算

(単位：千円)

区分	計画額	実績額	増△減
収入			
運営費交付金	10,052,913	10,052,913	0
文化芸術振興費補助金	3,752,232	3,744,142	△ 8,090
施設整備費補助金(注1)	1,387,590	1,044,470	△ 343,120
助成事業収入	1,144,542	1,138,245	△ 6,297
公演事業収入(注2)	3,010,970	3,043,447	32,477
研修事業収入	30,613	30,733	120
調査研究事業収入(注3)	9,383	10,348	965
国立劇場おきなわ事業収入	1,058	967	△ 91
新国立劇場事業収入	231,301	239,888	8,587
受託事業収入(注4)	0	16,888	16,888
一般管理収入	16,802	7,647	△ 9,155
計	19,637,404	19,329,688	△ 307,716
支出			
文化芸術振興費(注5)	3,752,232	3,683,008	69,224
施設整備費(注1)	1,387,590	1,044,470	343,120
助成事業費	1,475,031	1,443,067	31,964
公演事業費(注6)	6,178,724	6,043,398	135,326
研修事業費	419,288	412,096	7,192
調査研究事業費	714,960	762,561	△ 47,601

国立劇場おきなわ事業費	668,844	668,756	88
新国立劇場事業費	4,132,963	4,247,323	△ 114,360
受託事業費(注4)	0	14,367	△ 14,367
一般管理費	1,163,786	1,233,711	△ 69,925
計	19,893,418	19,552,017	340,661

(注記) 計数は、それぞれ四捨五入により単位未満を処理しているため、合計において一致しない場合がある。

主な増減理由

- (注1) 平成28年度補正予算事業の翌年度繰越による減
- (注2) 劇場入場料の増
- (注3) 文献販売収入の増
- (注4) 受託事業の増
- (注5) 助成金の減額・要望の取下げによる支出の減
- (注6) 出演費・舞台費等の公演費の減

(2) 収支計画

(単位：千円)

区 分	計画額	実績額	増△減
費用の部			
基金助成事業費	5,227,000	5,120,041	△ 106,959
公演事業費(注1)	5,805,000	5,598,054	△ 206,946
研修事業費	355,000	406,904	51,904
調査研究事業費	609,000	628,098	19,098
国立劇場おきなわ公演等事業費	650,000	651,904	1,904
受託事業費(注2)	0	14,367	14,367
新国立劇場公演等事業費	3,829,000	3,979,489	150,489
一般管理費	1,124,000	1,185,600	61,600
減価償却費	900,000	928,081	28,081
固定資産除却損	0	7,357	7,357
計	18,499,000	18,519,894	20,894
収益の部			
基金助成事業収入	5,078,000	5,029,748	△ 48,252
公演事業収入(注3)	5,752,000	5,921,526	169,526
研修事業収入	355,000	414,308	59,308
調査研究事業収入	609,000	702,873	93,873
国立劇場おきなわ公演等事業収入	650,000	658,784	8,784
受託事業収入(注2)	0	16,888	16,888
新国立劇場公演等事業収入	3,829,000	4,046,936	217,936
一般管理収入	1,124,000	1,202,977	78,977
資産見返運営費交付金戻入(注4)	900,000	598,812	△ 301,188
資産見返寄附金戻入	0	49,965	49,965
計	18,297,000	18,642,815	345,815
純利益	△202,000	122,921	324,921
積立金取崩額	202,000	15,555	△ 186,445
総利益	0	138,476	138,476

主な増減理由

- (注1) 出演費、舞台費等の公演費の減
- (注2) 受託事業の増
- (注3) 劇場入場料の増
- (注4) 取得資産の減少等

(3) 資金計画

(単位：千円)

区 分	計画額	実績額	増△減
資金支出	26,849,000	30,683,940	3,834,940
業務活動による支出(注1)	18,598,000	21,710,271	3,112,271
投資活動による支出	2,295,000	1,521,011	△ 773,989
財務活動による支出(注2)	0	269,177	269,177
翌年度への繰越金	5,956,000	7,183,480	1,227,480
資金収入	26,850,000	30,683,940	3,833,940
業務活動による収入	19,250,000	22,081,486	2,832,486
運営費交付金による収入	10,053,000	10,052,913	△ 87
文化芸術振興費補助金による収入	3,752,000	3,744,142	△ 7,858
公演事業による収入	3,234,000	3,107,385	△ 126,615
受託事業による収入	0	1,872	1,872
基金運用による収入	1,129,000	1,125,745	△ 3,255
その他の収入(注3)	1,081,000	4,049,429	2,968,429
投資活動による収入	1,388,000	1,424,302	36,302
施設整備費補助金による収入	1,388,000	1,424,302	36,302
その他の収入	0	0	0
財務活動による収入	0	600,438	600,438
民間出えん金受入れによる収入	0	600,438	600,438
前年度よりの繰越金	6,212,000	6,577,714	365,714

主な増減理由

(注1)有価証券、投資有価証券の取得による支出増

(注2)リース債務の返済による支出

(注3)有価証券の払戻による収入増

2. 剰余金

(1) 損益計算の結果、28事業年度の当期総利益は138,476千円である。

(2) 損失が生じた主な理由

[収入支出決算]

① 助成事業において、25,667千円の収支差減が生じた。その主な内容は次のとおり。

(増要因)

- ・ 助成事業費のうち特定寄附金の繰越による調査業務委託費の61,390千円の支出減

(減要因)

- ・ 助成事業収入のうち基金運用収入の3,578千円の収入減
- ・ 助成事業費のうち減額される助成金の減少により20,978千円の支出増
- ・ 助成事業費のうち人件費の11,893千円の支出増

② 公演事業において、167,803千円の収支差減が生じた。その主な内容は次のとおり。

(増要因)

- ・ 公演事業収入のうち歌舞伎公演、文楽公演などの劇場入場料収入の43,404千円の収入増
- ・ 公演事業費のうち歌舞伎公演、文楽公演などの公演費の122,189千円の支出減
- ・ 公演事業費のうち目的積立金を財源とする施設整備事業の翌年度への繰越による54,343千円の支出減
- ・ 公演事業費のうち解説書作成費などの附帯事業費の37,777千円の支出減

(減要因)

- ・ 公演事業費のうち運営費交付金を財源とする施設整備事業の前年度からの繰越による140,329千円の支出増

③ 調査研究事業において、運営費交付金を財源とする施設整備事業の前年度からの繰越などによる46,636千円の収支差減が生じた。

④ 新国立劇場事業において、運営費交付金を財源とする施設整備事業の前年度からの繰越などによる105,773千円の収支差減が生じた。

⑤ 一般管理費において、79,079千円の収支差減が生じた。その主な内容は次のとおり。

(増要因)

- ・ 運営費交付金を財源とする施設整備事業の翌年度への繰越による42,884千円の支出減

(減要因)

- ・ 自己都合退職に伴う退職金の14,215千円の支出増
- ・ 運営費交付金を財源とする施設整備事業の前年度からの繰越による87,345千円の支出増

[損益計算]

⑥ 自己財源で取得した資産の減価償却により23,575千円の費用増が生じた。

⑦ 業務達成基準による運営費交付金の収益化により121,855千円の収益増が生じた。

3. 運営費交付金債務

(1) 29年3月31日現在における運営費交付金債務残高は64,315千円である。(単位：千円)

期首残高 /当期交付額	当期振替額				期末残高
	運営費交付金 収益	資産見返 運営費交付金	建設仮勘定見返 運営費交付金	資本剰余金	
10,526,474	9,699,426	664,685	98,028	20	64,315

(2) 期末残高のうち繰り越して執行する運営費交付金債務の主な内容は次のとおりである。

(平成29年度執行予定)

- ・ 施設改修工事(2,037千円)
- ・ 舞台設備改修工事(11,711千円)
- ・ 情報基盤整備(9,720千円)

4. 外部資金の獲得状況(56件、839,713千円)

- ・ 文化庁主催芸術祭祝典等の受託事業収入(1件、16,888千円)
- ・ 文化庁芸術祭主催公演等における負担金による収入(9件、21,541千円)
- ・ 芸術文化復興支援基金への募金(30件、847千円)
- ・ 助成調査研究への寄附(1件、200,000千円)
- ・ 芸術文化復興基金に対する民間出せん金(11件、600,438千円)

5. 短期借入金

なし

《自己点検評価》 _____

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 管理業務の効率化の実現のため、効率的な業務運営を見込んだ予算の策定及び執行管理を行った。
- ・ 運営費交付金を適切かつ効率的に使用するため、第3四半期に交付金財源の予算について見直しを行った。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 公演事業において、国立劇場開場50周年記念公演が盛況であり、劇場入場料収入が43,404千円の増となった。
- ・ 調査研究事業において、文化デジタルライブラリー構築費の繰越及び削減、人事異動等による人件費の支出減等により、42,325千円の収支差増となった。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 入場料収入の安定や施設使用料収入のより一層の増収を図るとともに、引き続き外部資金の獲得に努める。

IV その他主務省令で定める業務運営に関する事項

《中期計画の概要》

VIII その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 人事に関する計画

(1) 方針

ア 職員の計画的、適正な配置、効果的な人事交流を実施

イ 次の取組により、事務能率の維持、増進

①職員に対する実務研修等の充実

②適切な労務管理の実施

(2) 人員に係る指標

常勤職員について人件費を抑制

2 施設及び設備に関する計画

各劇場等施設の長期的な視野に立った整備計画を策定、施設・設備に関する計画に沿った整備を推進

国立劇場本館が開場以来50年を経過することに鑑み、整備の実施計画を策定し、改修工事に着手

3 積立金の使途

前期中期目標の期間の最終年度において、独立行政法人通則法第44条の処理を行ってなお積立金があるときは、文部科学大臣の承認を受け、必要な費用に充当

4 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

(1) 国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方自治体等地元の協力を得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託

新国立劇場の管理運営についても、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るため、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託

委託に当たっては、経費の見直しや自己収入の確保等の方策により収支構造の改善等に計画的に取り組むとともに、契約内容の検証を行い、更に効率化

《年度計画の概要》

V その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 人事に関する計画

(1) 職員の計画的、適正な配置、外部機関との人事交流、多様な人材を確保・育成

(2) 各種研修による各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革、適切な労務管理を実施

ア 接遇、公演業務等の内部研修の実施

イ 会計、人事関係業務等の外部研修の活用

ウ 職員の心身の健康の保持増進

2 施設・設備に関する計画

(1) 施設・設備の老朽化対応、劇場利用者の安全確保及び利便性向上等のため、長期的な視野に立った整備計画を策定し、別紙4のとおり施設・設備に関する計画に沿った整備を推進

「文部科学省インフラ長寿命化計画(行動計画)」を踏まえ「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画(行動計画)」を策定、舞台設備等の機能維持に必要なメンテナンスを実施

国立劇場本館・演芸場等準町地区の施設・設備の改修について、国立劇場等大規模改修基本計画を踏まえ、具体的な調査研究を実施

大規模改修事業のPFI導入可能性調査の結果を踏まえ、PFI事業の実施に向けた手続きを実施

(2) 整備内容の検討及び実施

3 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団及び公益財団法人新国立劇場運営財団への運営委託

収支構造の改善等への取組、契約内容の検証

IV-1 人事に関する計画

《主要な業務実績》

- ・ 国の機関、国立大学法人、公益財団法人千葉県文化振興財団、国立劇場おきなわ運営財団及び新国立劇場運営財団との人事交流を実施
- ・ 内部研修や外部研修を積極的に導入
- ・ 産業医、外部機関と連携し、職員のメンタル不全対策を実施
- ・ 新卒採用職員を振興会に支障なく定着できるようにサポートすることを目的として、メンター制度を実施

《業務実績詳細》

1. 職員の計画的・適正な配置、適切な人事交流の実施

- ・ 28年度は、新規採用の一般事務職員、中途採用の58歳以上を対象とした高齢者雇用制度による一般事務職員及び任期付きの事務員を採用した。
- ・ 国の機関、国立大学法人等との人事交流を実施し、多様な人材の確保によって組織の活性化を図った。
- ・ 国立劇場おきなわ運営財団及び新国立劇場運営財団の要請により振興会職員を派遣し、両財団における円滑な委託業務の実施に資することができた。

(受入)

国の機関及び国立大学法人から出向者の受入(15人)

公益財団法人千葉県文化振興財団から出向者の受入(1人)

(派遣)

国の機関への職員の派遣(2人)

国立劇場おきなわ運営財団への職員の派遣(3人)

新国立劇場運営財団への職員の派遣(10人)

2. 研修の実施による職員の能力開発、職員の専門性の確保、適切な労務管理の実施

(1) 職員研修の実施

- ・ 新規採用職員を対象とした観客サービス研修・電話マナー研修や、営業部門の職員を対象とした接客研修を行い、職員の能力を向上させるとともに、顧客サービスの充実を図った。
- ・ 採用後2年以内の職員を対象とした公演研修及び採用後3年以内の職員を対象とした営業研修を行い、専門的知識の習得と意識の向上を図った。併せて、採用後3年以内の職員を対象として、各部課長を講師とした業務研修を行い、振興会の業務全体の理解を促した。
- ・ 情報セキュリティの向上を図るため、全職員を対象として、振興会情報セキュリティポリシーに基づき、情報セキュリティ研修を実施した。また、全職員を対象としてパソコン研修を実施し、事務作業に必要な知識、技術の習得を図った。
- ・ 施設整備研修を実施し、技術的諸課題及び予算、契約等の事務執行について、共通の理解を深めるとともに効率的な業務実施を図った。
- ・ 経理部門所属職員が講師となり、各課の経理業務を担当している職員に対して、独立行政法人の評価制度・決算業務・契約業務等についての経理関係業務研修を実施し、知識の習得に努めた。
- ・ 文楽劇場に所属し特に専門性が求められる文楽技術室では、勤務する非常勤も含めた若手職員を東京での文楽公演等に同行させ、他劇場公演における業務法等も各技術継承のためのOJT研修の一環として実施した。
- ・ その他、内部研修や外部研修の積極的な導入を行い、業務に必要な専門的知識の習得に努めた。
- ・ 公益社団法人全国公立文化施設協会主催の外部研修に参加及び協力を行い、アートマネジメントに関する専門的知識を得るとともに、他の劇場との交流の機会を得た。
- ・ 若手職員のメンタル不全を予防するため、認知行動療法に基づくオンライン学習プログラムを実施した。
- ・ メンター制度をより充実したものにするため、メンター研修を実施した。メンターである職員は、演習を通じてメンタリングの基本となる傾聴や質問といったスキルを習得した。
- ・ メンタルヘルス対策の一環としてキャリアプラン研修を実施し、若手職員が自分の強みを認識し、将来に明るい見通しを持ち、人事異動の意義を積極的に捉えられるよう促した。

(2) 職員の専門性の確保

- ・ 職員の専門性の確保を図るため、新規採用職員に対し、20年度より実施している公演研修を28年度も行い、伝統芸能の公演制作過程の実習を行うとともに観劇レポートの提出を課題とする新人研修を実施した。
- ・ 採用2年次の職員についても能楽や舞踊、邦楽等の公演に関する事前レクチャーと観劇及びレポート作成を義務付け、加えて27年度に引き続き振興会が行う教員免許状更新講習の「伝統芸能にみる日本のこころ」を聴講させた。
- ・ 文楽技術室の衣裳担当においては、26年度に非常勤職員(アルバイト)、27年度に嘱託職員として勤務した者を、28年度から常勤職員として採用し、組織内での技術指導を行った。
- ・ 引き続き、組織内での技術指導を行い、技術の伝承に努める。

(3) 適切な労務管理の実施

- ・ 引き続き、メンタルヘルスに関する相談窓口業務を外部専門業者に委託し、連携を密にとりながら電話・メール・面談等により、プライバシーの保護に配慮しつつ、職員が気軽に相談できる環境を整えた。
- ・ 産業医であるメンタルヘルスの専門医と連携し、メンタル不全者の復職支援、相談業務を実施した。
- ・ メンタルヘルス対策として、若手職員を対象に、認知行動療法に基づくメンタルヘルス向上プログラム、将来に明るい見通しを持ち、人事異動の意義を積極的に捉えられるように促すキャリアプラン研修を実施した。
- ・ 職員のストレスチェックを実施するとともに、入職1、7、10年目の職員に対して専門のカウンセラーによる個別面談を実施し、若年層職員のメンタルヘルスの維持・向上を図った。
- ・ 新卒採用職員が振興会に支障なく定着できるようにサポートすることを目的として、若手先輩職員をメンターとするメンター制度を実施した。メンターである職員は、メンター研修により、メンタリングの基本となる傾聴や質問といったスキルを習得した。

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 新規採用の一般事務職員、中途採用の任期付職員及び58歳以上を対象とした一般事務職員を採用するとともに、国の機関、国立大学法人等との人事交流を実施することにより、多様な人材の確保、育成を実施した。
- ・ 内部研修や外部研修の積極的な導入を行い、各職員の能力開発を実施した。
- ・ 若手の一般事務職員については、公演研修及び営業研修により専門性の確保及び意識の向上を図った。若手の舞台技術職員については、業務を通じての教育、技術の継承に加え、外部の研修会に参加させることで、専門性の確保を図った。
- ・ 心の健康に関する相談窓口の設置、メンタルヘルスを専門とする産業医による面談、ストレスチェックの実施及びその結果を受けての専門のカウンセラーによる個別面談、メンター制度の実施により、適切な労務管理を実施した。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 外部研修の積極的な導入を図り、業務に必要な専門知識を集中的に学ぶ機会を持った。
- ・ 産業医と連携し、休職者の復職支援に注力し、円滑な職場復帰を進めることができた。
- ・ ストレスチェックを実施するとともに、その結果を受け、専門のカウンセラーによる職員の個別面談を実施し、ストレスの軽減を図り良好な職場環境を目指した。
- ・ メンター制度を実施し、新卒採用職員が振興会に支障なく定着できることを目指した。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 28年度に実施したストレスチェックの結果を、次年度以降の労務管理に活用するとともに、研修内容や産業医との面談、専門のカウンセラーとの面談について検討を行い、より効果的なメンタル不全対策の実施を図る。

IV-2 施設・設備に関する計画

《主要な業務実績》

- ・ 国立劇場大劇場及び小劇場のロビー床の改修工事を実施
- ・ 国立劇場大劇場及び小劇場のロビー便所ブースの改修工事を実施
- ・ 国立劇場等大規模改修の基本計画の見直しを行うとともに PFI 事業の実施に向けた手続きに着手
- ・ 国立劇場等大規模改修事業について、実施計画策定に向けた具体的な調査研究を実施
- ・ 振興会隼町地区の館内・屋外の環境整備を実施

《業務実績詳細》

1. 施設整備費補助金による施設・設備の整備等

- ・ 国立劇場等大規模改修に係るコンサルタント業務 81,000 千円
- ・ 国立劇場等大規模改修基本計画(見直し)業務委託 5,400 千円
- ・ 国立劇場等大規模改修事業に係る景観シミュレーション作成業務 810 千円
- ・ 国立劇場本館建築基準法適合状況調査業務 12,701 千円
- ・ 国立劇場等舞台機構、照明及び音響に関する現況データ実測調査業務 6 件 3,578 千円
- ・ 国立劇場等大規模改修における食堂・売店の事業計画に係る調査研究業務 15,984 千円
- ・ 国立劇場等大規模改修における観客誘致に係る調査研究業務 8,990 千円
- ・ 国立能楽堂冷温水発生機更新その他工事 45,144 千円
- ・ 国立能楽堂冷温水発生機更新その他工事(その2) 39,204 千円
- ・ 国立能楽堂舞台音響設備改修工事 58,227 千円
- ・ 国立能楽堂研修能舞台音響設備等改修工事 18,900 千円
- ・ 国立文楽劇場舞台吊物機構更新工事(第3期) 103,982 千円
- ・ 国立文楽劇場照明設備更新工事 29,700 千円
- ・ 国立文楽劇場インターカム設備整備 29,970 千円
- ・ 国立劇場おきなわ大劇場舞台床張替工事 46,437 千円
- ・ 国立劇場おきなわ中央監視設備整備 90,180 千円
- ・ 国立劇場おきなわ大劇場パワーアンプ・スピーカー設備整備 39,420 千円
- ・ 国立劇場おきなわ大劇場調光操作卓設備整備 58,320 千円
- ・ 国立劇場おきなわ小劇場舞台床張替工事 19,982 千円
- ・ 国立劇場おきなわ大劇場プロジェクター設備整備 8,748 千円
- ・ 国立劇場おきなわ大劇場舞台フロアコンセント増設工事 1,099 千円
- ・ 国立劇場おきなわ大劇場床機構スッポン迫りロック装置用電動機付減速機交換 957 千円
- ・ 新国立劇場(中劇場)映像モニター設備整備 100,980 千円
- ・ 新国立劇場(中劇場)舞台用仮設テレビモニター購入 7,996 千円
- ・ 新国立劇場空調設備端末伝送装置改修工事 213,840 千円

2. 運営費交付金による施設・設備の整備等

- ・ 国立劇場大劇場及び小劇場ロビー床改修工事 61,560 千円
- ・ 国立劇場本館大劇場及び小劇場ロビー便所ブース改修工事 52,693 千円
- ・ 国立劇場小劇場舞台吊物装置ワイヤーロープ更新工事 18,144 千円
- ・ 国立演芸場音響調整卓設備整備 78,840 千円
- ・ 日本芸術文化振興会事務棟冷温水発生機更新工事 10,530 千円
- ・ 国立劇場隼町地区及び国立能楽堂公衆無線 LAN サービス整備 14,471 千円
- ・ 国立文楽劇場小ホール ITV のデジタル放送化 12,744 千円
- ・ 国立文楽劇場公衆無線 LAN サービス整備 6,810 千円
- ・ 国立劇場おきなわ公衆無線 LAN サービス整備 4,702 千円
- ・ 新国立劇場(オペラ劇場)舞台機構設備プランマーブロック改修工事 24,475 千円
- ・ 新国立劇場特高変電所受変電設備制御機器改修工事 17,280 千円
- ・ 新国立劇場ネットワーク回線更新工事 29,700 千円

- ・ 新国立劇場(オペラ劇場)音響調整卓オーバーホール 15,012千円
 - ・ 新国立劇場公衆無線LANサービス整備 11,943千円
3. 長期的な視野に立った整備方針の検討
- ・ 本館等の施設・設備は、経年により老朽化が進んでおり、大規模改修までの間、劇場運営において安全性を確保するため、予防保全を目指して計画的に保守・点検等を行うこととしている。
 - ・ 施設・設備の維持管理及び整備等については、長寿命化に向け「文部科学省インフラ長寿命化計画(行動計画)」を踏まえ「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画(行動計画)」を策定した。
 - ・ 施設等の整備に当たって、民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用した多様な PPP/PFI 手法導入を優先的に検討するために必要な「日本芸術文化振興会 PPP/PFI 手法導入優先的検討規程」を定めた。
 - ・ 国立劇場等大規模改修基本計画の見直しについて、外部有識者の意見等を踏まえて策定し、役員会において決定した(11/21)。
 - ・ 国立劇場等大規模改修における PFI 事業方式での実施に向けた手続きとして、国立劇場等大規模改修事業者選定委員会(第1回)を開催した(2/8)。

《自己点検評価》 _____

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 本館大劇場及び小劇場のロビー床の改修やロビー便所ブースの改修工事を実施し、観客から評価されている。
 - ・ 当初の国立劇場等大規模改修基本計画で明確となった課題について具体的な検討を進めてきたが、事業費を削減するために一部見直しを行うとともにPFI事業方式での実施に向け実施方針(案)及び要求水準書(案)等を作成した。
 - ・ 施設・設備の長寿命化に向け「文部科学省インフラ長寿命化計画(行動計画)」を踏まえた「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画(行動計画)」を策定した。
 - ・ 施設等の整備に当たって必要な「日本芸術文化振興会 PPP/PFI 手法導入優先的検討規程」を制定した。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 国立劇場等大規模改修基本計画の一部見直しを行ったことによる事業費の削減とともに、屋外駐車場の確保や建物内の動線計画等が改善された。
 - ・ 能楽堂では、耐用年数を超えた設備の更新・改修を行った。全館の冷暖房用に設置されている冷温水発生機を更新し、良好な観劇環境の提供を継続することが可能になった。併せて、資料収蔵庫等の個別空調機を更新し、引き続き適切な温湿度での資料の保存・維持を図った。また、音響設備を改修し、舞台進行や場内放送等の安定化を実現することができた。
 - ・ 国立劇場おきなわ及び新国立劇場では、経年劣化が著しく、耐用年数を超過し、部品供給も困難になっている各種設備の改修及び更新を行い、劇場施設の安全で安定的な運用の実現に努めた。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 隼町地区の施設・設備の更新・改修工事に当たっては、公演日程との調整及び更新機器の搬入等計画について早期検討が必要である。
 - ・ 国立劇場等大規模改修の PFI 事業については、PFI 法に基づく公表等の手続きを適切に行う必要がある。

IV-3 積立金の使途

《業務実績詳細》

(単位：千円)

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
通則法 44 条 1 項積立金	390,996	0	102,955	288,042
通則法 44 条 3 項積立金				
基金助成事業積立金	73,351	0	15,555	57,796
公演事業等整備積立金	76,046	0	0	76,046
前中期目標期間繰越積立金	797,501	0	0	797,501
計	1,337,894	0	118,510	1,219,384

※ 通則法 44 条 1 項積立金の当期減少額 102,955 千円は、前年度の未処理損失に充てるため取り崩したものであります。基金助成事業積立金の当期減少額 15,555 千円は、芸術文化振興基金の運用収入を充てるべき業務に必要な費用に充てたものであります。

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 中期計画に定められた剰余金の使途に則って積立金を使用した。

IV-4 その他振興会の業務運営に関し必要な事項

《主要な業務実績》

- ・ 国立劇場おきなわ及び新国立劇場の運営委託を適切に実施

《業務実績詳細》

1. 国立劇場おきなわ運営委託(公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団)

(1) 委託契約の状況

28年4月1日付けで、28年4月1日から29年3月31日までの組踊等沖縄伝統芸能に係る業務及び劇場の管理運営に関する業務委託契約について654,836,000円を限度として締結。その後、28年9月15日付けで業務委託契約額を656,818,000円に変更した。委託費の確定額は652,203,287円である。

(2) 委託内容

- ① 沖縄伝統芸能等の公演
- ② 組踊(立方・地方)伝承者の養成
- ③ 沖縄伝統芸能に関して調査研究を行い、また資料を収集し、利用に供すること
- ④ 劇場施設を沖縄伝統芸能の振興又は普及を目的とする事業その他のための利用に供すること
- ⑤ 劇場施設の管理運営
- ⑥ 前各号の業務に附帯する業務

(3) 運営に関する協議及び報告の状況

- ① 業務委託に係る規程の改正等を協議
- ② 各四半期終了後に受託業務状況報告書を受領
- ③ 委託期間終了後に受託業務実績報告書を受領
- ④ 固定資産取得報告書及び不用通知書を受領

(4) 運営委託の方針・連絡体制の整備等

- ・ 運営財団の業務が業務委託契約書に定める事業計画書及び収支計画書に沿った形で実施されていることについて、意見交換や受託業務状況報告書により、検証を行っている。また、財団の理事会、評議員会には常に振興会職員が出席するなど、連絡体制の強化に努めている。

(5) 効率化状況等

① 効率化状況等

- ・ 委託費の状況 (単位：千円)

年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
金額	610,162	617,897	600,319	598,521	652,203
前年度比	98.9%	101.3%	97.2%	99.7%	109.0%

② 委託先における業務の効率化等

ア 効率化に関する取組

a. 情報システムの活用

財団内のネットワークシステムを活用し、関係者への迅速な連絡、スケジュール管理及び供用施設の予約状況の確認を行うことで、財団全体の情報共有化を図り、業務効率を向上させる工夫を行った。

b. 事務手続きの簡素化

複数年契約の導入を推進し、入札業務の簡素化に努めた。

c. 外部委託の推進

入札公告等は劇場敷地内に掲示するとともに、ホームページで競争入札参加に必要な公示(入札参加資格等入札情報を含む入札公告等)を掲載し、入札機会の拡大を図った。

d. 省エネルギー、リサイクルの推進

ペーパーレス化について、会議資料等の両面コピー及び両面印刷を実施している。

事項	区分	使用量/処理量	対前年度増減
光熱水量	電気使用量	2,296,752kwh	△ 2.0%
	ガス使用量	43,330 m ³	53.9%
	水道使用量	4,096 m ³	8.1%

廃棄物	一般廃棄物	680kg	△ 74.1%
	産業廃棄物	88kg	△ 91.7%
ペーパーレス化	コピー枚数	523, 101 枚	△ 8.2%
	用紙購入枚数	620, 000 枚	△ 3.9%

- ・ ガス使用量は、供給会社のガスの原料切り替え(27年8月)による増

イ 情報開示の推進

公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団の業務及び財務等に関する情報を開示するため、ホームページにより以下の情報を公開している。

定款、役員名簿、事業報告書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録、事業計画書、収支予算書、委託に係る事業概要、組織図、事務分掌

2. 新国立劇場運営委託(公益財団法人新国立劇場運営財団)

(1) 委託契約の状況

28年4月1日付けで28年4月1日から29年3月31日までの現代舞台芸術の公演等及び劇場の管理運営に関する業務委託契約について4,093,501,000円を限度として締結。その後、業務委託契約の限度額を、28年9月21日付けで4,094,593,000円に、29年2月17日付けで4,106,570,000円に変更した。委託費の確定額は3,996,272,535円である。

(2) 委託内容

- ① 現代舞台芸術の公演
- ② 現代舞台芸術の実演家その他関係者の研修
- ③ 現代舞台芸術に関して調査研究を行い、資料を収集し、利用に供すること
- ④ 劇場施設を現代舞台芸術の振興又は普及を目的とする事業その他のための利用に供すること
- ⑤ 劇場施設の管理運営
- ⑥ 附帯する業務

(3) 運営に関する協議及び報告の状況

- ① 業務委託契約に関する規程の改正を協議
- ② 各四半期終了後に受託業務状況報告書を受領
- ③ 委託期間終了後に受託業務実績報告書を受領
- ④ 固定資産取得報告書及び不用通知書を受領

(4) 運営委託の方針・連絡体制の整備等

運営財団の業務が業務委託契約書に定める事業計画書及び収支計画書に沿った形で実施されていることについて、定期及び随時に行う業務に関する意見交換や受託業務状況報告書により、検証を行っている。また、財団の主要な会議には常に振興会職員が出席するなど、連絡体制の強化に努めている。

(5) 効率化状況等

① 効率化状況等

- ・ 委託費の状況

(単位：千円)

年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
金額	3,977,840	3,778,596	3,826,811	3,735,077	3,996,273
前年度比	99.1%	95.0%	101.3%	97.6%	107.0%

② 委託先における業務の効率化等

ア 効率化に関する取組

a. 情報システムの活用

- ・ これまで上演されてきた公演の情報をデータベース化し、インターネット上で容易に検索できるようにすることで、効率的に情報の共有及びその活用を行えるようになった。
- ・ マイナンバーを含む給与、謝金データを効率的且つ安全に管理するために、ネットワークを分割してマイナンバー業務専用ネットワークを整備し、必要なシステム整備を行った。

b. 事務手続きの簡素化

- ・ 文書専決規程の改正およびマニュアルを作成することにより、事務手続きの効率化を図った。

c. 随意契約の見直し及び外部委託の推進

今期の外部委託契約51件のうち、委託業務38件(うち複数年契約28件)、物品の製造販売工事等6件

の合計 44 件について一般競争入札を行っている。

なお、業務の効率化を目的として振興会と共同での入札を今期は 2 件行った。そのほか 28 年度に行った入札及び公募は 22 件(うち複数年契約 7 件)であり、このうち翌年度以降の契約のものが 18 件となっている。

d. 省エネルギー、リサイクルの推進

事 項	区 分	使用量/処理量	対前年度増減
光熱水量	電気使用量	6,618,840kwh	△ 2.4%
	ガス使用量	4,434 m ³	△ 7.4%
	水道使用量	14,103 m ³	19.3%
廃棄物	一般廃棄物	33,551kg	△ 6.4%
	再利用廃棄物	33,783kg	△ 7.5%
	産業廃棄物	26,247kg	55.9%
ペーパーレス化	コピー枚数	903,401 枚	△ 18.7%
	用紙購入枚数	2,760,000 枚	3.1%

水道使用量の増加については、トイレ等の雑用水は雨水を利用して製造しているが、降水量が少なかったため水道水から給水したことによる。

産業廃棄物については、主催公演及び貸劇場公演の関連廃材が増加したこともあるが、廃材の種別分別をより細かくすることにより、これまで舞台廃材として処理してきたものを産業廃棄物として処理するよう努めたことによる増加である。

なお、地球温暖化対策においても、省エネルギー対策を実施し、光熱水量については、大きなウェイトを占める地域冷熱(冷水、蒸気)を含め、使用量の節減に努めている。

イ 給与水準の適正化等

- ・ 新国立劇場運営財団の職員給与については、振興会職員給与規程に準拠した規程を整備し、適正に執行している。
- ・ 人事院勧告に基づく振興会の措置に準じ、給与及び手当の改定を行った。

ウ 情報開示の推進

- ・ 公益財団法人新国立劇場運営財団の業務及び財務等に関する情報を開示するため、ホームページにより以下の情報を公開している。

定款、役員名簿、事業報告、収支計算書、正味財産増減計算書、キャッシュ・フロー計算書、貸借対照表、財産目録、事業計画書、収支予算書、目的・事業、組織、調達情報、年報、一般事業主行動計画

《自己点検評価》 _____

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 国立劇場おきなわ及び新国立劇場の運営委託について、継続的に効率化を図りつつ、適切に運営した。
- ・ 両財団の運営状況の検証、振興会との連絡体制の強化に引き続き努めた。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 引き続き、一般競争入札等の推進により外部委託の効率化を図り、仕様や公示方法の見直しを行い、競争を活性化させたい。また一部調達につき、日本芸術文化振興会との共同購入の検討を行うことで調達の効率化を試みた。
- ・ 光熱水量については、各部署において節約に努めた。また地球温暖化対策計画において、省エネルギー対策目標を達成できた。
- ・ 情報システムを有効的に利用することにより、業務の効率化、情報セキュリティの強化を行うことができた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 一般競争入札等による効率的な外部委託を推進しているが、業務内容の変化への対応等、業務の質を担保

した入札とするのは困難な場合もある。これに対応するため、引き続き、企画提案型の導入等、調達方法の多様化を進めていきたい。

- 省エネルギー、リサイクルの推進については、引き続き職員への啓発活動や協力要請を重ねて行う。
- 情報セキュリティポリシーの策定及び実施により、情報基盤及び情報の活用におけるセキュリティ確保をより強化していきたい。

独立行政法人日本芸術文化振興会

平成 28 事業年度業務実績報告書

平成 29 年 6 月 30 日発行

発行：独立行政法人日本芸術文化振興会（Japan Arts Council）

編集：総務企画部計画課

〒102-8656 東京都千代田区隼町 4 番 1 号

TEL：03-3265-7411（代表）／FAX：03-3265-8782

<http://www.ntj.jac.go.jp/>